宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第226集

都農町所在

長野（ながの）遺跡

舟川（ふなご）第2遺跡

（第3次調査）

東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10

2013

宮崎県埋蔵文化財センター

巻頭図版１　長野遺跡の立地と環境

調査区全景（西から日向灘を望む）

調査区全景（北から路線を望む）

巻頭図版２　長野遺跡　弥生時代の遺構

１号竪穴建物跡床面遺物出土状況（南西から）

２号竪穴建物跡床面遺物出土状況（南東から）

巻頭図版３　舟川第２遺跡

舟川第２遺跡調査前風景（第３次調査区）

６区基本層序

巻頭図版４　舟川第２遺跡

舟川第２遺跡第３次調査出土の石器

第３次調査出土の石器石材の分類

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（日向～都農間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成20年度から実施してまいりました。

本書は、平成23年度に実施した児湯郡都農町大字川北字舟川・字境谷所在の長野遺跡と舟川第２遺跡（第３次調査）の発掘調査報告書であります。

調査の結果、長野遺跡では、後期旧石器時代から弥生時代後期後半にかけての遺構・遺物が確認されました。特に、弥生時代後期後半の竪穴建物跡２軒の床面からは石器や土器が出土し、当時の生活の痕跡が確認されました。

また、舟川第２遺跡では、後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺構・遺物が確認されました。特に、後期旧石器時代の礫群や縄文時代早期の集石遺構と呼ばれる赤化した礫のまとまりが何層にもわたって検出され、後期旧石器時代の石器も多数出土しました。

今回の調査で得られた多くの成果が、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場等で活用され、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成25年３月

宮崎県埋蔵文化財センター

所　長　　北　郷　泰　道

例　言

1　本書は、平成23年度に宮崎県埋蔵文化財センターが実施した東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う長野（ながの）遺跡・舟川（ふなご）第２遺跡（第３次調査）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　発掘調査は、西日本高速道路株式会社九州支社の委託により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
3　現地調査のうち、以下のものについては業務委託をした。
　基準点・グリッド杭等の設置
　　長野遺跡……㈱進藤測量設計事務所
　空中写真撮影
　　長野遺跡……㈱ふじた
4　現地での遺構図作成・写真撮影については、各遺跡の調査担当者が行った。
5　整理作業は、宮崎県埋蔵文化財センターで行った。
6　石器石材の分類は、松本茂の協力の下、長野遺跡では明石宏一が、舟川第２遺跡では川俣唯子が行った。
7　遺物実測・トレース・遺物写真撮影については、整理作業員の補助を得て各担当者を中心に作業を進めた。
　遺構実測・トレース　……　長野遺跡：明石・小船井／舟川第２遺跡：木場・松本・石貫・田中・川俣
　遺物実測・トレース　……　長野遺跡：明石／舟川第２遺跡：川俣
　遺物写真撮影　……　長野遺跡：明石／舟川第２遺跡：川俣
　なお、石器実測・トレースについては、一部を除き、舟川第２遺跡は株式会社バスコ、㈱九州文化財研究所に業務委託した。
8　自然科学分析にかかるフローテーション作業ならびに種子などの選別作業は明石・小船井を中心に行った。長野遺跡・舟川第２遺跡のテフラ分析・放射性炭素年代測定・種実・樹種同定については、パリノ・サーヴェイ株式会社に業務委託し、その成果報告については、明石・川俣が同社と協議・編集して掲載した。
9　本文の執筆は職員間で分担して行った。
　第Ⅰ章　····明石　　第Ⅱ章　····明石　　第Ⅲ章　····川俣　　補遺　····石貫
10　本書の作成は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、本書全体は明石・川俣が編集した。
11　出土遺物及び記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。
12　本書で使用した周辺遺跡位置図等は国土地理院発行の1/50,000図をもとに、周辺地形図等は西日本高速道路株式会社九州支社延岡高速道路事務所から提供された1/2,500図をもとに作成した。
13　本書に使用した主な略記号は次の通りである。
　ＳＡ＝竪穴建物跡　ＳＣ＝土坑　ＳＩ＝礫群・集石遺構 K-Ah＝鬼界アカホヤ火山灰　AT＝姶良Tn火山灰　Gr.＝グリッド
14　本書で「尾鈴山溶結凝灰岩」としたものは、「尾鈴山酸性岩類」の主体をなす溶結凝灰岩（WT1・WT2）を指す。遺跡で認められる「尾鈴山酸性岩類」には、他に花崗閃緑斑岩・火山角礫岩などが含まれるが、遺物や遺構の一部として「尾鈴山酸性岩類」が利用される場合、厳密な岩石名の特定が困難なことも多い。このため、本文中「尾鈴山溶結凝灰岩」と記載した資料には、溶結凝灰岩を主体としつつも、他の「尾鈴山酸性岩類」を含む可能性がある。
15　本書で使用した標高は海抜絶対高であり、方位は座標北（G.N.）を基本として一部の平面図・遺構実測図は磁北（M.N.）を用いた。
16　本書で使用する土層及び土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所監修ならびに色票監修の『新版標準土色帖』に拠り記述した。
17　土器の断面図の見透し線については、口縁部形態の平口縁は直線、波状口縁は曲線で示した。
18　石器の断理面は１点鎖線、ガジリ部分は黒塗り、敲打痕の認められる部分は破線の○で表示した。
19　石器実測図への使用痕の表現として以下のように記述した。また、図面上で明示出来ない範囲については矢印で示した。
　敲打痕＝コ　磨痕＝ス　摩滅＝マ　研面＝ト　潰れ＝ツ　※実測図中の網掛けは延面・強い摩滅面を表す。
20　遺構・遺物写真など図版の縮尺については任意であり、統一していない。
21　各遺跡の凡例
　・長野遺跡
　遺物への注記　ナガノ-取り上げ番号＋層位、ナガノ-グリッド番号＋層位
　遺構の認定　礫群については、赤化礫が一定空間に集中し、何らかに使用した可能性があるもの、周囲に礫がなく、ある一定空間に赤化礫または無赤化礫が２点以上散在しているものの両側面から検討し礫群とした。
　・舟川第２遺跡
　遺物への注記　フナゴ２-区番号-取り上げ番号＋層位、フナゴ２-区番号-グリッド番号＋層位、フナゴ２-区番号-FTB（風倒木）
　石器略号　Kn：ナイフ形石器　Kds：切出形石器　Tp：角錐状石器　Tr：台形石器　Po：剥片尖頭器・尖頭器　S：スクレイパー
　Ss：削器　Es：掻器　Mb：細石刃　Mc：細石刃核　Ah：石鏃　Ps：楔形石器　Ax：石斧　Gs：磨石　Hs：敲石　As：台石
　Rf：二次加工剥片　Mf：微細剥離剥片　F：剥片　Co：石核　Ch：砕片　Pt：礫器
　石器器種類型の認定　剥片の分類は、縦長剥片・横長剥片・不定形剥片とする。また、１cm四方の方眼に収まるものを砕片とする。
　遺構の認定　礫群については、赤化礫が一定空間に集中し、何らかに使用した可能性があるもの、周囲に礫がなく、ある一定空間に赤化礫または無赤化礫が２点以上散在しているものの両側面から検討し礫群とした。集石遺構については、赤化礫が一定の空間に集中し、何らかに使用した可能性があるものを集石遺構とした。
　なお、挿図や表の番号については、各章ごとに番号を付け、掲載している。

本文目次

第Ⅰ章　はじめに
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　調査の組織……1
第３節　遺跡の位置と環境……4
第Ⅱ章　長野遺跡
第１節　調査の概要と方法・経過……7
第２節　整理作業の方法と報告書作成　……9
第３節　教育普及活動　……10
第４節　基本層序　……11
第５節　石材分類について　……11
第６節　後期旧石器時代の遺構と遺物　……13
第７節　縄文時代早期の遺構と遺物　……19
第８節　弥生時代の遺構と遺物　……29
第９節　その他の遺構　……42
第10節　自然科学分析の結果　……42
第11節　総括　……48
第Ⅲ章　舟川第２遺跡（第３次調査）
第１節　調査の概要と方法・経過　……50
第２節　整理作業の方法と経過　……52
第３節　基本層序　……53
第４節　包含層の認識　……53
第５節　石材分類について　……53
第６節　後期旧石器時代の遺構と遺物　……55
第７節　縄文時代早期の遺構と遺物　……88
第８節　接合資料　……101
第９節　自然科学分析の結果　……112
第10節　第３次調査のまとめ　……115
第11節　総括　……117
補　遺　舟川第２遺跡（第２次調査）出土遺物……121
報告書抄録……147

挿図目次

第Ⅰ章　はじめに
第１図　東九州自動車道（日向～都農間）関連遺跡位置図……2
第２図　長野遺跡・舟川第２遺跡（第３次調査）周辺地形図…5
第３図　長野遺跡・舟川第２遺跡と周辺遺跡位置図……6
第Ⅱ章　長野遺跡
第１図　トレンチ配置図……8
第２図　グリッド配置図……8
第３図　グリッド別掘削深度図……10
第４図　Ⅱ層上面攪乱・削平状況図　……11
第５図　土層断面図　……12
第６図　後期旧石器時代遺構実測図（SⅡ）……14
第７図　後期旧石器時代遺物分布図　……15
第８図　後期旧石器時代石器実測図　……16
第９図　縄文時代早期遺構実測図　……21
第10図　縄文時代早期遺物分布図　……22
第11図　縄文時代早期土器実測図　……23
第12図　縄文時代早期石器実測図（１）……24
第13図　縄文時代早期石器実測図（２）……25
第14図　縄文時代早期石器実測図（３）……26
第15図　縄文時代早期石器実測図（４）……27
第16図　Ⅱ層上面遺構分布図　……30
第17図　１号竪穴建物跡実測図　……31
第18図　１・２号竪穴建物跡出土遺物分布図　……32
第19図　１号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）……33
第20図　１号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）……34
第21図　２号竪穴建物跡実測図　……36
第22図　２号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）……37
第23図　２号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）……38
第24図　遺構外出土遺物実測図　……39
第25図　その他の遺構実測図　……43
第26図　長野遺跡の暦年較正結果　……45
第27図　１・２号竪穴建物跡出土の炭化材　……46
第28図　１・２号竪穴建物跡出土の炭化種実　……47
第Ⅲ章　舟川第２遺跡（第３次調査）
第１図　舟川第２遺跡調査区配置図　……51
第２図　第３次調査区グリッド配置図　……51
第３図　６区基本層序堆積状況　……52
第４図　土層断面図　……54
第５図　後期旧石器時代遺構分布図　……55
第６図　後期旧石器時代遺物分布図　……55
第７図　AT下位層遺構実測図　……56
第８図　AT下位層遺構・遺物分布図……56
第９図　AT下位層石器実測図（１）……57
第10図　AT下位層石器実測図（２）……58
第11図　AT上位層遺構実測図（１）……60
第12図　AT上位層遺構実測図（２）……61
第13図　AT上位層石器実測図（１）……64
第14図　AT上位層石器実測図（２）……65
第15図　AT上位層石器実測図（３）……66
第16図　AT上位層石器実測図（４）……67
第17図　AT上位層石器実測図（５）……68
第18図　AT上位層石器実測図（６）……69
第19図　AT上位層石器実測図（７）……70
第20図　AT上位層石器実測図（８）……71
第21図　AT上位層石器実測図（９）……72
第22図　AT上位層石器実測図（10）……73
第23図　AT上位層石器実測図（11）……74
第24図　AT上位層遺物器種別分布図・垂直分布図　……74
第25図　AT上位層石器実測図（12）……75
第26図　AT上位層石器実測図（13）……76

第27図　AT上位層石器実測図（14）……77
第28図　AT上位層石器実測図（15）……78
第29図　AT上位層石器実測図（16）……79
第30図　AT上位層石器実測図（17）……80
第31図　AT上位層遺物石材別分布図・垂直分布図……80
第32図　縄文時代早期遺構実測図（1）……89
第33図　縄文時代早期遺構実測図（2）……90
第34図　縄文時代早期遺構実測図（3）……91
第35図　縄文時代早期土器実測図（1）……92
第36図　縄文時代早期土器実測図（2）……93
第37図　縄文時代早期土器・遺構分布図……93
第38図　縄文時代早期石器実測図（1）……95
第39図　縄文時代早期石器実測図（2）……96
第40図　縄文時代早期石器実測図（3）……97
第41図　縄文時代早期石器実測図（4）……98
第42図　縄文時代早期石鏃出土分布図……100
第43図　接合状況分布図……102
第44図　接合資料石器実測図（1）……102
第45図　接合資料石器実測図（2）……103
第46図　接合資料石器実測図（3）……104
第47図　接合資料石器実測図（4）……105
第48図　接合資料石器実測図（5）……106
第49図　接合資料石器実測図（6）……107
第50図　5区東側南壁の重鉱物組成及び火山ガラス比……113
第51図　5区東側南壁試料の火山ガラスの屈折率……113
第52図　舟川第2遺跡の重鉱物・火山ガラス……114
第53図　舟川第2遺跡の炭化材……114
第54図　後期旧石器時代第Ⅱ期決定器種分布図……117
第55図　縄文土器分類別分布図……119

補　遺

第56図　第2次調査出土石器実測図（1）……123
第57図　第2次調査出土石器実測図（2）……124
第58図　第2次調査出土石器実測図（3）……125
第59図　第2次調査出土石器実測図（4）……126
第60図　第2次調査出土石器分布図……128

表目次

第Ⅰ章　はじめに
第1表　東九州自動車道（日向～都農間）関連遺跡一覧表……3
第Ⅱ章　長野遺跡
第1表　後期旧石器時代石器計測表（1）……13
第2表　後期旧石器時代石器計測表（2）……17
第3表　後期旧石器時代石器計測表（3）……18
第4表　縄文時代早期土器観察表……23
第5表　縄文時代早期石器計測表（1）……23
第6表　縄文時代早期石器計測表（2）……28
第7表　弥生時代石器計測表……35
第8表　弥生時代土器観察表（1）……40
第9表　弥生時代土器観察表（2）……41
第10表　放射性炭素年代測定試料一覧……44
第11表　放射性炭素年代測定結果……44
第12表　樹種同定結果……45
第13表　種実同定結果……47
第Ⅲ章　舟川第2遺跡（第3次調査）
第1表　舟川第2遺跡土層対応表……52
第2表　舟川第2遺跡（第3次調査）石材分類表……53
第3表　AT下位層遺構観察表……56
第4表　AT上位層遺構観察表……62
第5表　後期旧石器時代遺物観察表……81～86
第6表　後期旧石器時代石器組成表……87
第7表　縄文時代早期遺構観察表……91
第8表　縄文時代早期土器観察表……94
第9表　縄文時代早期石器観察表……98～99
第10表　6区縄文時代早期・一括・7区石器組成表……100
第11表　接合資料観察表……108～110
第12表　石材別石器組成表……110～111
第13表　重鉱物・火山ガラス比分析及び屈折率測定結果……113
第14表　放射性炭素年代測定結果……114
第15表　樹種同定結果……114
第16表　舟川第2遺跡決定器種組成表……120
補　遺
第17表　第2次調査出土石器観察表……126～127

図版目次

巻頭図版1　長野遺跡の立地と環境
巻頭図版2　長野遺跡　弥生時代の遺構
巻頭図版3　舟川第2遺跡　調査前風景と基本層序
巻頭図版4　舟川第2遺跡　出土石器と石器石材の分類
写真図版1　長野遺跡調査区と後期旧石器時代の遺構……130
写真図版2　長野遺跡　弥生時代の遺構(SA1)……131
写真図版3　長野遺跡　弥生時代の遺構(SA2)……132
写真図版4　長野遺跡　その他の遺構・土層堆積状況……133
写真図版5　長野遺跡　後期旧石器時代・縄文時代早期の遺物…134
写真図版6　長野遺跡　縄文時代早期の遺物……135
写真図版7　長野遺跡　弥生時代の遺物（1）……136
写真図版8　長野遺跡　弥生時代の遺物（2）……137
写真図版9　長野遺跡　弥生時代の遺物（3）……138
写真図版10　舟川第2遺跡発掘調査（1）……139
写真図版11　舟川第2遺跡発掘調査（2）……140
写真図版12　舟川第2遺跡出土遺物（1）……141
写真図版13　舟川第2遺跡出土遺物（2）……142
写真図版14　舟川第2遺跡出土遺物（3）……143
写真図版15　舟川第2遺跡出土遺物（4）……144
写真図版16　舟川第2遺跡出土遺物（5）……145
写真図版17　舟川第2遺跡出土遺物（6）……146

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

東九州自動車道（門川～日向～都農間）約34kmは、平成９年３月の整備計画区間格上げ後、平成10年12月に施行命令が出された。その後、先行する門川～日向間に引き続き平成17年３月に日向～都農間19.7kmの埋蔵文化財分布状況について、旧日本道路公団九州支社（現・西日本高速道路株式会社九州支社）から調査依頼があった。これを受けて宮崎県教育委員会では、平成17年９月６日付けで32遺跡306,700㎡の調査結果を提示した。

一方、同公団は、平成17年度末までに関係市町との設計協議等を終了し、平成18年度末には用地買収に着手している。その後、平成19年11月には、発掘調査対象面積が暫定２車線での設計変更に伴い261,400㎡に減少した。

当該区間の『埋蔵文化財発掘調査協定書』は、平成20年７月１日付けで西日本高速道路株式会社九州支社長と宮崎県知事との間で締結され、全体の実施計画、発掘調査の範囲や体制、費用の概算額等が示された。そして同年10月17日付けで「埋蔵文化財発掘調査委託契約」が締結され、用地取得が進展しないながらも10遺跡3,350㎡の発掘調査に着手することになった。

その後、平成21年１月には、日向～都農間の供用開始目標年度が平成25年度と公表され、この目標を達成すべく各機関、各関係者が地道な努力を重ねてきた。このような中、長野遺跡は、平成23年５月、4,500㎡を対象に調査に着手し、同年11月に調査を終了した。

また、舟川第２遺跡も平成23年９月から翌24年３月にかけて750㎡の第３次調査を行い、当該区間のうち都農町内の遺跡の発掘調査をすべて終了した。

第２節　調査の組織

本書掲載の長野遺跡及び舟川第２遺跡（第３次調査）の発掘調査・整理報告は以下の体制で実施した（平成23～24年度）。

【調査主体】　宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所　長　　森　隆茂（平成23年度）
　　北郷　泰道（平成24年度）
副所長　　北郷　泰道（平成23年度）
　　佐々木真司（平成24年度）
総務課長　　坂上　恒俊（平成23・24年度）
副主幹兼総務課総務担当リーダー
　　長友由美子（平成23年度）
　　高園　寿恵（平成24年度）
調査第一課長　　長津　宗重（平成23・24年度）
主幹兼調査第一課調査第二担当リーダー
　　菅付　和樹（平成23・24年度）

調査担当（平成23年度）

長野遺跡

調査第一課調査第二担当
主　査　明石　宏一
主　査　木場　正浩
主任主事　松本　茂
主　事　小船井　順

舟川（ふなこ）第２遺跡（第３次調査）

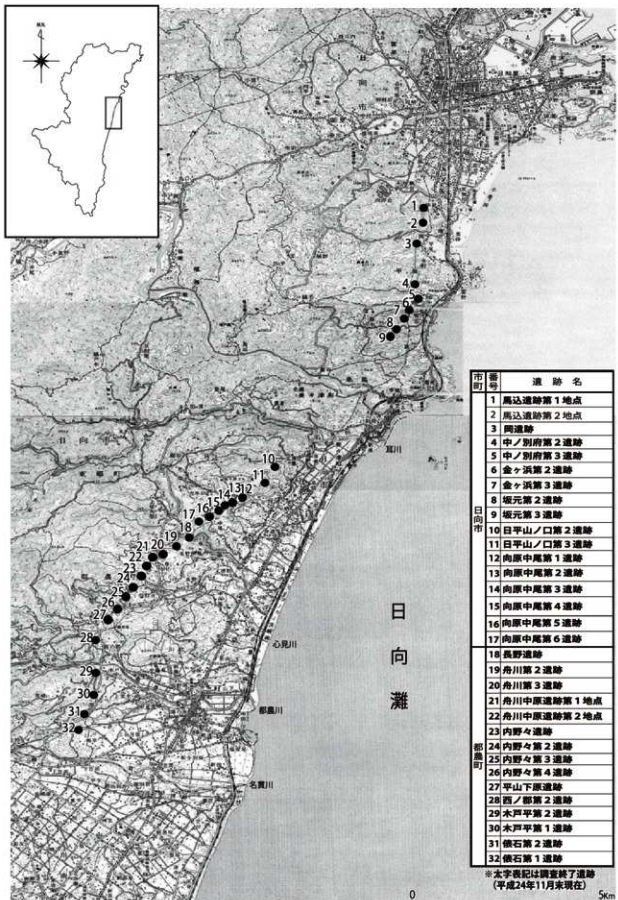
調査第一課調査第二担当
主　査　木場　正浩
主任主事　松本　茂
主　事　田中　達也
主　事　川俣　唱子

整理・報告書担当

調査第一課調査第二担当
主　査　明石　宏一（平成23・24年度）
主　査　松本　茂（平成24年度）
主　事　川俣　唱子（平成23・24年度）
主　事　石貫　弘泰（平成23年度）
主　事　田中　達也（平成23年度）
主　事　小船井　順（平成23年度）

【調査協力】

都農町教育委員会



市町	番号	遺跡名
日向市	1	馬込遺跡第１地点
	2	馬込遺跡第２地点
	3	岡遺跡
	4	中ノ別府第２遺跡
	5	中ノ別府第３遺跡
	6	金ヶ浜第２遺跡
	7	金ヶ浜第３遺跡
	8	坂元第２遺跡
	9	坂元第３遺跡
	10	日平山ノ口第２遺跡
	11	日平山ノ口第３遺跡
	12	向原中尾第１遺跡
	13	向原中尾第２遺跡
	14	向原中尾第３遺跡
	15	向原中尾第４遺跡
	16	向原中尾第５遺跡
	17	向原中尾第６遺跡
都農町	18	長野遺跡
	19	舟川第２遺跡
	20	舟川第３遺跡
	21	舟川中原遺跡第１地点
	22	舟川中原遺跡第２地点
	23	内野々遺跡
	24	内野々第２遺跡
	25	内野々第３遺跡
	26	内野々第４遺跡
	27	平山下原遺跡
	28	西ノ都第２遺跡
	29	木戸平第２遺跡
	30	木戸平第１遺跡
	31	徳石第２遺跡
	32	徳石第１遺跡

※太字表記は調査終了遺跡
（平成24年11月末現在）

第１図　東九州自動車道（日向～都農間）関連遺跡位置図

第１表　東九州自動車道（日向～都農間）関連遺跡一覧表

市町	番号	遺跡名	所在地	遺跡面積（㎡）	調査面積（㎡）	年度	種別	主な遺構・遺物の年代	調査期間
日向市	1	馬込遺跡第１地点	日向市大字平岩字馬込・字清水ノ元	7,900	130	22	１次	—	H22.5.17～H22.5.21
					70	22	２次		H22.12.20
					150	23	３次		H23.11.21～H23.11.22
					30	24	４次		H24.11.12～H24.11.13
	2	馬込遺跡第２地点	日向市大字平岩字馬込	1,800	200	24	１次	旧石器、縄文［早・晩］	H24.11.12～H24.11.21
					1,600	24	２次		H24.12.17～H25.3.8［予定］
	3	岡遺跡	日向市大字平岩字岡・字谷口・字三拾歩・字平尾	40,000	140	21	１次	縄文［晩］、弥生、古代、近世	H22.1.14～H22.1.15
					120	21	２次		H22.2.16～H22.2.18
					400	21	３次		H22.3.10～H22.3.11
					100	22	４次		H22.6.7～H22.6.8
					60	22	５次		H22.6.7～H22.6.9
					1,870	22	６次		H22.7.7～H23.2.25
					3,560	22	７次		H22.7.20～H22.11.19
					100	23	８次		H22.12.21～H22.12.22
					2,580	23	９次		H23.5.9～H23.11.7
					60	23	10次		H23.6.22
					150	23	11次		H23.7.6～H23.7.8
					20	23	12次		H23.8.1～H23.8.3
					1,230	23	13次		H23.8.29～H23.11.28
					100	23	14次		H23.9.6～H23.9.7
					1,000	23	15次		H23.9.26～H23.12.27
					1,000	24	16次		H24.4.9～H24.8.8
					120	24	17次		H24.5.8
	4	中ノ別府第２遺跡	日向市大字平岩字コウ地	200	60	21	１次	—	H21.12.16
	5	中ノ別府第３遺跡	日向市大字平岩字ミコノ子	1,900	80	22	１次	—	H22.9.29
	6	金ヶ浜第２遺跡	日向市大字平岩字金ヶ浜・字加原	300	30	21	１次	旧石器、縄文、古墳以降	H21.12.15
					10	22	２次		H22.5.25
	7	金ヶ浜第３遺跡	日向市大字平岩字加原	200	25	21	１次	—	H21.12.15
					16	22	２次		H22.11.1
	8	坂元第２遺跡	日向市大字平岩字ナガソ・字中高鳥	2,000	10	21	１次	縄文［早］、弥生、古墳	H21.12.14
					5	22	２次		H22.5.26
					300	23	３次		H23.4.25～H23.6.3
	9	坂元第３遺跡	日向市大字平岩字中高鳥	200	75	21	１次	—	H21.12.14
					15	22	２次		H22.9.30
	10	日平山ノ口第２遺跡	日向市東郷町山陰字日平	1,600	25	20	県調査分	—	H20.11.5～H20.11.10
	11	日平山ノ口第３遺跡	日向市東郷町山陰字日平	4,300	10	20	県調査分	—	H21.3.4～H21.3.19
	12	向原中尾第１遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口	9,300	140	20	１次	旧石器、縄文［晩］、弥生、古墳、近世	H20.12.16～H21.1.6
					1,025	22	２次		H22.6.28～H22.12.24
	13	向原中尾第２遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口	2,400	120	22	１次	旧石器、縄文［早］、弥生	H22.6.21～H22.7.6
					1,200	22	２次		H22.9.2～H22.12.28
					500	24	３次		H24.6.11～H24.9.11
	14	向原中尾第３遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口・字向ヲ原	6,500	280	20	１次	弥生、古墳	H20.12.2～H20.12.15
	15	向原中尾第４遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口	11,000	190	20	１次	旧石器、縄文［早］	H20.11.17～H20.12.1
					60	21	２次		H21.8.5～H21.8.31
					5,430	22	３次		H22.4.26～H22.12.28
	16	向原中尾第５遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口	2,100	15	20	県調査分	旧石器、縄文［早］、弥生、古墳	H20.11.17～H20.12.1
					430	24	１次		H24. 6.27～H24.10.5
	17	向原中尾第６遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口	2,300	200	24	１次	旧石器、縄文［早］	H24. 6.11～H24.9.10
都農町	18	長野遺跡	都農町大字川北字境谷	8,400	100	23	１次	旧石器、縄文［早］、弥生	H23.3.1～H23.3.4
					4,500	24	２次		H23.5.9～H23.11.21
					270	21	１次		H21.8.5～H21.9.9
	19	舟川第２遺跡	都農町大字川北字境谷・字舟川	10,600	3,000	21	２次	旧石器、縄文［早］	H21.10.26～H22.3.12
					1,400				H22.4.14～H22.8.20
					750	23	３次		H23.9.9～H23.9.9
	20	舟川第３遺跡	都農町大字川北字舟川	16,800	360	22	１次	縄文［晩］、弥生	H22.5.6～H22.5.28
	21	舟川中原遺跡第１地点	都農町大字川北字舟川中原	2,600	15	22	１次	旧石器、縄文［早］	H22.4.20～H22.4.21
					215	23	２次		H23.5.9
	22	舟川中原遺跡第２地点	都農町大字川北字舟川中原・字舟川尾立	5,000	70	20	１次	旧石器、縄文、近世	H21.1.15～H21.1.27
					45	21	２次		H21.8.6～H21.9.10
	23	内野々遺跡	都農町大字川北字内野後原・字西尾立・字横谷	14,700	4,700	21	１次	縄文［早・中・後］、弥生	H21.6.5～H22.1.7
					20	22	２次		H22.4.23～H22.4.26
	24	内野々第２遺跡	都農町大字川北字内野後原	6,300	10	20	県調査分	旧石器、縄文［早・後］	H21.1.13～H21.1.14
					1,410	21	１次		H21.12.7～H21.1.25
	25	内野々第３遺跡	都農町大字川北字西尾立	2,700	280	21	１次	縄文、弥生、古墳	H22.5.17～H22.5.24
	26	内野々第４遺跡	都農町大字川北字宮原	2,200	20	20	県調査分	旧石器、縄文［早・前］、弥生、古墳	H21.1.15～H21.1.23
					900	21	１次		H21.5.11～H22.1.7
					400	20	１次		H20.11.25～H20.12.12
	27	平山下原遺跡	都農町大字川北字下原・字寺下	18,900	6,680	21	２次	旧石器、縄文［早］	H21.6.8～H22.2.8
					910	22	３次		H22.5.24～H22.7.23
	28	西ノ部第２遺跡	都農町大字川北字西ノ部	18,800	150	20	１次	旧石器	H20.11.17～H20.11.21
									H21.1.28～H21.2.2
					520	21	２次		H21.7.16～H21.8.4
					40	20	１次		H21.1.6～H21.1.14
	29	木戸平第２遺跡	都農町大字川北字木戸ノ平	8,400	760	21	２次	旧石器、縄文［早］、弥生、古墳	H21.7.13～H21.9.2
					1,280	21	３次		H21.10.13～H22.1.18
					800	22	４次		H22.10.18～H23.1.31
	30	木戸平第１遺跡	都農町大字川北字木戸ノ平・字荒蔵平・字馬場口・字瓜生尾立	29,500	500	20	１次	旧石器	H20.12.15～H20.12.25
					300	21	２次		H21.7.1～H21.7.15
	31	俵石第２遺跡	都農町大字川北字俵石	10,000	60	21	１次	旧石器、縄文［早］	H21.6.16～H21.7.14
					3,320	22	２次		H22.4.12～H23.2.17
	32	俵石第１遺跡	都農町大字川北字湯牟田	12,500	2,445	20	１次	旧石器、縄文［早］、弥生	H20.11.4～H21.3.31
					9,000	21			H21.4.1～H21.11.2
					255	22	２次		H22.11.1～H22.12.24

※太字表記は、調査終了（平成24年11月末現在）

第３節　遺跡の位置と環境

１　地理的環境

長野遺跡及び舟川第２遺跡は、宮崎県児湯郡都農町大字川北字境谷、字舟川に所在する。これらの遺跡が立地する都農町は、宮崎県の中央部よりやや北寄り、宮崎市と延岡市のほぼ中間に位置している。

町の地勢は、町西部の尾鈴山系（標高1405.2m）から派生する山塊や丘陵が日向灘に向けて傾斜し、西側から山岳部、山麓部、平野部、海岸部に大きく分けられる。

尾鈴山系を源とする名貫川・都農川・心見川の３河川は、山麓部と平野部を西から東へと流れる。これらの３河川及び支流による開析作用や土砂の堆積によって新しい扇状地と古い扇状地との間には段差が生じ、数段の河岸段丘が形成されている。

このように都農町は起伏と地形の多様性に富む地勢であり、長野遺跡、舟川第２遺跡は、征矢原川と心見川支流前田川に挟まれた丘陵尾根部、鞍部付近に展開する地理的特徴を有している。

２　歴史的環境

旧石器時代

これまで都農町内の旧石器時代の遺構や遺物は、黒荻地区出土とされる採集遺物が数点知られているのみであった。近年、東九州自動車道建設に伴う発掘調査によって、都農町内における旧石器時代の様相がより具体的に把握されてきている。

例えば、舟川第２遺跡（第２次調査）や平山下原遺跡、俵石第２遺跡、尾立第２遺跡、尾立第３遺跡、立野第５遺跡では、ナイフ形石器や剥片尖頭器、細石刃核といった石器類が多数出土し礫群が検出されている。

また、都農町南縁の俵石第１遺跡では、合計５期の文化層が認められ、AT火山灰層より下層にナイフ形石器と礫群の存在が確認されている。

縄文時代

縄文時代の遺跡の多くは河川やその支流によって形成された河岸段丘上あるいは開析谷に近い台地上、標高20m以上に立地する。

草創期では、朝草原遺跡で草創期末葉とされる無文土器が出土しているが、類例の比較検討を要する。

早期では、都農町中央部の黒石遺跡で集石遺構が検出され、押型文・貝殻文・条痕文・櫛描文の土器や打製石鏃などが出土している。また、平山下原遺跡では無文土器単純期の遺物包含層が確認されている。俵石第２遺跡では散礫が、内野々遺跡では集石遺構が検出されている。

前・中期では、内野々第４遺跡で轟B式土器や曽畑式土器、玦状耳飾が出土し、内野々遺跡で深浦式土器、船元式系土器などが出土している。

後期では、新別府川原遺跡で竪穴建物跡１軒が検出され、内野々遺跡では磨消縄文系土器を伴う竪穴建物跡４軒が検出されている。新別府下原遺跡では貝殻条痕文土器や磨製石斧類が出土している。

弥生時代

都農町域では、弥生時代の集落遺跡は、後期初頭の又猪原遺跡や森遺跡をはじめ、後期に属する遺跡が多い。

境ヶ谷第１（岩山）遺跡では、後期後半の竪穴建物跡２軒や周溝状遺構１基が検出され、都農川上流域の木戸平第２遺跡では、弥生時代後期から終末期の竪穴建物跡５軒が検出され、弥生土器の甕・壺・高坏・鉢・甑・器台が出土している。また、俵石第２遺跡では、「水穴」の陥没孔から甕、壺、高坏等の完形品がまとまって出土している。

古墳時代

都農町内には、海岸部を中心に12基の県指定古墳が存在する。すべて積石塚で、前方後円墳が２基、円墳が10基である。全国的にも類例の少ない積石塚であるが、県内では名貫川や海岸部を中心に分布する。

古代以降

都農町内で古代の遺跡は知られていない。『倭名類聚抄』には日向国児湯郡に「都野郷」がみえる。また、『延喜式』にみえる日向国５牧のうち「都濃野牧」、日向国16駅のうち「去飛駅」については、町内に比定されることが多い。さらに、日向国の式内社４社のうち、都農神社は日向一ノ宮ともいわれる。都農町は、日向国の主要な役割を担った地域と考えられる。

中世のはじめ、都農町域は新納院に含まれていたとされる。その後、土持氏→伊東氏→島津氏と都農の支配者が変遷する。

近世に入ると都農町は、高鍋藩秋月氏の支配となっ

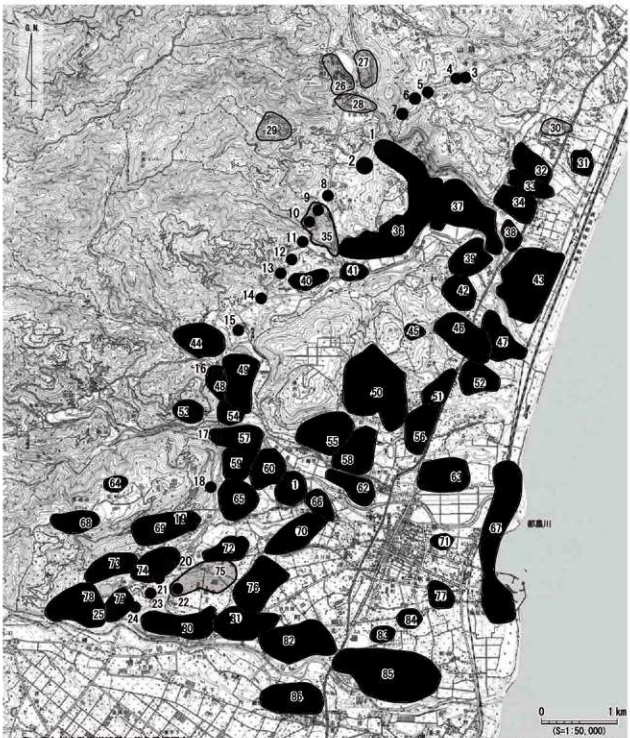
た。高鍋藩が城下町以外に在郷町として取立てた3町のうちの一つが川北郷都農町であり、御城下高鍋町と藩港美々津との中間点に位置していたため宿駅中宿としての役割を担っていた。藩は、本町に野別府代官所を設置し、周辺数ヶ村の掌握に当たるなど、藩施政上の拠点であった。このように行政的な要路であるとともに都農町は藩財政の最重要財源であった石河内尾鈴の豊富な山林資源と、藩牧の岩山牧がある川北川南一帯の広汎な未開拓の丘陵原野から産出される林業生産物の集荷中心地でもあった。

また、町部当日記「御用帳」から天保9年（1838）の都農町人553人は高鍋城下町を含む藩内町人数のおよそ29%を占めており、藩内においても大きい在郷町であったことがうかがえる。

引用・参考文献

都農町　1998『都農町史　通史編』
石貫弘泰　2012『舟川第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第214集
今塩屋毅行・石貫弘泰・南龍太郎・橋本清美・山本光俊・谷口めぐみ　2012『向原中尾第１・２遺跡　向原中尾第４遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第213集
小船井順・今塩屋毅行・原口耕一郎・谷口めぐみ　2011『内野々遺跡　内野々第２・第３遺跡　内野々第４遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第202集
谷口めぐみ・橋口由佳・今塩屋毅行　2012『俵石第１遺跡（第２次調査）　俵石第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第216集
■留洋志・今塩屋毅行　2012『木戸平第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第215集
横山正文・今塩屋毅行　2011『俵石第１遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第200集

第２図　長野遺跡・舟川第２遺跡（第３次調査）周辺地形図



1．長野遺跡
2．舟川第２遺跡
3．向原中尾第１遺跡
4．向原中尾第２遺跡
5．向原中尾第４遺跡
6．向原中尾第５遺跡
7．向原中尾第６遺跡
8．舟川第３遺跡
9．舟川中原遺跡第１地点
10．舟川中原遺跡第２地点
11．内野々遺跡
12．内野々第２遺跡
13．内野々第３遺跡
14．内野々第４遺跡
15．平山下原遺跡
16．西ノ部第２遺跡
17．木戸平第２遺跡
18．木戸平第１遺跡
19．俵石第２遺跡
20．俵石第１遺跡
21．尾立第２遺跡
22．朝早原遺跡
23．尾立第３遺跡
24．立野第５遺跡
25．立野第２遺跡
26．上折矢原遺跡
27．東平遺跡
28．下折矢原遺跡
29．舟川尾立遺跡
30．中村遺跡
31．寺迫下原遺跡
32．宮川遺跡
33．山末大原第２遺跡
34．山末大原第１遺跡
35．舟川中原遺跡
36．長野遺跡
37．又開野原遺跡
38．心見住遺上遺跡
39．旧牧師第２遺跡
40．内野遺跡
41．旧牧師第１遺跡
42．旧牧師第１遺跡
43．心見遺跡
44．平山遺跡
45．白石第１遺跡
46．白石第２遺跡
47．上黒萩遺跡
48．西ノ部第１遺跡
49．西ノ部第２遺跡
50．白水遺跡
51．堆ヶ谷第２遺跡
52．久次牟田遺跡
53．井手ヶ原遺跡
54．川神田遺跡
55．宮塚遺跡
56．堆ヶ谷第１遺跡
57．木戸平第２遺跡
58．黒石遺跡
59．木戸平第１遺跡
60．上荘生遺跡
61．鷹生遺跡
62．桐匠田遺跡
63．中原遺跡
64．荘生尾立第２遺跡
65．馬場口遺跡
66．鍛冶屋敷遺跡
67．都島古墳群
68．依石第１遺跡
69．依石第２遺跡
70．中河原遺跡
71．森遺跡
72．油平田遺跡
73．尾立遺跡
74．俵石第１遺跡
75．榎下遺跡
76．堀土手遺跡
77．別府尾遺跡
78．立野遺跡
79．堆ヶ平第２遺跡
80．堆ヶ平第１遺跡
81．下原遺跡
82．新別府川原遺跡
83．新別府遺跡
84．新別府肥遺跡
85．新別府下原遺跡
86．篠別府遺跡

第３図　長野遺跡・舟川第２遺跡と周辺遺跡位置図

第Ⅱ章　長野遺跡

第１節　調査の概要と方法・経過

第１次調査の概要

長野遺跡は踏査段階で弥生土器や石庖丁片等が採集されていたが、植栽による大規模な削平を受けていたため平成23年３月１日から３月４日にかけて、調査対象面積8,400㎡のうち100㎡について人力によるトレンチ調査を実施した。

調査対象範囲に13箇所のトレンチ（T１～T13）を設定し調査を行った（第１図）。遺構・遺物包含層の残存状況について調査した結果、T１～３・５・７・12・13ではアカホヤ火山灰の良好な堆積が確認できたため精査したところ、T２ではアカホヤ上面で不整形の土坑、アカホヤ下位で旧石器剥片１点、T３・５・12では竪穴建物跡と考えられる遺構を検出した。T３では弥生土器片、台石、炭化物等も出土した。また、調査区北半を中心に、弥生土器片、チャート製剥片等を10数点採集した。T８・９では造成・削平の痕跡が見られ、包含層が残存していないことが確認された。T５～７・９より西側の斜面は、包含層が確認されず、地表直下に礫層が確認された。

以上のことから、T８周辺の平坦地、T５～７・９より西・南側の斜面には包含層が残存していないため、調査対象面積8,400㎡のうち、調査が終了した100㎡、調査が不要と考えられる3,800㎡を除く4,500㎡に範囲を限定して第２次調査を実施することになった。

第２次調査の概要

平成23年５月９日から平成23年11月21日までの実日数112日間、面積4,500㎡を対象に調査を行った。

第１次調査の状況から表土直下より遺構・遺物が確認されている状況がみられたため、重機による表土除去を慎重に行い、重機で除去できなかった表土については調査区南半より人力で除去作業を行った。表土除去が終了した後、堆積状況を確認しながらD11グリッドから調査区北端へむけてⅠ層（クロボク）掘削を開始した。

調査の結果、調査区中央～北半にかけてはアカホヤ火山灰層まで削平を受けている場所を除き、上層の黒色土から遺物が出土した。また、遺構らしき掘り込みが確認され、アカホヤ火山灰層まで面的に掘り下げた結果、竪穴建物跡らしきプランを捉えることができた。また、アカホヤ火山灰下層においても一部に削平の痕跡が見られたが、縄文時代早期包含層、旧石器時代包含層の残存状況は良好であった。

調査の方法

調査の便宜上、グリッド杭は世界測地系を基準に10m間隔で設置した（第２図）。

調査区は10m×10mのグリッドを西から東にA～F、北から南に０～12とした。また、調査に際してはこのグリッドを５m×５mに４分割し、小グリッドとした。この小グリッドは北西角を基準として北東角、南西角、南東角の順にａ～ｄとして表記している。

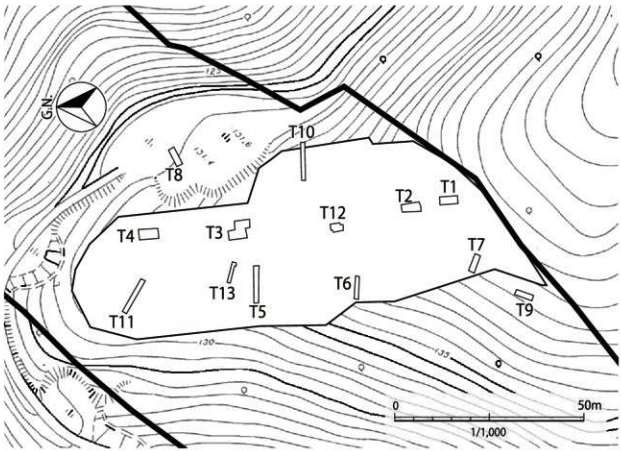
掘削は表土を重機で除去後、Ⅰ層（クロボク）、Ⅱ層（アカホヤ火山灰層）上面まで人力により掘削を行った。Ⅱ層上面で検出した竪穴建物跡２軒と土坑４基の掘削及び記録を行った後、重機によりⅡ層（アカホヤ火山灰層）を除去した。

縄文時代早期の調査については先行トレンチを設定し、遺物が出土した部分を中心に面的に掘削を行った。遺構としては、Ⅲ層（暗褐色土層）上面において焼土面７面と焼土を有する土坑を１基検出した。

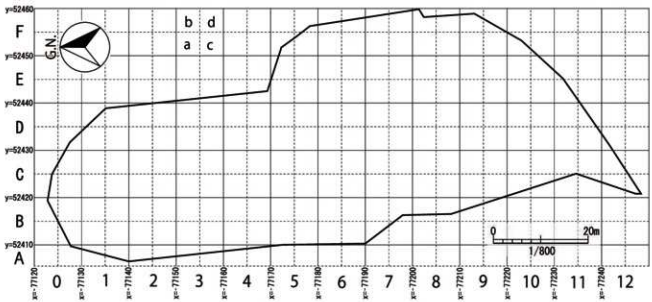
旧石器時代の調査については、Ⅳ層（暗褐色土層～後期旧石器遺物包含層）まで全面掘削した。Ⅴ層（にぶい黄褐色土層）以下については、遺物が出土したグリッドを中心に25～50%の面積の掘削を行った。また、調査区の北半については、遺物が散漫に出土する状況であったため、Ⅱ層（アカホヤ火山灰層）の残存範囲を中心にⅣ層～Ⅴ層まで遺物が出土したグリッドを中心に25～50%の面積の掘削を行った（第３図）。

遺物取り上げについてはトータルステーションを用いて位置を記録した後に行ったほか、調査区グリッド配置図（第２図）に従い、グリッド一括として取り上げた。また、遺構出土の遺物は床面直上のものを図化した。

遺構・土層断面実測図は1/10及び1/20を基本に作成した。写真記録は35㎜と６×７モノクローム・リバーサル写真及びデジタルカメラ（1,000万画素程度）を併用した。また、遺跡の地理的状況や周辺自然環境を記録するため空中写真撮影を実施した。



第１図　トレンチ配置図



第２図　グリッド配置図

日誌抄

H23.4.7　調査着手準備。
5.9～19　重機にて駐車場・調査区への通路整備。調査事務所等設置場所の整地。伐採雑木の除去、表土除去。
5.20　グリッド杭設置。
5.24　発掘作業員28名投入、作業開始。
5.25～30　人力にて調査区南半の表土除去後の精査作業。
5.31～6.2　人力にて調査区北半の表土除去後の精査作業。
6.3　包含層（Ⅰ層）掘削開始。
6.13　D4～D5グリッド精査。D4グリッド内より竪穴建物跡（SA1）を検出。
6.28　竪穴建物跡（SA1）床面直上より弥生時代後期後半の鉢の底部が出土。
6.30　竪穴建物跡（SA1）床面直上より弥生時代後期後半の甕の底部と砥石が出土。
7.3　C2グリッド精査、C2グリッド内より竪穴建物跡（SA2）を検出。
7.22　E5グリッドⅢ層より石鏃が出土。
7.26　竪穴建物跡（SA2）床面直上より弥生時代後期後半の甕の口縁部片が出土。
7.29～8.1　Ⅱ層（K-Ah）上面でコンタライン作製。
8.2　竪穴建物跡（SA2）床面直上より弥生時代後期後半の複合口縁壺の口縁～頸部が出土。
8.23　空中写真撮影実施。
8.28　現地説明会開催。
8.29～30　重機にてⅡ層(K-Ah)除去、排土整地。
9.5　包含層掘削（Ⅲ層以下）開始。
9.7　D9aグリッドⅢ層より縄文時代早期の楕円押型文土器片が出土。
9.21　D8aグリッドⅣ層よりナイフ形石器が出土。
9.27～10.12　竪穴建物跡埋土のフローテーション水洗作業。
10.13　B6dグリッドⅣ層より石核とチャート製剥片が出土。
10.26　D10dグリッドⅣ層より剥片が出土。
10.27～28　焼土を有する土坑の埋土をサンプリング。
11.14　D2aグリッドⅣ層より尖頭器が出土。
11.21　埋め戻し、調査終了。

第2節　整理作業の方法と報告書作成

整理作業は、宮崎県埋蔵文化財センター本館（以下、センター）にて実施した。

出土した土器・石器の水洗、注記、接合、実測、トレースについては、平成23年11月～平成24年8月にかけて行った。

フローテーション作業は、土の水洗作業までは現地で行い、回収した遺物の選別作業（一次・二次）はセンターで行った。

本報告書に掲載したグリッド配置図や遺構配置図など一部の挿図は、現地で得られたデータを基にデジタルデータで作成した。挿図作成には、株式会社CUBICの『遺構くん』『トレースくん』やAdobe社の『Illustrator』などのソフトウェアを使用している。

＜整理作業　接合作業の様子＞

＜整理作業　実測作業の様子＞

第３節　教育普及活動

発掘調査の様子や調査の成果を地元住民をはじめ、広く県民へ公開し、調査への理解と協力を呼びかけるとともに、郷土の歴史や文化財に対する興味・関心、埋蔵文化財保護への理解を高めるために現地説明会を開催した。また、同時に発掘体験コーナーを設け、説明会参加者に発掘作業を体験していただいた。

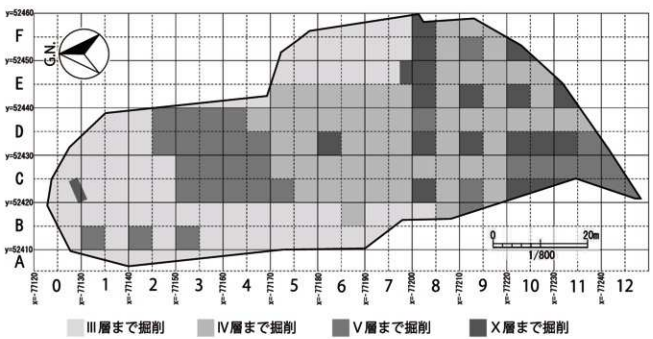
現地説明会は平成23年8月28日に開催した。内容は、Ⅱ層（K-Ah）上面で検出した遺構及び出土遺物を中心に、その時点までの調査成果の説明を行った。

当日は、都農町内や宮崎市を中心に、32名の見学者が来訪された。発掘体験には、大人９名、子ども５名の計14名が参加し、遺物を見つけ出そうと熱心に掘削作業に取り組んでいた。また、遺物展示コーナーでは、都農町内の関連する遺跡から出土した多様な遺物を目にし、郷土に存在する貴重な文化財に深い関心を示された様子であった。

この他にも平成23年8月9日には宮崎県内の公立学校初任者教諭を対象にした体験研修を受け入れ、遺跡の見学及び体験発掘作業を行った。

また、平成24年２月26日には、発掘調査報告会を都農町民図書館で実施し、出土遺物の展示解説を行った。都農町内を中心に32名が参加された。

＜現地説明会の様子＞



第３図　グリッド別掘削深度図

第４節　基本層序

樹木植栽による造成、削平の影響を受け、調査区全域において攪乱が見られた（第４図）。

基本層序の設定に際しては、土層の堆積状況が良好であった調査区南半のD9、E9、C10、D10グリッドを基準としている。

基本層序は以下に示すⅠ～Ⅹ層に分かれる。

表土・造成土

Ⅰ層：黒色土（Hue10YR2/1）。クロボク土からなる層。

Ⅱ層：鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）の堆積層（Hue7.5YR6/8）。

Ⅲ層：暗褐色土（Hue10YR3/3）。主に縄文時代早期の遺物を包含する層であるが一部に後期旧石器時代の遺物が混じる。

Ⅳ層：暗褐色土（Hue10YR3/4）。主に後期旧石器時代の遺物を包含する層であるが一部に縄文時代早期の遺物が混じる。

Ⅴ層：にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）。後期旧石器時代の遺物を少量包含する層。

Ⅵ層：褐色土（Hue10YR4/6）。後期旧石器時代の遺物を少量包含する層。

Ⅶ層：にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）。この層には始良Tn火山灰（AT）が含まれる。

Ⅷ層：褐色土（Hue10YR4/4）。遺物は出土していない。

Ⅸ層：明褐色土（Hue7.5YR5/6）。無遺物層。この層を基盤層として掘削停止の目安とした。

Ⅹ層：礫層。

第５節　石材分類について

出土した石器及び遺構に使用された石材については表面の色調・手触り・風化の状況等から全て肉眼で分類した。粒子の相違などで、さらに細分できるものもあるが大きく８種類に分類した。

流紋岩：黒褐色を呈し、縞模様が入る表面が緻密なものと、灰白色を呈し、縞模様が入る表面が滑らかなものに大別できる。

黒曜石：暗灰色～褐色を呈し、透明度が高く、透過光でチョコレート色を呈するものと、灰白色～灰色を呈し、透明度が高いもの、上記に類さないものに分類できる。

尾鈴山溶結凝灰岩：灰色～暗灰色を呈し、樹脂光沢を持つ石英を多く含むものと、灰色～黄灰色を呈し、２㎜程度の石英が顕著に見られるもの。

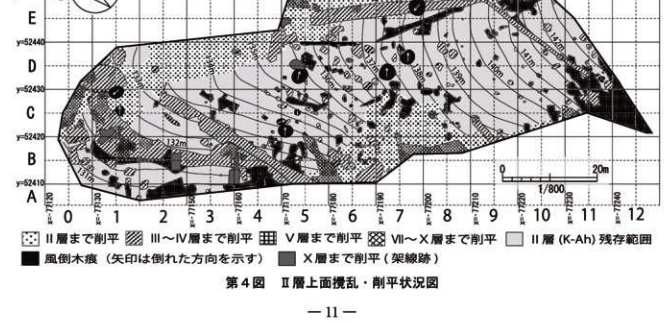
頁岩：黒灰色や青灰色を呈し、層理や葉理に平行して薄く剥がれやすいもの。

珪質頁岩：黒褐色を呈し、緻密なもの。

チャート：青色系、赤褐色系などの色調があり、ガラス質で透明度が高いものや無光沢なものも見られる。

砂岩：青灰色～灰色、黄褐色を呈する。質は粗い。

ホルンフェルス：熱による変成作用を受けた岩石で浅黄茶色で風化が著しく、粉が付く状態のものと、青灰色で表面が滑らかなものに分類できる。



第４図　Ⅱ層上面攪乱・削平状況図

y=52460
F
y=52450
E
y=52440
D
y=52430
C
y=52420
B
y=52410
A
x=77120
x=77130
x=77140
x=77150
x=77160
x=77170
x=77180
x=77190
x=77200
x=77210
x=77220
x=77230
x=77240
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
G.N.
a
b
c
d
e
f
g
h
0
20m
1/800
141.0m
140.0m
140.5m
141.5m
139.5m
139.0m
138.5m
138.0m
撹乱
I
II
III
IV
V
VI
VII
VIII
IX
0
2m
1/60

第５図　土層断面図

第６節　後期旧石器時代の遺構と遺物

１　遺構

後期旧石器時代の包含層であるⅣ層で検出した遺構を後期旧石器時代の遺構とした。

後期旧石器時代の遺構は、礫群を１基のみ検出した。

Ｓ１１（第６図）

調査区の南東部F8グリッド北西部に位置する。検出面はⅣ層であり、石材は全て尾鈴山溶結凝灰岩である。礫は、７～15cm程の大きさのもの14点で構成され、全て赤化している。礫の総重量は、7,864ｇを測り、礫１点当たりの平均重量は561ｇである。範囲は、長径約1.2m、短径約0.3mで、分布状況は密である。南北に列状に並ぶ構成で、掘り込み、配石、炭化物はみられなかった。

２　遺物

Ⅳ層からⅦ層で出土した遺物を後期旧石器時代の遺物として掲載している（第７図）。

後期旧石器時代の遺物はナイフ形石器、尖頭器、剥片、石核等が出土した。出土点数は71点で、うち10点を図化した（第８図）。遺物は調査区南半を中心に出土しているが、全体的には散漫な出土状況であった。

なお、図化した遺物の計測値については、第１表に掲載し、未図化の出土遺物については、第２表及び第３表に掲載している。

ナイフ形石器（第８図１～３）

ナイフ形石器は３点出土し、全て図化した。

１は珪質頁岩製の二側縁加工ナイフ形石器である。

２は流紋岩製の基部加工ナイフ形石器である。素材剥片の打面部を残置し、基部両端に刃潰し加工が施されている北牛牧型ナイフ形石器である。

３は珪質頁岩製の基部加工ナイフ形石器である。素材剥片の打面部に調整が入り、打面部が除去されるとともに腹面に平坦剥離が施されている。両側縁が基部端部に向かって直線的に延びている。今峠型ナイフ形石器に類似している。

尖頭器（第８図４）

１点出土し、図化した。流紋岩製で大型の剥片を利用している。両側縁に加工が施されている。先端部には欠損がみられる。

剥片（第８図５～９）

51点出土し、このうち５点を図化した。

５は流紋岩製の石刃状の縦長剥片である。

６は珪質頁岩製の剥片である。

７は珪質頁岩製の横長剥片であり、底面を有する。

８はホルンフェルス製の石刃状の縦長剥片である。

９は珪質頁岩製の縦長剥片である。

石核（第８図10）

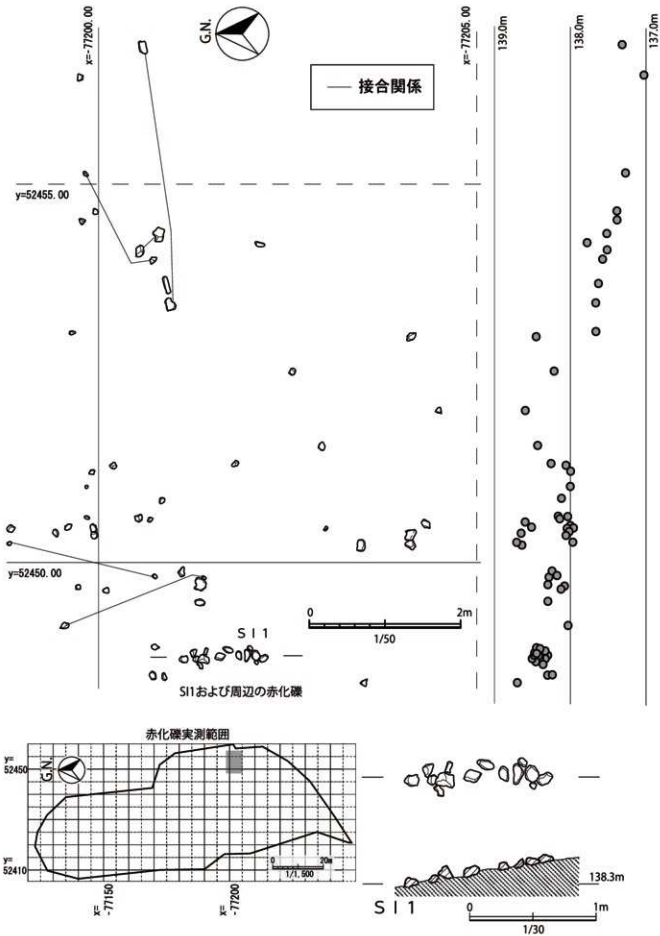
６点出土し、このうち１点を図化した。

10は珪質頁岩製の石核である。

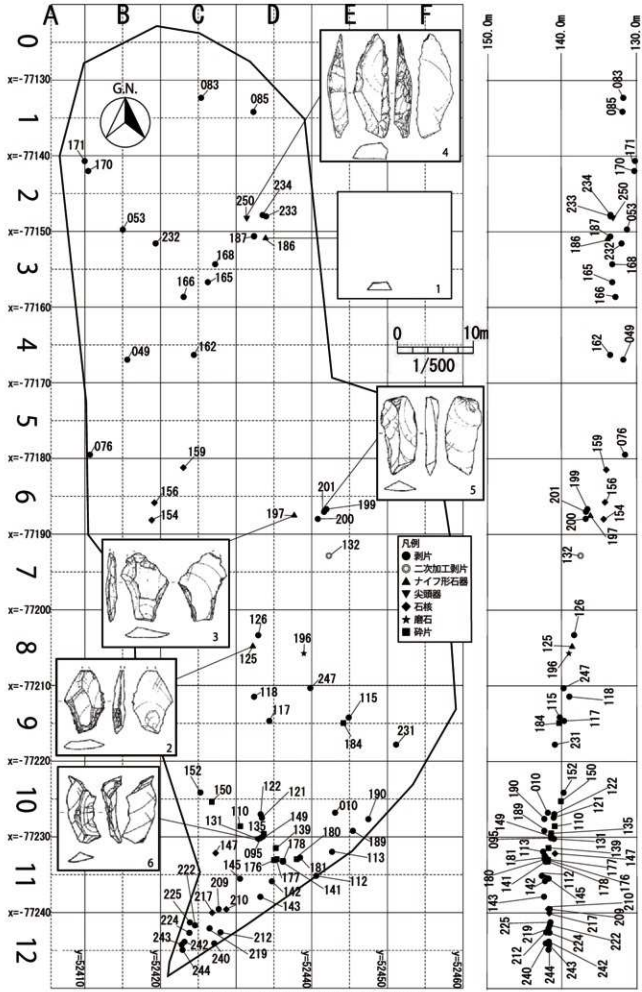
このほかに磨石が１点と砕片が９点出土している。

第１表　後期旧石器時代石器計測表　（１）

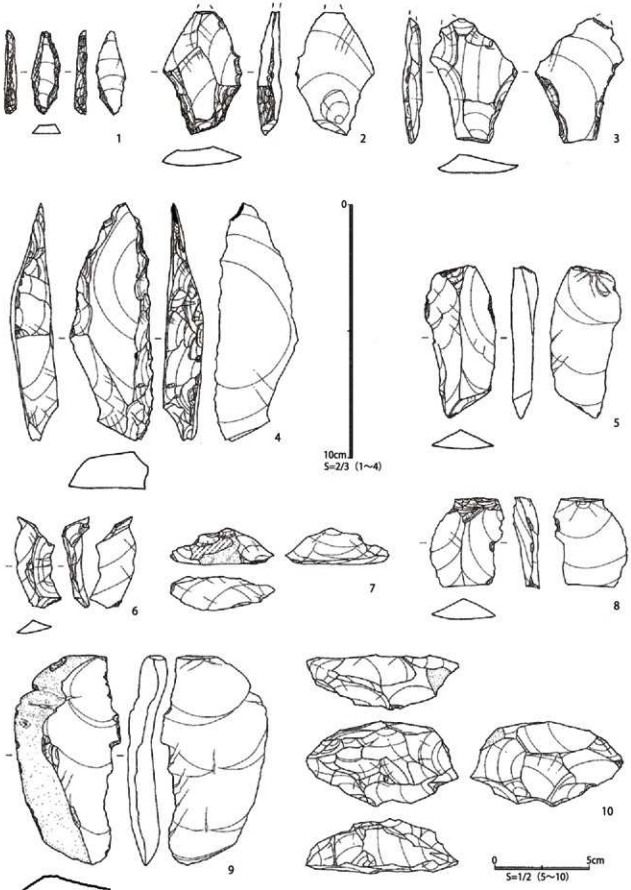
掲載No.	遺物No.	グリッド	出土層位	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	X座標	Y座標	Z座標
1	186	D3	Ⅳ	ナイフ形石器	珪質頁岩	3.3	1.2	0.5	1.8	-77150.938	52433.908	133.768
2	125	D8	Ⅳ	ナイフ形石器	流紋岩	4.9	3.1	0.8	12.1	-77204.871	52432.222	136.610
3	197	D6	Ⅳ	ナイフ形石器	珪質頁岩	4.9	3.5	0.8	10.8	-77187.569	52437.682	136.336
4	250	D2	Ⅴ	尖頭器	流紋岩	9.35	3.3	1.5	48.5	-77148.200	52431.434	133.379
5	201	E6	Ⅳ	剥片	流紋岩	6.0	2.8	1.1	13.8	-77187.065	52441.624	136.807
6	131	D11	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	3.7	1.8	0.5	3.1	-77230.292	52432.890	141.022
7	—	T2	Ⅳ	剥片	珪質頁岩	1.45	4.1	1.35	6.0	—	—	—
8	112	E11	Ⅴ	剥片	ホルンフェルス	3.5	2.85	0.8	9.8	-77235.164	52440.598	142.627
9	187	D3	Ⅴ	剥片	珪質頁岩	8.3	4.3	1.5	32.1	-77150.684	52432.390	133.572
10	217	C12	Ⅳ	石核	珪質頁岩	4.5	8.0	2.9	92.8	-77235.932	52413.841	141.610



第６図　後期旧石器時代遺構実測図（ＳＩ１）



第７図　後期旧石器時代遺物分布図



第８図　後期旧石器時代石器実測図

第２表　後期旧石器時代石器計測表（２）

掲載No.	遺物No.	グリッド	出土層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標
－	010	E10	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	5.0	6.5	1.6	38.6	-77226.821	52443.095	141.830
－	049	B4	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	4.9	5.2	0.7	20.2	-77166.957	52415.634	131.867
－	053	B3	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	3.4	5.5	1.4	37.2	-77152.421	52427.750	133.592
－	076	B5	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	5.0	3.8	1.0	23.7	-77179.509	52410.683	131.649
－	083	B1	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	5.45	3.2	1.35	20.3	-77132.348	52425.392	131.862
－	085	D1	Ⅳ	剥片	珪質頁岩	4.45	3.15	1.1	20.3	-77134.207	52432.309	131.980
－	095	D11	Ⅳ	剥片	チャート	1.8	0.95	0.3	0.44	-77230.170	52433.250	141.431
－	110	D10	Ⅳ	砕片	チャート	1.0	0.7	0.15	0.12	-77228.630	52430.512	140.906
－	113	E11	Ⅳ	剥片	砂岩	4.3	8.4	1.7	76.9	-77231.974	52442.691	142.475
－	115	E9	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	5.0	5.1	0.9	28.3	-77214.237	52444.899	140.264
－	117	D9	Ⅴ	剥片	珪質頁岩	1.95	2.9	0.45	2.6	-77214.691	52434.391	139.700
－	118	D9	Ⅵ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	1.4	3.2	0.5	1.7	-77211.491	52432.385	138.989
－	121	D10	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	5.85	5.2	2.4	57.7	-77227.494	52433.411	141.086
－	122	D10	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	5.55	4.1	1.8	34.2	-77227.015	52433.269	140.993
－	126	D8	Ⅳ	剥片	チャート	2.6	2.0	0.3	2.3	-77203.354	52432.937	138.356
－	132	E7	Ⅳ	二次加工剥片	砂岩	5.7	5.7	1.8	75.9	-77192.936	52442.292	137.459
－	135	D10	Ⅳ	砕片	チャート	0.8	0.65	0.1	0.1	-77229.658	52433.699	141.441
－	139	D11	Ⅳ	砕片	チャート	1.15	0.8	0.2	0.15	-77231.556	52435.293	141.785
－	141	D11	Ⅳ	剥片	チャート	1.45	1.8	0.25	0.66	-77233.301	52436.218	142.132
－	142	D11	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	7.3	3.3	1.9	45.0	-77235.871	52434.749	142.227
－	143	D11	Ⅳ	剥片	砂岩	3.2	4.8	0.6	9.3	-77237.924	52433.213	142.354
－	145	D11	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	1.65	3.1	1.4	5.1	-77235.544	52430.528	141.733
－	147	C11	Ⅳ	石核	珪質頁岩	3.25	2.5	1.5	12.3	-77232.217	52427.249	140.963
－	149	D10	Ⅳ	剥片	チャート	2.1	1.95	0.3	1.5	-77229.938	52433.570	141.427
－	150	C10	Ⅳ	砕片	チャート	1.0	0.7	0.15	0.09	-77225.327	52426.759	140.075
－	152	C10	Ⅳ	剥片	砂岩	2.9	4.45	0.7	8.1	-77224.167	52425.311	139.754
－	154	B6	Ⅳ	石核	ホルンフェルス	8.0	4.8	2.3	90.0	-77188.106	52418.879	134.458
－	156	B6	Ⅳ	石核	尾鈴山溶結凝灰岩	5.85	4.7	2.5	65.1	-77185.879	52419.281	134.247
－	159	C6	Ⅳ	石核	珪質頁岩	2.2	2.15	1.0	5.3	-77181.290	52423.072	134.351
－	162	C4	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	3.6	3.0	0.85	9.0	-77166.327	52424.427	133.598
－	165	C3	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	6.9	6.8	3.2	157.2	-77156.728	52426.258	133.318

第３表　後期旧石器時代石器計測表（３）

掲載No.	遺物No.	グリッド	出土層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標
－	166	C3	V	剥片	ホルンフェルス	4.7	5.9	1.6	60.4	-77158.666	52423.079	132.917
－	168	C3	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	5.4	5.2	0.9	24.4	-77154.353	52427.254	133.326
－	170	B2	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	2.45	3.25	0.7	6.2	-77142.026	52410.457	130.392
－	171	B2	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	1.1	2.1	0.35	1.3	-77140.699	52409.998	130.321
－	176	D11	Ⅳ	砕片	チャート	0.9	0.6	0.1	0.05	-77233.041	52435.173	141.864
－	177	D11	Ⅳ	砕片	チャート	1.1	0.55	0.25	0.12	-77232.978	52435.319	141.870
－	178	D11	Ⅳ	砕片	チャート	0.85	0.8	0.15	0.1	-77233.235	52436.175	141.945
－	180	D11	Ⅳ	砕片	チャート	0.7	0.8	0.15	0.1	-77232.952	52438.103	142.272
－	181	D11	V	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	4.95	5.1	0.8	21.8	-77232.745	52438.468	142.146
－	184	E9	Ⅳ	砕片	チャート	1.1	0.95	0.2	0.22	-77214.990	52444.199	140.360
－	189	E10	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	3.3	6.7	1.4	26.3	-77229.208	52445.436	142.298
－	190	E10	Ⅳ	剥片	チャート	2.95	2.4	0.6	3.2	-77227.662	52447.508	142.295
－	196	D8	Ⅳ	磨石	尾鈴山溶結凝灰岩	8.3	7.3	4.7	417.5	-77205.750	52438.981	139.063
－	199	E6	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	6.1	4.6	0.95	28.1	-77186.703	52441.961	136.614
－	200	E6	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	8.3	4.15	1.5	39.0	-77187.981	52440.811	136.834
－	209	C11	Ⅳ	剥片	珪質頁岩	1.7	3.15	0.4	2.3	-77235.485	52414.624	141.595
－	210	C11	Ⅳ	石核	砂岩	5.4	4.55	2.6	67.1	-77235.495	52415.595	141.720
－	212	C12	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	3.5	2.3	0.17	6.1	-77238.545	52414.851	142.062
－	219	C12	Ⅳ	剥片	珪質頁岩	1.9	2.2	0.2	1.3	-77238.033	52413.423	141.749
－	222	C12	Ⅳ	剥片	砂岩	5.5	6.9	0.19	34.2	-77237.611	52411.486	141.583
－	224	C12	Ⅳ	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	1.9	1.45	0.4	1.0	-77238.591	52410.745	141.632
－	225	C12	Ⅳ	剥片	砂岩	2.1	1.6	0.4	1.2	-77237.232	52410.801	141.499
－	231	F9	Ⅳ	剥片	珪質頁岩	3.5	2.4	0.7	7.6	-77217.817	52451.166	140.906
－	233	D2	V	剥片	ホルンフェルス	3.4	2.05	0.8	5.9	-77148.012	52433.977	133.546
－	234	D2	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	3.25	2.45	1.2	7.8	-77147.838	52433.490	133.561
－	240	C11	V	剥片	砂岩	2.4	3.2	0.6	5.1	-77244.092	52427.099	142.117
－	242	C11	Ⅳ	剥片	砂岩	3.5	2.3	0.8	5.7	-77243.869	52423.191	141.697
－	243	C11	Ⅳ	剥片	砂岩	2.15	1.7	0.4	1.9	-77244.266	52422.828	141.673
－	244	C11	Ⅳ	剥片	珪質頁岩	1.95	3.6	0.8	5.7	-77244.939	52422.940	141.746
－	247	D9	Ⅳ	剥片	珪質頁岩	3.3	4.0	0.9	10.3	-77210.367	52439.826	139.766

第７節　縄文時代早期の遺構と遺物

１　遺構

縄文時代早期の包含層であるⅢ層において検出した遺構について早期の遺構として位置付けた。

早期の遺構は焼土面を７面と焼土を有する土坑を１基検出した。そのうち焼土面６面と焼土を有する土坑１基を調査区南半で検出している（第９図）。

検出した７面の焼土面のうち、焼土をごくわずかに含み、明確な掘り込みが確認できなかった焼土面が３面（焼土面３、５、７）、焼土を少量含み、明確な掘り込みが確認できなかった焼土面が４面（焼土面１、２、４、６）、焼土や焼土塊を多量に含み、焼土を含む埋土が３層に分かれる土坑を１基（SC6）に分類した。このうち焼土面４面と焼土を有する土坑１基を図化し、掲載した（第９図）。

焼土面１（第９図）

調査区南端に近いD10cグリッドで検出した。平面プランは不整円形で、長軸130×短軸100×深さ20㎝を計る。焼土面の中心は、１～２㎜大の焼土が20～30%程度含まれ、その下には、１～２㎜大の焼土が10～20%程度含まれる。また、平面プランでは、範囲外に１㎜以下の焼土粒が極めて薄く広がっている状況であった。炭化物や遺物は出土していない。

焼土面２（第９図）

上記の焼土面１の南側、D10cグリッドで検出した。平面プランは不整楕円形で、長軸190×短軸80×深さ15㎝を計る。焼土面の中心は、１～２㎜大の焼土が20～30%程度含まれ、その周囲には、１～２㎜大の焼土が１～10%程度含まれる。炭化物や遺物は出土していない。

焼土面３

調査区南端に近いE10aグリッドにおいて、先行トレンチの東側壁面で半截した状態で検出された。平面プランは不整円形、長軸50×短軸30×深さ15㎝と推定される。１～２㎜大の焼土が少量含まれ、１～２㎜大の炭化物も少量含まれていた。遺物は出土していない。

焼土面４（第９図）

調査区南東側緩斜面上のE９dグリッドで検出した。平面プランは不整円形で、長軸100×短軸70×深さ10㎝を計る。１～２㎜大の焼土が1～10%程度含まれ、中に、焼土が溜まって堆積した部分がみられた。斜面に沿って焼土が流れ溜まったものと考えられる。炭化物や遺物は出土していない。

焼土面５

調査区北半部のD４aグリッドで検出した。平面プランは円形に近く、長軸35×短軸30×深さ15㎝を計る。１～２㎜大の焼土が少量含まれる。炭化物や遺物は出土していない。

焼土面６（第９図）

調査区南半D８dグリッドで検出した。平面プランは不整円形で、長軸100×短軸100×深さ20㎝を計る。焼土面の中心は、１～２㎜大の焼土が20～30%程度含まれ、１㎜以下の炭化物が５%程度含まれる。その下には、１～２㎜大の焼土が10～20%程度含まれ、剥片が１点出土した。

焼土面７

調査区南東側緩斜面上のF８aグリッドで検出した。平面プランは不整円形で、長軸130×短軸120㎝を計る。プラン表面に１㎝大の焼土ブロックを２～３点と３㎝大の炭化物を確認した。

ＳＣ６（第９図）

調査区C７dグリッドで検出した。平面プランは不整円形で、長軸180×短軸160×深さ30㎝を計る。埋土の１層は暗褐色土で、１～２㎜大の焼土を10～20%程度含み、１㎜以下の炭化物を５%程度含む。２層は暗褐色土で、１～２㎜大の焼土を20～40%程度含む。また、２層の一部に５～９㎝大の焼土塊や１㎜以下の炭化物を10%程度含む。３層は、にぶい黄褐色土で、１～３㎜大の焼土を３%程度含む。遺物は出土していない。

２　遺物

Ⅲ層で出土した遺物を一括して縄文時代早期遺物とした。また、早期以外の包含層（Ⅳ層）から出土した遺物であっても、形態的に早期に位置付けられる可能性がある資料に関しては本節に掲載している。

調査区南半を中心に遺物の出土がみられたが、遺物は土器、石器ともにどちらも少量で散漫な出土状況であった。

なお、図化した石器については第５表に計測値を掲載し、未図化のものについては第６表に掲載している。

土器（第11図11～14）

出土した土器については、調査区では縄文時代早期の楕円押型文土器や山形押型文土器が出土している。出土した土器片８点のうち、４点を図化掲載した。

11は深鉢の胴部で、胴部外面に山形押型文を施文し、胴部内面をナデ調整する。12も深鉢の胴部で、胴部外面に楕円押型文を施文し、胴部内面をナデ調整する。13も深鉢の胴部で、胴部外面は楕円押型文を施文し、胴部内面には斜方向の工具ナデがみられる。14も深鉢の胴部で、胴部外面は山形押型文を施文し、胴部内面には斜方向の工具ナデがみられる。

石器（第12～15図15～38）

縄文時代早期の遺物は、石鏃６点、石斧３点、剥片35点、二次加工剥片２点、礫器２点、石核４点等が出土した。出土点数は65点で、うち24点を図化した。

石鏃（第12図15～20）

６点出土し、全て図化した。15・16・18・19はチャート製、17・20は黒曜石製の打製石鏃である。15・16・18・19・20は凹基無茎鏃で、15・16・18は抉りが深く、19・20は抉りが浅い。17は平基無茎鏃である。15は二等辺三角形を呈する鏃である。16は先端部と基部の一部に欠損がみられるが、残存部分から二等辺三角形を呈する鏃と推察される。17は先端が延びた五角形状で、帖地型石鏃である。18は先端部と基部に欠損がみられるが、残存部分から二等辺三角形を呈する鏃と推察される。19は基部に欠損がみられるが、残存部分から先端が延びた五角形状で、抉りを持つ帖地型石鏃とは異なる異形の石鏃と推察される。20は先端部と基部に欠損がみられるが、残存部分から浅い抉りをもつ二等辺三角形の鏃と推察される。

石斧（第12図21～23）

３点出土し、全て図化した。21・23はホルンフェルス製、22は砂岩製の打製石斧である。21・23は下部が欠損し、自然面を有する。22は折れた２点が接合したもので全体的に粗い加工が施されている。下部が欠損している。

剥片（第12図24,25第13図27,28第15図35～38）

35点出土し、このうち７点を図化した。24・28・36～38はホルンフェルス製、25は尾鈴山溶結凝灰岩製、27は黒曜石製の剥片である。24は自然面を有する偏平な形状で、使用痕がみられる。25は折れた２点が接合したものである。28は自然面を有する偏平な形状である。35は36～38の剥片を接合したものである。自然面を有し、剥離痕がみられる。

二次加工剥片（第13図26）

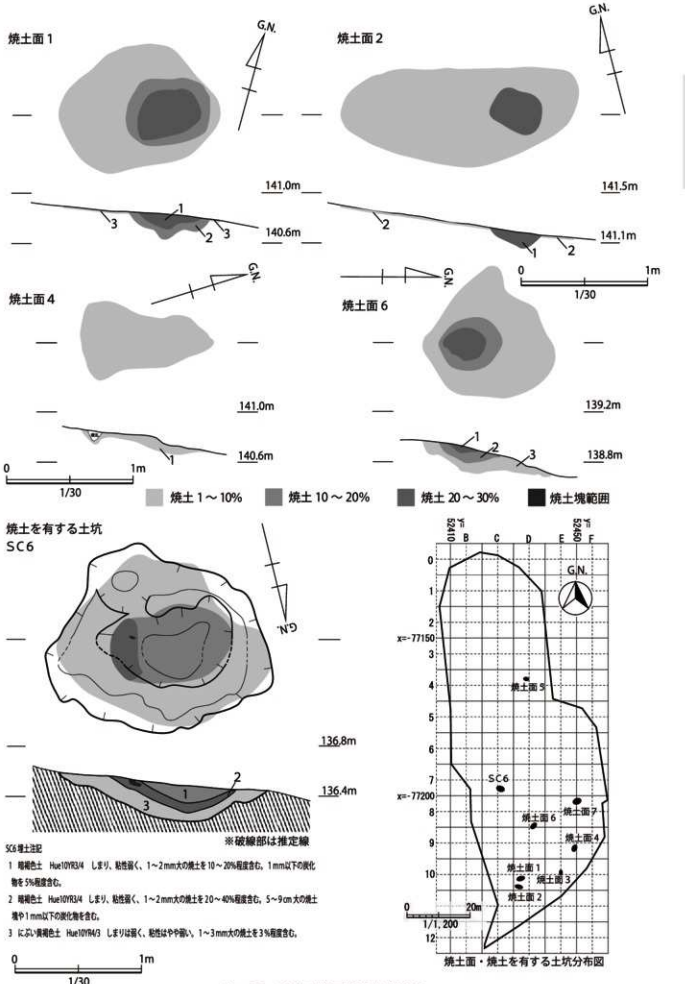
２点出土し、１点図化した。26は砂岩製で、背面に磨った痕跡がみられる。

礫器（第13図29,30）

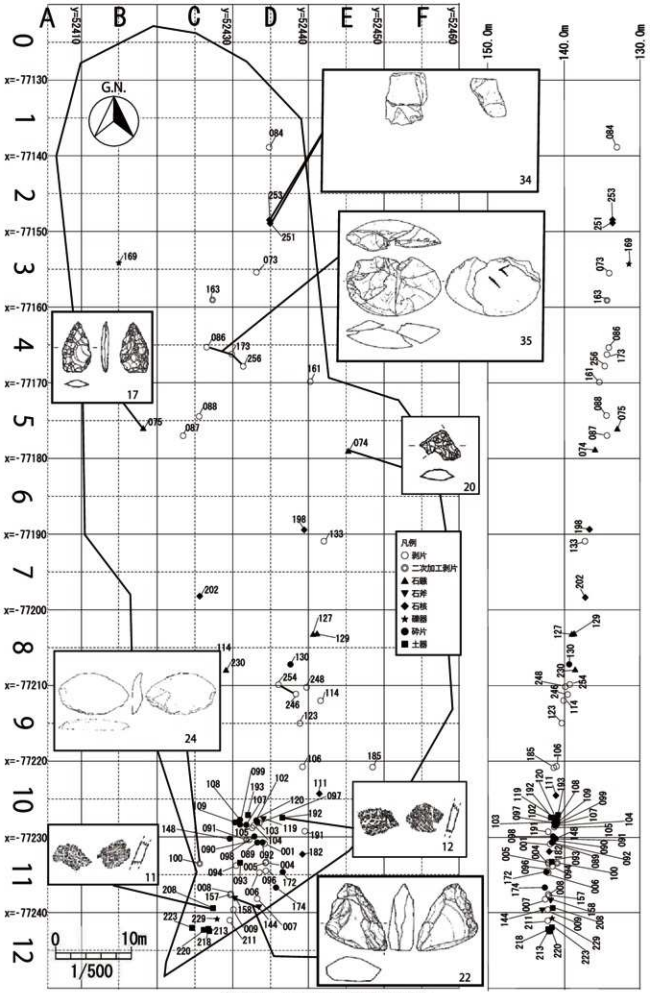
２点出土し、全て図化した。29・30は尾鈴山溶結凝灰岩製の礫器である。29は自然面を広く有し、周縁に粗い加工を施している。30は自然面を有し、上部に粗い加工を施している。

石核（第14図31～34）

石核は４点出土し、全て図化した。31～33はホルンフェルス製である。34は尾鈴山溶結凝灰岩の中に流紋岩を含む石材である。31は自然面を有し、上部から左右周縁部にかけて剥離面がみられる。32は背面に自然面を有し、上部から左右周縁部にかけて剥離面がみられる。33は自然面を有し、上部に剥離面がみられる。34は２点を接合したものである。自然面を有し、尾鈴山溶結凝灰岩の中に含まれている流紋岩の部分に剥離面がみられる。流紋岩の部分を剥離して使用したものと考えられる。



第９図　縄文時代早期遺構実測図



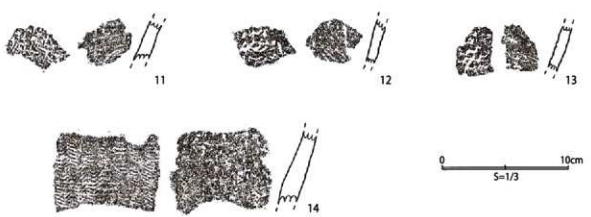
第 10 図　縄文時代早期遺物分布図

第４表　縄文時代早期土器観察表

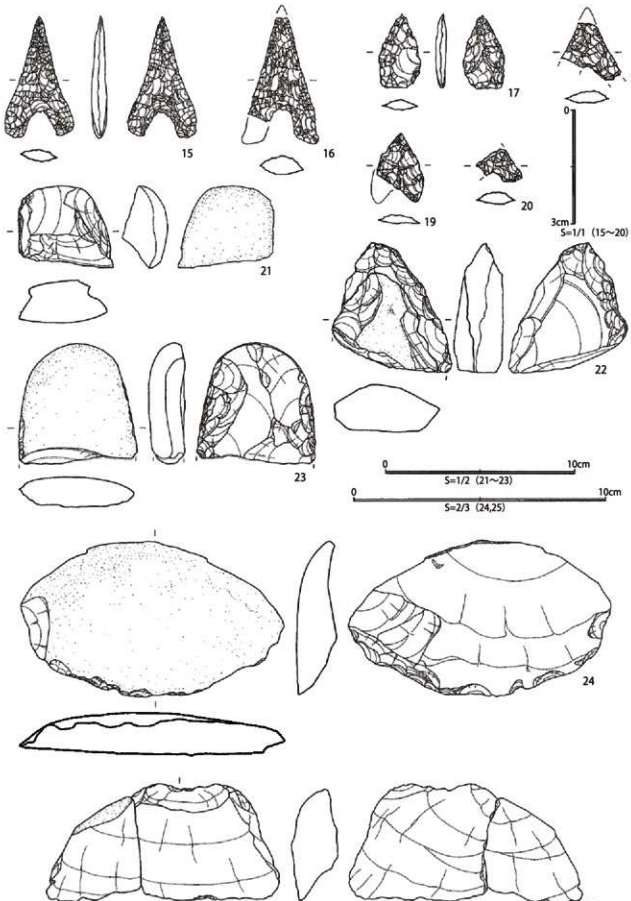
掲載番号	Gr. No.	器種	部位	手法・調整・文様ほか 外面	手法・調整・文様ほか 内面	手法・調整・文様ほか 口縁部 or 底部	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	残存率
11	C11 208	深鉢	胴部	山形押型文	貝殻条痕文	—	良好	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	径１mm 以下の赤褐色粒を多く含む。径１mm以下の黒色粒をごくわずかに含む。	—
12	D10 192	深鉢	胴部	楕円押型文	貝殻条痕文	—	良好	橙 (5YR6/6)	明赤褐 (5YR5/6)	径１mm以下の赤褐色粒を多く含む。径１mm以下の褐灰色粒を多く含む。	—
13	D11 093	深鉢	胴部	楕円押型文	斜方向の工具ナデ	—	良好	橙 (5YR6/6)	明赤褐 (5YR5/6)	径１mm以下の赤褐色粒を多く含む。径１mm以下の透明光沢粒、褐色粒をごくわずかに含む。	—
14	C12 223	深鉢	胴部	山形押型文	斜方向の工具ナデ	—	良好	にぶい橙 (10YR7/4)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	径５mm以下の灰白色粒を多く含む。径２mm以下の黒色光沢粒を多く含む。径５mm 以下の灰色粒をわずかに含む。径３mm 以下の赤褐色粒をわずかに含む。	約 1/6

第５表　縄文時代早期石器計測表（１）

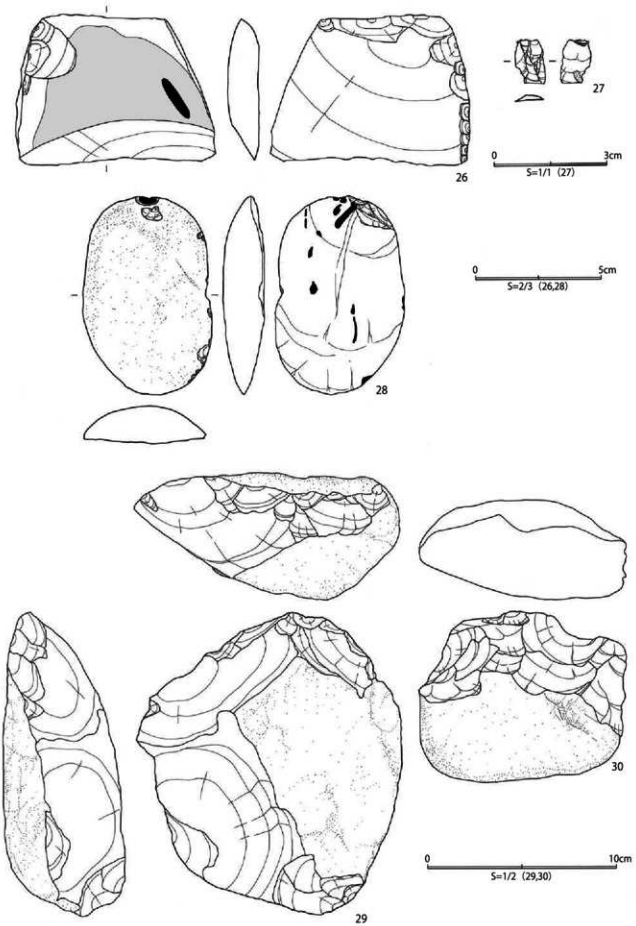
掲載 No.	遺物 No.	グリッド	出土層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標
15	127	E8	III	石鏃	チャート	3.2	1.8	0.45	1.35	-77203.250	52440.561	138.823
16	—	B11	—	石鏃	チャート	3.3	1.85	0.5	2.0	—	—	—
17	075	B5	III	石鏃	黒曜石	1.9	1.1	0.25	0.47	-77176.168	52418.231	132.974
18	230	C8	IV	石鏃	チャート	1.4	1.6	0.3	0.53	-77207.964	52429.177	138.616
19	129	E8	IV	石鏃	チャート	1.8	1.2	0.2	0.4	-77203.176	52441.169	138.729
20	074	E5	III	石鏃	黒曜石	0.9	1.2	0.3	0.21	-77178.899	52445.421	135.852
21	119	D10	IV	石斧	ホルンフェルス	5.3	5.0	2.25	56.5	-77227.543	52433.996	141.136
22	144	D11	IV	石斧	砂岩	6.85	6.4	2.6	111.8	-77239.392	52433.608	142.527
23	120	D10	IV	石斧	ホルンフェルス	6.4	6.25	1.9	104.1	-77227.450	52433.666	141.100
24	100	C11	III	剥片	ホルンフェルス	6.2	10.5	1.6	114.2	-77233.533	52425.620	140.920
25	254	D8	III	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	4.6	9.25	1.85	74.1	-77209.890	52436.032	139.244
26	163	C3	IV	二次加工剥片	砂岩	5.6	7.9	1.3	95.4	-77159.211	52427.378	133.557
27	114	E9	III	剥片	黒曜石	1.2	0.8	0.15	0.14	-77211.945	52441.589	140.038
28	232	B3	IV	剥片	ホルンフェルス	7.8	5.1	1.6	75.3	-77151.599	52419.373	132.097
29	229	C12	IV	礫器	尾鈴山溶結凝灰岩	16.0	14.0	6.7	1408.9	-77236.721	52414.879	141.696
30	169	B3	IV	礫器	尾鈴山溶結凝灰岩	9.0	11.0	5.2	622.1	-77154.267	52414.902	131.411
31	111	E10	IV	石核	ホルンフェルス	8.8	8.5	5.3	445.2	-77224.380	52441.726	141.404
32	182	D11	V	石核	ホルンフェルス	6.3	7.65	4.15	223.7	-77232.498	52439.251	142.255
33	198	D6	IV	石核	ホルンフェルス	7.1	10.8	5.4	456.0	-77189.431	52439.496	136.778
34	251	D2	IV	石核	尾鈴山溶結凝灰岩（流紋岩含む）	5.75	5.55	7.15	310.9	-77148.786	52434.881	133.583
35	173	C4	IV	剥片	ホルンフェルス	6.0	9.5	3.2	164.3	-77166.130	52429.899	134.323
36	086	C4	III	剥片	ホルンフェルス	4.5	4.6	1.3	20.1	-77165.279	52426.647	134.017
37	256	D4	IV	剥片	ホルンフェルス	5.8	4.65	2.2	50.7	-77167.767	52431.338	134.570
38	173	C4	IV	剥片	ホルンフェルス	5.95	6.9	2.4	93.5	-77166.130	52429.899	134.323



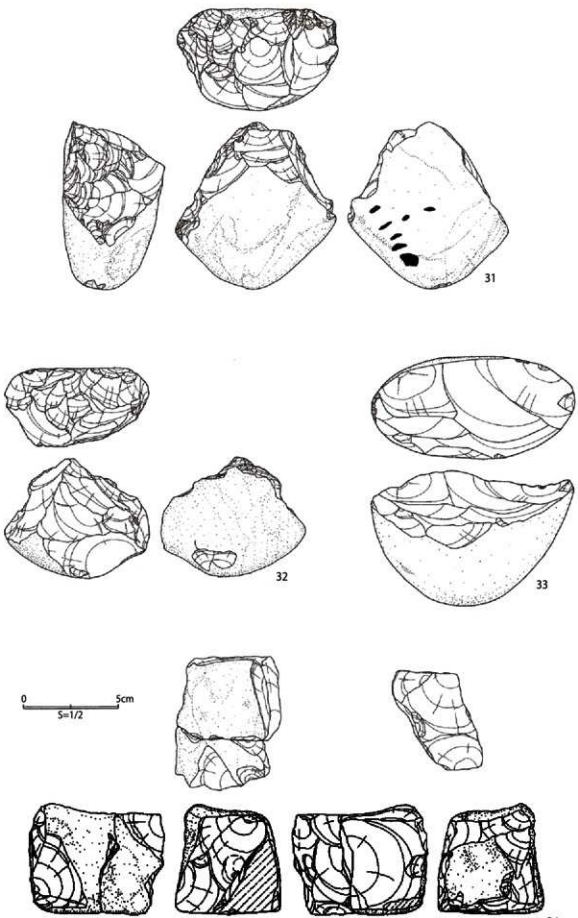
第 11 図　縄文時代早期土器実測図



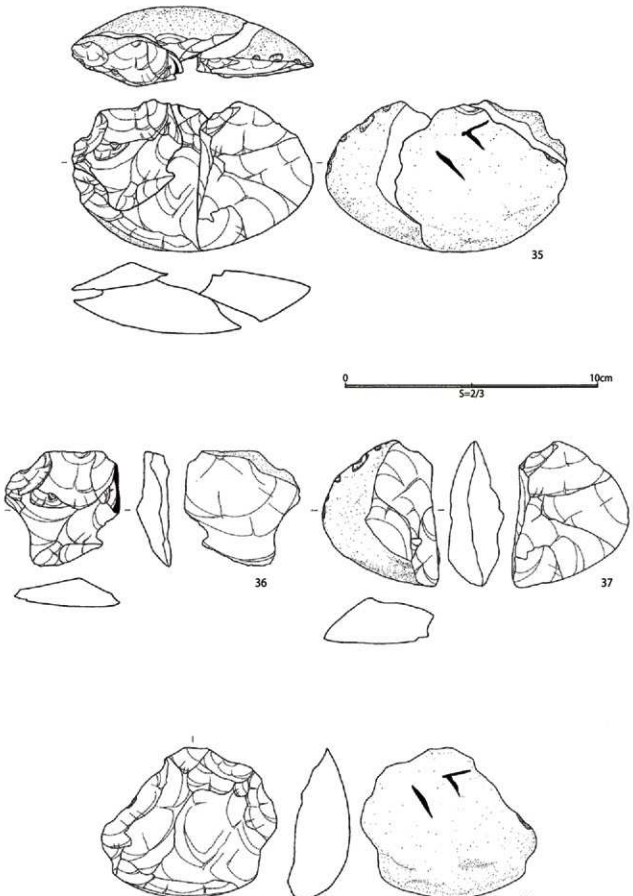
第 12 図　縄文時代早期石器実測図（1）



第 13 図　縄文時代早期石器実測図（2）



第 14 図　縄文時代早期石器実測図（３）



第 15 図　縄文時代早期石器実測図（4）

第６表　縄文時代早期石器計測表（２）

掲載No.	遺物No.	グリッド	出土層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標
－	001	D11	III	剥片	ホルンフェルス	3.25	1.4	0.5	2.5	-77230.887	52434.283	141.768
－	004	D11	III	剥片	ホルンフェルス	3.0	2.3	0.8	4.6	-77233.335	52434.432	142.052
－	005	D11	III	剥片	チャート	1.8	1.35	0.31	0.48	-77233.434	52434.328	142.024
－	006	D11	III	剥片	珪質頁岩	4.4	4.05	0.9	11.4	-77234.748	52433.480	142.048
－	007	D11	III	剥片	砂岩	4.0	2.45	0.6	6.1	-77238.154	52433.285	142.466
－	008	D11	III	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	3.55	2.9	1.5	9.8	-77237.564	52429.753	141.975
－	009	D11	III	剥片	珪質頁岩	4.15	4.4	1.0	18.0	-77239.593	52430.096	142.164
－	073	D3	III	剥片	珪質頁岩	2.9	2.0	0.6	3.0	-77155.442	52433.124	133.995
－	084	D1	III	剥片	珪質頁岩	3.6	2.15	0.8	6.1	-77138.826	52434.712	132.926
－	087	C5	III	剥片	砂岩	2.65	2.95	0.8	5.4	-77176.916	52423.338	134.246
－	088	C5	III	剥片	ホルンフェルス	2.1	5.0	0.9	11.2	-77174.362	52425.472	134.394
－	089	D11	III	砕片	チャート	0.75	0.55	0.1	0.04	-77230.750	52433.250	141.537
－	090	D11	III	剥片	チャート	1.4	0.9	0.15	0.18	-77230.455	52432.206	141.384
－	091	D11	III	二次加工剥片	チャート	1.25	1.05	0.15	0.28	-77230.323	52431.870	141.325
－	092	D11	III	砕片	チャート	0.7	0.5	0.1	0.04	-77230.720	52433.937	141.567
－	094	D11	III	剥片	珪質頁岩	3.1	5.8	1.1	16.3	-77233.788	52430.435	141.540
－	096	D11	III	剥片	珪質頁岩	3.65	2.25	0.7	5.5	-77234.527	52434.348	142.106
－	097	D10	III	剥片	チャート	1.7	1.1	0.1	0.3	-77228.148	52433.497	141.283
－	098	D10	III	砕片	チャート	0.95	0.5	0.1	0.06	-77229.935	52432.871	141.457
－	099	D10	III	砕片	チャート	1.2	0.8	0.2	0.21	-77228.380	52430.962	140.979
－	102	D10	III	砕片	チャート	0.8	0.5	0.1	0.02	-77227.825	52433.119	141.217
－	103	D10	III	砕片	チャート	0.45	0.3	0.1	0.01	-77228.061	52433.235	141.199
－	104	D10	III	剥片	チャート	1.25	0.95	0.2	0.26	-77228.522	52432.873	141.208
－	105	D10	III	剥片	砂岩	3.25	2.65	0.8	6.0	-77228.821	52432.553	141.245
－	106	D10	III	剥片	珪質頁岩	2.4	1.1	0.3	0.8	-77220.660	52439.257	141.000
－	107	D10	III	砕片	チャート	0.85	0.9	0.2	0.12	-77228.402	52431.777	141.112
－	108	D10	III	砕片	チャート	0.8	0.65	0.1	0.05	-77227.738	52430.954	140.888
－	109	D10	III	砕片	チャート	1.2	0.85	0.2	0.24	-77228.079	52430.298	140.890
－	123	D9	III	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	4.75	5.2	1.8	56.4	-77214.965	52438.779	140.267
－	130	D8	III	砕片	珪質頁岩	1.05	0.65	0.2	0.13	-77207.212	52437.620	139.306
－	133	E7	III	剥片	流紋岩	1.35	2.75	0.6	1.5	-77190.953	52442.172	137.258
－	148	C11	III	剥片	砂岩	1.2	1.85	0.35	0.9	-77230.243	52429.596	141.111
－	157	D11	III	剥片	珪質頁岩	2.3	4.55	0.6	7.8	-77237.699	52429.688	141.946
－	161	E5	III	剥片	尾鈴山溶結凝灰岩	5.9	4.6	1.2	37.7	-77169.898	52440.212	135.313
－	172	D11	III	砕片	チャート	0.8	0.5	0.1	0.2	-77234.648	52436.604	142.344
－	174	D11	III	砕片	珪質頁岩	0.6	0.5	0.15	0.03	-77236.691	52435.717	142.526
－	185	E10	III	剥片	砂岩	0.8	0.65	0.3	0.13	-77220.769	52448.478	141.324
－	191	D10	III	剥片	砂岩	2.75	2.15	0.7	3.2	-77229.257	52439.552	142.066
－	202	C7	III	石核	ホルンフェルス	4.0	6.0	2.5	59.4	-77198.329	52425.660	137.207
－	211	C12	III	剥片	ホルンフェルス	2.2	1.75	0.5	1.3	-77236.966	52416.525	142.104
－	248	D9	III	剥片	ホルンフェルス	1.45	2.4	0.3	1.5	-77210.148	52439.651	139.772

第８節　弥生時代の遺構と遺物

１　遺構

弥生時代の包含層であるⅠ層及びⅡ層（K-Ah）上面において検出した遺構について、出土遺物の様相等から弥生時代の遺構として位置付けた。

遺構はⅡ層上面において調査区北半から２軒の竪穴建物跡を検出した。２軒の竪穴建物跡については、出土遺物及び自然科学分析結果（第10節）から弥生時代後期後半の時期と考えられる。また、Ⅱ層上面において時期不明の土坑４基（SC2～SC5）を検出した（第16図）。なお、時期不明の土坑４基については後節の第９節において述べる。

１号竪穴建物跡（SA1）（第17図）

位置　D4グリッドのⅡ層上面で検出した。この周辺は重機によって広範囲が削平された箇所に該当するため、層厚20㎝程の表土及び造成土を除去するとⅡ層の一部、Ⅲ層ないしⅣ層が露出する状況であった。そのため、遺構及び遺物の残存状況は不良である。

規模　検出した遺構の規模は東西2.9m、南北2.3m、床面積は約5.2㎡である。これは推定復元した床面積（１辺約3.8mの方形、約14.4㎡）に対して、およそ36%が残存していたと考えられる。主軸方向は主柱穴の位置関係からN-14°-Wとなる。平面形については明確ではないものの、残存するプランの形状から隅丸方形と推定される。

埋土　埋土はⅠ層（クロボク）と思われる黒色土が主体で、K-Ahのブロックや粒子を含み、レンズ状の堆積がかろうじて確認できた。

床面　床面では硬化がみられ、この遺構に伴うと考えられる土坑を２基検出している。壁の立ち上がり部分の床面には硬化面がみられず、壁帯溝らしき掘り込みも確認できなかった。また、床面は東側壁面に向けわずかに傾く。また、床面は層厚８㎝程の黒褐色土が認められる。

柱穴　主柱穴４基、ピット１基を検出した。主柱穴のうち３基（P1・P2・P4）については上部に削平が認められる。遺構の周囲では検出されなかった。

土坑　１号竪穴建物跡に伴う遺構内土坑を２基検出した。SA1-SC1は、遺構内の北西部、西壁際に位置し、長軸0.96m、短軸0.82m、深さ約0.3mで平面形は円形を呈する。床面から掘り込まれている。埋土中に磨石と凹石の２点が並列して出土している。遺物は土器小片を少量含む。壁帯溝が確認できないことから、排水や貯水の機能が考えられる。SA1-SC2は、遺構内のほぼ中央部やや南寄りに位置する。主柱穴間(P3・P4間)で検出した。長軸0.9m、短軸0.8m、深さ約0.2mで平面形は隅丸方形状を呈する。床面から掘り込まれている。遺物は土器小片を少量含む。埋土に焼土塊が流入すること、炭化材が出土していることから炉としての機能が考えられる。

SA1出土遺物（第18～20図）

埋土中及び床面直上から出土した遺物のうち、弥生土器の甕４点、壺１点、鉢２点と石器の磨石１点、凹石１点、砥石１点、台石１点の11点を図化した。

甕（第19図41・43～45）

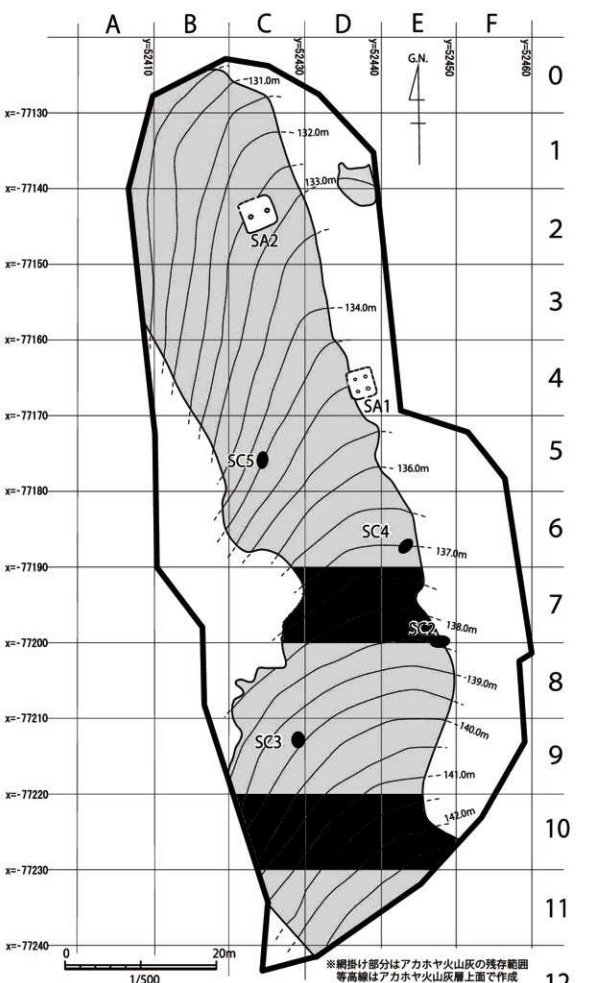
41は甕の胴部にあたり、外面は工具によるタタキ痕がみられ、ススが付着している。内面は斜方向のハケ目がみられる。43は甕の底部にあたり、外面は指ナデ痕がみられ、内面は指押さえ痕がみられる。底部の形状は、座りのよい平底である。44は甕の胴部～底部にあたり、外面は指でナデた後、工具により縦方向にナデられている。内面は工具によりナデた後、指で押さえ調整する。45は甕の底部付近にあたり、外面は工具により縦、斜方向にナデた後、指頭によりナデられている。内面も外面と同様に工具により縦、斜方向にナデた後、指でナデられている。

壺（第19図42）

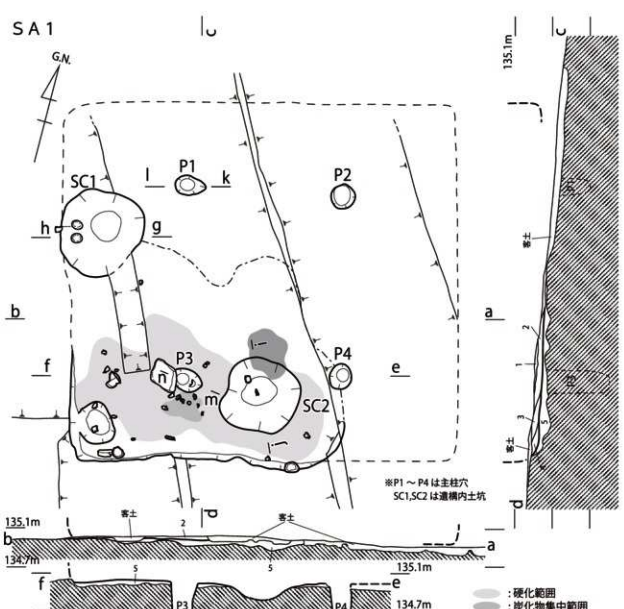
42は複合口縁壺の口縁部にあたり、外面は鋸歯文が施文され、工具による横ナデがみられる。内面は工具による横ナデの後、指で押さえた跡がみられる。

鉢（第19図39・40）

39は鉢の口縁～底部にあたり、ほぼ完形である。外面は工具により横方向にナデた後、工具により斜方向にナデられている。40は鉢の口縁～底部にあたり、ほぼ完形である。外面を横にナデ、内面も横方向にナデられている。部分的にススが付着している。底部の形状は平底になっている。



第 16 図　Ⅱ層上面遺構分布図



SA1 土層注記

1 Hue10YR2/1 黒 砂質 しまり弱
2 Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐 砂質 しまりやや弱
3 Hue10YR2/2 黒褐 砂質 やや黒色強く炭化材の小片を多く含む。
4 Hue2.5Y3/1 黒褐 砂質 しまりやや弱 5mm 程度の K-Ah を少量含む。
5 Hue10YR3/2 黒褐 砂質 粘性弱 しまり弱 にぶい黄褐色（Hue10YR5/4）の粘土ブロックを多く含む。
2～3 cm程度の K-Ah ブロック少量含む。部分的に硬化が見られる。（S A 1 貼床）

SC1 土層注記

1 Hue10YR2/1 黒 砂質 粘性弱 しまり弱 1～3 mm の炭化物少量含む。
2 Hue2.5Y4/3 オリーブ褐 粘性弱 しまり弱 1 層よりやや明るく K-Ah 粒少量含む。
3 Hue2.5Y5/4 オリーブ褐 粘性やや強 しまりやや弱 2～3 cm程度の黄褐色粘質土（Hue2.5Y5/4）をブロック状に含む。
4 Hue2.5Y4/2 暗灰黄 粘性やや強 しまりやや弱 0.5～2 mm の炭化物、K-Ah 少量含む。
5 Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐 粘性強 しまり強 K-Ah 粒ごく少量含む。

SC2 土層注記

1 Hue10YR2/2 黒褐 砂質 しまり弱 褐色の砂質土を 50％含む。
2 Hue10YR2/1 黒 砂質 しまりやや弱 K-Ah 粒と褐色砂質土少量含む。
3 Hue10YR3/4 暗褐 砂質 粘性弱 1 mm 程度の焼土粒少量含む。
4 Hue7.5YR5/8 明褐 焼土ブロック
5 Hue10YR1.7/1 黒 砂質 しまり弱 炭化物少量含む。K-Ah 粒ごく少量含む。

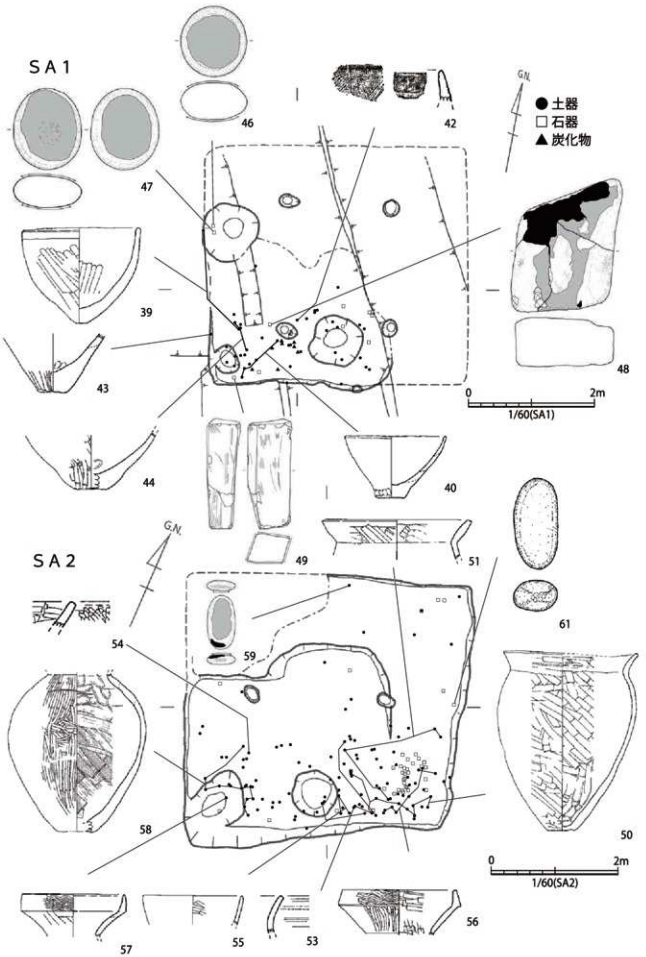
P1 土層注記

1 Hue10YR2/1 黒 砂質 しまりやや弱 炭化物、K-Ah 粒少量含む。
2 Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐 砂質 しまり弱
3 Hue10YR3/1 黒褐 砂質 しまり弱 炭化物、K-Ah 粒少量含む。（柱痕跡）
4 Hue10YR2/2 黒褐 砂質 しまり強 1～2 cm程度の炭化物、K-Ah 多く含む。上面が水平となり硬化が見られる。

P3 土層注記

1 Hue10YR3/1 黒褐 砂質 しまり弱 炭化物、2 mm 程度の K-Ah 粒含む。
2 Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐 砂質 しまり弱（柱痕跡）

第 17 図　1 号竪穴建物跡実測図



第18図　1・2号竪穴建物跡出土遺物分布図

磨石（第20図46）

磨石は1点出土した。46は尾鈴山溶結凝灰岩製で、背面、腹面の両面に磨り面がみられる。

凹石（第20図47）

凹石は1点出土した。47は尾鈴山溶結凝灰岩製で、背面、腹面の両面に磨り面がみられる。また、腹面中央部にはわずかに敲打痕がみられる。

台石（第20図48）

台石は1点出土した。48は尾鈴山溶結凝灰岩製で、長さ30.8cm、幅26.0cm、厚さ11.4cmの不整長方形を呈す。

砥石（第20図49）

砥石は1点出土した。49は珪質頁岩製で、背面、腹面、左右側面に研いだ痕跡がみられる。

2号竪穴建物跡（SA2）（第21図）

位置　C2グリッドのⅡ層上面で検出した。この周辺はⅡ層（K-Ah）が残存しており、層厚15～20cm程の表土及び造成土を除去した後のⅡ層上面で黒色土のプランを検出した。遺構の北西角が削平されていたが、遺構及び遺物の残存状況は良好であった。

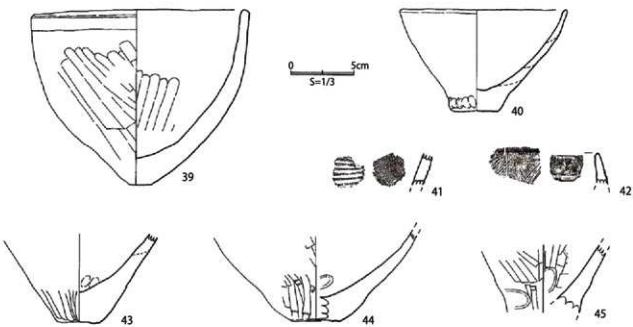
規模　検出した遺構の規模は東西4.1m、南北4.0m、床面積は約16.4㎡である。主軸方向は主柱穴の位置関係からN-23°-Wとなる。平面形については残存しているプランの形状から隅丸方形と推定される。

埋土　埋土はⅠ層（クロボク）と思われる黒色土が主体で、K-Ahのブロックや粒子を含み、レンズ状の堆積が確認できた。

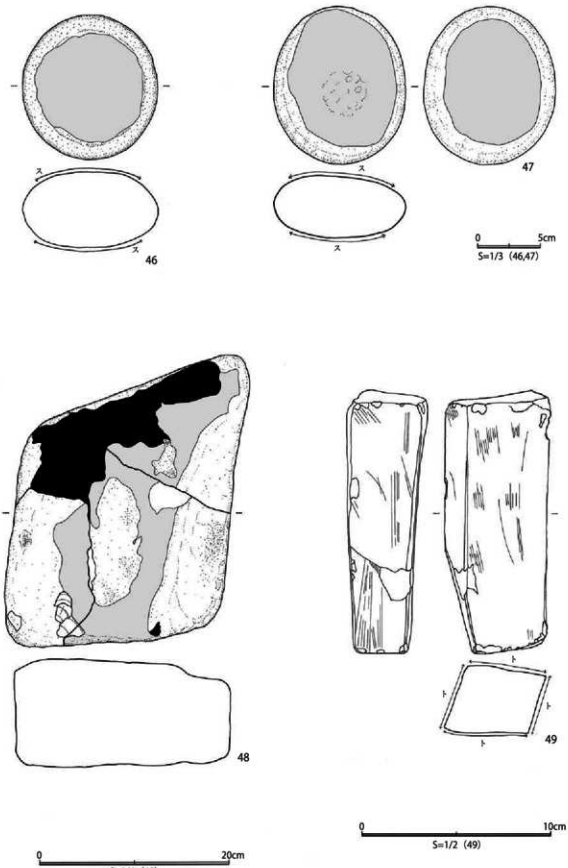
床面　床面では硬化がみられ、この遺構に伴うと考えられる土坑を2基検出している。壁の立ち上がり部分の床面には硬化面がみられず、壁帯溝らしき掘り込みも確認できなかった。床面は東側壁面に向けわずかに高くなる。また、床面には層厚5～10cm程の黒褐～暗褐色土の貼床が認められる。

柱穴　主柱穴2基（P1・P2）を検出した。主柱穴間は、1.9mで東西にほぼ並列する。遺構の周囲では検出されなかった。

土坑　1号竪穴建物跡に伴う遺構内土坑を2基検出した。SA2-SC1は、遺構内の南部の中央付近に位置し、長軸0.74m、短軸0.68m、深さ約0.25mで平面形は不整円形を呈する。埋土に焼土塊が流入することや土坑の北側の床面に焼土が広がっていること



第19図　1号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 20 図　1 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

から、炉としての機能が考えられる。遺物は土器小片を少量含む。SA2-SC2は、遺構内の北西部、西壁際に位置し、長軸0.94m、短軸0.9m、深さ約0.3mで平面形は不整楕円形を呈する。遺物は土器小片を少量含む。壁帯溝が確認できないことから、排水や貯水の機能が考えられる。

SA2出土遺物（第18図・第22～23図）

埋土中及び床面直上から出土した遺物のうち、弥生土器の甕4点、壺4点、鉢1点と石器の磨石1点、敲石2点の12点を図化した。

甕（第22図50～53）

50は甕で、ほぼ完形である。外面は工具による多方向のナデ痕がみられ、内面は工具により斜方向にナデられている。51は甕の口縁～頸部にあたり、残存率は約1/5である。外面は工具による横ナデがみられ、ススが付着する。内面は工具による斜方向のナデの後、指でナデられている。52は甕の頸部～胴部にあたり、外面は斜方向のハケ目がみられる。内面も斜方向のハケ目がみられる。53は甕の口縁部にあたり、外面は工具により横方向にナデられていて、ススが付着している。内面は工具によりナデられている。

壺（第22図54・56～58）

54は壺の口縁部にあたり、外面は工具による横ナデの後、一部にミガキ痕がみられる。内面は工具により横方向にナデられている。56は複合口縁壺の口縁～頸部にあたり、残存率は約1/3である。外面は櫛描波状文や工具による横ナデ、縦方向のミガキ痕がみられる。内面は工具による斜方向のナデがみられる。57は複合口縁壺の口縁～頸部にあたり、残存率は約1/4である。外面は櫛描波状文の下部を工具によるナデの後、丁寧に横方向にナデている。内面は横方向にナデられている。58は壺の頸部～底部で残存率は約1/2である。外面は工具によるナデの後、ミガキがみられる。内面は斜方向のハケ目、指ナデ痕がみられる。

鉢（第22図55）

55は鉢の口縁部にあたる。外面・内面ともに工具により横方向にナデ痕がみられる。

磨石（第23図59）

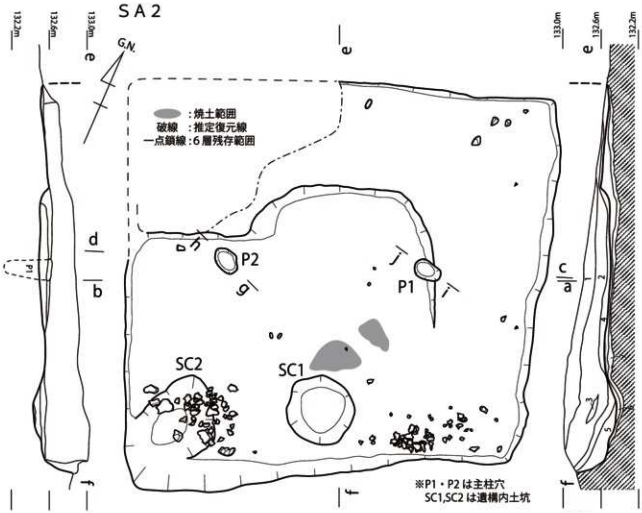
磨石は1点出土し、図化した。59は砂岩製で、背面に磨り痕がみられる。上下両端には敲打痕がみられる。

敲石（第23図60～61）

敲石は2点出土し、図化した。60は砂岩製で、下面には敲打痕がみられる。61は砂岩製で、下面に敲打痕がみられる。

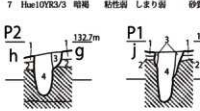
第7表　弥生時代石器計測表

掲載No.	遺物No.	遺構、グリッド	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標
46	51	SA1	床上	磨石	尾鈴山溶結凝灰岩	11.4	10.8	6.0	1071.7	-77165.492	52435.891	134.8
47	52	SA1	床上	凹石	尾鈴山溶結凝灰岩	12.4	10.4	4.9	957.7	-77165.386	52435.854	134.796
48	46	SA1	床	台石	尾鈴山溶結凝灰岩	30.8	26.0	11.4	1500.0	-77166.679	52437.123	135.027
49	40	SA1	床	磨石	珪質頁岩	13.9	5.6	4.3	476.2	-77167.637	52436.788	135.08
59	151	SA2	床	磨石	砂岩	11.0	5.7	2.2	228.4	-77141.35	52423.526	132.578
60	19	SA2	床上	敲石	砂岩	5.9	1.9	1.7	28.7	-77142.416	52425.812	132.742
61	154	SA2	床	敲石	砂岩	7.1	3.45	2.4	91.1	-77144.466	52425.311	132.527
75	—	C4d	—	敲石	尾鈴山溶結凝灰岩	5.6	3.0	2.15	53.5	—	—	—
78	—	—	表採	石庖丁	頁岩	4.1	6.6	0.9	29.6	—	—	—
79	—	D5b	—	磨石	珪質頁岩	5.5	2.2	1.4	476.2	—	—	—



SA2 土層注記

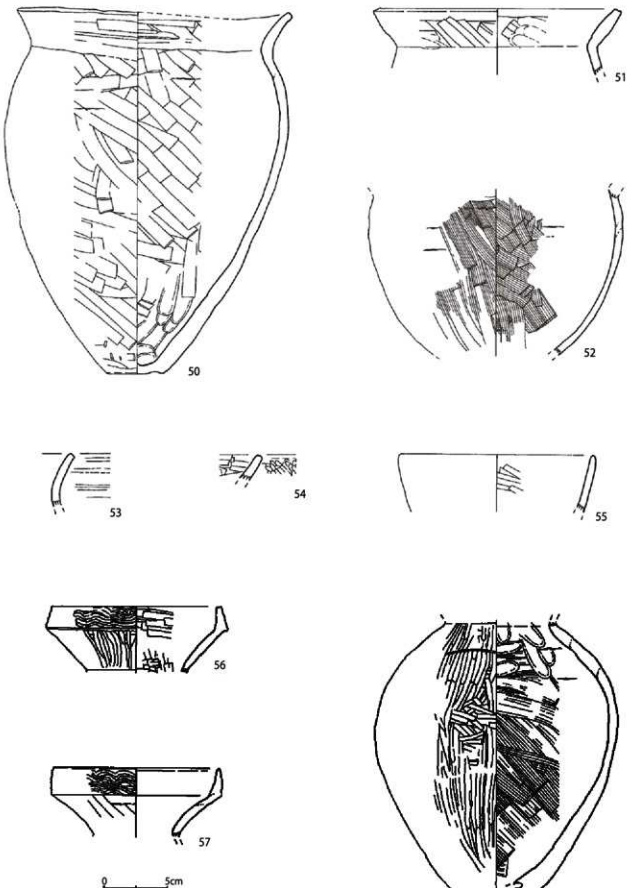
1	Hue10YR2/1	黒	粘性弱	しまり普通	1～2㎜程度の灰褐色土の粒子、アカホヤ粒子を含む。
2	Hue10YR3/1	黒褐	粘性弱	しまりやや弱	5㎜程度の灰黄褐色、アカホヤ粒子を全体的に含む。
3	Hue10YR4/2	灰黄褐	粘性弱	しまり弱	4層と同時期の堆積物と考えられる。
4	Hue10YR3/2	黒褐	粘性弱	しまりやや弱	灰黄褐色土をブロック状に含む。
5	Hue10YR3/1	黒褐	粘性弱	しまりやや弱	灰黄褐色土、アカホヤをブロック状に含む。
6	Hue10YR3/2	黒褐	粘性弱	しまりやや弱	5㎜程度のアカホヤを部分的に含む。灰黄褐色の粘質土をブロック状に含む。
7	Hue10YR3/3	暗褐	粘性弱	しまりやや弱	1～3㎜程度の炭化物を含む。灰褐色の粘質土が混ざり、にじんだ感じに見え一部に硬化面が見られる。SA2貼床
				砂質感あり	1～2㎜程度のアカホヤ粒子を含む。一部に1～2㎜程度の炭化物を含む。



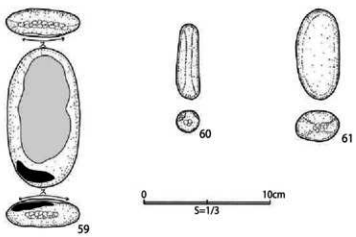
P1・P2 土層注記（共通）

1	Hue10YR3/2	黒褐　SA2 土層断面 6 層と同一（貼床）
2	Hue10YR3/3	暗褐　SA2 土層断面 7 層と同一（貼床）
3	Hue10YR3/1	黒褐
4	Hue2.5Y3/3	暗オリーブ褐（柱痕跡）

第 21 図　2 号竪穴建物跡実測図



第 22 図　2号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 23 図　２号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

調査区出土遺物（第24図）

遺構外の調査区より出土した遺物のうち、弥生土器の甕８点、壺４点、高坏３点と石器の石庖丁１点、砥石１点、敲石１点の18点を図化した。

甕（第24図62～69）

62は甕の口縁部にあたり、外面は工具による横方向のナデ痕がみられ、内面は工具によりナデられている。63は甕の口縁部にあたり、外面は工具による横ナデの後、指押さえ痕がみられる。内面も工具による横ナデの後、指押さえ痕がみられる。64は甕の口縁部にあたり、外面は工具による横ナデの後、縦～斜方向にナデられている。内面は斜方向にナデられている。65は甕の頸部にあたり、外面は工具により横方向にナデられている。内面は工具による横ナデの後、縦方向にナデられている。66は甕の底部にあたり、外面はナデ痕がみられる。内面は指押さえ痕がみられる。底の形状は、やや座りの悪い平底を呈する。67は甕の底部にあたり、外面は工具により縦方向にナデられている。内面は指で押さえた後、工具により多方向にナデられている。68は甕の底部付近にあたり、外面は工具により縦方向にナデられている。内面は工具による横、縦方向のナデ痕がみられる。69は甕の頸部～肩部にあたり、外面は斜方向のハケ目がみられ、ススが付着する。内面は工具により横方向にナデられている。

壺（第24図70～73）

70は壺の口縁部にあたり、外面は櫛描波状文が施され、工具による横、斜方向のナデがみられる。内面は工具による横ナデの後、指でナデられている。71は壺の頸部にあたり、外面は指ナデの後、工具により縦、横方向にナデられている。鋸歯状の刻目がある貼付突帯文を有し、ススが付着する。内面は工具により斜方向にナデられている。72は壺の胴部にあたり、外面は工具ナデの後、ミガキが施されている。内面は工具ナデの後、指でナデられている。73は壺の胴部にあたり、外面は工具により横ナデの後、一部に縦方向のミガキが施されている。内面は工具により斜方向にナデられている。

高坏（第24図74・76～77）

74は高坏の坏部にあたり、外面は工具による縦方向のナデ痕がみられる。内面は工具によるナデの後、横方向にナデられている。76は高坏の脚裾部にあたり、外面は工具による横方向のナデ痕がみられる。内面は工具による縦方向ナデの後、指でナデられている。77は高坏の脚裾部にあたり、外面は工具による横ナデ痕がみられる。内面も工具により横方向にナデられている。

石庖丁（第24図78）

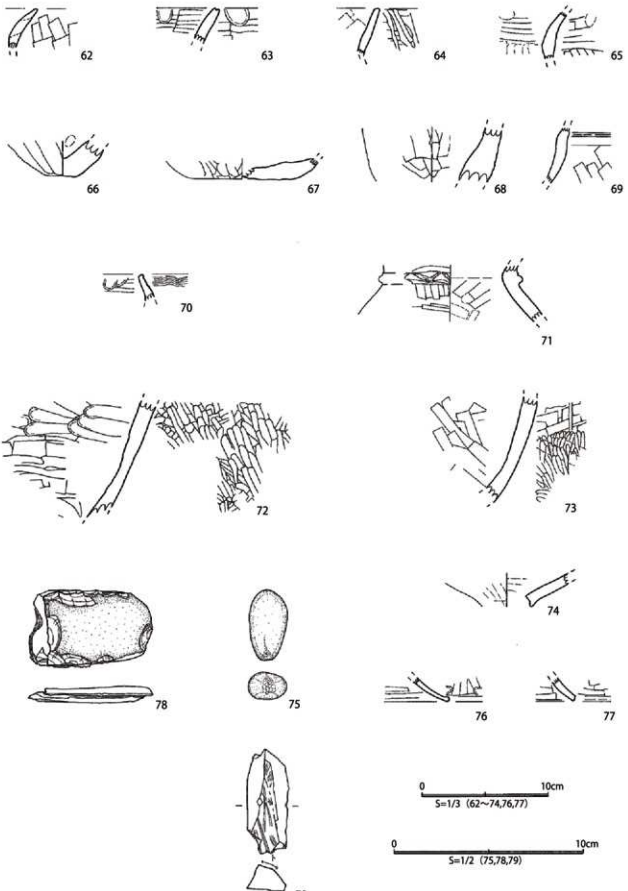
石庖丁は１点出土した。78は頁岩製で、左側縁に浅い抉りがみられる。厚さは0.9㎝で頁岩の剥離部分を使用したと思われる。

砥石（第24図79）

砥石は１点出土した。79は珪質頁岩製で、背面に研いだ痕跡がみられる。下部に折れた痕跡がみられる。

敲石（第24図75）

敲石は１点出土した。75は尾鈴山溶結凝灰岩製で、自然面を有し、下面には敲打痕がみられる。



第 24 図　遺構外出土遺物実測図

第８表　弥生時代土器観察表（１）

掲載番号	出土位置	器種	部位	手法・調整・文様ほか			地成	色調		胎土	備考	残存率
				外面	内面	口縁部or底部		外面	内面			
39	SA1床	鉢	口縁～底部	工具による横ナデのち斜方向のナデ	工具による横ナデのち縦方向のナデ	ナデ	良好	明黄褐（10YR6/6）	にぶい黄褐（10YR7/4）	白色粒、橙色粒、雲母粒を含む。		ほぼ完形
40	SA1	鉢	口縁～底部	横ナデ	横ナデ	ナデ	粗	浅黄橙（7.5YR8/3）	黄橙（10YR8/6）	白色粒、橙色粒、雲母粒を含む。0.2～0.5mm大の砂粒を多く含む。	やや座りの悪い凸レンズ状の平底・部分的にスス付着	ほぼ完形
41	SA1	壺	胴部	タタキ、スス付着	斜方向のハケ目	—	良好	黒（7.5YR2/1）	橙（7.5YR7/6）	径３mm以下の灰色粒を多く含む。径2mm以下の白色粒をごくわずかに含む。		—
42	SA1床	壺	口縁部	工具による横ナデ	工具による横ナデのち指おさえ	鋸歯文、ナデ	良好	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	径1mm以下の白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。径1mm以下の黒色粒をごくわずかに含む。	複合口縁	約1/12
43	SA1	壺	底部	指ナデ	指おさえ	ナデ	良好	にぶい黄橙（10YR4/3）	黒褐（10YR3/1）	雲母、角閃石、白色の小石、白色、褐色、黒色の粒子を多く含む。	平底で座りよい	—
44	SA1床	壺	胴部～底部	指ナデのち工具による縦方向ナデ	ナデ、指おさえ	ケズリ	良好	にぶい黄橙（10YR4/3）	にぶい黄橙（10YR5/4）	径4mm以下の白黒混粒を少し含む。		約1/3
45	SA1床	壺	底部付近	工具による縦、斜方向のナデのち指頭によるナデ	工具による縦、斜方向のナデのち指ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙（10YR6/3）	黒褐（10YR3/1）	径2mm以下の黄色粒を多く含む。径１mm以下の黒色粒をわずかに含む。径3mm以下の白色透明粒をごくわずかに含む。		約1/5
50	SA2床	壺	口縁～底部	工具による多方向のナデのちナデ	工具による斜方向ナデ	ナデ、指おさえ	良好	橙（7.5YR6/8）	明黄褐（10YR7/6）	径8mm以下の灰白色粒を少し含む。径3mm以下の灰白色粒を多く含む。径2mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。		ほぼ完形
51	SA2床	壺	口縁～頸部	工具による横ナデ、スス付着	工具による斜方向ナデのち指ナデ	ナデ	良好	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	径4mm以下の白色粒をわずかに含む。径2mm以下の褐灰色粒をわずかに含む。径3mm以下の褐色粒をわずかに含む。径1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。		約1/5
52	SA2床	壺	頸部～胴部	斜方向のハケ目	斜方向のハケ目	—	良好	にぶい黄橙（10YR6/4）	明褐（7.5YR5/6）	径6mm以下の灰白色粒を少し含む。5mm以下の赤褐色粒をわずかに含む。2mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。		約1/6
53	SA2床	壺	口縁部	工具による横ナデ、スス付着	工具ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	橙（5YR7/6）	径5mm以下の赤褐色粒を多く含む。径2mm以下の白色粒をわずかに含む。		—
54	SA2床	壺	口縁部	工具による横ナデのちナデ、一部にミガキ	工具による横ナデのちナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	径3mm以下の灰白色粒をわずかに含む。径１mm以下の黒色、褐色粒をわずかに含む。径1mm以下の透明光沢粒をごくわずかに含む。		—
55	SA2床	鉢	口縁部	横ナデ	工具による横ナデ	ナデ	良好	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	径1mm以下の赤色粒を多く含む。径3mm以下の白色粒をわずかに含む。径1mm以下の白色透明粒をごくわずかに含む。		—
56	SA2床	壺	口縁～頸部	工具による横ナデのち縦方向ミガキ	工具による斜方向ナデのちナデ	横ナデ、櫛描波状文	良好	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	径2mm以下の明褐灰色粒をわずかに含む。径2mm以下の灰褐色粒をわずかに含む。径1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	複合口縁	約1/3
57	SA2床	壺	口縁～頸部	工具ナデのち丁寧な横ナデ	横ナデ	横ナデ、櫛描波状文	良好	明黄褐（10YR6/6）	にぶい黄橙（10YR5/3）	径2mm以下の白黒混粒を少し含む。	複合口縁	約1/4
58	SA2床	壺	頸部～底部	工具ナデのちミガキ	斜方向のハケ目のち指ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	径4mm以下の赤褐色粒を少し含む。径4mm以下の灰白色粒を少し含む。径2mm以下の透明光沢粒を少し含む。		約1/2
62	—	壺	口縁部	横ナデ	工具ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙（10YR6/3）	明黄褐（10YR6/6）	石英粒、雲母粒、黒色、白色粒を多く含む。		—

第９表　弥生時代土器観察表（２）

掲載番号	出土位置	器種	部位	手法・調整・文様ほか 外面	内面	口縁部or底部	焼成	色調 外面	内面	胎土	備考	残存率
63	B2b	甕	口縁部	工具による横ナデのち指おさえ	工具による横ナデのち指おさえ	ナデ	良好	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	径１mm以下の灰色粒を多く含む。径1mm以下の赤褐色粒をごくわずかに含む。		約1/20
64	D3b	甕	口縁部	工具による横ナデのち縦、斜方向のナデ	工具による斜方向ナデのちナデ	—	良好	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	径２mm以下の白色粒を少し含む。径2mm以下の明黄褐色粒をごくわずかに含む。径１mm以下の褐灰色粒をごくわずかに含む。		—
65	B2b	甕	頸部	工具による横ナデ	工具による横ナデのち縦方向ナデ	指おさえ	良好	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	径3mm以下の白色粒をわずかに含む。径2mm以下の灰白色粒をわずかに含む。径1mm以下の褐色粒をわずかに含む。		—
66	C2、D2	甕	底部	ナデ	指おさえ	—	良好	浅黄橙（7.5YR8/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	0.1～0.5mm大の小石、白色、黒色粒を多く含む。	やや歪りの悪い平底	—
67	B3a	甕	底部	工具による縦方向のナデのちナデ	指おさえのち多方向の工具ナデ	ナデ	良好	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/4）	径4mm以下の灰白・灰色粒をわずかに含む。径3mm以下の黒色粒を多く含む。径3mm以下の黄橙色粒をわずかに含む。2mm以下の明赤褐色粒をごくわずかに含む。		—
68	B4b	甕	底部	工具による縦方向のナデのちナデ	工具による横、縦方向のナデのちナデ	ナデ	良好	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/3）	径4mm以下の灰白色粒を多く含む。径2mm以下の黒色・褐灰色粒を多く含む。径5mm大の明褐色粒をごくわずかに含む。2mm以下の赤褐色粒をごくわずかに含む。		—
69	C3、D4	甕	頸部～肩部	斜方向のハケ目、スス付着	工具による横ナデ	—	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	黄橙（7.5YR8/8）	石英粒、雲母粒、黒色、白色粒を多く含む。		—
70	E4c	壺	口縁部	工具による横、斜方向のナデ	工具による横ナデのち指ナデ	櫛描波状文、ナデ	良好	灰黄（2.5Y6/2）	にぶい黄橙（10YR7/4）	径1mm以下の赤褐色粒を多く含む。径1mm以下の黄色粒を多く含む。	複合口縁	約1/12
71	B3b	壺	頸部	指ナデのち工具による縦、横方向のナデ、スス付着	工具による斜方向のナデ	ナデ	良好	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR5/4）	径３mm以下の白色粒をわずかに含む。径3mm以下の灰色粒を少し含む。径2mm以下の黒色粒を少し含む。	刻目のある貼付突帯文	約1/6
72	B2	壺	胴部	工具ナデのちミガキ	工具ナデのち指ナデ	—	良好	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	径3mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。径2mm以下の白色粒をわずかに含む。径2mm以下の黒色、黒褐色粒を多く含む。径１mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。		—
73	B2d	壺	胴部	工具による横ナデ、一部に縦方向ミガキ	工具による斜方向ナデ	—	良好	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	径6mm大のにぶい黄橙色粒を１粒含む。径5mm以下の褐色粒をわずかに含む。径2mm以下の灰褐色粒をわずかに含む。径１mm以下の灰白色粒、黒・透明光沢粒をわずかに含む。径1mm以下の黒色粒を多く含む。		—
74	B2c	高坏	坏部	工具による縦方向ナデのちナデ	工具ナデのち横ナデ	—	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	径3mm以下の灰色粒を少し含む。径2mm以下の灰白色光沢粒、微細な光沢粒を少し含む。径2mm以下の黒色粒を多く含む。1mm以下の褐色粒を少し含む。		—
76	D1b	高坏	脚裾部	工具による横方向のナデ	工具による縦方向ナデのち指ナデ	—	良好	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/4）	径2mm以下の透明粒をわずかに含む。径1mm以下の黒色粒をごくわずかに含む。径1mm以下の灰色粒をわずかに含む。		約1/28
77	—	高坏	脚裾部	工具による横ナデのちナデ	工具による横ナデのちナデ	—	良好	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR5/3）	径5mm大の褐灰色粒をごくわずかに含む。径4mm以下の褐色粒をわずかに含む。径2mm以下の灰白、黒色粒をわずかに含む。径2mm以下の黒色光沢粒をごくわずかに含む。微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。		—

第９節　その他の遺構

時期不明の土坑を４基（SC2～SC5）検出した（第16・25図）。検出状況では、Ⅱ層（K-Ah）上面でプランを検出した。このうち２基（SC3、SC5）は、底面の杭状痕跡から陥し穴状遺構であると考えられる。

土坑（第25図SC2、SC4）

調査区南半に位置し、Ⅱ層上面で検出した。SC2、SC4はSA2同様、Ⅱ層（K-Ah）が残存する範囲において黒色土のプランを検出している。

検出面からSA2に併行する時期の遺構である可能性がある。

ＳＣ２（第25図）

E7dグリッドで検出した。平面プランは不整楕円形で、長軸130×短軸70×深さ20㎝を計る。埋土の１～２層は黒色土で、アカホヤ火山灰粒を少量含む。３層は黒色土でアカホヤ火山灰粒を50%程度含む。４層は暗褐色土で、しまりがやや強く、粘性もやや強い。遺物や炭化物は出土していない。

ＳＣ４（第25図）

E6cグリッドで検出した。平面プランは不整楕円形で、長軸160×短軸120×深さ20㎝を計る。埋土の１～２層は黒色土で、炭化物を含む。遺物は出土していない。

陥し穴状遺構（第25図SC3、SC5）

Ⅱ層上面で検出した。SC３、SC５はSA２同様、Ⅱ層（K-Ah）が残存する範囲において黒色土のプランを検出している。検出面からSA２に併行する時期の遺構である可能性も考えられる。

ＳＣ３（第25図）

C9bグリッドで検出した。平面プランは楕円形で、長軸110×短軸80×深さ60㎝を計る。埋土の１～２層は黒色土で、アカホヤ火山灰粒や炭化物が少量混じる。３層は黒褐色土で、しまりが強く固い感触で、にぶい黄褐色土のブロックを含む。遺物は出土していない。

検出できた杭状痕跡は９本で、壁面近くと中央部に広がる。杭状痕跡の穴の直径は４～10㎝で、検出面からの深さは５～15㎝である。

ＳＣ５（第25図）

C5cグリッドで検出した。平面プランは楕円形で、長軸130×短軸90×深さ50㎝を計る。埋土の１～２層は黒褐色土で、しまりが強く、１～２㎜大の炭化物を含む。３層は黒色土で、２～５㎜大のアカホヤ火山灰粒をまばらに含む。４層は黒褐色土で、２～５㎜大の小礫を含む。５層は灰黄褐色土で、しまりが強い。層の上部には黒褐色土が一部混じり、層の下部には礫が混じる。遺物は出土していない。

検出できた杭状痕跡は11本で、壁面近くと中央部に集中する。杭状痕跡の穴の直径は５～12㎝で、検出面からの深さは５～10㎝である。

第10節　自然科学分析の結果

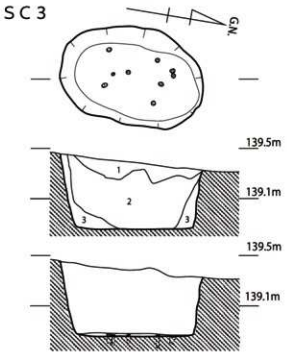
１　フローテーション作業について

第８節で報告したように、ＳＡ１、ＳＡ２の埋土内で炭化物が確認されていることから、植物遺体の回収を目的としてフローテーション作業を実施した。なお、遺構内埋土においては床面直上の層を中心に試料を採取している。

以下、フローテーション作業の手順を記す。

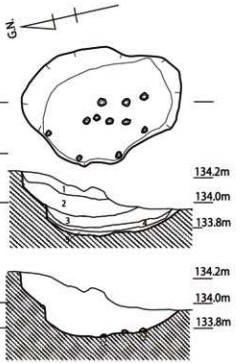
作業手順

①床面を50㎝四方のメッシュに区切り、１メッシュごとに移植ゴテを使用して土を採取。異なるサンプルを採取する場合は、コンタミネーションを起こさないよう使用した道具をその都度水洗した。また、金属以外の道具や素手で作業をしないようにした。
②試料を風通しの良い場所に置き、乾燥させる。
③乾燥後、土量の計測を行う。
④フローテーションマシン（2㎜・1㎜・0.425㎜の金属製メッシュ）を使用して土を水洗し、遺物及び残滓を回収する。
⑤水洗した土を乾燥させる。
⑥金属製メッシュ（0.1㎜・0.425㎜）で軽く篩に掛け、試料を３つに分けた後、土器・石器・炭化物に選別（一次選別）し、砂粒については廃棄する。
⑦一次選別した試料の中で炭化物については実体顕微鏡を用いて種実及びその可能性が高いものと、それ以外（木片など）に選別（二次選別）する。

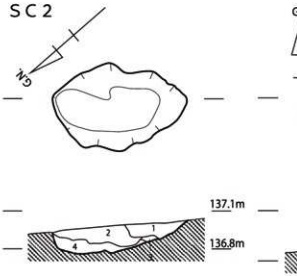


SC3 埋土注記
1 黒色土 Hue7.5YR1.7/1 しまりがやや強く、K-Ah 粒が少量混じる。
2 黒色土 Hue7.5YR2/1 しまりが強く、層全体に 2～3mm 大の炭化物を含む。
3 黒褐色土 Hue10YR2/2 しまりが強く、固い。2～3mm 大のにぶい黄褐色土のブロックを含む。

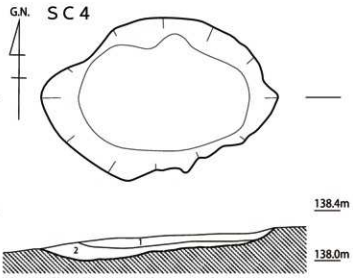
1/30



SC5 埋土注記
1 黒褐色土 Hue10YR3/1 しまりが強く、1mm 大の炭化物をまばらに含む。
2 黒褐色土 Hue10YR3/1 しまりが強く、2～4mm 大のオリーブ褐色土や 1～2mm 大の炭化物を層全体に含む。
3 黒色土 Hue10YR2/1 しまりが強く、2～5mm 大の K-Ah 粒をまばらに含む。
4 黒褐色土 Hue10YR3/2 しまりがやや強く、2～5mm程の小礫を含む。
5 灰黄褐色土 Hue10YR4/2 しまりが強く、層上部には黒褐色土が混じり、層下部には礫が混じる。



SC2 埋土注記
1 黒色土 Hue7.5YR1.7/1 しまりがやや強く、K-Ah 粒が少量混じる。
2 黒色土 Hue7.5YR1.7/1 しまりが強く、K-Ah 粒をわずかに含む。
3 黒色土 Hue7.5YR1.7/1 しまりが強く、K-Ah 粒を 50% 程度含む。
4 暗褐色土 Hue10YR3/3 しまりがやや強く、粘性もやや強い。



SC4 埋土注記
1 黒色土 Hue7.5YR1.7/1 しまりがやや強く、炭化物が多く混じる。
2 黒色土 Hue7.5YR1.7/1 しまりがやや強く、炭化物を 15% 程度含む。

1/30

時期不明土坑

第 25 図　その他の遺構実測図

2　自然科学分析の結果

はじめに

本遺跡の竪穴建物跡の床面及び床面上の埋土中より炭化材や炭化物が出土し、焼土も確認された。2軒の竪穴建物跡の床面及び床上埋土中で出土した炭化材を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)と樹種同定を実施した。放射性炭素年代測定は、炭化材の年代及び遺構の時期決定の参考にする目的で実施し、樹種同定は、建物構造材や木材利用状況を明らかにし、近隣森林の植生を推定するという目的で実施した。また、微細な遺物を検出するため、床面上の埋土や床面の土をサンプリングした。これらの床土、床上埋土のフローテーション作業を実施し、得られた種実を試料として放射性炭素年代測定と種実同定を実施した。放射性炭素年代測定は、種実の年代及び遺構の時期決定の参考にする目的で実施し、種実同定は、当時の遺跡周辺の植生を復元するとともに、当時の植物利用の実態を推察する目的で実施した。

放射性炭素年代測定、樹種・種実同定は、(株)パリノ・サーヴェイに委託し実施した。各分析に使用した試料及び分析方法・結果等については下記に掲載した。

1　放射性炭素年代測定

(1)　試料

試料は、2軒の竪穴建物跡床面及び床上埋土から出土した炭化材4点と床上埋土から出土した種実1点の計5点である（第10表）。

第10表　放射性炭素年代測定試料一覧

試料No.	遺構・試料名
No. 9	SA1　床上出土の種実
No.20	SA1　床面出土の炭化材
No.21	SA1　床面出土の炭化材
No.22	SA2　床上出土の炭化材
No.23	SA2　床上出土の炭化材

(2)　方法

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N）により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用いて計算する。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。試料は、炭化材と種実であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

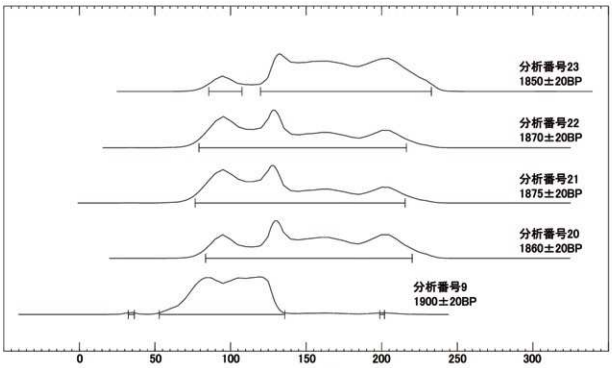
暦年校正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(3)　測定結果

放射性炭素年代測定及び暦年較正結果を第11表、第26図に示す。δ13Cによる同位体効果の補正を行った補正年代は、No.9が1900±20BP、No.20が1860±20BP、No.21が1875±20BP、No.22が1870±20BP、No.23が1850±20BPを示す。また、測定誤差を2σとして計算させた暦年較正結果は、No.9がcalAD32-202、No.20がcalAD84-220、No.21がcalAD77-215、No.22がcalAD79-216、No.23がcalAD86-233である。

第11表　放射性炭素年代測定結果

試料名	種類	δ13C (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果	
				σ (68%確率)	2σ (95%確率)
分析番号9 SA1 床上	種実 (ガマズミ属)	-29.65±0.12	1,900±20 (1,901±20)	cal AD96-125 (67.1%)	cal AD53-136 (99.5%)
分析番号20 SA1 床	炭化材 (アカガシ亜属)	-30.16±0.19	1,860±20 (1,862±20)	cal AD123-175 (63.3%)	cal AD84-220 (100%)
分析番号21 SA1 床	炭化材 (ツブラジイ)	-27.34±0.15	1,875±20 (1,873±22)	cal AD80-139 (84.3%)	cal AD77-215 (100%)
分析番号22 SA2 床上	炭化材 (サカキ)	-30.35±0.21	1,870±20 (1,870±21)	cal AD83-139 (78.2%)	cal AD79-216 (100%)
分析番号23 SA2 床上	炭化材 (アカガシ亜属)	-27.72±0.27	1,850±20 (1,851±22)	cal AD128-178 (67%)	cal AD120-233 (92.3%)



第 26 図　長野遺跡の暦年較正結果

(4)　所見

上記の第26図の暦年較正結果に示すように、SA2の方が若干新しい年代を示すものの、ほぼ一致しており、2軒は同時期の竪穴建物跡と考えられる。これらの年代値は、既存の調査例と比較しても弥生時代後期の範囲に収まっており、推定年代と矛盾しない結果が得られた。

2　樹種同定

(1)　試料

試料は、2軒の竪穴建物跡床面及び床上埋土から出土した炭化材4点である（第12表）。

(2)　方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡及び走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林（1991）や伊東(1995, 1996,1997,1998,1999）を参考にする。

(3)　結果

樹種同定結果を第12表、第27図に示す。炭化材は、広葉樹3分類群（コナラ属アカガシ亜属・ツブラジイ・サカキ）に同定された。№20と№23は、コナラ属アカガシ亜属、№21は、ツブラジイ、№22は、サカキであった。

第12表　樹種同定結果

試料No.	遺構・試料名	結果（種類）
№20	SA1 床面	コナラ属アカガシ亜属
№21	SA1 床面	ツブラジイ
№22	SA2 床上	サカキ
№23	SA2 床上	コナラ属アカガシ亜属

以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

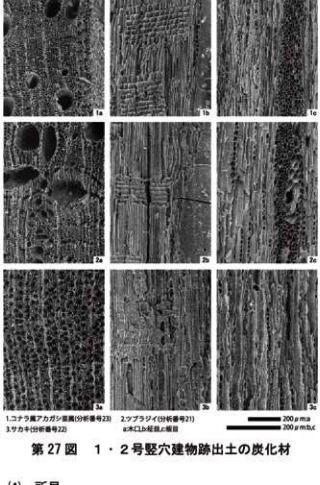
ツブラジイ（*Castanopsis cuspidata*（Thunberg）Schottky）ブナ科シイノキ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1-3個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列

する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと集合～複合放射組織とがある。

サカキ（*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.）ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1-20細胞高。



第27図　1・2号竪穴建物跡出土の炭化材

(4)　所見

SA1の床面から出土した炭化材はアカガシ亜属とツブラジイ、SA2の床上から出土した炭化材はアカガシ亜属とサカキに同定された。アカガシ亜属とツブラジイは、暖温帯性常緑広葉樹林の主構成となる常緑高木であり、サカキも常緑広葉樹林内に生育する常緑小高木である。木材は、いずれも比較的重硬で強度が高い材質を有しており、強度の高い木材を選択的に利用した可能性があると考えられる。また、この結果から、遺跡周辺には、アカガシ亜属やツブラジイなどの常緑広葉樹を主体とした樹木が生育していたことが推定される。

3　種実同定

(1)　試料

試料は、2軒の竪穴建物跡床面及び床上埋土からフローテーション作業によって採取された選別済みの種実類（炭化物）である。試料の詳細は分析結果表に示す（第13表）。

(2)　方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本及び石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種実遺体の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種実等を種類毎に容器に入れて保管する。

(3)　結果

木本2分類群（広葉樹のヤマモモ、ガマズミ属）3個、草本のキンバイザサ2個、計5個の種実が同定された。種実以外では、菌類の菌核の可能性が高い黒色粒子が多く、土粒や炭化材、昆虫類などが確認された。

種実遺体は、SA1の床上では、炭化した常緑高木のヤマモモの核が2個、落葉または常緑の高木または低木のガマズミ属の核が1個の、計3個が確認された。SA2の床上では、多年草のキンバイザサの種子が2個確認された（第28図）。以下に、各分類群の形態的特徴等を記す。

ヤマモモ（*Myrica rubra* Sieb.et Zucc.）

ヤマモモ科ヤマモモ属

核（内果皮）は炭化しており黒色。長さ4.4-4.5㎜、幅4.3㎜、厚さ3.6㎜程度の歪でやや偏平な非対称広楕円体。内果皮は硬く緻密で、表面には微細な網目模様があり粗面。分析番号1は半割した破片で、内面は平滑、種子1個が入る径3.5㎜程度の広卵状で頂部が尖る窪みがみられる。分析番号7には、一部欠損がみられる。

ガマズミ属（*Viburnum*）スイカズラ科

核は黒色、長さ5.5㎜、幅3.3㎜、厚さ2.0㎜程度の偏平な倒広卵体。頂部は尖り、基部は切形。背面と腹面には、それぞれ2個と3個の浅い縦溝がある。ヤブデマリ（*V.plicatum* Thunb.var. *tomentosum* (Thunb.) Miq.）やゴマギ（*Viburnum sieboldii* Miquel）

の核のように、やや肉厚で腹面正中線上にへら形の深い縦溝があるタイプとは区別される。表面は粗面。

キンバイザサ（*Curculigo orchioides* Gaertn.）

キンバイザサ科キンバイザサ属

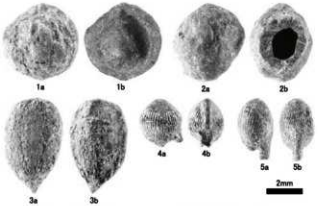
種子は黒色、長さ2.8-3.5㎜、幅2.0-2.4㎜、厚さ1.8-2.0㎜の楕円体。基部の片側から径0.3-0.6㎜の鉤状の太い突起が出る。種皮は硬く、断面は柵状。突起以外の表面には、多数の細い縦隆条が配列し、まばらに縦長の網目模様が形成される。

第13表　種実同定結果

分析番号	遺構番号	出土位置	分類群	部位	個数	備　考
1	SA1	床上 b1	ヤマモモ	核	1	長さ4.4㎜,幅4.3㎜,半分厚1.7㎜
2	SA1	床上 c3	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
3	SA1	床上 c5	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
4	SA1	床上 c6	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
5	SA1	床上 c9	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
6	SA1	床上 d1	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
7	SA1	床上 d4	ヤマモモ	核	1	一部欠損,長さ4.5㎜,残存幅4.1㎜,厚さ3.6㎜
8	SA1	床上 d8	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
9	SA1	床上 p3	ガマズミ属	核	1	年代測定対象,長さ5.5㎜,幅3.3㎜,厚さ2.0㎜
10	SA1	床上 SC1	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
11	SA2	床上 a3	キンバイザサ	種子	1	長さ2.8㎜、幅2.4㎜、厚さ2.0㎜
12	SA2	床上 a7	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
13	SA2	床上 a8	キンバイザサ	種子	1	長さ3.5㎜、幅2.0㎜、厚さ1.8㎜
14	SA2	床上 b1	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
15	SA2	床上 b10-2	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
16	SA2	床上 c4	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
17	SA2	床上 c5	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
18	SA2	床上 c6	―	―	―	不明炭化物（種実以外）
19	SA2	床上 c10	―	―	―	不明炭化物（種実以外）

(4)　所見

種実遺体は、SA1の床上から木本のヤマモモ、ガマズミ属と、SA2の床上から草本のキンバイザサが確認された。ヤマモモは、照葉樹林内に生育する常緑高木で、果実が食用可能である。ガマズミ属は、丘陵～山地に生育する落葉または常緑の高木または低木で、果実が食用可能な種を含む。キンバイザサは、暖地の山林内に生育する多年草である。これらの種実遺体は、長野遺跡周辺域の照葉樹林内に生育していたと考えられる。また、炭化していることから、何らかの理由により火を受けたことが推定される。



1．ヤマモモ 核(1SA1 b1 床上)　2．ヤマモモ 核(7SA1 d4 床上)
3．ガマズミ属 核(9SA1 p3 床上)　4．キンバイザサ 種子(11SA2 a3 床上)
5．キンバイザサ 種子(13SA2 a8 床上)

第 28 図　1・2号竪穴建物跡出土の炭化種実

引用文献

林昭三　1991 『日本産木材　顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所.

石川茂雄　1994 『原色日本植物種子写真図鑑』 石川茂雄図鑑刊行委員会　328p

伊東隆夫　1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』 31　京都大学木質科学研究所　81-181.

伊東隆夫　1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』 32　京都大学木質科学研究所　66-176.

伊東隆夫　1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』 33　京都大学木質科学研究所　83-201.

伊東隆夫　1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』 34　京都大学木質科学研究所　30-166.

伊東隆夫　1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』 35　京都大学木質科学研究所　47-216.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000 『日本植物種子図鑑』 東北大学出版会　642p.

島地謙・伊東隆夫　1982 「図説木材組織」 地球社　176p

Wheeler E.A.,Bass P.and Gasson P.E.（編）1998 『広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修） 海青社　122p.［Wheeler E.A.,Bass P.and Gasson P.E.（1989）*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*］.

第11節　総括

長野遺跡の発掘調査では、後期旧石器時代から弥生時代後期にかけての各種遺構や遺物が確認された。

本節では、時代順に今回の調査成果について検討を加えることで総括としたい。

1　後期旧石器時代

後期旧石器時代では、礫群1基（SI1）が検出された。礫群を構成する14個の石材は全て尾鈴山溶結凝灰岩で赤化がみられた。また、SI1の東側斜面にも尾鈴山溶結凝灰岩の赤化礫がみられ、SI1構成礫との接合を試みた結果、東側斜面内の赤化礫内での接合は4点みられたがSI1構成礫との接合はみられなかった。

石器は、ナイフ形石器や尖頭器等を含む71点が出土した。これらの石器の出土状況や分布状況から石器消費の場であったと考えられる。長野遺跡の南側に隣接する舟川第2遺跡（第3次調査）では、長野遺跡で出土している北牛牧型系のナイフ形石器に類似する台形石器や今峠型系のナイフ形石器などが出土している。

2　縄文時代早期

土器の出土量は少量であり、楕円押型文系や山形押型文系といった縄文時代早期前葉～中葉頃の一群である。

石器は石鏃、石斧、剥片など65点が出土している。石鏃は先端や基部が欠損しているものが多く、使用時に破損し廃棄したものと考えられる。また、打製石斧や粗製剥片石器なども出土していることから、遺跡周辺で狩猟・採集といった生業活動を行っていた可能性がある。

遺構として焼土面7面と焼土を有する土坑を1基検出していることから、狩猟・採集活動に伴う一時的なキャンプサイトであった可能性も考えられる。

3　弥生時代後期

遺構（竪穴建物跡）について

遺構は竪穴建物跡2軒を検出した。遺構に伴う土器及び自然科学分析の結果から弥生時代後期後半を主体とした遺構と判断できる。

SA1、SA2ともに調査区北半で検出し、SA1は平坦面、SA2は緩斜面に位置している。

SA1とSA2の共通点としては、竪穴建物跡のプランは、ともに隅丸方形を呈し、竪穴部の面積は、SA1が推定約14.4㎡、SA2が約16.4㎡で、規模的な差はみられない。床面には、SA1、SA2ともに貼床がみられ硬化面も確認することができた。また、2軒ともに壁帯溝は無く、住居内土坑や焼土面がみられた。床面上からは、炭化材や炭化種実が検出されており、SA1、SA2は焼失建物である可能性が考えられる。

SA1とSA2の相違点としては、SA1では主柱穴痕が4基検出されているが、SA2では主柱穴痕が2基であることやSA2はベッド状遺構を有することなどが挙げられる。

近隣の遺跡では、長野遺跡北側に位置する日向市東郷町所在の向原中尾第2遺跡のⅢ層(K-Ah)上面にて、弥生時代終末期の竪穴建物跡7軒が検出されている。

また、都農町所在の木戸平第2遺跡では、弥生時代後期後半～終末期の竪穴建物跡5軒が検出され、川南町所在の八幡第2遺跡では、弥生時代後期の竪穴建物跡9軒が検出されている。

自然科学分析の結果について

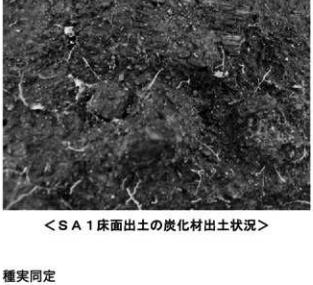
AMS年代

長野遺跡のSA1、SA2出土の炭化材を放射性炭素年代測定した結果、その年代は、1850±20BP～1875±20BP(AD77～233年)の幅に収まる結果が得られ、この年代幅に出土土器の年代も収まる。

建築部材の樹種

竪穴建物跡出土炭化材の樹種同定結果から、遺跡周辺の植生及び自然環境の一端を明らかにすることができた。特にSA1の炭化材は残りがよく、建築材の一部と考えられる。SA1、SA2から各2点ずつ4点について同定した結果、SA1とSA2から同じ樹種であるコナラ属アカガシ亜属が同定され、残り2点はツブラジイとサカキに同定された。同定された木材は、いずれも比較的重硬で強度が高い材質を有しており、強度の高い木材を選択的に竪穴建物の建築部材として利用していたと考えられる。また、長野遺跡の北側に位置する向原中尾第2遺跡の竪穴建物跡から検出された炭化材の中にもツブラジイが同定

されており、近隣の地域で同じ樹種が使用されている。



＜ＳＡ１床面出土の炭化材出土状況＞

種実同定

ＳＡ１、ＳＡ２の床土からは、木本２分類群（広葉樹のヤマモモ、ガマズミ属）３個、草本のキンバイザサ２個、計５個の種実が同定された。ヤマモモは果実が食用可能であり、ガマズミ属も果実が食用可能な種を含む。また、キンバイザサは、暖地の山林内に生育する多年草である。これらの種実遺体は、長野遺跡周辺域に生育していたと考えられ、炭化がみられることから何らかの理由により火を受けたことが考えられる。同定されたキンバイザサは、前述の向原中尾第２遺跡でも検出、同定され、同じ都農町内の木戸平第２遺跡では、同属のコキンバイザサが検出、同定されている。

４　陥し穴状遺構について

長野遺跡では、Ⅱ層（K-Ah）上面にて４基の土坑が検出された。このうち２基は底面に杭状の小穴が多数検出されたので陥し穴状遺構と判断して報告した（第Ⅱ章第９節）。遺構底面の平面形は楕円形で、深さ（残存高）は50～60㎝を計る。杭状痕跡は９～11本が検出されている。

近隣のアカホヤ火山灰降灰以降の陥し穴状遺構は、長野遺跡北側に位置する日向市東郷町所在の向原中尾第４遺跡で７基の陥し穴状遺構が、等高線が大きく湾曲する浅い谷地形面に沿って、等高線に直交するように一定の間隔で検出されている。また、都農町所在の俵石第１遺跡では、縄文時代早期の陥し穴状遺構が11基検出されている。底面に小ピット状の杭状痕跡を有するものは、前述の向原中尾第４遺跡や日向市所在の板平遺跡、上野原遺跡などが挙げられる。

以上、長野遺跡では、後期旧石器時代から弥生時代後期にかけての遺構・遺物が確認され、この間における土地利用の変遷の一端を明らかにすることができた。特に、弥生時代後期後半における丘陵上の小規模な集落跡として当時の生活の痕跡を確認できたことは、今後の当該期の地域の歴史を復元していく上で意義深いと考える。

引用・参考文献

都農町　1998『都農町史　通史編』
石貫弘泰　2012『舟川第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第214集
今塩屋毅行・石貫弘泰・南健太郎・橋本清美・山本光俊・谷口めぐみ　2012『向原中尾第１・２遺跡　向原中尾第４遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第213集
小船井順・今塩屋毅行・原口耕一郎・谷口めぐみ　2011『内野々遺跡　内野々第２・第３遺跡　内野々第４遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第202集
谷口めぐみ・橋口由佳・今塩屋毅行　2012『俵石第１遺跡（第２次調査）　俵石第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第216集
徳留洋志・今塩屋毅行　2012『木戸平第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第215集
森本征明　2007『八幡第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第148集
横山正文・今塩屋毅行　2011『俵石第１遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第200集

第Ⅲ章　舟川第２遺跡（第３次調査）

第１節　調査の概要と方法・経過

(1)　調査の概要

舟川第２遺跡は、児湯郡都農町大字川北字舟川、境谷に所在する。第３次調査は、町道下と土手部分を対象に調査を実施した。調査区を都合上、第２次調査に続いて５～７区に分け調査を行った（第１図）。以下、調査区ごとに概要を述べる。

５区　重機により造成土を除去した結果、調査区中央は地山（Ⅸ層）が露出していたが、東と西の両端で遺物包含層が残存していた。

東側の町道下ではⅦb層中部まで削平を受けていたが、土手部分はⅦa層以下の遺物包含層が残存していた（第１表）。遺物の大半はⅦa層～Ⅶb層より後期旧石器時代と考えられる石核・剥片・砕片などが出土した。また、Ⅶa層では、石刃が並んで出土し、周辺には炭化物が集中して検出されたが、礫群や土坑などの遺構は確認されなかった。遺構については、Ⅶb層上部より礫群を１基検出した。

西側については、東側とは異なりⅡ層からⅣ層まで自然堆積層が残存していた（第４図①５区西側）。

遺物は、Ⅳ層から縄文時代早期と考えられる剥片、砕片、Ⅴ層から後期旧石器時代～縄文時代草創期と考えられる細石刃核、剥片、Ⅵ層から後期旧石器時代と考えられる剥片、砕片が出土した。遺構については、Ⅵ層より礫群を４基検出した。

６区　道路下のクラッシャーランと１m程の造成土下にⅡ層以下の自然堆積層が残存していた（第４図）。しかし、６－１区西側ではⅡ～Ⅳ層上部までの自然堆積層は削平を受けていた。

遺構は、後期旧石器時代の礫群12基と縄文時代早期の集石遺構17基と配石遺構１基を検出した。集石遺構は、Ⅳ層下部から１基、Ⅳ層とⅤ層の境目付近から５基、Ⅴ層上部から10基、Ⅴ層中部から１基検出した。配石遺構もⅤ層上部で１基検出した。礫群は、Ⅴ層上部～Ⅴ層中・下部から10基、Ⅵ～Ⅶ層及びⅦ層下部で各１基検出した。遺物は後期旧石器時代から縄文時代早期の遺物が出土した。Ⅳ層からは石核・剥片・砕片・石鏃・縄文土器（条痕文・無文）など、Ⅴ層からは細石刃・細石刃核・剥片尖頭器・ナイフ形石器・石刃・石核・敲石など、Ⅶ層からはナイフ形石器・石核・剥片などが出土している。特に６－１区中央付近では、Ⅲ層とⅣ層境目、Ⅳ層から剥片・砕片が密になって出土した。また、Ⅴ層上部で検出した配石遺構から打製石斧が共伴して出土した。

７区　道路下のクラッシャーランと造成土を除去した結果、調査区中央から北にかけてⅢ層が残存していた（第４図）。しかし、Ⅲ層以下の遺物包含層の堆積状況が悪く、Ⅳ層のみ遺物包含層が残存していた。遺構は検出できなかった。遺物についてはⅣ層から剥片が数点出土した。

(2)　調査の方法

６－１区については、水道埋設管を中心に南側から調査を進めた。調査の都合上、グリッド設定については、６－１区のみ行った。調査区中央に東西に延びる埋設管を中心に任意で５m間隔に設定した。東から１、２、３とし、南北をS区・N区とした（第２図）。

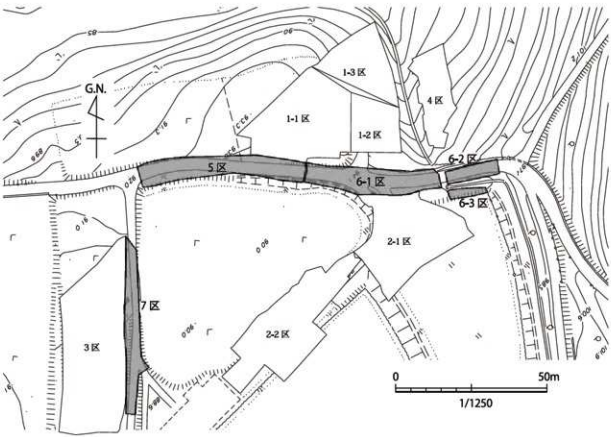
掘削については、表土・造成土を重機で除去後、クロボク以下は人力による掘削を行った。

遺物については、原位置不明のもの、表土・造成土のもの以外はトータルステーションで遺物の個別取り上げを行った。また、調査の都合上、６－１区の一部層位ごとのグリッド一括取り上げを行った。

また、赤化礫および自然礫についても表土・造成土以外はトータルステーションで個別に取り上げを行った。

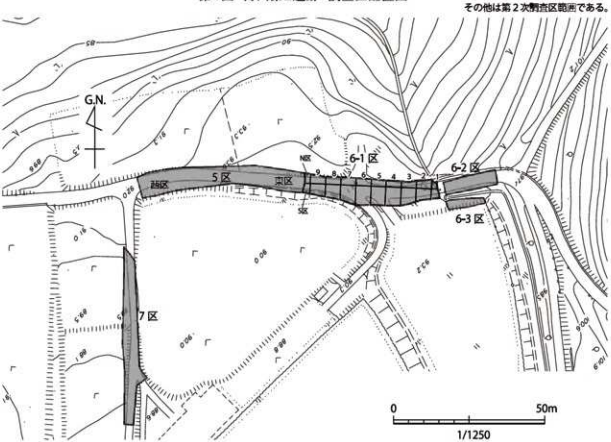
なお、遺物・礫の取り上げ番号については、調査区ごとに１から番号をふっている。座標データについては、Excelデータに変換して当センターに保管している。

遺構・土層断面図は縮尺1/10または1/20で記録した。写真記録については、35㎜のモノクロ・リバーサルフィルム、デジタルカメラを使用した。



第1図　舟川第2遺跡　調査区配置図

※　網掛けは第３次調査区である。
その他は第２次調査区範囲である。



第2図　3次調査区グリッド配置図

(3) 調査の経過

舟川第２遺跡第３次調査は、２回に分けて調査を実施した。１回目の５区については平成23年９月９日～10月24日、２回目の６・７区については、平成24年１月23日～３月９日まで調査を実施した。調査の経過は、日誌抄にて記す。

発掘調査日誌抄

５区

230909　重機でクラッシャーラン・造成土を剥ぐ。
230912　発掘作業員11名雇用。現場作業開始。
230913　東側で剥片数点出土。
230919　台風15号宮崎に上陸。
230919～231011　５区SI１～３検出。
231012　テフラ分析用の土を採取。
231013～231018　５区SI４・５検出。
231020　遺物包含層を完掘。
231024　撤収。

６・７区

240117　事前準備。
240123　重機でクラッシャーラン・造成土を剥ぐ。
240125　発掘作業員32名投入。現場作業開始。
６区・７区掘削作業開始。
240129～240203　６区SI１～４検出。
240208　６区SI５検出。
240209　６区－３区調査終了。
240210　６区SI６～９、６区SX１（１号配石遺構）検出。
朝、調査区全体に霜が降りる。
240214　６－１区小グリッド設定。
240216～240220　６区SI10～17検出。
240221　７区調査終了。６－１区より敲石と原石が並んで出土。
240227　６区SI18～20検出。６－２区調査終了。水道管下を掘削開始。
240228　雨の日が続く。
６区SI21～23検出。
240229～240305　６区SI24～27検出。
240306　６区SI28検出。水道管下掘削で礫群１基検出。６－１区調査終了。
240307～240309　調査区埋め戻し。撤収。

第２節　整理作業の方法と経過

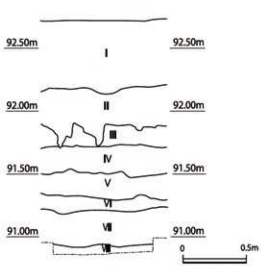
遺物の整理作業は、平成24年２月１日から宮崎県埋蔵文化財センター本館にて実施した。

出土した石器・土器は、洗浄・注記・接合・実測・拓本・トレースなどの作業を行った。接合については、第１次・第２次調査から出土した石器・土器との接合も試みた。なお、石器の実測・トレースについては、一部業務委託をしている。

報告書掲載にあたっては、遺構図、遺物、分布図などの挿図は調査で得られた情報を基に株式会社CUBICの『遺構くん』『トレースくん』やAdobe社の『Illustrator』などのソフトウェアを使用したデジタル製図である。

第１表　舟川第２遺跡土層対応表

５区南側	６区	２－１区
Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
	Ⅱ	Ⅱ
	Ⅲ	Ⅲa Ⅲb
	Ⅳ	Ⅳ
	Ⅴ	Ⅴa
	Ⅵ	
Ⅶa Ⅶb	Ⅶ	Ⅴb Ⅵ
	Ⅷ	Ⅶ



第３図　６区基本層序堆積状況

第3節　基本層序

本遺跡の主体部である6区を第3次調査の基本層序とした（第3図）。5区東側については、地形的に6区と同じ尾根上に属している。そのため、5区東側は6区の基本層序に改変した。また、6区基本層序の設定については、5区東側のテフラ分析の結果と第2次調査の基本層序を加味し設定を行った（第1表）。5区東側Ⅰ層は6区のⅥ層に相当する。5区西側と7区については、6区と別の地形であるため、別途層序を設けた（第4図）。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層：表土・造成土

Ⅱ層：黒色土（Hue7.5YR2/1）クロボク。

Ⅲ層：明赤褐色土（Hue5YR5/8）
鬼界アカホヤ火山灰。

Ⅳ層：暗褐色土（Hue10YR3/3）粘性、しまりともに強い。5㎜前後の白色粒子を少量含む。
縄文時代早期層。

Ⅴ層：褐色土（Hue10YR4/4）～にぶい赤褐色土（Hue5YR5/4）褐色土は、粘性・しまりともに強い。下部に黄橙色のブロック（AT）を含む。後期旧石器時代～縄文時代早期層。にぶい赤褐色土は白色粒子をわずかに含む。
後期旧石器時代層。

Ⅵ層：褐色土（Hue10YR4/4）粘性、しまりはやや強い。姶良Tn火山灰（AT）のブロックを多く含む。後期旧石器時代層。

Ⅶ層：暗褐色土（Hue7.5YR3/4）粘性、しまりは強い。5㎜以下の白色粒子を含む。いわゆるブラックバンド。後期旧石器時代層。

Ⅶa層：黒褐色土（Hue7.5YR3/1）しまりは、非常に強い。白色・褐色粒子を全体的に多く含む。後期旧石器時代層（5区東側のみ）。

Ⅶb層：褐灰色土（Hue7.5YR4/1）しまりは、非常に強い。白色・褐色粒子を多く含む。5㎜～1㎝程の小礫も全体的に少量含む。
後期旧石器時代層（5区東側のみ）。

Ⅷ層：褐色土（Hue7.5YR5/6）粘性は非常に強く、しまりはやや弱い。1㎝以下の砂利を含む。
無遺物層。

Ⅸ層：褐色土　尾鈴山溶結凝灰岩を密に含む層。
地山。

第4節　包含層の認識

今回、報告書作成において、調査中及び調査後の遺物の検討などから、以下のことを考慮して書き進めた。

1．良好な遺物包含層が残存していた6区を中心に報告する。

2．今回の報告で、Ⅶ層、Ⅶa層、Ⅶb層と調査区、色調、土質で区別しているが、遺物の時期差を区別するものではない。

3．第2次調査と6区・5区東側が隣接しているため、遺物の接合作業は第2次調査も含め接合作業を行った。

4．AT上位層～縄文時代早期層は遺物の上下移動が激しく、層序と認定時期通りに遺物を取り上げることが困難であった。そのため、石器については層序より認定時期（Ⅲ層下面～Ⅴ層上部の範囲で石材、器種、器形等が旧石器時代の範疇に入るものは後期旧石器時代とする）を優先して報告する。遺構については、土器が出土しないⅤ層中部～Ⅶ層を礫群、Ⅲ層下面～Ⅴ層上部までを集石遺構と呼ぶことにする。

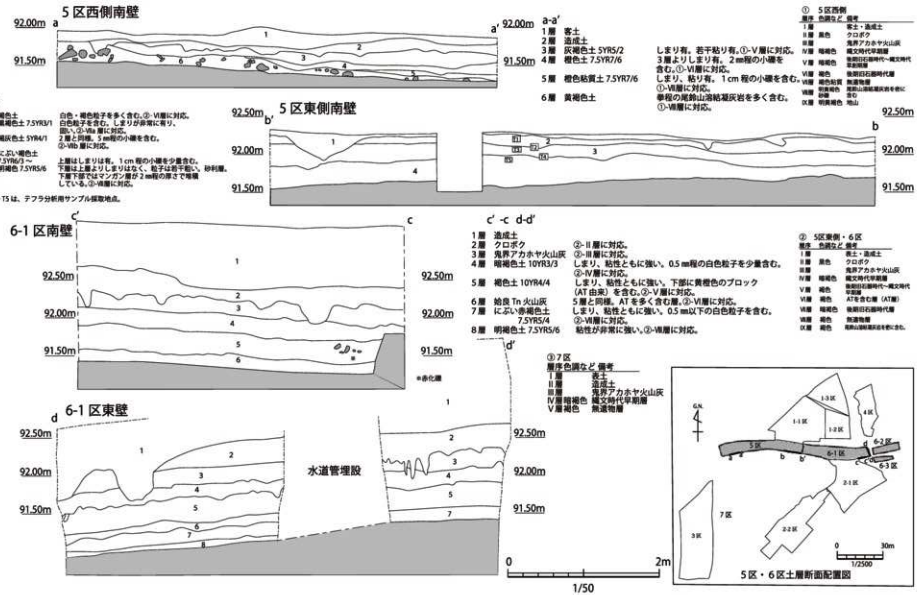
5．第3次調査で出土した総遺物点数は3727点である。

第5節　石材分類について

本遺跡で出土した石材の分類は以下のとおりである（第2表）。

第2表　舟川第2遺跡（第3次）石材分類表

石材	略号	分類	備考
珪質頁岩	Ssh	Ⅰ	黒色珪質頁岩
	Ssh	Ⅱ	チャートに近い珪質頁岩
	Ssh	Ⅲ	斑があるもの
流紋岩	Ry	Ⅰ	白色
	Ry	Ⅱ	その他
チャート	Ch	Ⅰ	赤色チャート
	Ch	Ⅱ	その他
ホルンフェルス	Ho		
安山岩	An	Ⅰ	姫島産
	An	Ⅱ	その他
黒曜石	Ob	Ⅰ	日東産
	Ob	Ⅱ	桑ノ木津留産
	Ob	Ⅲ	姫島産
	Ob	Ⅳ	その他
凝灰岩	Aso-Tu	Ⅰ	阿蘇火ヶ鼻産
	Tu	Ⅱ	その他
砂岩	Sa		
尾鈴山溶結凝灰岩	Os		


5区西側南壁
a
a'
92.00m
91.50m
a-a'
2層 客土
3層 造成土
3層 灰褐色土 5YR5/2
4層 橙色土 7.5YR7/6
5層 橙色粘質土 7.5YR7/6
6層 黄褐色土
しまり有。若干粘り有。①-V層に対応。
3層よりしまり有。2mm程の小礫を含む。①-VI層に対応。
しまり、粘り有。1cm 程の小礫を含む。①-VI層に対応。
巻程の尾鈴山流紋凝灰岩を多く含む。①-VII層に対応。
① 5区西側
層序 色調など 備考
I層 客土・造成土
II層 黒色 クロボク
II層 灰界アカホヤ火山灰
IV層 暗褐色 縄文時代早期層
V層 暗褐色 縄文時代早期～縄文時代前期層
VI層 褐色 鬼界旧石器時代層
VII層 橙色粘質 鬼界包層
VIII層 粘質褐色 鬼界山麓堆積期(岩を含む)
IX層 砂礫 含む
X層 明黄褐色 地山
b-b'
1層 褐色土
2層 黒褐色土 7.5YR3/1
白色・褐色粒子を多く含む。② VI層に対応。
固い。②-VIa 層に対応。
2層と同様。5 mm程の小礫を含む。
②-VIb 層に対応。
3層 暗灰色土 5YR4/1
4層 にぶい褐色土 7.5YR6/3
明褐色 7.5YR5/6
上層はしまりは有。1cm 程の小礫を少量含む。
下層は上層よりしまりはなく、粒子は粗下粗い。砂利層。
下層下部では マンガン層が 2 mm程の厚さで堆積している。②-VIb層に対応。
T1～T5は、テフラ分析用サンプル採取地点。
5区東側南壁
b
b'
92.50m
92.00m
91.50m
6-1区南壁
c
c'
92.50m
92.00m
91.50m
c'-c d-d'
1層 造成土
2層 クロボク ②-II層に対応。
3層 灰界アカホヤ火山灰 ②-III層に対応。
4層 暗褐色土 10YR3/3 しまり、粘性ともに強い。0.5 mm程の白色粒子を少量含む。②-IV層に対応。
5層 褐色土 10YR4/4 しまり、粘性ともに強い。下部に黄橙色のブロック(AT 由来)を含む。②-V層に対応。
6層 始良 Tn 火山灰 5層と同様。AT を多く含む層。③-VI層に対応。
7層 にぶい赤褐色土 7.5YR5/4 しまり、粘性ともに強い。0.5 mm以下の白色粒子を含む。②-VII層に対応。
8層 明褐色土 7.5YR5/6 粘性が非常に強い。②-VIII層に対応。
d
d'
6-1区東壁
水道管埋設
92.50m
92.00m
91.50m
③7区
層序 色調など 備考
I層 表土
II層 造成土
III層 灰界アカホヤ火山灰
IV層 暗褐色 縄文時代早期層
V層 褐色 無遺物層
② 5区東側・6区
層序 色調など 備考
I層 表土・造成土
II層 黒色 クロボク
III層 灰界アカホヤ火山灰
IV層 暗褐色 縄文時代早期層
V層 褐色 鬼界旧石器時代～縄文時代前期層
VI層 褐色 鬼界包層 (AT層)
VII層 暗褐色 縄文時代前期層
VIII層 褐色 無遺物層
IX層 褐色 粘質山麓堆積期(岩を含む)
*赤化層
0 2m
1/50
N
6-1区
6-2区
6-3区
1-1区
1-2区
1-3区
2-1区
2-2区
3区
4区
5区
7区
0 30m
1/2500
5区・6区土層断面配置図

第4図 土層断面図

第６節　後期旧石器時代の遺構と遺物

１　後期旧石器時代

後期旧石器時代は、Ⅴ層中部～Ⅶ層（６区）、Ⅰ～Ⅶb層（５区東側）、Ⅳ層以下（５区西側）とした。ATはⅥ層に属し、部分的に確認できる。特に５区東側から６-１区西側にかけてはAT層、AT下位層の土層の堆積が良好に残存していた。また、５区東側については、テフラ分析の結果や６区のATの堆積状況も踏まえⅠ層はATを含む層とした。

遺構は、礫群をAT下位で３基、AT上位では14基検出した。詳細については観察表に示す（第３・４表）。また、礫群を以下のとおりに分類をしている。

Ⅰ　まとまりがあるもの

a 礫群範囲が１m以上のもの

b 礫群範囲が１m未満のもの

Ⅱ　礫が散在しているもの

遺物については、５区123点、６区2006点、７区９点が出土した。そのうちAT下位は31点、AT上位は218点図化している。

２　AT下位層の遺構と遺物

AT下位層の礫群（第７図・第３表）

AT下位の礫群は３基検出した。6区SI23（6SI23以下、同様に略）は、Ⅶ層下部で検出した。石材は尾鈴山溶結凝灰岩で構成され、ほぼ全てが赤化していた。出土した炭化材を放射性炭素年代測定、樹種同定の分析をおこなったところ、炭化材はコナラ属と同定され、炭素年代測定は28,660±110年BPであることがわかった（第９節）。

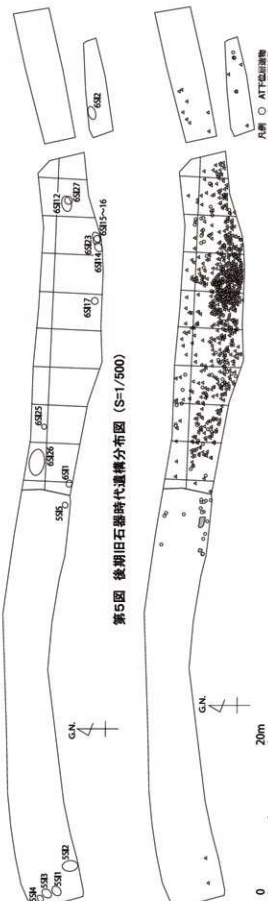
AT下位層の遺物

AT下位層の遺物は５区東側、６区Gr.S3～S5、Gr.S7～S9に多く出土した。特に５区東側ではⅦa層とⅦb層との境に多く遺物が出土し、その出土遺物のほとんどが、緑色チャート製である。また、分布図は、ナイフ形石器などの決定器種を点座標で表し、剥片・石核などの工程器種を網掛けで表している。網掛けは工程器種の総重量（g）により網掛け％を設定している（第８図）。

決定器種

Ⅰ　ナイフ形石器　（第９図１～４）

１は小型縦長剥片を素材とする。側縁には対向調整が施されている。４は小型縦長剥片を素材とする。側縁全周にはプランティングが施されている。



第５図　後期旧石器時代遺構分布図（S=1/500）

第６図　後期旧石器時代遺物分布図（S=1/500）

Ⅱ　スクレイパー（第９図５～８）

６～７は削器、５・８は掻器である。８は横長剥片を素材とする。背面には一部自然面を残す。下縁に剥離調整痕がある。また腹面右側縁には使用したと考えられる痕跡がある。

Ⅲ　二次加工剥片（第９図17）　微細剥離剥片（第９図11・13・15～16、第10図23・24）

16は石刃を素材としている。腹面右側縁に微細剥離痕が認められる。17は背面右側縁に二次加工が施されている。

Ⅳ　磨石・敲石（第10図28～31）

28は礫全体に磨痕・敲打痕が認められる。30は上下面に敲打痕がある敲石である。上下面ともに敲打した影響か、縦にヒビが入る。

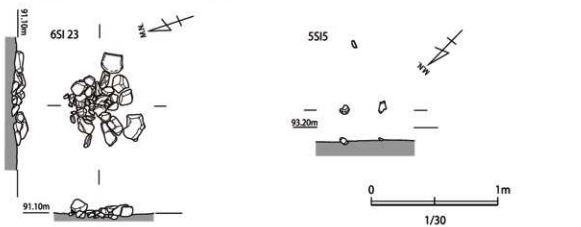
工程器種

Ⅰ　剥片（第９図９～10・12・14・18～20、第10図21・22・25）

16・21については、５区東側で並んで出土した。その周辺には炭化材が集中して検出されたが遺構は確認できなかった。この炭化材（分析番号25）を放射性炭素年代測定、樹種同定の分析をおこなったところ、炭化材はコナラ属と同定され、炭素年代測定は28,140±100年BPであることがわかった（第９節）。

Ⅱ　石核（第10図26・27）

26・27は尾鈴山溶結凝灰岩製の石核である。

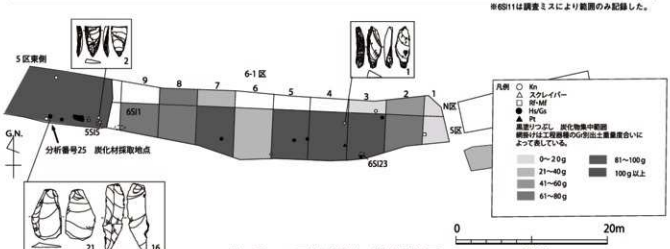


第7図　AT 下位層遺構実測図

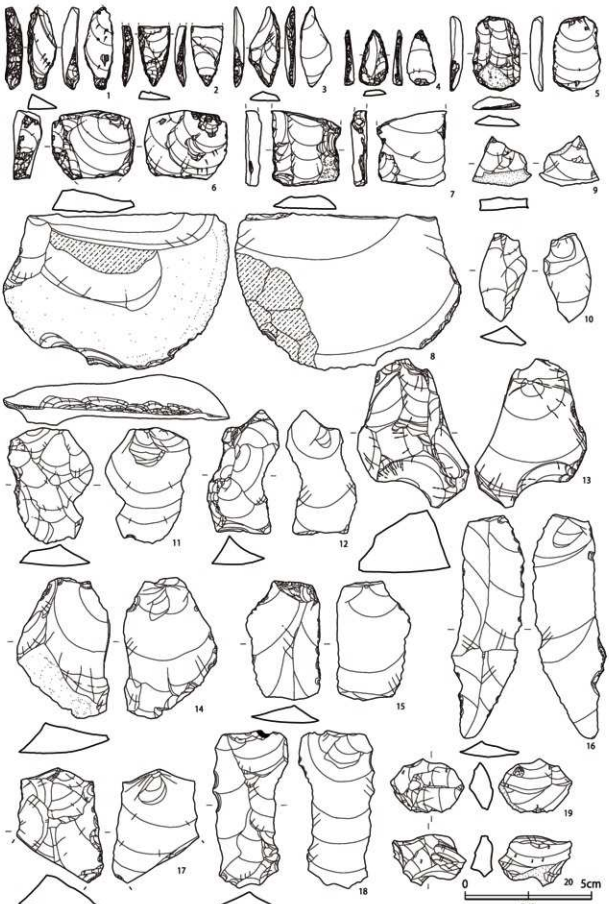
第３表　AT下位層遺構観察表

調査区	遺構名	検出層位	Gr.	構成礫 最長（m）	最短（m）	礫数量（個）	礫重量（kg）	石材	赤化の具合	自然科学分析/出土遺物	分類
5	5SI5	Ⅶb	東	0.58	0.37	3	0.66	Os	ほぼ赤化	－	Ⅱb
6－1	6SI1	Ⅵ～Ⅶ	S10	(0.6)	(0.3)	－	－	Os	ほぼ赤化	－	－
6－1	6SI23	Ⅶ下	S3	0.75	0.63	52	25	Os	若干赤化	炭化材コナラ節 28,660±110年BP	Ⅰb

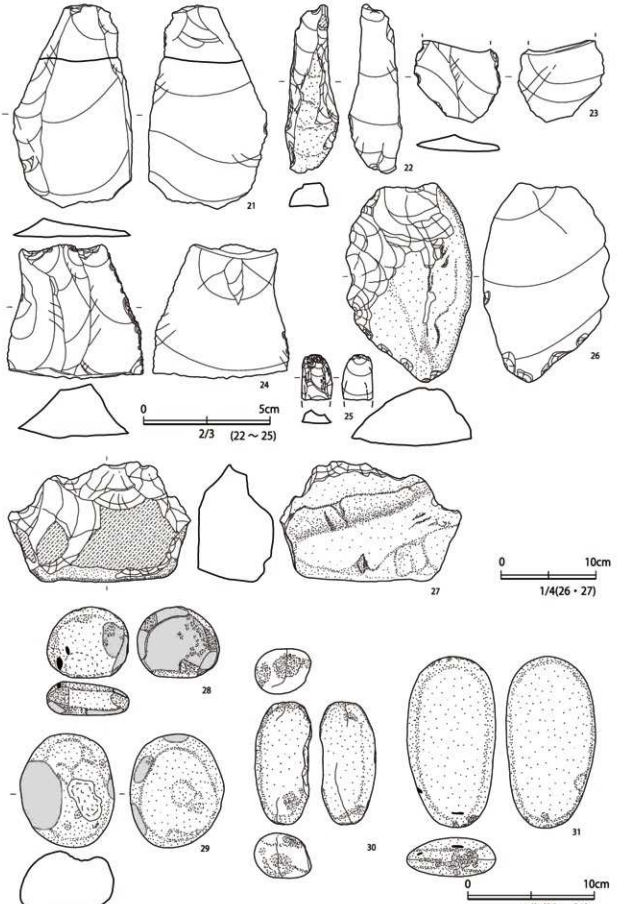
※6SI1は調査ミスにより範囲のみ記録した。



第8図　AT 下位層遺構・遺物分布図



第9図　AT 下位層石器実測図（1）



第 10 図 AT 下位層石器実測図（2）

3　AT上位の遺構と遺物

AT上位層の礫群（第11～12図・第4表）

AT上位の礫群は14基検出した。詳細については観察表に示す。5区の東側から4基、6区から10基検出している。5SI2からは160が検出面で出土している。5区についてはAT上位で検出しているものは西側に位置し、礫も散礫でまとまりがない。6区については6SI27から142が出土している。また、6区で検出した礫群のほとんどは比較的直径が50cm内に収まり、小型で礫が集中しているものが多い傾向にある。

AT上位層の遺物

AT上位層の遺物は、本来Ⅴ層中部～Ⅴ層下部の範疇に入るものである。しかし、本遺跡ではAT上位層～縄文時代早期層の遺物の上下移動が激しく、層序と認定時期通りに遺物を取り上げることは困難であった。そのため、縄文時代早期層から出土した石器の多くに後期旧石器時代と考えられる石材や形態をもつ石器がある。これらの石器は今回、AT上位層に掲載し報告する。故に中には縄文時代早期に所属する石器も含まれる可能性がある。

決定器種

Ⅰ　ナイフ形石器　（第13図32～51・55）

- 縦長剥片を素材とする基部加工ナイフ形石器（34・40・39・51）
- 横長剥片または不定形剥片を素材とする二側縁加工ナイフ形石器（35・38・42・43・48・49・50・55）
- 縦長剥片を素材とする二側縁加工ナイフ形石器a（41・46）基部方向に打点をもつ
- 縦長剥片を素材とする二側縁加工ナイフ形石器b（32・33・44・45・47）刃部方向に打点をもつ
- その他（36・37）

32は狸谷型ナイフ形石器に類する特徴をもつ。厚手の不定形剥片を素材とする。二側縁に急斜度のブランティングが施されている。38は小型の横長剥片を素材とする。先端は折損している。二側縁にブランティングを施している。刃部・腹面には微細剥離をもつ。39は小型縦長剥片を素材とする基部加工ナイフ形石器である。打点方向に基部をもつ。基部及び先端部にブランティングが施されている。40は腹面両側縁に微細剥離痕があり、使用痕の可能性がある。基部加工ナイフ形石器である。45・47は縦長剥片を素材とする二側縁加工である。ブランティングが施されている。46は縦長剥片を素材とする。側縁は対向剥離調整である。

Ⅱ　切出形石器（第13図52～57）

53は横長剥片を素材としている。左側面には調整剥離が施されている。またインバースリタッチが認められる。54・56は横長剥片を素材とする。両側縁にブランティングを施している。57は縦長剥片を素材とする。上部を折損している。ナイフ形石器の可能性も考えられる。

Ⅲ　台形石器（第14図58～65）

58は横長剥片を素材とする。両側縁は対向調整による剥離が施されている。裏面にはバルブ除去痕がある。刃部に微細剥離痕をもつ。59も横長剥片を素材とする。表面左側を折損後、両側縁にブランティングを施している。バルブ除去、稜上調整を行っている。58～59は幅の狭い基部をつくり、胴部に抉りを作り出している。61はいわゆる「ノ」の字状の剥片を素材とし、基部にブランティングを施している。ナイフ形石器の可能性も考えられる。58～59・61は今峠型、北牛牧型ナイフ形石器に系統をひく可能性が考えられる。62は縦長剥片を素材とする。両側縁に剥離調整が施されている。その後、稜上調整が施されている。裏面にも調整剥離痕が認められる。

Ⅳ　剥片尖頭器（第14図66～68、第15図69～70）

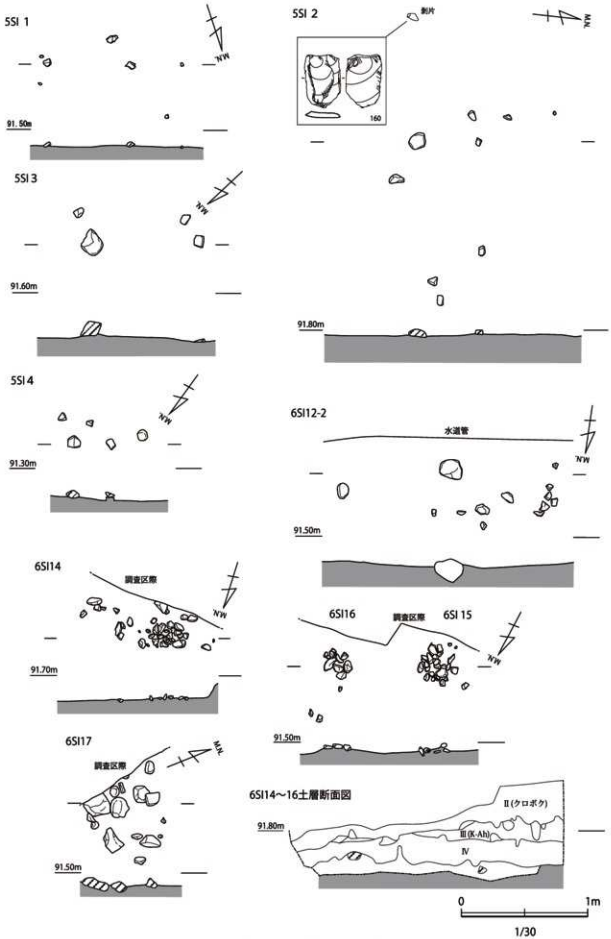
66は縦長剥片を素材とする。打面に基部を設定している。背面右側縁には、先端部から1/3まで調整剥離が施されている。また、基部は基部方向からの剥離を行った後、両側縁から内湾するように剥離調整が行われている。70は縦長剥片を素材とする。背面右側縁の先端から基部にかけて鋸歯状に剥離調整が行われている。また腹面右側縁には微細剥離痕がある。

Ⅴ　角錐状石器（第15図71～73）

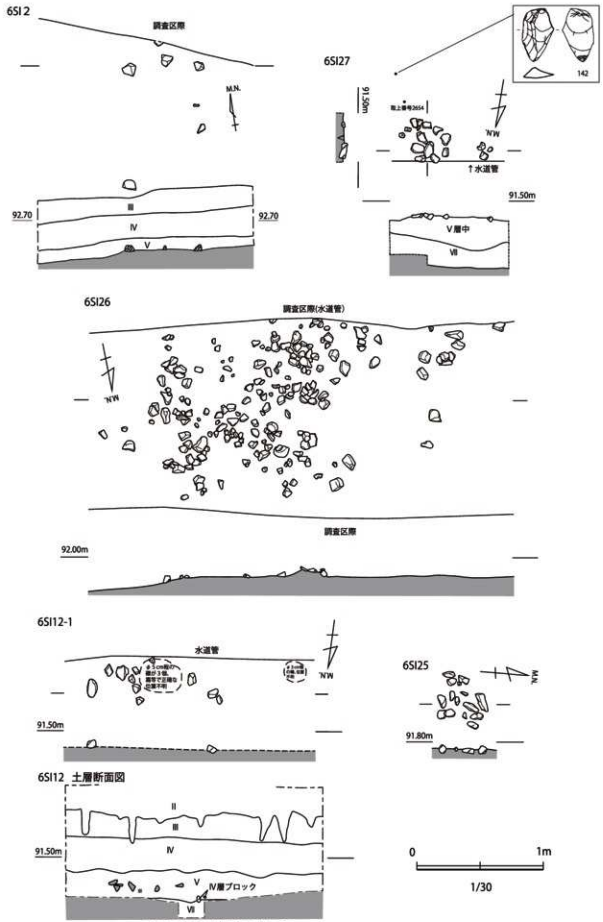
72は不定形剥片を素材としている。背面中央に自然面を残し、側縁から剥離調整を施している。角錐状石器の未製品の可能性がある。

Ⅵ　尖頭器（第15図74）

74は両面調整加工が施されている。上部は折損である。尖頭器の基部の可能性が考えられる。



第 11 図 AT 上位層遺構実測図（1）



※ 平面図に断面図の赤化線は記載なしである。

第 12 図 AT 上位層遺構実測図（2）

Ⅶ　スクレイパー（第15図75～80、第16図81～90）

75～84は削器である。75は不定形剥片を素材とする。下端に両面から腹面右側にスクレイパーエッジが施されている。81は石刃を素材とする。82は縦長剥片を素材とする。81・82は、一側縁のみスクレイパーエッジをもつ。

85～90は掻器である。88は不定形剥片を素材とする。側縁から下縁にかけて剥離調整が施されている。87・89は不定形剥片を素材とする。平坦な打面から剥離調整によりスクレイパーエッジを作り出している。

Ⅷ　細石刃（第17図91～101）

91・92・95・101は頭部調整をもつ。また91・96は側縁に微細剥離痕をもつ。

Ⅸ　二次加工剥片・微細剥離剥片（第19図121～140、第20図141～150）

121～139・147は二次加工剥片である。123は小型の縦長剥片を素材とする。節理打面である。下半部に二次加工がノッチ状に施され、石錐の可能性も考えられる。124は不定形剥片を素材とする。背面左側面に対向方向からの二次加工が施されている。130は横長剥片を素材とする。両面の下縁に両方向からの二次加工が認められる。上面は折損である。132は不定形剥片を素材とする。両側縁に二次加工が施されている。上部は折損である。134は不定形剥片を素材とする。腹面中央にハジケ痕があり、下端には二次加工をもつ。背面右側に石核調整痕があり、打面を有す。135は縦長剥片を素材とする。両側縁に両方向からの二次加工が認められる。背面右側を軸に石核として使用後にこの剥片を剥離したと考えられる。136は縦長剥片を素材とした二次加工剥片である。石核から剥片を剥離後に上下面に剥離調整が施されている。スクレイパーの機能も考えられる。138は不定形の剥片を素材とする二次加工剥片である。両側縁に二次加工が認められる。上面は折損である。ナイフ形石器の可能性も考えられる。

140～146・148～150が微細剥離剥片である。140は石刃である。両側縁に微細剥離痕がある。頭部調整痕をもつ。149は不定形剥片である。下縁、腹面右側縁に微細剥離痕が認められる。150は石刃を素材とする。背面下端にハジケ痕が一部あり、両側縁に微細剥離痕がある。

第４表　AT上位層遺構観察表

調査区	遺構名	検出層位	Gr.	構成礫					自然科学分析/出土遺物	分類
				最長(m)	最短(m)	礫数量(個)	礫重量(kg)	石材	赤化の具合	
5	5SI1	Ⅵ	西	1.15	0.65	7	0.51	Os	8割赤化。		Ⅱb
5	5SI2	Ⅵ上	西	1.54	1.32	9	4.28	Os	8割赤化。	遺物番号160	Ⅱb
5	5SI3	Ⅵ下	西	1.02	0.38	7	4.94	Os	5割赤化。		Ⅱb
5	5SI4	Ⅵ下	西	0.7	0.28	5	0.95	Os	ほぼ赤化が強く、2点のみ若干赤化。		Ⅱb
6-3	6SI2	Ⅴ	―	1.1	0.7	7	―	Os	5割赤化。		Ⅱb
6-1	6SI12-1	Ⅴ中	S2	1.07	0.38	11	―	Os+Qu	若干赤化。		Ⅱb
6-1	6SI12-2	Ⅴ下	S2	1.75	0.55	13	―	Os	若干赤化。		Ⅱb
6-1	6SI14	Ⅴ中	S3	1.06	0.38	39	4.6	Os	全て赤化。		Ⅰb
6-1	6SI15	Ⅴ中	S3	0.41	0.36	34	4.25	Os	ほぼ強く赤化。		Ⅰb
6-1	6SI16	Ⅴ中	S3	0.58	0.34	14	1.5	Os	ほぼ強く赤化。		Ⅰb
6-1	6SI17	Ⅴ中	S3	0.82	0.65	16	17.1	Os	2点のみ赤化。		Ⅱb
6-1	6SI25	Ⅴ下	N8	0.44	0.4	17	6	Os	全て赤化。強い。		Ⅱb
6-1	6SI26	Ⅴ中～下	N9	3.21	1.44	178	34.5	Os	若干赤化。		Ⅱb
6-1	6SI27	Ⅴ中	S2	0.74	0.35	18	3.5	Os	若干赤化。	遺物番号142、取上番号2654	Ⅱb

X　敲石・磨石（第30図241～249）

V層では多くの敲石が出土した。出土した敲石には上下面のどちらかにヒビがはいっているものが多かった。また、敲石が集中した6区Gr.S4～S5には敲石に伴いチャートの人頭大程の原石も出土した（図版11参照）。

241～245・248は上下面に敲打痕が認められる。245は上下面に敲打痕、左側面・裏面に磨痕がある。246は表裏面に磨痕、表面右側面に敲打痕がある。

工程器種

Ⅰ　剥片（第17図102、第20図151・152、第21図153～162、第22図163～173、第23図174～181、第25図182～193、第26図194～205、第27図206～210）

102は作業面再生剥片である。背面に細石刃剥離作業面があることから、細石刃などの剥離をおこなった後に石核から剥離した作業面再生剥片と考えられる。151・153・157は頭部調整が認められる。152は砂岩製の剥片である。160はSS12と同面で出土した。181は石刃である。背面左下に初期段階の剥片の腹面痕があり、この腹面を石核から剥離した後、左上面、右側を打面方向から剥離したと考えられる。184は不定形剥片である。また、自然面の範囲から原石の大きさとほぼ同じである。206は不定形剥片である。剥離状況から瀬戸内技法の特徴を持つ石核の可能性も考えられる。

Ⅱ　細石刃核（第17図103～108、第18図109～120）

a分割礫を素材とし、分割礫面を打面に設定する。側面を調整し作業面を長軸の一端に設定する場合が多いもの。いわゆる船野型細石刃核Ⅰ類に類する特徴を持つもの（103～105・109）。船野型細石刃核Ⅱ類に類する特徴を持つもの（106～108）。

103は分割礫を素材とする。側面調整、打面部に平坦剥離調整を施した後に細石刃を採取している。底面は自然面である。105は細石刃作業面が周囲をめぐる。109はブランクの接合資料である。109-1は節理面打面である。ブランク成形の際に109-2が剥離された剥片である。107・108はブランクである。107はⅦ層から出土しているが、剥離状況から船野型Ⅱ類のブランクとした。

b分割礫を素材とし、石核形態が円錐形となるもの。いわゆる野岳・休場型細石刃核の特徴に類するもの（110～111）。

110は分割礫を素材とし、打面調整を施している。右側面に自然面を残す。

c幅広剥片を素材とし、両面加工または片面加工のブランクをつくり、側方打面調整をおこなったもの。いわゆる西海技法に類する特徴をもつもの（112～119）。

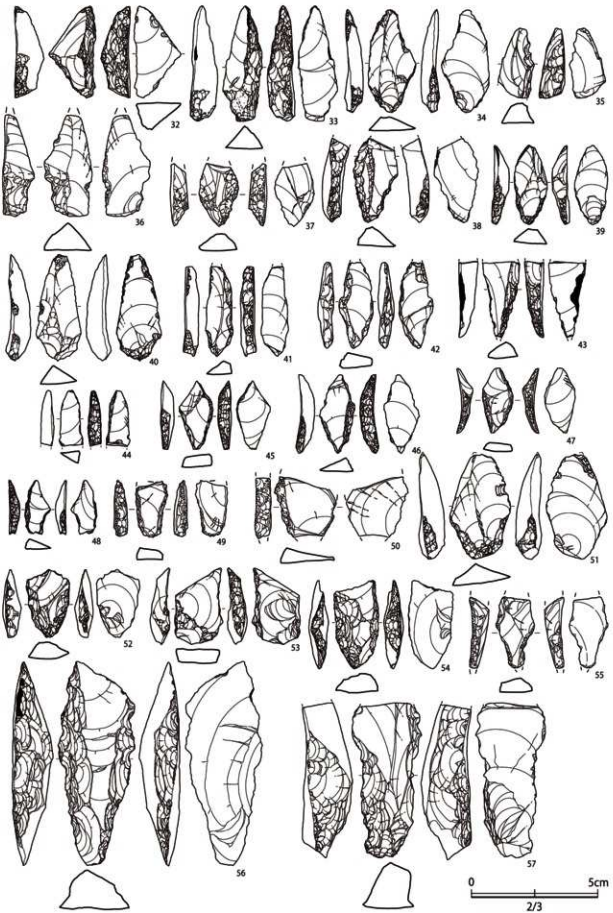
112は厚手の不定形剥片を素材とする。打面には横打調整が施され、背縁に調整痕がある。右側面はハジケ痕である。115は不定形剥片を素材とする。背面調整をおこなっている。そのため、表面・上面に細石刃剥離作業面がある。作業面転移がおこなわれている。下面は折損である。118は不定形剥片を素材とする。側方打面調整がおこなわれている。左側面に節理面がある。119は不定形剥片を素材とする。側方打面調整が施されている。細石刃を剥離後打面再生した細石刃核か、打面再生剥片の可能性も考えられる。

dその他（120）

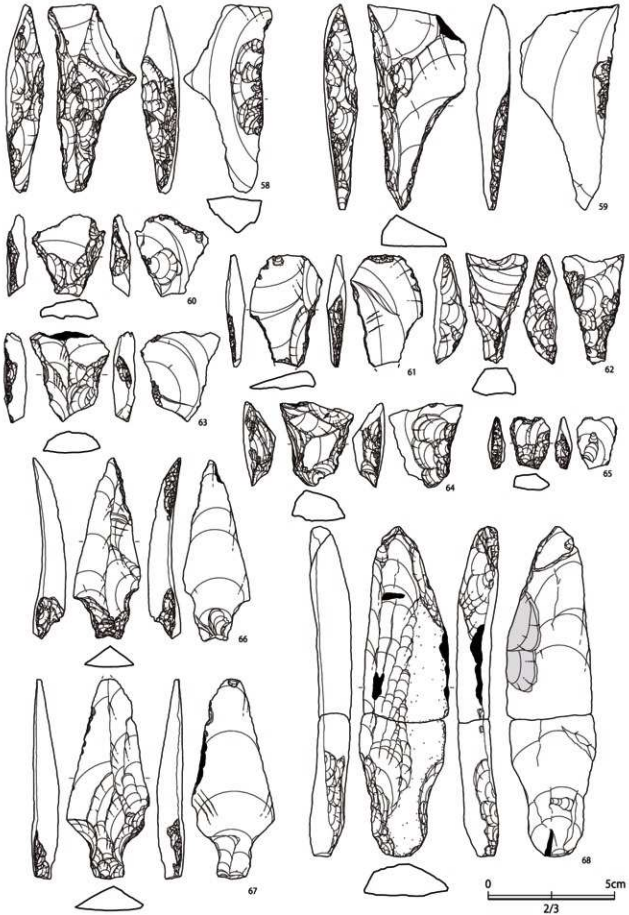
120は縦長剥片を素材とする。剥片の背面左下面を細石刃核の打面とし、側方打面調整が施されている。剥片の側縁で細石刃を採取していると考えられる。

Ⅲ　石核（第27図211～213、第28図214～226、第29図227～240）

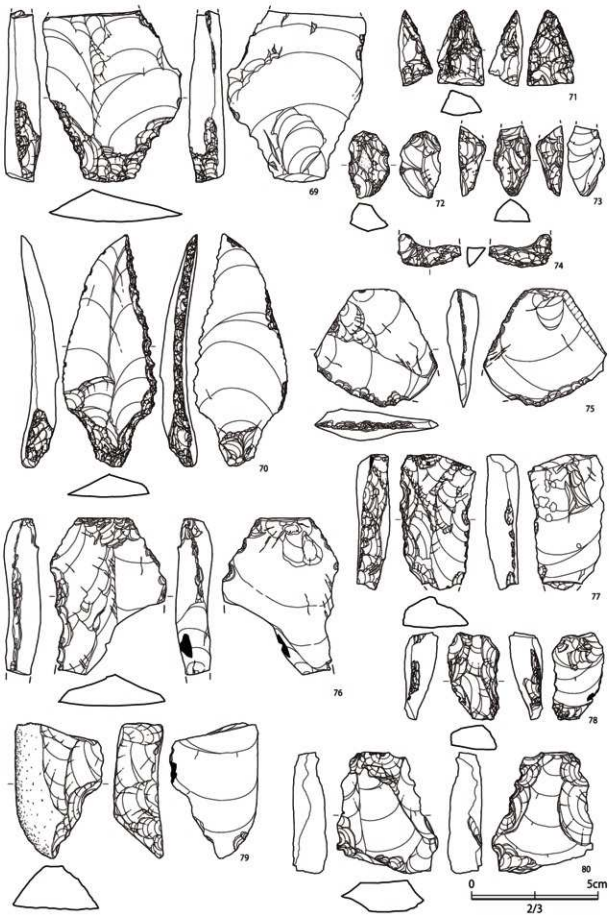
211は本来あった原石の裏面から剥片を剥離している。礫器の可能性も考えられる。212は不定形剥片を素材とする石核である。両面の左側縁に二次加工または剥片採取をしている。鋸歯状の剥離はスクレイパーエッジの可能性も考えられる。215は打面転移を繰り返しながら剥片を採取したと考えられる。230は打面転移を行いながら小型の剥片を剥離採取している。細石刃の剥離作業面再生剥片の可能性も考えられる。238は側縁から剥片を剥離・採取している。裏面は自然面である。礫器の可能性も考えられる。239は瀬戸内技法をもった石核である。珪質頁岩を石材とし、山形状に表面右側を調整した後に打面を頂部に打撃を加え翼状剥片を剥ぎとっている。また、表面には数カ所ハジケ痕がある。240は尾鈴山溶結凝灰岩製の石核である。腹面中央にある剥離面からの順番で全体を外方向から剥片を剥離・採取をおこなっている。一部に自然面、節理面を有する。



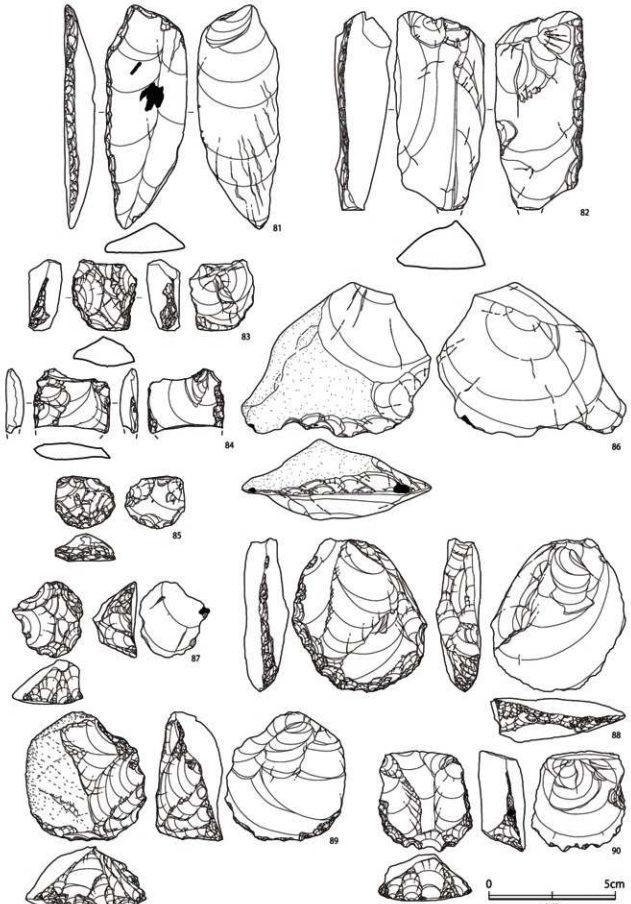
第 13 図　AT 上位層石器実測図（1）



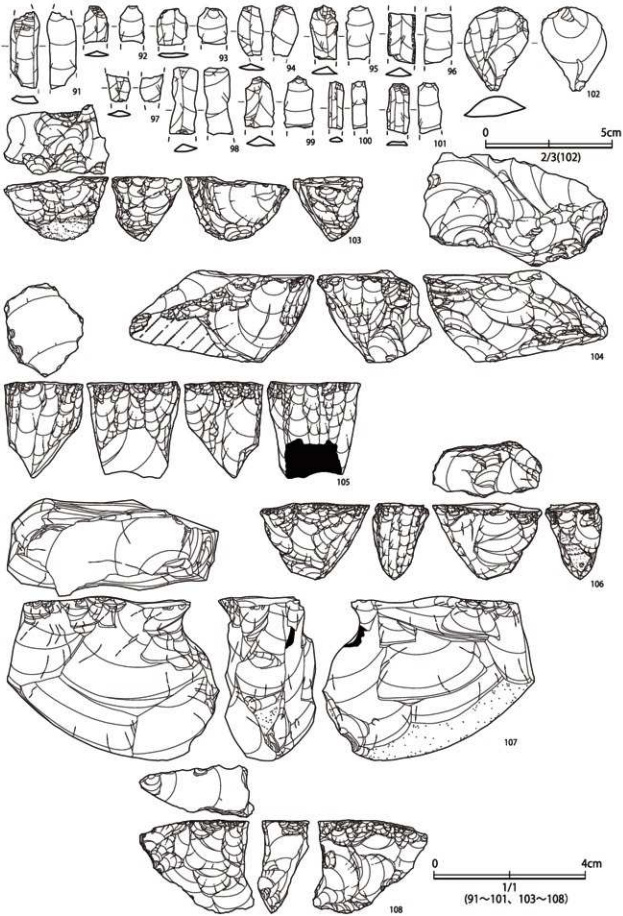
第 14 図　AT 上位層石器実測図（2）



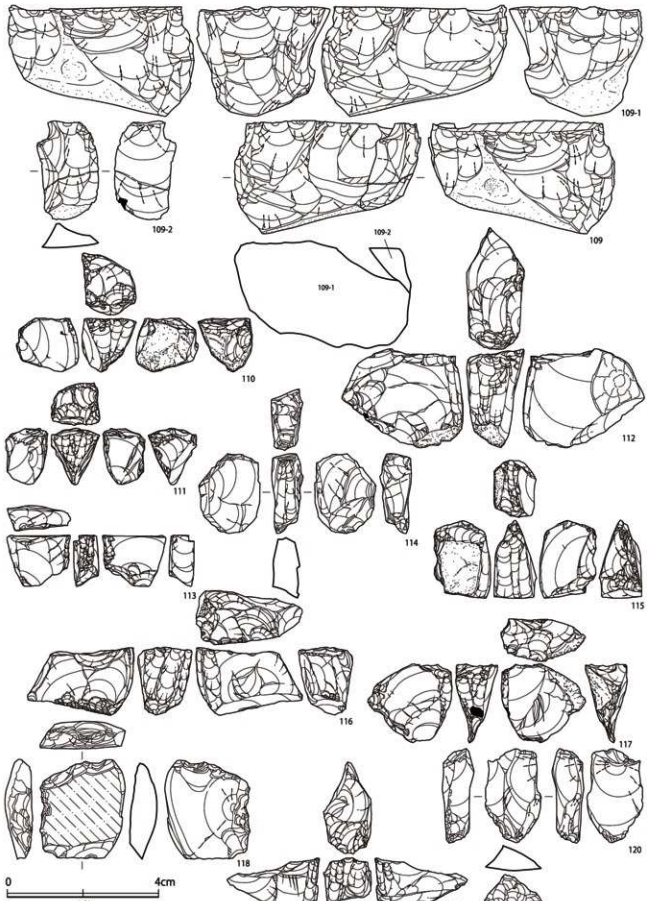
第 15 図　AT 上位層石器実測図（3）



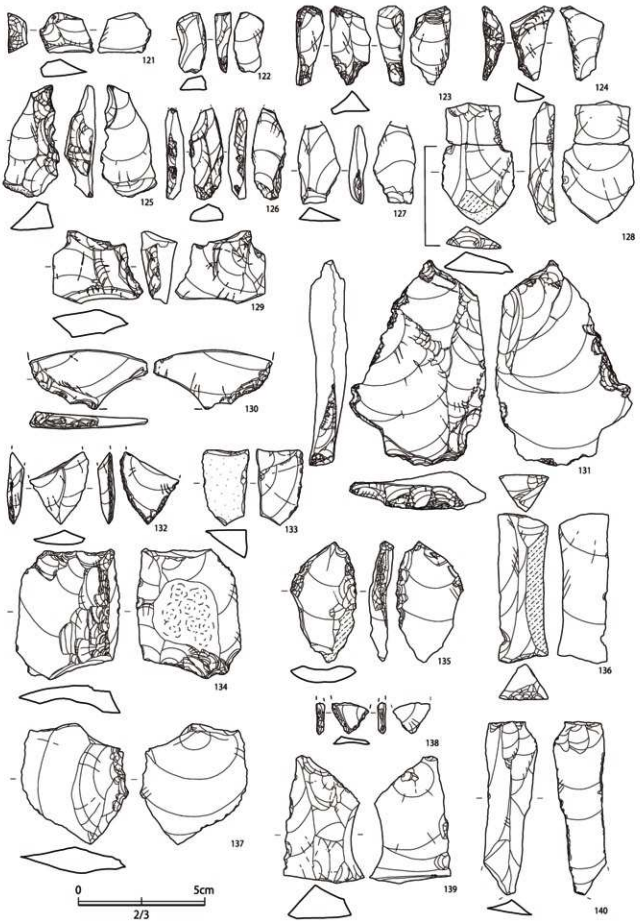
第 16 図　AT 上位層石器実測図（4）



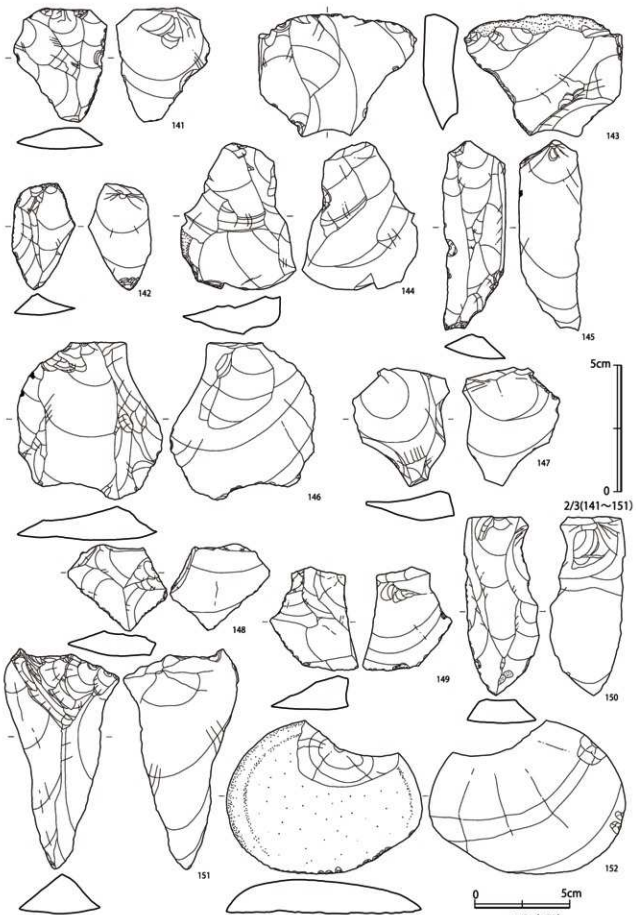
第 17 図　AT 上位層石器実測図（5）



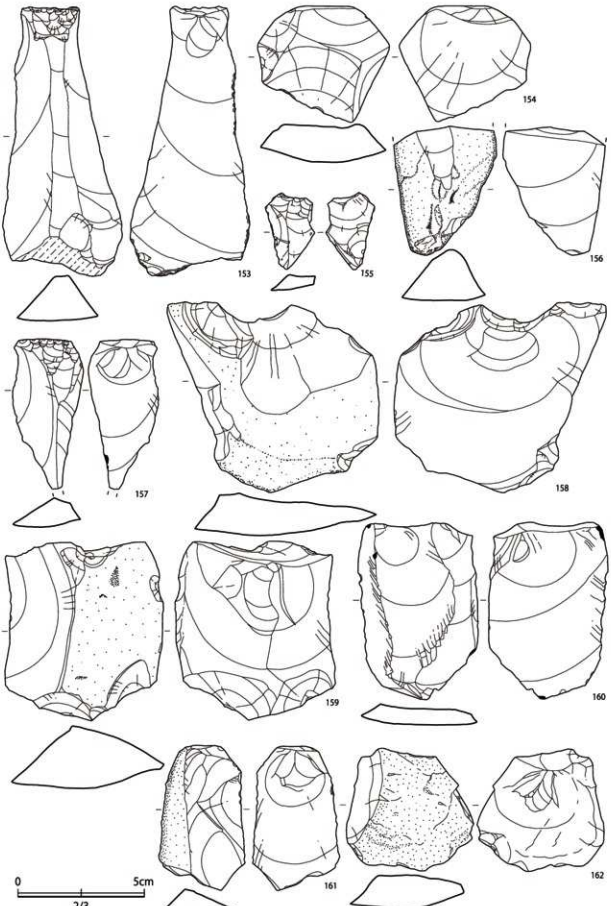
第 18 図　AT 上位層石器実測図（6）



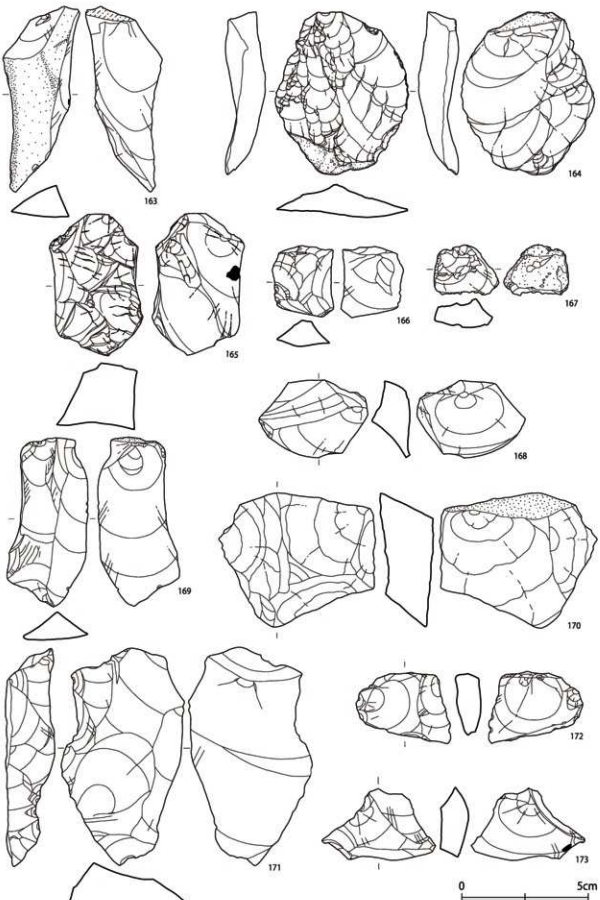
第 19 図　AT 上位層石器実測図（7）



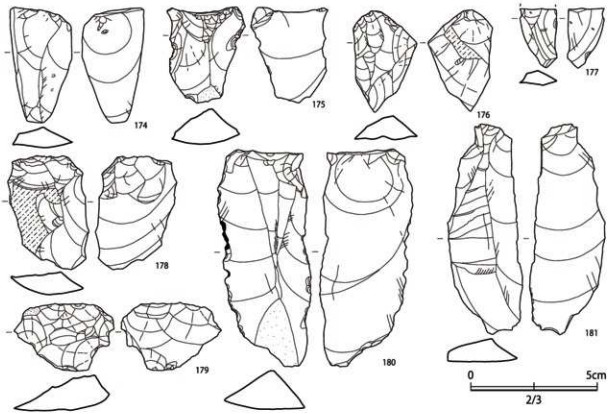
第 20 図　AT 上位層石器実測図（8）



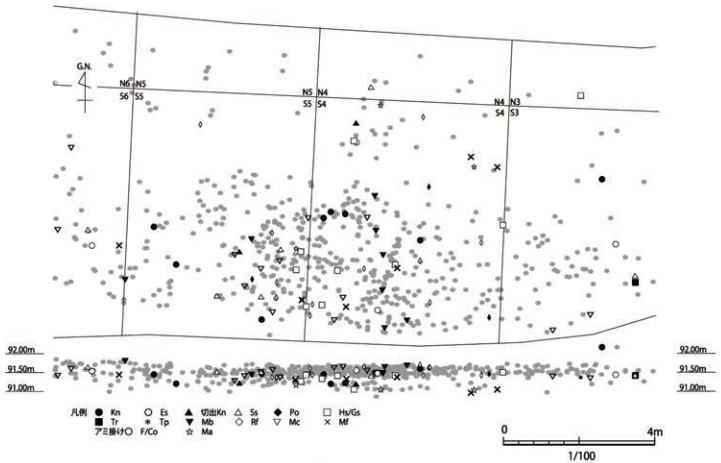
第 21 図　AT 上位層石器実測図（9）



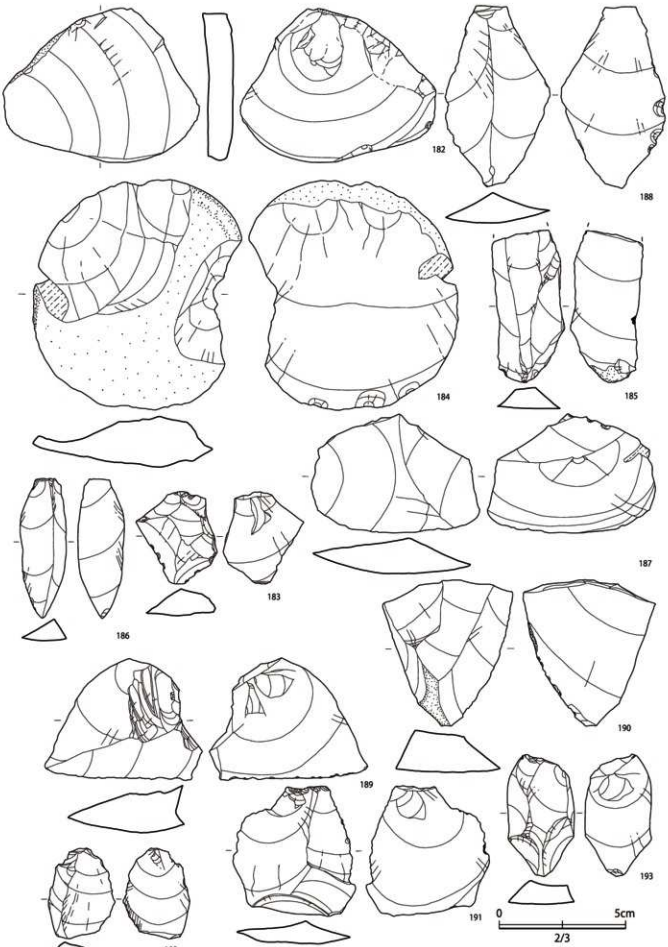
第 22 図　AT 上位層石器実測図（10）



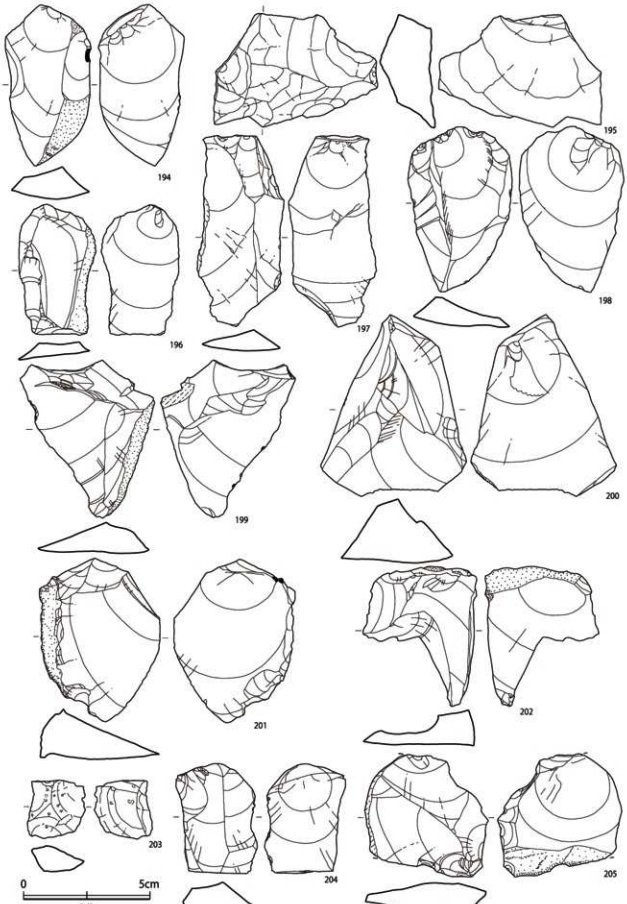
第 23 図　AT 上位層石器実測図（11）



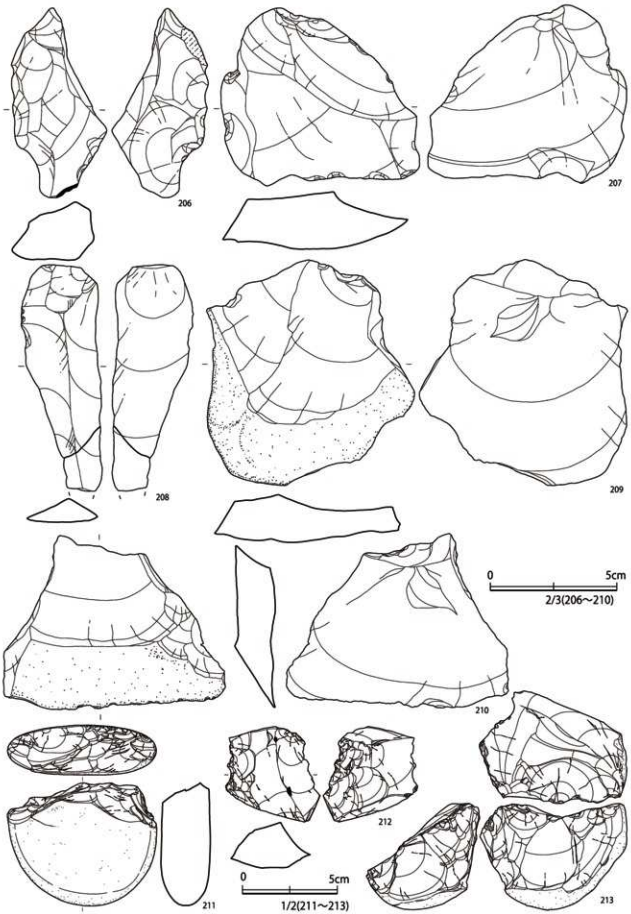
第 24 図　AT 上位層遺物器種別分布図・垂直分布図



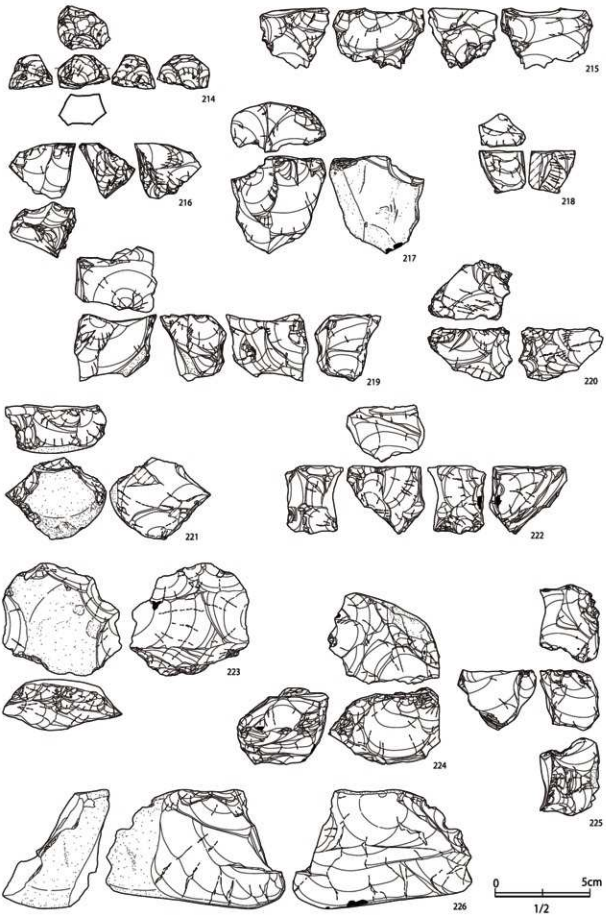
第 25 図　AT 上位層石器実測図（12）



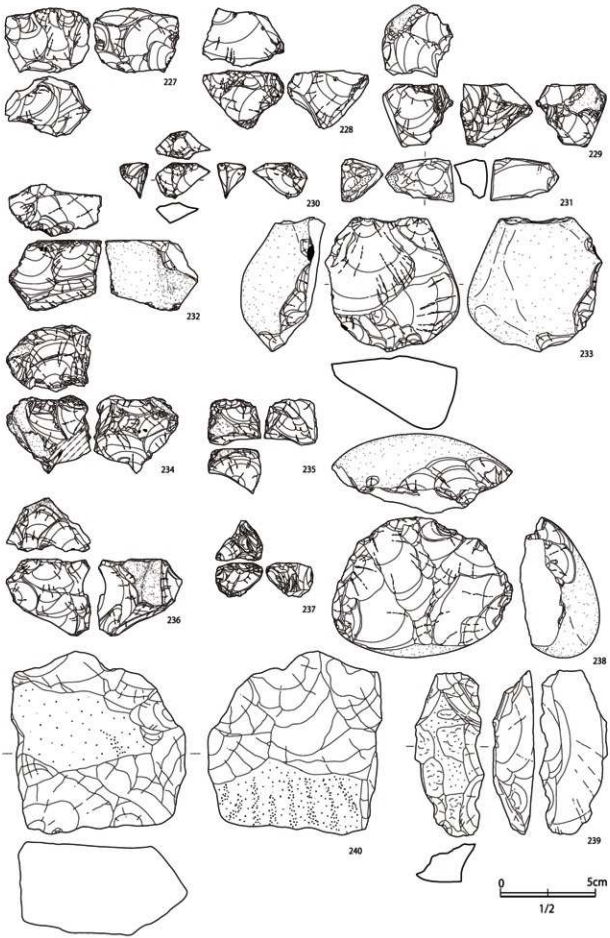
第 26 図　AT 上位層石器実測図（13）



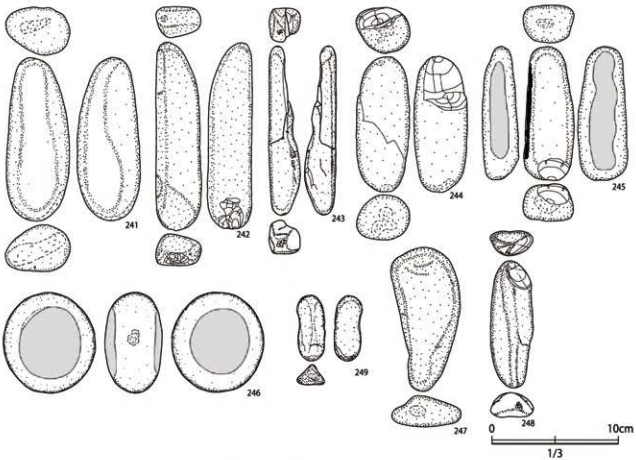
第 27 図　AT 上位層石器実測図（14）



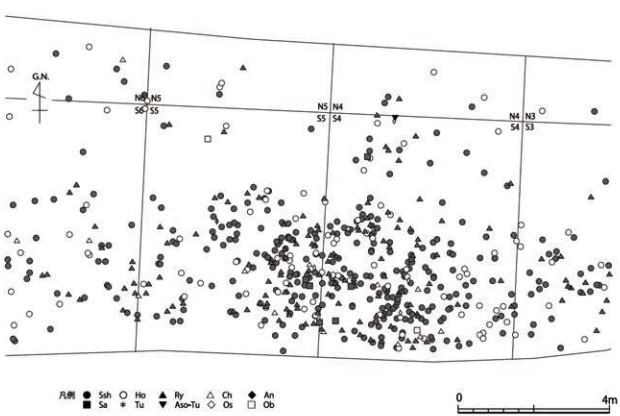
第 28 図　AT 上位層石器実測図（15）



第 29 図　AT 上位層石器実測図（16）



第 30 図　AT 上位層石器実測図（17）



第 31 図　AT 上位層遺物石材別分布図

第５表　後期旧石器時代遺物観察表（１）

※出土位置の東西は５区、S・N＋数字は小グリッドを示す。また水は、６－１区内の水道管埋設下の包含層、またはその付近を示す。水道管は調査区中央を東西に延びる。

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
1	Ⅶ下	S4	Kn	Ob Ⅱ	3.23	1.12	0.60	0.70	-77338.475	52214.854	90.87	縦長剥片を素材。両側縁に対向剥離調整。先端は折損。二側縁加工。
2	Ⅶa	東	Kn	Ch Ⅱ	2.33	1.23	0.39	1.30	-77338.359	52182.499	92.13	縦長剥片を素材。両側縁に剥離調整。先端は折損。二側縁加工。
3	Ⅶ上	N3	Kn	Ho	3.15	1.19	0.39	1.40	-77336.909	52218.974	91.00	縦長剥片を素材。両側縁に剥離調整。二側縁加工。
4	Ⅰ	東	Kn	Ch Ⅱ	1.99	1.14	0.36	0.80	-77337.779	52182.339	92.04	縦長剥片を素材。全側縁に剥離調整。腹面先端・下端に平坦剥離。Xb 以外の可能性あり。
5	Ⅶa	東	Es	Ch Ⅱ	2.88	1.84	0.47	3.00	-77338.079	52181.039	92.21	縦長剥片を素材。背面左下側縁に剥離調整。微細剥離痕あり。
6	Ⅶb	東	Ss	Ch Ⅱ	2.66	3.27	1.10	10.80	-77338.989	52182.549	93.17	不定形剥片を素材。背面左側縁に剥離調整。腹面にバルブ除去。
7	Ⅰ	東	Ss	Ch Ⅱ	2.91	2.69	0.61	7.10	-77337.839	52180.999	92.26	縦長剥片を素材。頭部・末端部折損。
8	Ⅵ下Ⅶ上	S5	Es	Sh Ⅰ	6.20	3.90	2.00	111.00	-77342.509	52205.141	91.27	横長剥片を素材。下側縁に剥離調整。腹面右側縁に微細剥離痕。背面に自然面。
9	Ⅶb	東	F	Ob Ⅱ	2.00	2.30	0.50	1.97	-77335.429	52180.699	92.92	不定形剥片。左側縁折損。
10	Ⅵ下Ⅶ上	S4	F	Ry Ⅰ	3.50	1.90	0.80	3.67	-77339.732	52210.801	91.05	不定形剥片。
11	Ⅶ上	N2	Mf	Sh Ⅰ	4.50	3.40	0.80	12.42	—	—	—	背面左側縁に微細剥離痕。
12	Ⅶb	東	F	Sh Ⅰ	4.90	2.80	1.10	12.00	-77333.089	52180.879	92.97	縦長剥片。
13	Ⅵ下Ⅶ上	S5	Mf	Ry Ⅰ	5.90	4.40	2.90	55.10	-77339.194	52210.076	91.13	不定形剥片。腹面右側縁に微細剥離痕。背面に自然面。
14	Ⅵ下Ⅶ上	N8	F	Ry Ⅰ	5.50	3.70	1.20	26.10	-77334.382	52192.372	91.66	不定形剥片。背面に自然面。右側は折損。
15	Ⅶb	東	Mf	Sh Ⅰ	4.70	2.90	0.70	12.00	-77332.459	52176.719	92.96	頭部調整痕あり。両側縁に微細剥離痕。
16	Ⅶa	東	Mf	Sh Ⅰ	8.80	2.90	0.60	14.49	-77337.889	52175.429	93.13	石刃。両側縁に微細剥離痕。
17	Ⅶ上	S1	Rf	Sh Ⅰ	4.50	3.40	1.40	18.18	-77339.999	52225.399	91.41	背面右側縁に二次加工。末端折損。
18	Ⅶ	N8	F	Ho	6.20	2.90	0.80	12.97	-77334.399	52192.604	91.56	石刃。
19	Ⅶb	東	F	Ob Ⅳ	2.10	2.90	0.90	4.95	-77332.869	52180.509	92.96	不定形剥片。腹面左側縁に自然面。
20	Ⅶa	東	F	Ob Ⅱ	2.00	3.00	0.90	3.79	-77338.259	52178.119	93.13	不定形剥片。腹面下端に自然面。
21	Ⅶa	東	F	Ho	8.00	4.70	0.70	25.71	-77337.949	52175.479	93.16	縦長剥片。
22	Ⅵ下Ⅶ上	S4	F	Sh Ⅱ	6.60	2.10	0.90	16.19	-77339.296	52211.102	91.13	縦長剥片。背面に自然面。
23	Ⅵ	S8	Mf	Sh Ⅰ	3.30	3.40	0.70	6.86	—	—	—	不定形剥片。背面両側縁に微細剥離痕あり。上部折損。
24	Ⅶ	6－3	Mf	Sh Ⅱ	5.30	5.40	2.10	58.72	-77341.969	52241.759	93.00	不定形剥片。頭部調整痕あり。背面右側縁に微細剥離痕。下半部折損。
25	Ⅵ下	S4	F	Sh Ⅰ	1.80	1.20	0.55	1.40	-77340.505	52213.196	90.98	縦長剥片。頭部調整痕あり。下半部折損。
26	Ⅶ	N2	Co	Os	21.00	13.30	6.10	1820.00	—	—	—	側縁から左側縁に剥離痕。
27	Ⅵ下	S4	Co	Os	12.80	19.20	8.00	2375.00	-77341.406	52214.895	91.06	上縁に剥離痕。背面に節理面。
28	Ⅶa	東	Gs/Hs	Sa	5.60	6.50	2.70	135.90	—	—	—	全体的に敲打痕、磨痕。
29	Ⅶ	S7	Gs/Hs	Os	8.90	6.90	5.00	437.50	-77340.57	52198.567	91.31	側面に磨痕。上下面に一部敲打痕。
30	Ⅶa	東	Hs	Sa	9.70	4.50	3.60	216.30	-77337.999	52177.449	93.07	上下面に敲打痕。
31	Ⅵ下	S5	Hs	Sa	13.60	7.00	3.10	438.30	-77340.591	52209.916	90.95	上下面に敲打痕。
32	Ⅵ下Ⅴ上	S4	Kn	Sh Ⅲ	3.60	1.76	1.09	5.40	-77340.089	52210.429	91.42	不定形剥片を素材。腰谷型ナイフ形石器。対向調整。
33	Ⅵ下Ⅴ上	S6	Kn	Ry Ⅰ	4.54	1.42	1.01	5.90	-77339.069	52200.949	91.65	縦長剥片を素材。二側縁加工。対向調整。
34	Ⅲ下Ⅳ上	S3	Kn	Sh Ⅰ	4.04	1.84	0.70	4.30	-77339.069	52217.789	91.61	縦長剥片を素材。基部加工。先端両側縁に微細剥離痕。
35	Ⅳ上	S4	Kn	Sh Ⅰ	2.74	1.28	0.94	3.20	-77340.679	52212.979	91.62	横長剥片を素材。先端部・下部折損。背面右側縁に剥離調整。
36	Ⅳ下	S9	Kn	Ho	4.00	1.90	1.20	6.80	-77336.589	52190.239	92.27	不定形剥片を素材。先端は折損。対向調整。一側縁加工。背面左下半に調整。
37	Ⅳ下Ⅴ上	S3	Kn	Sh Ⅰ	2.45	1.60	0.65	2.60	—	—	—	不定形剥片を素材。上端は折損。剥離調整。背面に礫面。
38	Ⅳ下Ⅴ上	S5	Kn	Sh Ⅰ	3.29	1.74	0.78	4.30	-77342.777	52208.789	91.37	横長剥片を素材。先端は折損。剥離調整。腹面に微細剥離痕。
39	Ⅳ下Ⅴ上	S5	Kn	Ry Ⅰ	3.11	1.28	0.58	2.30	-77340.325	52205.94	91.41	縦長剥片を素材。基部及び先端部に加工。
40	Ⅲ下Ⅳ上	S6	Kn	Sh Ⅰ	4.19	1.78	0.84	5.40	-77341.119	52202.299	91.85	縦長剥片を素材。基部加工。先端部、左側縁部折損。
41	Ⅴ上	N9	Kn	Sh Ⅰ	3.52	1.08	0.55	2.40	-77334.33	52185.701	91.97	縦長剥片を素材。先端折損。背面左側縁に微細剥離痕。
42	Ⅴ	S4	Kn	Ho	3.35	1.33	0.60	2.40	—	—	—	不定形剥片を素材。剥離調整。二側縁加工。先端部折損。

第５表　後期旧石器時代遺物観察表（２）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	Y	Z	観察所見
43	5西V	西	Kn	RyⅠ	2.97	1.44	0.74	2.60	-77338.619	52131.959	91.47	不定形剥片を素材。対向剥離調整。上部折損。
44	V下	S4	Kn	SshⅠ	2.18	0.93	0.51	1.00	-77339.933	52210.62	91.19	不定形剥片を素材。基部・先端部が折損。対向調整。
45	V	S7	Kn	RyⅠ	2.68	1.33	0.52	1.80	—	—	—	縦長剥片を素材。二側縁加工。剥離調整。
46	V	S7	Kn	RyⅠ	3.06	1.33	0.55	2.00	—	—	—	縦長剥片を素材とする。対向剥離調整。二側縁加工。
47	V下	S5	Kn	SshⅠ	2.55	1.20	0.60	1.30	-77341.322	52206.528	91.25	不定形剥片を素材。剥離調整。二側縁加工。先端部折損。
48	V下	S4	Kn	RyⅠ	2.06	0.98	0.40	2.00	-77339.987	52210.998	91.19	不定形剥片を素材。剥離調整。二側縁加工。
49	Ⅳ上	S5	Kn	SshⅠ	2.20	1.25	0.55	1.80	—	—	—	不定形剥片を素材。先端は折損。剥離調整は上縁まで施す。
50	V	S4	Kn	SshⅠ	2.35	2.40	0.65	3.30	—	—	—	不定剥片を素材。上部、下半は折損。剥離調整。
51	Ⅳ下V上	N9	Kn	SshⅢ	4.10	2.33	1.01	8.10	-77334.33	52185.694	91.97	縦長剥片を素材。打面に基部を設定。先端付近に微細剥離痕。先端部折損。
52	V上	S8	Kds	ChⅡ	2.64	1.69	0.71	2.90	-77337.159	52193.363	91.91	不定形剥片を素材。両側縁に剥離調整。刃部は山形。
53	V上	S7	Kds	SshⅠ	2.64	1.89	0.76	4.40	-77339.891	52198.49	91.54	横長剥片を素材。両側縁に剥離調整。
54	Ⅳ下	6-3	Kds	ChⅡ	3.23	1.75	0.75	4.60	-77342.039	52241.009	93.24	横長剥片を素材。両側面に剥離調整。
55	V	S6	Kn	SshⅠ	2.80	2.50	0.75	2.60	—	—	—	不定形剥片を素材。上端は折損。調整剥離で基部をつくる。二側縁加工。
56	V上	S4	Kds	SshⅠ	7.88	3.04	1.59	30.40	-77337.58	52211.29	91.16	横長剥片を素材。剥離調整。
57	V下	S5	Kds	SshⅠ	6.06	2.72	1.90	29.00	-77340.981	52208.203	91.25	縦長剥片を素材。剥離調整。上部は折損。
58	Ⅳ下V上	S3	Tr	RyⅠ	7.38	3.06	1.46	23.20	-77341.793	52218.674	91.41	横長剥片を素材。両側縁を剥離調整、腹上調整。バルブ除去痕あり。刃部に微細剥離痕。
59	一括	—	Tr	RyⅠ	7.93	3.64	1.28	27.90	—	—	—	横長剥片を素材。腹面左側を切断後、両側縁を剥離調整。バルブ除去痕。腹上調整。微細剥離痕あり。
60	V下	N8	Tr	RyⅠ	3.24	2.81	0.78	5.70	-77334.925	52193.066	91.78	横長剥片を素材。両側縁に剥離調整。刃部は微細剥離痕。
61	V下	S2	Tr	RyⅠ	4.38	2.69	0.73	6.90	-77341.059	52222.959	91.53	「ノ」の字状の剥片素材。両側縁に調整剥離。
62	3T	S6	Tr	RyⅠ	4.05	2.41	1.28	10.60	-77338.229	52200.339	91.52	横長剥片を素材。両側面、腹面に剥離調整痕。また背面に腹上調整痕。
63	V上	N8	Tr	RyⅠ	3.51	2.93	0.85	8.80	—	—	—	不定形剥片。両側縁は剥離調整。刃部に欠損。
64	V上	S6	Tr	RyⅠ	3.28	2.79	1.24	10.00	-77340.022	52200.856	91.52	不定形剥片。両側面に剥離調整痕。腹面バルブ除去痕。
65	1T	S9	Tr	ChⅡ	2.02	1.57	0.67	2.30	-77339.029	52188.179	92.11	不定形剥片。剥離調整痕。刃部にも微細剥離痕。
66	V上	S5	Po	RyⅠ	7.09	2.56	1.18	14.70	-77341.709	52208.539	91.43	縦長剥片を素材。打面に基部を設定。背面右側縁には、先端部から１／３まで、基部に調整剥離痕。
67	V中	S2	Po	RyⅠ	7.92	3.19	1.03	21.80	-77340.179	52221.789	91.44	縦長剥片を素材。基部のみ剥離調整。先端が折損。
68	接合資料	—	Po	Ho	13.07	3.40	1.48	76.20	-77336.819 -77336.859 -77336.869	52188.449 52188.399 52189.139	92.04 92.05 92.07	縦長剥片を素材。風化が著しい。取上番号 2-6　1016 V下VI上+1017V下VI上+1215V～VI上接合
69	V上	S4	Po	SshⅠ	6.68	5.32	1.39	41.80	-77342.719	52214.807	91.41	縦長剥片を素材。上端は折損。
70	Ⅳ下V上	S4	Po	SshⅠ	9.02	3.71	1.12	30.50	-77339.266	52213.212	91.26	縦長剥片を素材。背面右側縁部腹面状剥離および基部調整。
71	Ⅳ下V上	水	Tp	RyⅠ	2.97	1.81	1.25	5.40	—	—	—	腹面および右側縁に調整剥離。下端は折損。
72	Ⅳ上	S4	Rf	ChⅠ	2.65	1.55	1.10	4.00	-77342.669	52210.069	91.67	背面中央に自然面を残し、側縁から調整剥離。角錐状石器の未製品か。
73	V下	N3	Tp	SshⅡ	2.75	1.45	1.10	3.80	-77336.855	52217.23	91.07	素材は縦長剥片。腹面から側面を剥離調整。上面は折損。
74	Ⅳ下	S7	Po	SshⅡ	2.45	1.30	0.75	1.60	-77339.639	52198.479	91.83	両面調整加工。上部折損。先端器の基部か。
75	Ⅳ下V上	S6	Ss	SshⅠ	4.65	4.95	1.30	21.40	-77340.399	52204.199	91.57	不定形剥片を素材。下端に両面および腹面右側にスクレイパーエッジ。上面節理。
76	V上	N4	Ss	SshⅡ	6.20	4.60	1.40	33.10	-77336.631	52211.686	91.03	縦長剥片を素材。両側縁に調整剥離痕。頭部調整痕あり。下部は折損。ハジケ痕あり。
77	Ⅳ下V上	S5	Ss	RyⅠ	5.32	2.92	1.26	22.60	-77340.922	52209.296	91.39	縦長剥片を素材。左側縁には剥離調整。
78	Ⅳ下V上	S5	Ss	ChⅡ	3.31	2.02	1.22	9.40	-77342.169	52208.779	91.52	縦長剥片を素材。両側縁に剥離調整。
79	1T	S8	Ss	Ho	5.18	3.50	1.81	36.80	-77339.449	52190.199	92.12	縦長剥片を素材。左側に自然面。上端折損。
80	Ⅳ下V上	S5	Ss	SshⅠ	4.58	3.98	1.32	29.30	-77342.149	52207.609	91.49	縦長剥片を素材。腹面に剥離調整痕。頭部調整痕あり。
81	1T	S8	Ss	Ho	8.65	3.20	1.18	31.00	-77339.099	52191.079	91.90	石刃素材。剥離調整。
82	Ⅳ下V上	S3	Ss	SshⅠ	7.85	3.60	2.25	57.10	-77341.618	52218.666	91.44	縦長剥片を素材。一側縁のみ調整剥離。下端は折損。

第５表　後期旧石器時代遺物観察表（３）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
83	Ⅴ	S5	Ss	SshⅡ	2.63	2.51	1.29	10.10	—	—	—	不定形剥片素材。両側縁に調整剥離。
84	Ⅴ	水4	Ss	SshⅡ	2.26	3.01	0.67	5.80	—	—	—	不定形剥片を素材。下部折損。
85	Ⅴ上	S2	Es	ChⅡ	2.10	2.35	1.10	5.60	-77340.909	52222.759	91.60	不定形剥片を素材。下端に調整剥離。
86	Ⅳ下Ⅴ上	S3	Es	Ho	6.10	7.45	3.20	104.20	-77340.782	52218.149	91.42	背面はほぼ自然面。下縁に調整剥離。
87	Ⅴ上	S6	Es	Ho	3.01	2.77	1.67	12.00	-77339.183	52200.349	91.44	不定形剥片。腹面の平坦打面から剥離調整。
88	Ⅴ下	S4	Es	Ho	5.94	5.28	1.65	5.83	-77338.091	52211.295	91.06	不定形剥片を素材。剥離調整。
89	Ⅳ下Ⅴ上	S6	Es	SshⅠ	5.05	4.69	2.49	65.00	-77340.822	52204.302	91.43	不定形剥片を素材。剥離調整。一部自然面を残す。
90	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Es	RyⅠ	3.86	3.62	1.73	29.40	-77342.527	52211.856	91.38	不定形剥片を素材。剥離調整。鎌倉状の刃部を形成。
91	Ⅲ下Ⅳ上	S6	Mb	SshⅡ	2.00	0.70	0.20	0.33	-77340.199	52202.469	91.80	側縁に微細剥離痕。頭部調整痕。
92	Ⅳ	S6	Mb	SshⅠ	1.00	0.70	0.10	0.10	—	—	—	頭部調整痕。
93	Ⅳ下	S7	Mb	RyⅠ	1.00	0.80	0.10	0.12	-77339.699	52198.719	91.88	
94	Ⅳ	S6	Mb	ChⅡ	1.50	1.00	0.20	0.15	—	—	—	
95	Ⅳ下Ⅴ上	N9	Mb	SshⅠ	1.40	0.80	0.20	0.28	-77334.446	52187.7	92.03	頭部調整痕。
96	Ⅳ下	S4	Mb	RyⅠ	1.30	0.70	0.20	0.30	-77340.429	52211.809	91.49	側面縁に微細剥離痕。
97	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Mb	SshⅠ	0.80	0.60	0.10	0.08	-77341.999	52211.979	91.46	
98	Ⅴ上	S5	Mb	SshⅠ	1.80	0.80	0.20	0.30	-77340.649	52208.519	91.43	
99	Ⅴ	S4	Mb	SshⅠ	1.30	0.80	0.25	0.30	—	—	—	
100	Ⅴ下	N2	Mb	ChⅡ	1.20	0.40	0.10	0.06	-77337.244	52222.305	91.08	
101	Ⅵ	S8	Mb	RyⅠ	1.40	0.60	0.10	0.11	-77338.672	52193.003	91.78	頭部調整痕あり。
102	Ⅴ	S4	Rf	SshⅠ	3.30	2.60	0.80	5.83	—	—	—	作業面再生剥片。
103	5西Ⅴ	西	Mc	ChⅡ	1.68	1.82	2.63	7.90	-77334.619	52129.949	91.15	分割礫を素材。打面部に平坦剥離。底面に自然面。船野型Ⅰ類
104	Ⅳ下Ⅴ上	S3	Mc	SshⅠ	2.40	2.48	4.39	31.10	-77343.077	52216.487	91.37	左側面に節理面。船野型Ⅰ類。
105	Ⅳ	N4	Mc	RyⅠ	2.51	2.41	2.07	14.90	—	—	—	細石刃剥離作業面が全周に及ぶ。船野型Ⅰ類。
106	Ⅳ下Ⅴ上	S5	Mc	ChⅠ	2.00	1.42	2.80	8.50	-77342.599	52209.079	91.54	側面調整。背面に一部自然面。　船野型Ⅱ類。
107	Ⅶ	S3	Mc	SshⅢ	4.30	5.60	2.60	72.40	-77342.658	52217.483	91.23	分割礫を素材。素材下部に自然面。船野型Ⅱ類ブランク。
108	Ⅳ下Ⅴ上	S5	Mc	ChⅠ	2.45	2.85	1.23	8.70	-77341.469	52208.769	91.50	側縁、側面調整痕。船野型Ⅱ類ブランク。
109	接合資料	—	Mc	SshⅢ	3.00	5.00	2.85	64.20	—	—	—	接合資料。
109-1	Ⅴ下	S5	Mc	SshⅢ	2.92	3.56	4.93	61.40	-77341.09	52208.082	91.24	分割礫素材。節理打面。底面は自然面。船野型Ⅰ類ブランク。
109-2	Ⅴ上	S5	F	SshⅡ	2.60	1.62	0.62	2.80	-77341.91	52208.337	91.39	109-1 の側面調整によって剥離された剥片。
110	Ⅳ下	S6	Mc	ObⅣ	1.38	1.38	1.61	3.00	-77338.267	52203.75	91.57	打面調整。右側面は自然面。野岳・休場型
111	Ⅳ	—	Mc	SshⅠ	1.47	1.25	1.08	2.00	—	—	—	打面調整。野岳・休場型。
112	Ⅴ上	S6	Mc	RyⅠ	2.49	1.44	3.16	13.20	-77340.377	52203.396	91.42	不定形剥片を素材。横打調整。ハジケ痕あり。西海技法
113	Ⅳ	N5	Mc	ChⅡ	1.31	0.63	1.65	1.80	—	—	—	両面加工なし。上面折損か。下縁調整。
114	Ⅳ上	S4	Mc	ChⅡ	2.10	0.85	1.60	3.40	-77340.109	52211.579	91.54	不定形剥片を素材。横打調整。西海技法。
115	Ⅴ上	S5	Mc	ChⅡ	2.03	1.08	1.48	4.10	-77341.265	52209.27	91.40	不定形剥片。表面・上面に細石刃剥離面。背縁調整痕あり。下面は折損。作業面転移。
116	5西Ⅵ	西	Mc	ChⅡ	1.76	1.41	2.62	7.30	-77337.859	52131.709	91.43	不定形剥片を素材。側方調整。左側下縁にも調整剥離痕あり。西海技法。
117	Ⅲ下Ⅳ上	S4	Mc	SshⅡ	2.06	2.18	1.08	4.40	-77342.249	52210.939	91.64	不定形剥片。横打調整。背面に自然面と調整痕。西海技法。
118	Ⅳ上	S4	Mc	ChⅡ	2.25	2.60	0.70	5.90	-77342.789	52210.709	91.62	不定形剥片を素材。側方打面調整。左側面節理面。横形石器か。
119	Ⅳ下	S2	Mc	SshⅡ	1.16	1.25	2.38	3.10	-77339.648	52221.285	91.62	不定形剥片を素材。側方打面調整。細石刃を剥離後打面再生をした細石刃核か。横打調整あり。打面再生剥片か。
120	Ⅳ下Ⅴ上	S5	Mc	SshⅠ	2.45	1.30	0.80	2.80	-77340.109	52210.019	91.44	縦長剥片を素材。剥片の背面左下面を細石刃核の打面とする。側方打面調整。側縁で細石刃を採取。
121	Ⅴ	N2	Rf	SshⅠ	1.60	2.10	0.80	2.69	—	—	—	不定形剥片を素材。左側面に二次加工。下部折損。
122	Ⅴ	S6	Rf	RyⅠ	2.40	1.20	0.61	2.00	—	—	—	縦長剥片を素材。右側面に二次加工。上部折損。

第５表　後期旧石器時代遺物観察表（４）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
123	Ⅴ上	S8	Rf	Sah Ⅰ	3.10	1.60	1.10	4.10	-77337.259	52193.929	91.93	縦長剥片を素材。節理打面。錆の可能性。
124	Ⅴ～Ⅵ	S1	Rf	Sah Ⅰ	2.90	1.75	0.85	2.40	-77340.229	52225.709	91.51	不定形剥片を素材。左側面に二次加工。
125	Ⅳ上	S5	Rf	Sah Ⅲ	4.16	2.09	1.14	8.10	-77337.619	52207.17	91.45	縦長剥片を素材。右側縁を二次加工。下部に自然面。
126	Ⅲ下Ⅳ上	S4	Rf	Sah Ⅲ	3.52	1.32	0.67	3.70	-77337.423	52213.062	91.38	縦長剥片を素材。両側面を部分的に二次加工。上縁折損。
127	Ⅴ	S5	Rf	Sah Ⅰ	3.10	1.60	0.70	2.87	—	—	—	不定形剥片を素材。右側面下縁に二次加工。ナイフ形石器の未製品か。
128	接合２	S6/S9	Rf	Sah Ⅱ	6.50	3.90	1.20	31.50	-77339.853 -77337.927	52201.000 52190.174	91.51 91.74	縦長剥片を素材。背面左にノッチ状の二次加工。取上番号２-６-２２８７Ⅴ上＋２４８１Ⅵ上と接合。打面部折損。
129	Ⅴ上	S4	Rf	Sah Ⅱ	2.85	3.55	1.40	11.50	-77342.373	52210.133	91.37	横長剥片を素材。背面右側縁には二次加工。
130	Ⅳ下Ⅴ上	S5	Rf	Sah Ⅰ	2.35	4.65	0.70	6.70	-77341.787	52209.189	91.38	横長剥片を素材。下縁右上部欠損。
131	Ⅴ上	S5	Rf	Sah Ⅰ	8.10	5.29	1.38	52.20	-77342.192	52209.179	91.37	不定形剥片を素材。下縁に二次加工。背面左側縁には微細剥離痕。
132	Ⅲ下Ⅳ上	S4	Rf	Sah Ⅰ	2.30	2.85	0.65	2.60	-77341.219	52212.979	91.69	不定形剥片を素材。両側縁に二次加工。上面は折損。石鏃の未製品か。
133	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Rf	Sah Ⅰ	3.00	1.80	1.10	5.40	-77340.739	52214.599	91.48	横長剥片を素材。腹面右側縁に二次加工痕。背面に自然面。
134	Ⅳ下	S4	Rf	Sah Ⅰ	5.10	4.10	1.10	22.50	-77342.319	52213.239	91.59	不定形剥片を素材。腹面中央にハジケ痕。下縁に二次加工。背面右側に石核調整痕。
135	Ⅳ下	S7	Rf	Sah Ⅱ	4.60	2.60	0.60	7.20	-77340.339	52197.439	91.92	縦長剥片を素材。両側縁に二次加工。背面左側折損。
136	Ⅳ下	6-3	Rf	Sah Ⅱ	6.00	2.00	1.40	17.40	-77343.779	52232.079	92.33	縦長剥片を素材。上下面に二次加工。背面右側節理面。スクレイパーか。
137	Ⅴ上	S5	Rf	Sah Ⅰ	4.80	4.20	1.00	19.11	-77340.485	52209.066	91.34	不定形剥片を素材。左側縁に微細剥離痕。
138	Ⅳ下Ⅴ上	—	Rf	Sah Ⅰ	1.30	1.50	0.30	0.41	—	—	—	不定形剥片を素材。上面は折損。両側縁には二次加工。Kn か。
139	Ⅴ上	S7	Rf	Sah Ⅰ	5.00	1.30	1.40	21.37	-77336.69	52196.265	91.55	不定形剥片を素材。
140	Ⅳ下Ⅴ上	S6	Mf	Ry Ⅰ	6.80	2.00	0.60	7.77	-77340.818	52205.019	91.40	石刃を素材。両側縁に微細剥離痕。末端部折損。頭部調整。
141	Ⅴ下	S4	Mf	Sah Ⅰ	4.50	3.70	0.80	13.43	-77338.477	52214.321	91.05	不定形剥片を素材。裏面右側、表面右側に微細剥離痕をもつ。
142	Ⅴ中	S2	Mf	Sah Ⅰ	4.20	2.50	0.90	8.76	-77339.395	52222.947	91.41	不定形剥片を素材。頭部調整痕。両側面に微細剥離痕。
143	Ⅴ上	S4	M f	Ry Ⅰ	4.80	6.20	1.30	44.62	-77342.408	52211.031	91.35	不定形剥片を素材。腹面左側縁に微細剥離痕。上端に二次加工。
144	Ⅴ上	S4	M f	Sah Ⅰ	5.80	4.50	1.50	37.88	-77341.389	52212.37	91.35	不定形剥片を素材。表面左下側縁に一部自然面。付近に二次加工もしくは微細剥離痕。背面右側および下部に微細剥離痕。
145	Ⅴ～Ⅵ	S9	Mf	Sah Ⅰ	7.50	2.50	1.00	18.23	—	—	—	石刃を素材。背面下部に微細剥離痕。
146	一括	—	Mf	Ry Ⅰ	6.30	5.70	1.30	42.42	—	—	—	不定形剥片を素材。腹面下縁及び右側縁に微細剥離痕。
147	５西Ⅵ	西	Rf	Sah Ⅰ	4.70	3.80	1.20	20.50	-77332.719	52135.559	91.55	不定形剥片を素材。裏面右側縁にガジリもしくは二次加工。
148	Ⅴ上	S5	M f	Sah Ⅰ	3.40	3.90	1.00	10.26	-77342.259	52209.849	91.45	不定形剥片を素材。両側縁に微細剥離痕。
149	Ⅴ上	N6	Mf	Sah Ⅰ	4.10	3.50	1.30	14.11	—	—	—	不定形剥片を素材。下縁及び腹面右側縁に微細剥離痕。
150	Ⅴ上	S4	M f	Ry Ⅰ	7.10	3.00	1.00	20.07	-77338.75	52215.019	91.21	石刃を素材。背面両側縁に微細剥離痕。下部にハジケ痕。
151	Ⅴ下	S5	F	Ry Ⅰ	8.70	4.50	1.60	40.05	-77342.452	52209.812	91.37	縦長剥片。頭部調整痕。
152	Ⅴ下	6-3	F	Sa	8.10	10.40	1.80	165.00	-77342.969	52240.139	93.06	不定形剥片。下縁に微細剥離痕か。背面に自然面。
153	Ⅴ中	S3	F	Sah Ⅰ	10.60	4.70	1.80	86.70	-77343.109	52216.338	91.48	石刃。頭部調整痕。下縁は節理面。背面左側面に微細剥離痕か。
154	Ⅴ下	S3	F	Ho	4.60	5.30	1.50	35.02	-77339.134	52218.9	91.28	不定形剥片。風化が著しい。
155	Ⅴ中	S4	F	Ob Ⅱ	3.10	2.00	0.60	3.57	-77342.639	52212.542	91.24	不定形剥片。下部折損。
156	Ⅴ下	S2	F	Sah Ⅱ	5.10	4.10	2.00	35.22	—	—	—	不定形剥片。背面に自然面。上部折損。
157	Ⅴ下	S4	F	Ry Ⅰ	5.90	2.80	1.20	15.02	-77339.915	52212.029	91.21	不定形剥片。頭部調整痕。末端部折損。背面左側縁に微細剥離痕か。
158	Ⅴ下	S4	F	Ho	7.50	8.40	1.60	103.00	-77339.343	52211.582	91.20	不定形剥片。背面に自然面。
159	Ⅴ	S4	F	Sah Ⅲ	7.00	5.80	2.40	128.30	—	—	—	不定形剥片。背面に自然面。スクレイパーの可能性あり。
160	５西Ⅵ	西	F	Sah Ⅲ	7.00	4.70	0.80	35.35	-77338.289	52135.269	91.83	不定形剥片。背面に自然面。
161	Ⅴ	N3	F	Sah Ⅰ	5.70	3.50	1.00	24.26	—	—	—	不定形剥片。背面に自然面。背面右側縁に微細剥離痕か。
162	Ⅴ～Ⅵ	S2	F	Sah Ⅱ	4.80	5.00	1.40	32.68	—	—	—	不定形剥片。背面に自然面。
163	Ⅴ	S4	F	Sah Ⅲ	7.30	3.10	1.25	34.84	—	—	—	縦長剥片。背面に自然面。打面に節理面。背面右側縁に微細剥離痕か。
164	Ⅴ	FTB	F	Ho	6.43	5.22	1.41	39.50	—	—	—	不定形剥片。自然面打面。下端は自然面。

第５表　後期旧石器時代遺物観察表（５）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	Y	Z	観察所見
165	Ⅴ下	S5	F	Ry Ⅰ	5.80	3.50	2.60	46.10	-77341.166	52209.956	91.33	不定形剥片。階段上剥離あり。
166	1 T	S9	F	Ry Ⅰ	2.80	2.50	1.00	8.88	-77338.389	52188.629	92.11	不定形剥片。
167	1 T	S8	F	Tu	2.00	2.50	1.20	5.00	-77339.729	52191.699	91.43	不定形剥片。風化が著しい。石器の可能性が低い。
168	Ⅴ～Ⅶ	S9	F	Ry Ⅰ	3.10	4.30	1.50	17.29	-77336.509	52187.609	92.02	横長剥片。
169	Ⅳ下Ⅴ上	S5	F	Sh Ⅰ	6.70	2.55	1.10	21.81	-77343.183	52209.001	91.37	縦長剥片。自然面打面。背面右側縁に微細剥離痕か。
170	Ⅳ下	S2	F	Sa	5.30	6.20	2.10	71.72	-77339.244	52220.891	91.53	不定形剥片。石器の可能性が低い。
171	Ⅳ下	S7	F	Ho	8.60	4.90	1.80	70.43	-77340.799	52197.739	91.81	不定形剥片。背面右側縁に二次加工か。
172	Ⅳ下Ⅴ上	S7	F	Ch Ⅱ	2.80	3.70	1.00	11.35	-77340.249	52197.409	91.78	横長剥片。下面は折損。打面には打撃痕？剥離打面？。
173	Ⅳ上	水3	F	Ry Ⅰ	2.80	4.50	1.10	12.20	—	—	—	不定形剥片。
174	Ⅴ上	S7	F	Sh Ⅱ	4.60	2.50	0.80	8.09	-77341.233	52197.996	91.59	石刃。
175	Ⅲ下Ⅳ上	S5	F	Ry Ⅰ	3.80	3.10	1.40	13.20	-77341.409	52205.449	91.66	不定形剥片。頭部調整痕。背面下部に自然面。
176	Ⅳ	S6	F	Ry Ⅰ	4.10	2.60	1.00	13.00	—	—	—	不定形剥片。腹面中央に節理面。作業面再生剥片か。
177	Ⅳ	水2	F	Aso-Tu	2.30	1.50	0.60	1.76	—	—	—	横長剥片。背面左縁折損。
178	Ⅳ上	S4	F	Sh Ⅰ	4.50	3.20	0.90	12.90	-77340.729	52214.209	91.50	不定形剥片。背面に節理面。バルブ除去か。
179	Ⅳ下Ⅴ上	S5	F	An Ⅰ	2.70	4.00	1.40	9.67	-77339.759	52207.249	91.48	不定形剥片。
180	Ⅳ下	S7	F	Sh Ⅱ	8.60	3.20	1.50	50.74	-77339.079	52197.219	91.81	石刃。背面両側縁に微細剥離痕、下部に自然面残存。
181	Ⅳ下	S5	F	Sh Ⅱ	8.35	2.70	9.50	25.38	-77340.759	52209.609	91.50	石刃。
182	Ⅳ下	S4	F	Sh Ⅰ	6.10	7.70	1.20	57.47	-77340.319	52212.969	91.45	横長剥片。自然面打面。
183	Ⅳ下Ⅴ上	S4	F	Sh Ⅱ	3.60	2.60	1.10	9.97	-77341.253	52212.984	91.48	不定形剥片。
184	Ⅳ下	S5	F	Sa	9.00	8.20	2.00	159.20	-77341.299	52209.599	91.52	不定形剥片。背面に自然面。
185	Ⅳ下Ⅴ上	S4	F	Ry Ⅰ	6.00	2.90	0.90	21.33	-77339.163	52212.615	91.24	石刃。上面折損。下端に自然面。
186	Ⅳ下Ⅴ上	S5	F	Ry Ⅰ	5.50	1.80	0.90	7.47	-77341.651	52205.38	91.45	石刃。打点部に二次加工か。
187	Ⅳ下Ⅴ上	S6	F	Ry Ⅰ	4.70	6.70	1.40	41.94	-77340.137	52200.683	91.58	横長剥片。
188	Ⅳ下Ⅴ上	S4	F	Sh Ⅰ	7.20	4.10	1.25	24.35	-77341.989	52213.839	91.46	不定形剥片。先端および末端は折損。
189	Ⅳ下Ⅴ上	S5	F	Sh Ⅰ	4.80	6.20	1.80	39.90	-77342.553	52209.504	91.40	不定形剥片。背面に階段上剥離。下縁に微細剥離痕か。
190	Ⅳ下Ⅴ上	S5	F	Sh Ⅰ	5.80	5.20	1.70	46.08	-77337.236	52205.843	91.24	不定形剥片。上面折損。腹面左側縁に微細剥離痕。背面に自然面。
191	Ⅳ下Ⅴ上	S7	F	Ry Ⅰ	5.10	4.90	0.90	25.89	-77340.872	52198.074	91.71	不定形剥片。頭部調整痕。
192	Ⅳ下Ⅴ上	S2	F	Sh Ⅰ	3.60	2.60	0.80	6.16	-77342.096	52220.603	90.28	不定形剥片。下端は折損。
193	Ⅳ下Ⅴ上	S5	F	Ry Ⅰ	4.80	2.60	1.00	12.30	-77342.226	52209.163	91.47	不定形剥片。頭部調整痕。「ノ」の字状剥片か。
194	Ⅳ下Ⅴ上	N3	F	Sh Ⅲ	6.40	3.40	1.30	29.12	—	—	—	縦長剥片。背面に自然面。
195	Ⅳ下Ⅴ上	S4	F	Os	6.40	4.50	2.20	55.50	-77342.179	52212.099	91.45	不定形剥片。
196	Ⅳ下Ⅴ上	S1	F	Sh Ⅰ	5.20	3.00	0.70	14.26	-77340.689	52226.699	91.56	不定形剥片。下端折損。右側は自然面。
197	Ⅳ下Ⅴ上	S4	F	Sh Ⅰ	7.50	3.50	0.80	24.79	-77342.339	52211.659	91.51	縦長剥片。
198	Ⅳ下Ⅴ上	S4	F	Sh Ⅰ	6.50	4.10	1.20	26.79	-77340.649	52212.389	91.42	不定形剥片。背面右側縁に微細剥離痕か。
199	Ⅴ上	S6	F	Ry Ⅰ	6.30	5.30	1.20	30.68	-77337.793	52200.458	91.44	不定形剥片。背面に礫上調整。右側は自然面。
200	Ⅳ下Ⅴ上	S4	F	Sh Ⅰ	7.20	5.80	2.50	66.80	-77337.876	52212.074	91.12	不定形剥片。背面下端は折損。
201	Ⅴ上	N7	F	Ry Ⅰ	6.40	4.80	2.00	55.18	-77334.471	52195.792	91.50	不定形剥片。背面左側は自然面。
202	Ⅴ上	S4	F	Sh Ⅰ	5.50	4.50	1.40	35.98	-77342.209	52211.689	91.43	不定形剥片。腹面上端は自然面。
203	Ⅴ上	S4	F	Aso-Tu	2.30	2.30	1.00	4.66	-77337.024	52211.959	91.04	横長剥片。風化が著しい。剥離不明瞭。
204	Ⅴ上	S4	F	Sh Ⅰ	4.40	3.20	1.00	25.73	-77338.223	52212.885	91.22	縦長剥片。下端自然面。
205	Ⅳ下Ⅴ上	S3	F	Sh Ⅰ	4.80	4.90	1.20	32.01	-77341.119	52215.519	91.49	不定形剥片。腹面右は折損。左側縁は二次加工か。
206	Ⅴ上	S4	F	Ho	7.50	4.30	2.30	50.68	-77342.421	52214.922	91.42	不定形剥片。瀬戸内技法の石核か。
207	Ⅴ上	S5	F	Ho	7.00	7.80	2.30	127.10	-77339.018	52209.541	91.27	横長剥片。

第５表　後期旧石器時代遺物観察表（６）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
208	Ⅴ上	S6	F	Ho	8.90	3.20	0.90	26.40	-77342.21 —	52202.292 —	91.60 —	石刃。風化が著しい。末端欠損。
209	Ⅴ上	S5	F	Ho	8.90	8.20	1.90	152.90	-77341.031	52208.052	91.38	不定形剥片。背面自然面。
210	Ⅴ上	S6	F	Ho	6.90	8.70	1.60	94.90	-77342.505	52201.885	91.63	横長剥片。
211	Ⅳ下Ⅴ上	S3	Co	Ry Ⅰ	6.50	7.90	2.65	201.30	-77341.459	52216.539	91.48	腹面からの剥片剥離。礫器か。
212	Ⅳ下Ⅴ上	S7	Co	Sh Ⅰ	5.05	4.95	2.50	60.60	-77342.124	52199.501	91.48	不定形剥片を素材。両面の左側縁に二次加工剥片を採取。鋸歯状はスクレイパーの機能をもつ可能性がある。下半欠損か。
213	Ⅴ上	S4	Co	Sh Ⅰ	5.60	7.80	6.00	236.00	-77341.969	52210.039	91.41	下部に自然面。瀬戸内技法か。
214	Ⅳ下	S5	Co	Ob Ⅰ	1.77	2.71	2.22	10.60	-77337.583	52207.009	91.35	残核か。
215	Ⅴ上	S3	Co	Sh Ⅰ	3.20	4.80	36.50	44.90	-77338.707	52217.525	91.19	打面転移。
216	Ⅴ上	S7	Co	Sh Ⅰ	2.90	3.50	2.95	18.00	-77340.365	52197.302	91.61	打面転移。剥石刃核か。
217	Ⅴ～Ⅵ	S2	Co	Sh Ⅰ	5.15	5.00	2.65	65.30	-77340.309	52223.579	91.47	打面転移。
218	Ⅲ下Ⅳ上	S5	Co	Sh Ⅱ	2.25	2.40	1.75	9.30	-77337.319	52209.742	91.32	腹面に節理面。
219	Ⅴ下	S7	Co	Sh Ⅲ	3.50	3.50	4.30	53.20	-77339.044	52224.274	91.42	打面転移をしながら不定方向から剥片を採取。
220	Ⅴ下	N6	Co	Ch Ⅱ	2.85	4.35	3.15	30.30	-77335.484	52204.765	90.98	打面転移。不定方向から剥片を採取。
221	Ⅴ上	S5	Co	Ch Ⅱ	4.35	5.30	2.50	64.70	-77341.926	52208.391	91.34	裏面を打面とし側面から剥片を採取。その後打面転移。
222	Ⅴ下	S4	Co	Sh Ⅱ	3.60	4.10	3.05	47.80	-77342.974	52211.598	91.28	打面転移をしながら不定方向から剥片を採取。
223	Ⅴ上	S5	Co	Ho	5.95	6.20	2.65	112.40	-77341.934	52208.404	91.38	表面を打面調整後は側面の剥片を採取。その後下縁を剥離。スクレイパーの機能ももつ可能性有り。
224	Ⅴ上	S5	Co	Ry Ⅰ	4.05	5.90	4.85	118.60	-77341.998	52206.083	91.42	最終剥離面と打面部を交互に剥離。
225	Ⅴ～Ⅵ	S4	Co	Ry Ⅰ	3.20	3.10	4.10	40.40	-77341.234	52212.501	91.21	打面転移を行いながら不定形剥片を採取。
226	Ⅳ下Ⅴ上	S4/S5	Co	Ho	6.25	9.30	5.60	215.70	-77341.109	52210.029	91.49	スクレイパー。
227	Ⅴ	S4	Co	Sh Ⅲ	3.40	4.50	3.20	48.40	—	—	—	打面転移を繰り返しながら剥片を採取。
228	Ⅴ	S6	Co	Sh Ⅲ	3.05	4.25	3.05	29.80	—	—	—	打面転移を繰り返しながら剥片を採取。
229	Ⅴ	S3	Co	Sh Ⅲ	3.30	3.70	3.80	46.80	—	—	—	打面転移を繰り返しながら剥片を採取。腹面自然面。
230	Ⅳ上	S6	Co	Sh Ⅲ	1.85	2.85	1.45	4.60	-77337.927	52203.708	91.62	打面転移を行いながら小型の剥片を採取。剥石刃作業面再生剥片か。
231	Ⅴ上	S6	Co	Ry Ⅰ	2.30	3.70	2.20	19.53	-77336.949	52200.857	91.39	剥片か。
232	Ⅴ	S6	Co	Ry Ⅰ	3.70	4.85	2.75	40.50	—	—	—	頭部調整痕。腹面は自然面。
233	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Co	Ho	7.05	7.05	4.40	200.10	-77342.229	52211.559	91.42	側縁から剥離。腹面にはほぼ自然面。礫器か。
234	Ⅴ	S6	Co	Ry Ⅰ	4.10	4.40	3.50	62.10	—	—	—	打面転移を繰り返しながら剥片を採取。一部自然面。
235	Ⅳ上	N3	Co	Sh Ⅱ	2.40	2.75	2.35	13.10	-77336.919	52219.369	91.33	スクレイパーか。
236	Ⅴ	S5	Co	Sh Ⅰ	4.00	4.40	2.80	40.30	—	—	—	打面転移を繰り返しながら剥片を採取。
237	Ⅳ下	S4	Co	Ch Ⅱ	1.80	2.45	2.15	8.40	-77341.549	52212.569	91.49	剥石刃核か。
238	Ⅳ下Ⅴ上	N5/N6	Co	Ho	7.40	9.45	4.20	312.00	-77336.576	52205.412	91.30	側縁から剥離。裏面は自然面。礫器か。
239	Ⅳ下Ⅴ上	S5	Co	Sh Ⅰ	8.70	3.60	2.00	60.80	-77341.726	52209.304	91.36	瀬戸内技法
240	Ⅴ上	S2	Co	Os	9.70	9.20	5.10	508.90	-77338.154	52224.962	91.43	一部自然面、節理面あり。
241	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Hs	Sa	12.90	5.00	3.70	325.80	-77338.053	52211.231	91.18	上下面に敲打痕。
242	Ⅴ中	S2	Hs	Sa	14.80	3.60	2.50	204.20	-77340.639	52224.949	91.59	上下面に敲打痕。
243	Ⅳ下Ⅴ上	S6/S7	Hs	Sa	13.30	2.50	2.70	88.40	-77337.702 -77342.011	52197.972 52204.296	91.61 91.51	下面に敲打痕。中央付近にはグリップのような形状の磨痕。
244	Ⅴ上	S4	Hs	Sa	10.70	4.20	3.60	212.70	-77341.482	52210.796	91.35	上下面に敲打痕。
245	Ⅴ上	S4	Gs/Hs	Os	10.50	4.00	3.00	167.40	-77341.323	52212.32	91.34	上下面に敲打痕、磨痕。
246	一括	一括	Gs/Hs	Os	7.90	7.30	4.40	376.90	—	—	—	表裏面に磨痕、右側に敲打痕。
247	Ⅴ上	S6	Hs	Sa	11.40	5.40	2.50	180.70	-77342.022	52200.934	91.59	下面に敲打痕。
248	Ⅳ下Ⅴ上	S7	Hs	Sa	10.00	3.40	1.90	93.00	-77338.441	52196.328	91.69	上下面に敲打痕。
249	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Hs	Ho	5.20	2.20	1.60	22.30	-77340.279	52215.169	91.49	下面に敲打痕。中央付近にはグリップのような形状の磨痕。

第６表　後期旧石器時代　石器組成表

※S・N十数字は６－１区の小グリッド、５－東西は５区を示す

AT下層	工程石器								決定器種（剥片石器）										決定器種（礫塊石器）			
	Co		Ma		F		Ch		Kn		Es		Ss		Rf		Mf		Hs		Gs/H s		
Gr.区名	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	計/g
N1					2	2.7																	2.7
N2	1	1820.0			5	37.9											1	12.4					1870.3
N3					1	8.9			1	1.4													10.3
N7					2	24.5																	24.5
N8					4	77.5																	77.5
S1					2	1.2									1.0	18.2							19.4
S2					13	69.9	2	0.1															70
S3			1	256.9	15	921.5	2	0.2											2	96			1274.6
S4	1	2375.0			32	151.6			1	0.7													2527.3
S5					16	116.7					1.0	111							2	457.9			574.6
S6					7	39.3	3	0.1			1.0	104.1											143.4
S7					14	103.1																	103.1
S8					10	72.6											1	6.9					79.5
S9					6	76.6																	76.6
6-3					3	37.7			2	2.1	1.0	3.0	2	17.9			1	58.7					119.4
5-東	1	17.6			41	189.4	18	1.6									1	14.5	1	216.3	1	135.9	575.3
計	3	4212.6	1	256.9	173	1931.1	25	2	4	4.2	3	218.1	2	17.9	1	18.2	4	92.5	5	770.2	1	135.9	

AT上層	工程石器										決定器種（剥片石器）																				決定器種（礫塊石器）						
	Ma		Co		F		Ch		Mc		Kn		Kds		Po		Tp		Tr		Mb		Es		Ss		Rf		Mf		Hs		Gs/HS		As		
Gr.区名	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	計/g
N1					4	12.6																															12.6
N2					20	69.4	2	0.2													1	0.06					1	2.7									72.36
N3			1	13.1	33	168.3	6	3									1	3.8																			188.2
N4					31	129.2	4	0.2	2	16.9															1	33.1											179.4
N5					19	186.4	2	0.3	1	1.8																											188.5
N5/N6			1	312																																	312
N6			1	30.3	21	90.5																							1	14.1							134.9
N7					9	245.8																															245.8
N8					6	54.7	1	0.03											2	14.5																	69.23
N9					1	18.1					2	10.5									1	0.3															28.9
S1					12	52	1	0.1																			1	2.4									54.5
S2	1	162.4	2	574.2	55	613	6	0.5	1	3.1					1	21.8			1	6.9			1	5.6					1	8.8	1	204.2					1600.5
S3			3	293	122	1147.1	37	3.3	2	103.5	2	6.9							1	23.2			1	104.2	1	57.1											1738.3
S3/S4					2	35.7																															35.7
S4	2	426.8	9	782.8	355	2662.7	139	15.4	3	13.7	6	17.3	1	30.4	2	72.3					7	0.9	2	35.2	1	5.8	8	57.1	4	116	4	644.2	1	167.4	1	3980	9028
N4/S4					1	3.3																															3.3
S4/S5			1	215.7																											1	120.9					336.6
S5	1	2600	7	416.7	181	2082	91	9	5	85.5	4	9.7	1	29	1	14.7					2	0.5			4	71.4	5	89	2	65.4	2	489.8					5962.7
S6			4	151.9	141	893.3	29	3.2	2	16.2	3	13.9							2	20.6	4	0.6	2	77	1	21.4	1	2	1	7.8	1	180.7					1388.6
S6/S7					2	1.1																									1	88.4					89.5
S6/S9																											1	31.5									31.5
S7	1	85	3	131.8	95	833.6	8	0.8			2	3.8	1	4.4	1	1.6					2	0.2					2	28.6			1	93	1	437.5			1620.3
S8					42	304.6	2	0.5					1	2.9							1	0.1			2	67.8	1	4.1					1	627.2			1007.2
S9					18	130	2	0.2			1	6.8			1	76.2			1	2.3									1	18.2							233.7
S10					2	22.8																															22.8
6-2					8	111.5																															111.5
6-3					3	180.9							1	4.6													1	17.4									202.9
5-東					1	12																					1	19									31
5-西	3	1.1			12	153.7	7	1.3	2	15.2	1	2.6																									172.8
計	8	3275.3	32	2921.5	1196	10214.3	337	38.03	18	255.9	21	71.5	5	71.3	6	186.6	1	3.8	7	67.5	18	2.66	6	222	10	256.6	22	253.8	10	230.3	11	1821.2	3	1232.1	1	3980	

第７節　縄文時代早期の遺構と遺物

１　縄文時代早期

縄文時代早期は、縄文土器の出土状況、土層堆積状況などの検討からⅢ層下面～Ⅴ層上部（６区）、Ⅳ層（５区西側）とした。６区では鬼界アカホヤ火山灰層は良好に残存しており、Ⅲ層に相当する。

２　縄文時代早期の遺構（第32図～第34図）

縄文時代早期では、集石遺構17基、配石遺構１基（SX1）を検出した。層位別に見ると集石遺構は、Ⅳ層下部から１基、Ⅳ層とⅤ層の境目付近から５基、Ⅴ層上部で10基、中部で１基検出した。配石遺構もⅤ層上部で検出した。詳細については観察表に示す（第７表）。また、集石遺構の分類も礫群と同様な分類でおこなった（第６節）。6SI８のみ掘り込みを確認した。また、6SI18～20は集石遺構間の境が曖昧であったため、３つのまとまりを軸に線を引き区別したが、本来は別のまとまりの可能性も考えられる。6SI21からは後期旧石器時代の剥片（199）が出土している。Ⅴ層上部検出の集石遺構については、遺物の上下が激しいが、同検出面から縄文土器も出土しているため、ここでは縄文時代早期の集石遺構と認定した。

SX1の配石遺構については、人頭大ほどの赤化していない礫が集中しており、付近からは縄文土器や剥片、332の打製石斧や拳大ほどの赤化礫が出土している。掘り込みなどもなく、用途など不明であるが、周辺とは異なる様相であったため配石遺構と名付けた。

３　縄文時代早期の遺物

3-1縄文土器（第35図250～269、第36図270～276）

本遺跡では、Ⅳ層～Ⅴ層上部にかけて縄文土器が出土している。211点以上の縄文土器の取り上げを行ったが、そのほとんどは小破片であったために接合が難しく、土器の口縁部から底部にかけての完全復元が困難であった。今回図化した27点は、以下のタイプに大別した。

Ⅰ　無文土器（255～269）

255～269は無文土器である。その中には内面調整が条痕か無文ナデの２パターンがある。

Ⅱ　貝殻条痕文土器（251）

251は極めて小片の口縁部である。器面調整のため口唇部から内外面にかけて貝殻条痕文がみられる。

Ⅲ　貝殻刺突文　下剥峯式（270～273）

270～272は口縁部付近である。270は、瘤状突起が縦位に貼り付けられてある。器形は内湾している。内面はミガキで、外面は縦方向の貝殻腹縁刺突文を施している。272は、摩耗が激しく判別に困難であるが、施文（連続貝殻刺突）状態から下剥峯式の可能性がある。273は下剥峯式の胴部である。内面はミガキで、外面には縦・斜方向の連続貝殻刺突文を施している。270～271・273は胎土中に金雲母が含まれており、分布も近いため同一個体の可能性が高い。

Ⅳ　口縁部と底部（250・252～254）

250は、口縁部から下2.1㎝の位置に沈線文？が施されている。また、未貫通の補修孔がある。252は口唇部を平たく整形している。253・254は底部である。254は外面には条痕が施されている。

Ⅴ　その他（274～276）

274は口唇部に刻み目がある縄文土器である。口縁部下約1.1㎝の位置に径４㎜の穿孔がみられる。内外ともに風化が著しく施文ははっきりとはわかない。275は楕円押型文である。276は小片であるため、判別は困難であるが、沈線文が施されており、塞ノ神式の可能性が考えられる。

3-2　石器（第38図277～323、第39図324～332、第40図333～337、第41図338～340）

本遺跡では６－１区の中央部南側Ⅲ～Ⅳ層の境目で多くの砕片が密になって出土した（第42図）。砕片の周辺からは石鏃の製品・未製品が多く出土した。

決定器種

Ⅰ　石鏃（第38図277～320）

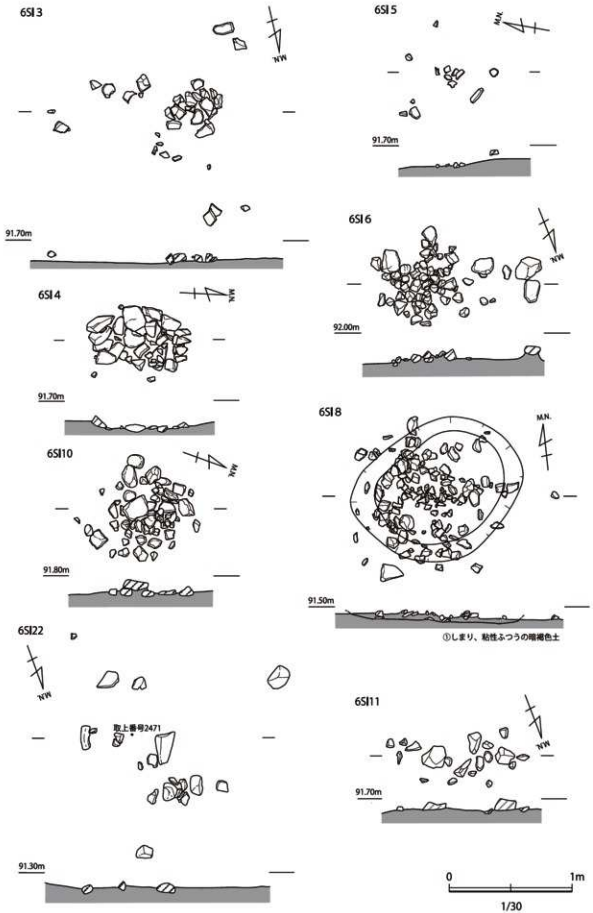
本遺跡では79点の石鏃が出土した。そのうち44点のみ図化している。また、以下のとおりに分類をおこなった。

A　平面形態が正三角形で脚部が凹基であるもの（277～288・301～306）。

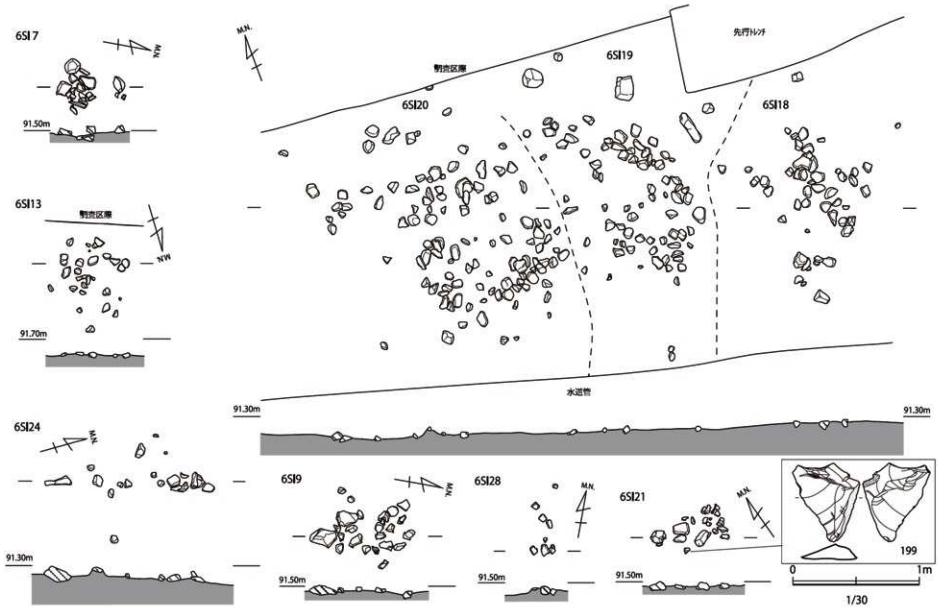
B　平面形態が二等辺三角形で脚部が凹基であるもの（289～300・308～313）。

C　平面形態が二等辺三角形で脚部が平基であるもの（314・316・317）。

D　その他（307・315・318～320）。



第 32 図　縄文時代早期遺構実測図（1）



第 33 図　縄文時代早期遺構実測図 (2)

Ⅱ　二次加工剥片（第38図321～322）

321～322は押圧剥離による不定方向からの剥離痕が認められ、石鏃の未製品の可能性も考えられる。

Ⅱ　楔形石器（第38図323）

桑ノ木津留産黒曜石製で、下面は折損である。

Ⅲ　スクレイパー（第39図324）

全周にスクレイパーエッジが入っている。平坦剥離による調整である。裏面は自然面である。

Ⅳ　敲石・磨石（第39図328～331）

328は両面に磨痕、中央に敲打痕がある。

Ⅴ　打製石斧（第39図332、第40図333～335）

334の裏面はほぼ自然面である。背面全てに剥離が施されている。基部には研磨痕がある。335は両面下縁からの加工により刃部を成形している。

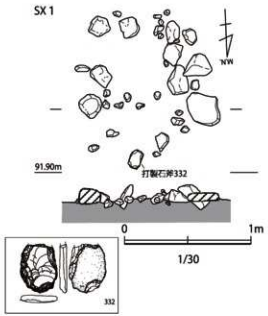
Ⅵ　台石（第40図336～337、第41図338～340）

すべて尾鈴山溶結凝灰岩製である。336は磨痕、338は磨痕、敲打痕が認められる。

工程器種

Ⅰ　剥片（第39図325～327）

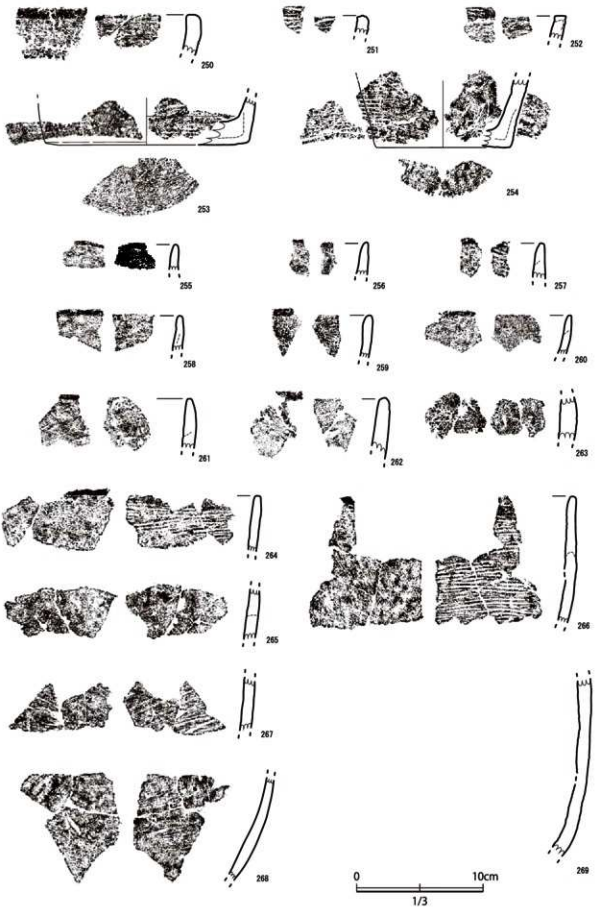
325は不定形剥片、326・327は縦長剥片である。



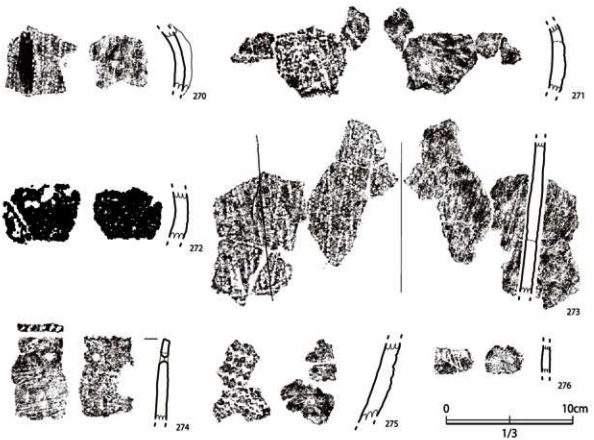
第 34 図　縄文時代早期遺構実測図 (3)

第 7 表　縄文時代早期遺構観察表

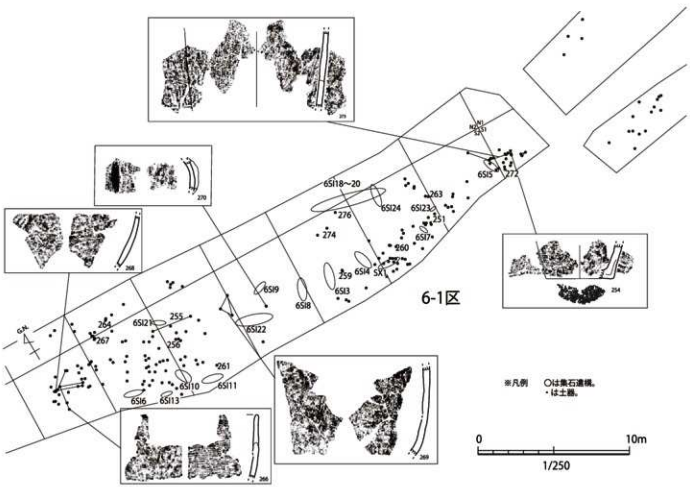
調査区	遺構名	検出層位	Gr.	構成礫						自然科学分析/出土遺物	分類	掘込
				最長 (m)	最短 (m)	礫数量 (個)	礫重量 (kg)	石材	赤化の具合			
6-1	SI3	Ⅴ上	S4	1.65	1.65	35	17.5	Os	8 割赤化		Ⅱb	無
6-1	SI4	Ⅳ下	S4	0.84	0.62	51	33.5	Os	ほぼ強く赤化		Ⅰb	無
6-1	SI5	Ⅴ上	S2	0.79	0.8	13	2	Os	8 割赤化		Ⅱb	無
6-1	SI6	Ⅴ上	S7	1.37	0.81	73	37.5	Os	ほぼ赤化。大型礫のみ無赤化。		Ⅰb	無
6-1	SI7	Ⅴ上	S5	0.54	0.44	20	7	Os	ほぼ赤化。大型礫のみ無赤化。		Ⅰb	無
6-1	SI8	Ⅳ下Ⅴ上	S5	1.68	1.34	135	37	Os	ほぼ赤化。		Ⅰa	有
6-1	SI9	Ⅴ上	S5	0.83	0.64	26	9	Os	ほぼ赤化		Ⅱb	無
6-1	SI10	Ⅴ上～中	S6～7	1.03	0.87	58	31	Os	ほぼ赤化。大型礫のみ無赤化。		Ⅰb	無
6-1	SI11	Ⅴ上	S6	1.16	0.48	18	10.5	Os+Ch1	一部赤化		Ⅱb	無
6-1	SI13	Ⅴ上	S7	0.75	0.64	27	4.5	Os	ほぼ強く赤化。		Ⅱb	無
6-1	SI18	Ⅳ下Ⅴ上	S3～N4	1.82	1.46	47	18.5	Os	若干赤化		Ⅱb	無
6-1	SI19	Ⅳ下Ⅴ上	S3～N4	2.45	1.52	81	26	Os	若干赤化		Ⅱb	無
6-1	SI20	Ⅳ下Ⅴ上	S3～N4	2.27	2.08	112	41.5	Os+Qu1	若干赤化		Ⅱb	無
6-1	SI21	Ⅴ上	S6	0.62	0.33	20	5.5	Os	若干赤化	遺物番号 199	Ⅱb	無
6-1	SI22	Ⅴ上	S5	1.83	1.77	22	25.75	Os	若干赤化	取上番号 2471	Ⅱb	無
6-1	SI24	Ⅴ上	S3	1.35	0.86	19	2	Os	強く赤化、若干赤化しているもの。		Ⅱb	無
6-1	SI28	Ⅳ下～Ⅴ上	S3	0.57	0.2	9	2	Os	若干赤化		Ⅱb	無
6-1	SX1	Ⅴ上	S3/S4	1.25	1.13	33	46.225	Os	人頭大程の大きさものは無赤化	遺物番号 332	―	無



第 35 図　縄文時代早期土器実測図（1）



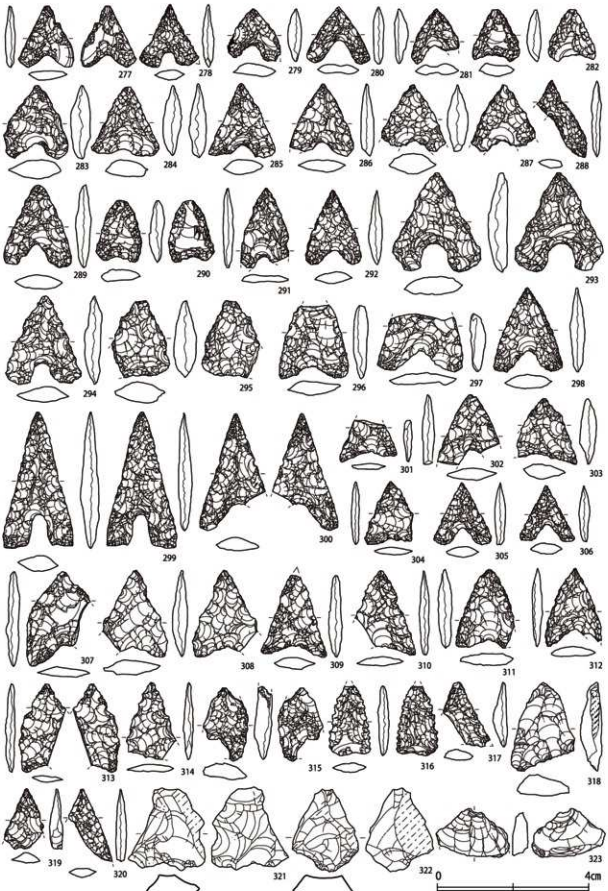
第 36 図　縄文時代早期土器実測図（2）



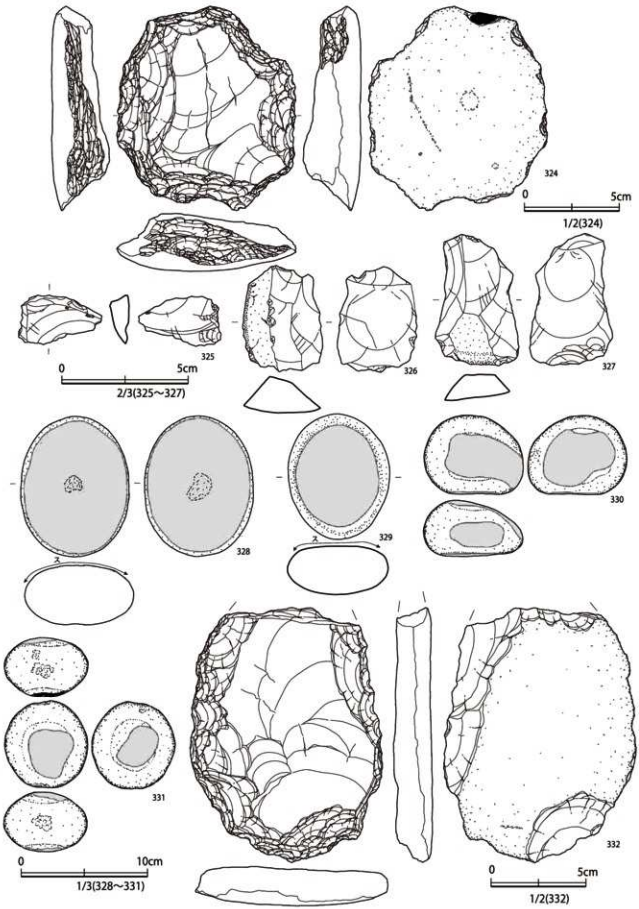
第 37 図　縄文時代早期土器・遺構分布図

第８表　縄文時代早期遺物観察表

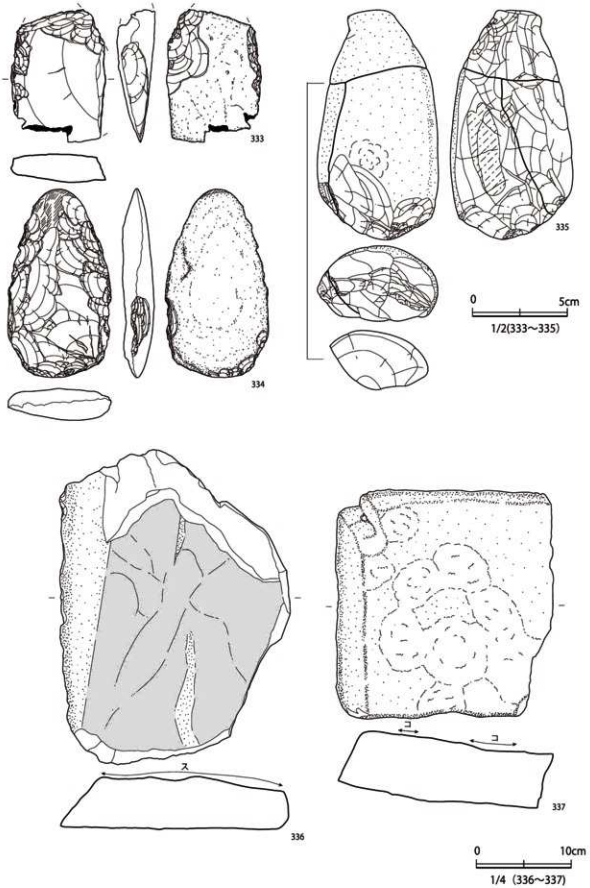
掲載番号	出土位置	器種	部位	手法・調整・文様ほか 外面	内面	口縁部or底部	焼成	色調 外面	内面	胎土	備考	残存率
250	Ⅳ上	深鉢	口縁部	横ナデ沈線文か横根２条	横ナデ	ナデ	良	橙（5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR6/4）	径１mm以下の透明光沢粒を多く含む。２mm以下の赤橙色・灰白色粒を少し含む。	末貫通補修孔 前平系？	1/8
251	Ⅴ上	深鉢	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	貝殻条痕文	良	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	径１mm以下の透明光沢粒を多く含む。径２mm以下の赤橙色粒・灰白色粒を少し含む。	—	—
252	Ⅳ	深鉢	口縁部	横ナデ	横ナデ	ナデ	良	橙（5YR6/8）	橙（5YR6/8）	径２mm以下の透明光沢粒・灰白色粒を多く含む。	前平系？	—
253	Ⅳ下	深鉢	底部	横ナデ	横ナデ	ナデ	良	橙（7.5YR7/6）	にぶい黄橙（10YR7/4）	径３mm以下の灰白色粒を多く含む。径１mm以下の透明光沢粒を少し含む。径２mm以下の橙色粒を極わずかに含む。	前平系？	—
254	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	底部付近～底部	条痕	工具ナデ	ナデ	良	橙（7.5YR6/6）	にぶい褐（7.5YR6/4）	径３mm以下の灰白色粒を多く含む。径１mm以下の透明光沢粒を少し含む。径４mm以下の灰白色粒を少し含む。	前平系？	1/4
255	Ⅳ	深鉢	口縁部	工具ナデ	工具ナデ	ナデ	良	暗灰黄（2.5Y4/2）	黒褐（2.5YR1/3）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。	無文、やや波状？	—
256	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	口縁部	横ナデ	横ナデ	ナデ	良	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/4）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。長２mm以下の黒色光沢粒を多く含む。径５mm以下の橙色粒、灰白色粒を少し含む。	無文	—
257	Ⅴ上	深鉢	口縁部	工具ナデ	貝殻条痕文	ナデ	良	灰黄褐（10YR4/2）	赤褐（5YR4/6）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。	無文	—
258	Ⅳ上	深鉢	口縁部	工具ナデ	工具ナデ	ナデ	良	褐（7.5YR4/4）	褐（7.5YR4/4）	径２mm以下の黒色粒を少し含む。径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。	無文	—
259	Ⅲ下～Ⅳ上	深鉢	口縁部	ナデ	工具ナデ	ナデ	良	にぶい褐（7.5YR5/4）	灰黄褐（10YR4/2）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。灰白色粒を多く含む。	無文	—
260	Ⅳ下	深鉢	口縁部	横ナデ	横ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。	無文	—
261	Ⅴ上	深鉢	口縁部	工具ナデ	工具ナデ	ナデ	良	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。	無文	1/4
262	Ⅳ	深鉢	口縁部	横ナデ	横ナデ	ナデ	良	橙（2.5YR6/8）	橙（2.5YR6/8）	径１mm以下の雲母粒を多く含む。径２mm以下の赤橙色・灰白色粒を少し含む。	無文	—
263	Ⅳ下	深鉢	胴部	工具ナデ	ナデ	—	良	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	径２mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。径２mm以下の黒色光沢粒、橙色粒を少し含む。	無文	
264	Ⅴ	深鉢	口縁部	工具ナデ	貝殻条痕文	ナデ	良	褐（7.5YR4/4）	褐（7.5YR4/4）	微細な透明光沢粒、径３mm以下の灰白色粒を多く含む。	無文	—
265	Ⅳ下	深鉢	胴部	ナデ	工具ナデ	—	良	橙（5YR6/6）	にぶい褐（7.5YR6/4）	径２mm以下の透明光沢粒、雲母粒、灰白色粒を多く含む。径１mm以下の橙色粒を少し含む。	無文	—
266	Ⅴ	深鉢	口縁～胴部	ナデ	貝殻条痕文	ナデ	良	橙（5YR6/6）	にぶい褐（7.5YR6/4）	径２mm以下の灰白色粒、橙色粒、透明光沢粒を多く含む。	無文	—
267	Ⅴ	深鉢	胴部	工具ナデ	工具ナデ	—	良	にぶい黄橙（5YR5/4）	にぶい黄橙（5YR5/4）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。径３mm以下のにぶい赤褐色粒を少し含む。	無文	—
268	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	胴部	工具ナデ	工具ナデ	—	良	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。径３mm以下の黒色粒、赤褐色粒を少し含む。	無文	—
269	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕文？後ナデ	—	良	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長２mm以下の黒色光沢粒を多く含む。径３mm以下の灰白色粒、透明光沢粒を多く含む。径１mm以下の橙色粒を極わずかに含む。	無文	—
270	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	口縁部付近	貝殻刺突文	ミガキ	—	良	橙（7.5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR5/4）	径３mm以下の雲母粒、灰白色粒を多く含む。径２mm以下の橙色粒を少し含む。	下刻薬式、突帯あり	—
271	Ⅴ上	深鉢	胴部	貝殻刺突文	ミガキ	—	良	橙（7.5YR6/6）	にぶい褐（7.5YR6/4）	径３mm以下の灰白色粒、雲母粒、橙色粒、透明光沢粒を多く含む。	下刻薬式	—
272	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	—	良	橙（7.5YR7/6）	にぶい黄橙（10YR6/4）	径１mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。	下刻薬式	—
273	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	胴部	貝殻刺突文	ミガキ	—	良	橙（7.5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR5/4）	径３mm以下の雲母粒、灰白色粒、橙色粒、透明光沢粒を多く含む。	下刻薬式	1/4
274	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	刻み目	良	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	径２mm以下の透明光沢粒を多く含む。径３mm以下の灰白色粒を含む。長２mm以下の黒色光沢粒を多く含む。	？	—
275	Ⅳ上	深鉢	胴部	楕円押型文	工具ナデ	—	良	にぶい黄橙（5YR6/4）	黒褐（10YR3/2）	径１mm以下の透明光沢粒、２mm以下の灰白色粒を多く含む。	楕円押型文	—
276	Ⅳ下	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	—	良	黄橙（10YR8/6）	にぶい橙（10YR7/4）	径２mm以下の透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。	憲ノ神式？	—



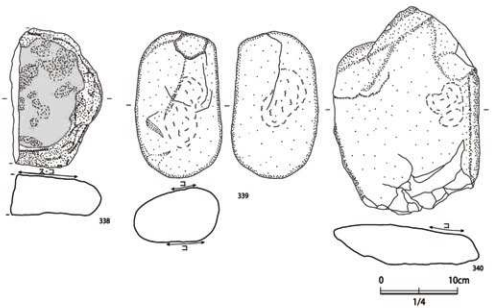
第 38 図　縄文時代早期石器実測図（1）



第 39 図　縄文時代早期石器実測図（2）



第 40 図　縄文時代早期石器実測図（3）



第 41 図　縄文時代早期石器実測図（4）

第９表　縄文時代早期石器観察表（１）

※出土位置の東西は５区、８・Ｎ十数字は小グリッドを示す。また水は、６－１区内の水道管埋設下の包含層、またはその付近を示す。水道管は調査区中央を東西に延びる。

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	Y	Z	観察所見
277	Ⅳ上	S3	Ah	ObⅡ	1.28	1.44	0.25	0.40	-77342.169	52217.609	91.62	表面右脚部以外に調整剥離。
278	Ⅳ上	S4	Ah	ChⅡ	1.28	1.56	0.31	0.40	-77341.119	52211.779	91.59	全面調整剥離。右脚部が一部折損。
279	Ⅳ下	S4	Ah	Aso-Tu	1.00	1.38	0.35	0.50	-77339.529	52211.039	91.49	風化。
280	Ⅳ下	S4	Ah	ChⅡ	0.87	1.63	0.27	0.40	-77339.379	52211.479	91.42	脚部が長い。
281	Ⅳ上	S3	Ah	Aso-Tu	0.97	1.19	0.34	0.40	-77338.986	52215.81	91.49	右脚部が折損。
282	－	風倒木	Ah	ObⅡ	1.20	1.22	0.36	0.50	－	－	－	側縁のみ調整痕あり。
283	Ⅲ下Ⅳ上	6-3	Ah	ObⅡ	1.53	1.62	0.50	1.20	-77342.549	52232.819	92.58	
284	Ⅲ下Ⅳ上	S5	Ah	ChⅡ	1.66	1.76	0.46	1.10	-77339.049	52205.719	91.61	両側縁を調整剥離。
285	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Ah	ChⅡ	1.60	1.71	0.44	1.00	-77343.119	52212.569	91.49	
286	Ⅳ下Ⅴ上	S5	Ah	Aso-Tu	1.52	1.67	0.33	0.80	-77340.569	52206.259	91.49	風化。側縁に調整痕。左脚部一部折損。
287	Ⅳ下Ⅴ上	S7	Ah	ObⅠ	1.49	1.60	0.55	1.10	-77341.699	52196.386	91.64	
288	Ⅳ上	S1	Ah	ChⅡ	1.04	0.72	0.26	0.20	-77340.129	52225.609	91.91	右脚部折損。脚が長い。
289	Ⅲ下Ⅳ上	6-2	Ah	ChⅡ	1.69	1.78	0.40	1.10	-77338.769	52233.419	92.65	
290	Ⅳ上	S2	Ah	ChⅡ	1.50	1.17	3.40	0.60	-77340.819	52224.449	91.84	側縁のみ調整剥離。浅い抉り。
291	Ⅲ下Ⅳ上	S2	Ah	Ho	1.80	1.24	0.26	0.60	-77341.359	52220.689	91.76	両基部縁折損。
292	Ⅳ下Ⅴ上	S3	Ah	ChⅡ	1.61	1.46	0.36	0.70	-77343.34	52215.612	91.43	
293	Ⅳ下	S7	Ah	ChⅡ	1.98	2.31	0.49	2.30	-77338.749	52198.079	91.81	
294	Ⅲ下Ⅳ上	N2	Ah	ChⅡ	1.89	1.99	0.42	1.30	-77336.709	52220.429	91.37	
295	Ⅳ上	S6	Ah	ChⅡ	1.96	1.43	0.58	1.70	-77342.239	52205.129	91.69	左脚部折損。石鏃未製品か。
296	Ⅳ上	S6	Ah	ChⅡ	1.82	1.81	0.37	1.30	-77341.349	52205.029	91.62	上部折損。

第９表　縄文時代早期石器観察表（２）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
297	Ⅳ上	S4	Ah	ChⅡ	1.41	2.22	0.39	1.20	-77341.419	52212.679	91.62	上部折損。
298	Ⅲ下Ⅳ上	S4	Ah	ChⅡ	1.67	1.81	0.37	1.10	-77339.047	52214.442	91.55	側縁に調整痕。
299	Ⅳ下	N4	Ah	ChⅡ	2.78	1.83	0.48	2.00	-77335.986	52213.909	91.14	
300	Ⅳ下Ⅴ上	N9	Ah	ObⅡ	2.38	1.47	0.35	1.00	-77334.242	52188.781	92.04	表面右脚部が折損。
301	Ⅴ	S5	Ah	ChⅡ	0.93	1.46	0.20	0.30	—	—	—	上部折損。
302	Ⅳ上	S4	Ah	ChⅡ	1.45	1.46	0.31	0.70	-77339.929	52211.759	91.55	両脚部折損。
303	Ⅳ上	S5	Ah	ChⅡ	1.48	1.50	0.42	0.90	-77342.599	52209.009	91.73	左脚部折損。
304	Ⅳ下	S5	Ah	ChⅡ	1.50	1.24	0.21	0.40	-77339.409	52206.579	91.49	右脚部折損。浅い抉り。
305	Ⅳ上	S4	Ah	ChⅡ	1.17	1.49	0.28	0.50	-77338.15	52211.051	91.43	
306	Ⅳ	S6	Ah	ChⅡ	1.01	1.41	0.29	0.30	—	—	—	全体に調整痕。
307	Ⅳ上	S5	Ah	ChⅡ	1.93	1.38	0.31	1.00	-77342.389	52206.309	91.68	右脚部折損。
308	Ⅲ下Ⅳ上	6-2	Ah	ObⅢ	2.05	1.61	0.40	1.00	-77338.679	52230.809	92.38	
309	Ⅳ上	S3	Ah	ShⅢ	1.84	1.69	0.35	0.90	-77342.699	52217.469	91.70	先端部折損。
310	Ⅳ	N3	Ah	ChⅡ	1.98	1.28	0.24	0.70	—	—	—	左脚部折損。
311	Ⅲ下Ⅳ上	S6	Ah	ChⅡ	1.85	1.47	0.35	1.10	-77340.869	52203.199	91.81	
312	Ⅴ上	S4	Ah	AnⅡ	1.61	1.48	0.26	0.60	-77341.026	52212.419	91.35	右脚部一部折損。
313	Ⅳ上	S4	Ah	ChⅡ	2.12	1.02	0.25	0.60	-77341.019	52211.929	91.58	表面右側折損。
314	Ⅳ上	S2	Ah	ChⅡ	1.98	1.29	0.25	0.50	-77340.859	52224.509	91.84	表面左脚折損。抉りなし。石鏃失敗作か。
315	Ⅳ下Ⅴ上	N2	Ah	ObⅠ	1.71	1.16	0.43	0.70	-77336.019	52221.209	91.22	上下面とも一部欠損。石鏃失敗作か。
316	—	風倒木	Ah	Ho	1.79	1.05	0.26	0.50	—	—	—	風化。全体的に調整痕。
317	Ⅳ	S4	Ah	ObⅢ	1.37	0.83	0.35	0.40	—	—	—	左脚部折損。
318	Ⅳ下	S3	Ah	ChⅡ	2.09	1.59	0.57	1.90	—	—	—	石鏃未製品か。
319	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Ah	ObⅡ	1.58	0.98	0.35	0.40	-77338.666	52211.827	91.30	上部のみ残存。
320	—	風倒木	Ah	ChⅡ	1.32	0.74	0.26	0.40	—	—	—	右脚部折損。
321	Ⅳ上	S4	Rf	ChⅡ	2.20	2.10	0.70	2.58	-77341.739	52213.189	91.62	石鏃未製品か。
322	Ⅳ下	S4	Rf	ChⅡ	2.20	1.70	0.60	2.05	-77342.349	52213.779	91.58	石鏃未製品か。
323	Ⅳ下Ⅴ上	N7	Pe	ObⅡ	1.24	1.86	0.45	0.90	—	—	—	下面は折損。
324	—	6-1	Es	ShⅠ	10.35	9.35	3.01	345.10	—	—	—	腹面は自然面。背面は全体的に不定方向から剥離を行った後、周縁を調整剥離している。
325	Ⅳ上	S5	Rf	ObⅠ	2.00	3.30	0.70	3.60	—	—	—	上面折損。その後、折損部分に一部剥離。
326	Ⅴ上	S5	F	ChⅡ	4.20	3.10	1.40	21.08	-77342.541	52206.603	91.40	背面中央付近に調整痕。
327	Ⅴ上	S3	F	ChⅡ	5.20	3.20	1.00	22.43	-77338.321	52216.386	91.21	腹面下縁には二次加工痕。
328	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Gs/Hs	Os	11.10	8.60	4.70	673.20	-77342.649	52212.679	91.42	
329	Ⅳ上	S4	G s	Os	9.90	8.00	3.50	451.70	-77342.219	52211.159	91.56	
330	Ⅴ上	S2	Gs	Os	6.20	7.80	4.40	340.70	-77340.559	52221.599	91.57	
331	Ⅳ下Ⅴ上	S3	Gs/Hs	Os	6.90	6.60	4.70	284.90	-77341.329	52219.049	91.48	
332	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Ax	Ho	13.43	10.09	1.99	400.50	-77342.484	52211.812	91.51	上面は折損。
333	Ⅴ	S9	Ax	Ho	6.98	4.98	1.94	75.70	-77337.409	52189.749	92.17	上面、背面右側の一部折損。
334	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Ax	Ho	9.93	5.38	1.55	108.80	-77338.339	52211.443	91.34	裏面はほぼ自然面。研磨痕。
335	接合１	S6	A x	Ho	12.20	6.40	3.90	369.20	-77339.589 -77338.819 —	52202.229 52201.529 —	91.59 91.62 —	取上番号2-6-2206Ⅳ下+2207Ⅳ下+水6Ⅳと接合。両面下縁からの加工により成形。
336	Ⅳ下Ⅴ上	S6	As	Os	33.40	24.10	5.70	6360.00	-77342.378	52203.946	91.55	
337	Ⅴ上	S7	As	Os	24.20	23.00	8.20	7160.00	-77336.433	52196.754	91.56	
338	Ⅳ上	S3	As	Os	17.50	12.20	5.40	1755.00	-77339.135	52215.89	91.46	
339	Ⅴ上	S5	As	Os	19.20	11.30	7.20	2380.00	-77342.256	52208.273	91.40	
340	Ⅳ下Ⅴ上	S4	As	Os	27.10	20.00	5.30	3980.00	-77339.196	52211.398	91.34	

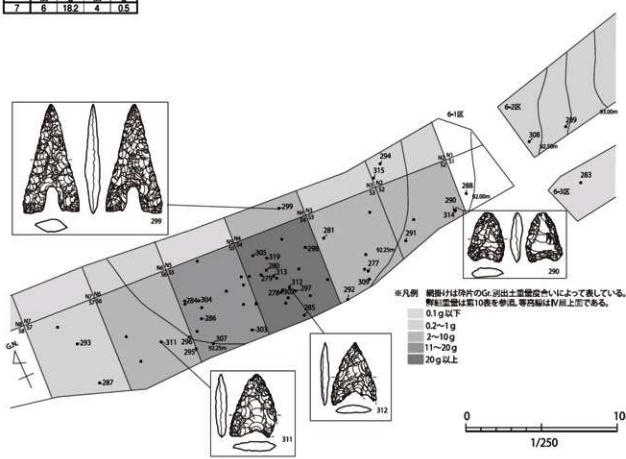
第10表　6区縄文時代早期・一括・7区　石器組成表

※N・S+数字は6－1区の小グリッドを示す。

縄文時代早期	工程器種				決定器種（剥片石器）						決定器種（礫塊石器）										
	F		Ch		Ah		Pe		Rf		Hs		Gs		Gs/Hs		As		Ax		
Gr区名	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	計/g
N1	1	2																			2.0
N2	19	29.3	8	1.3	2	2															32.6
N3	27	48.3	9	0.7	2	1.1															50.1
N4	19	13.6	49	5.1	1	2															20.7
N5	22	36.6	1	0.05	1	0.3															37.0
N6	6	13.3	8	1.0																	14.3
N7	2	10.5	1	0.1			1	0.9													11.5
N8			1	0.07	1	1															1.1
S1	2	10			1	0.2															10.2
S2	36	21	48	3.2	4	2.4					1	119	1	340.7							486.4
S3	70	83	97	5.7	8	5.6									1	284.9	1	1755			2134.2
S4	251	284.3	357	27.1	24	15.3			2	4.7	5	1827.4	2	951.5	1	673.2	1	3980	2	509.3	8272.7
S4/S5	1	0.6																			0.6
S5	151	185.8	222	16.1	19	10.3			1	3.6	1	208.5					1	2380			2804.4
N5/S5	1	0.7																			0.7
S6	32	62.8	41	4.7	6	5.5					1	148	1	361.1			1	6360	1	369.2	7311.3
S7	25	22.1	27	1.4	3	5.6					1	151.1					1	7160			7340.2
S8	4	7.1			1	1.9															9.0
S9	1	0.4																	1	75.7	76.1
6－2	15	163.2	4	0.5	2	2.1															165.7
6－3	16	26.9	1	0.07	1	1.2															28.1
計	701	1021.3	874	67.2	76	56.5	1	0.9	3	8.3	9	2454	4	1653.3	2	958.1	5	21635	4	954.2	

一括取上	工程器種								決定器種（剥片石器）										決定器種（礫塊石器）				
	Co		Ma		F		Ch		Ah		Sk		Tr		Tp		Rf		Mf		Gs/Hs		Hs	
Gr区名	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	計/g
表採下（ATF）					1	1.0																			1.0
表採下（ATJ）															1	5.4									5.4
ＡＴＪ	1	288	2	486.4	39	841	6	0.8					1	27.9			2	6.1	1	42.4	1	376.9	3	833.6	2903.1
縄文早期					1	1.7	2	0.07	2	2.17	1	345.1											1	121.3	470.34
風倒木					26	86.5	18	3.4	5	3.1															93
計	1	288.0	2	486.4	67	930.2	26	4.3	7	5.3	1	345.1	1	27.9	1	5.4	2	6.1	1	42.4	1	376.9	4	954.9	

区名	工程器種			
	F		Ch	
	個	g	個	g
7	6	18.2	4	0.5



第 42 図　縄文時代早期石鏃出土分布図

第８節　接合資料

本遺跡では、層位が異なる状態で接合した資料が多くあった。そのため、時期別に掲載せず、新たに接合資料と節を設け報告する。

今回、第３次調査では、整理作業で折れ接合も含め、70組の接合をおこなった。そのうち第２次調査掲載分の遺物と接合した資料は２組である。第２次調査未掲載遺物と接合した資料は16組である。また、決定器種で接合したのは、前節で掲載した分、未掲載分を合わせて９組である。そのほとんどが敲石の接合資料である。

接合資料１（第44図）

ホルンフェルス製の３点からなる接合資料である。341は下端・左側縁に調整が施されている。342・343は調整が施されたときにでた調整剥片である。

接合資料２（第44図）

不定形剥片の接合資料である。344＋345と346は折れ接合である。折損後、344＋345の折損部を打面として345を剥離している。

接合資料４（第45図）

352は353を剥離した面を打面とし、349･351を剥離している。その後351は350を剥離し、不定形剥片を採取している傾向がうかがえる。

接合資料８（第45図）

縦長系の剥片を採取目的に剥離したと考えられる。361→362→363の順で剥離されている。

接合資料９（第46図）

拳程度の扁平な円礫を利用し、その端部から剥離を加えている。節理面に沿う剥片が多い。不定形の小型の剥片を剥離している。

接合資料10（第46図）

４点の剥片からなる接合資料である。378は376+377+379から剥離された後に376の主要剥離面を打面として377+379が剥離されている。376の主要剥離面には横方向からの剥離痕も認められる。377と379は折れ接合である。

接合資料11（第46図）

381から382、380が剥離。383から381、382が剥離されている。小型の不定形剥片を剥離していると考えられる。

接合資料12（第46図）

384の石核の端部に剥離を加えている。打面部の剥片を剥離後、正面の剥離をおこなっている。接合資料はいづれも単一打面からの剥離による不定形剥片である。

接合資料13（第47図）

391は、390、392＋389が剥離される以前の石核打面より作出された剥片である。392と389は折れ接合である。

接合資料15（第47図）

初期段階の剥片である。397が剥離された後、母岩となる石核より396が剥離されている。396→397。

接合資料18（第48図）

404→403が剥離された後、作出された平坦面より402を剥離し目的剥片を採取している。

接合資料22（第49図）

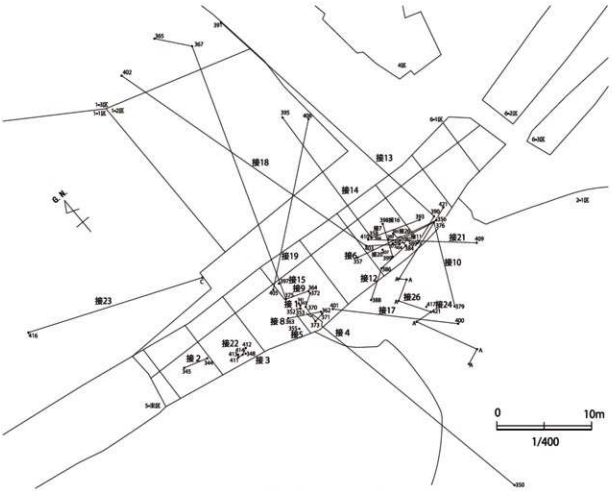
母岩から403、411を剥離した後、414を剥離している。その後、打面転移を行い、412を剥離している。目的剥片は、不定形剥片である。

接合資料23（第49図）

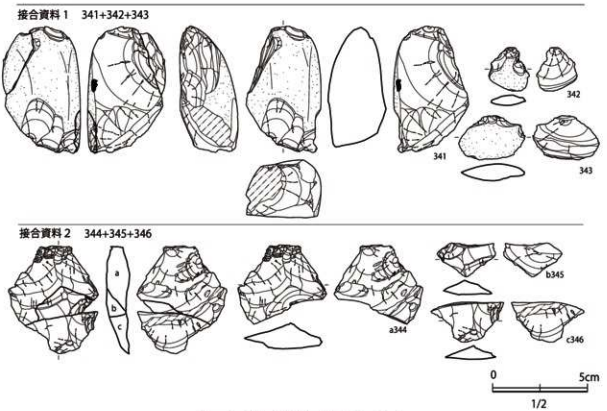
接合資料23は第２次調査報告書（2012）掲載遺物144（C）との接合資料である。416の平坦打面から石核とこれらの接合資料を剥離した後、自然面方向からの加撃により、Cと415＋416を分割している。その後Cは、スクレイパーとして調整加工を施している。

接合資料26（第49図）

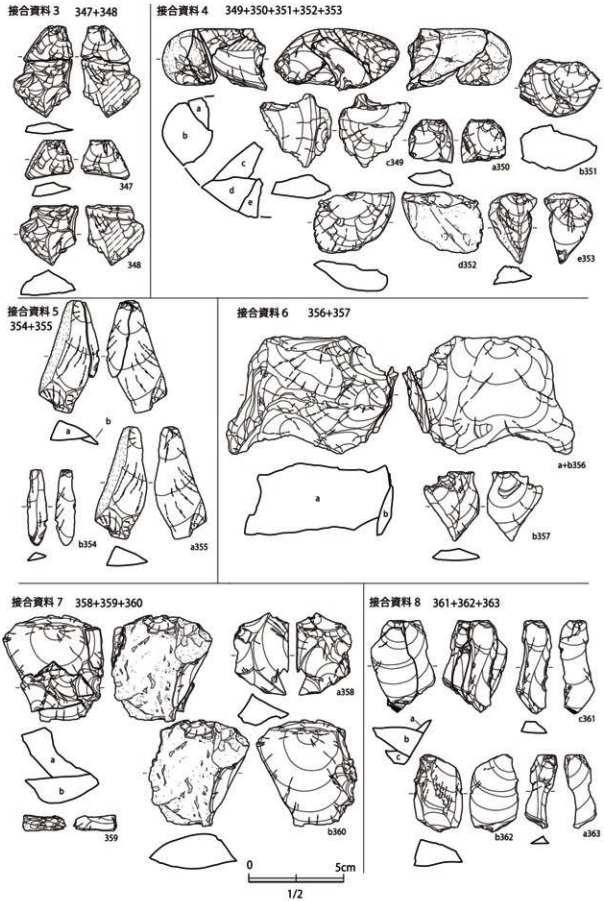
Aは第２次調査報告書（2012）掲載接合資料遺物589～593（2012）と接合した資料である。母岩の作出された平坦面より420が剥離された後に、何回か剥離したあと、母岩と422＋421が分割され421が422より剥離されている。420→○→○→422＋421→421の順となる。



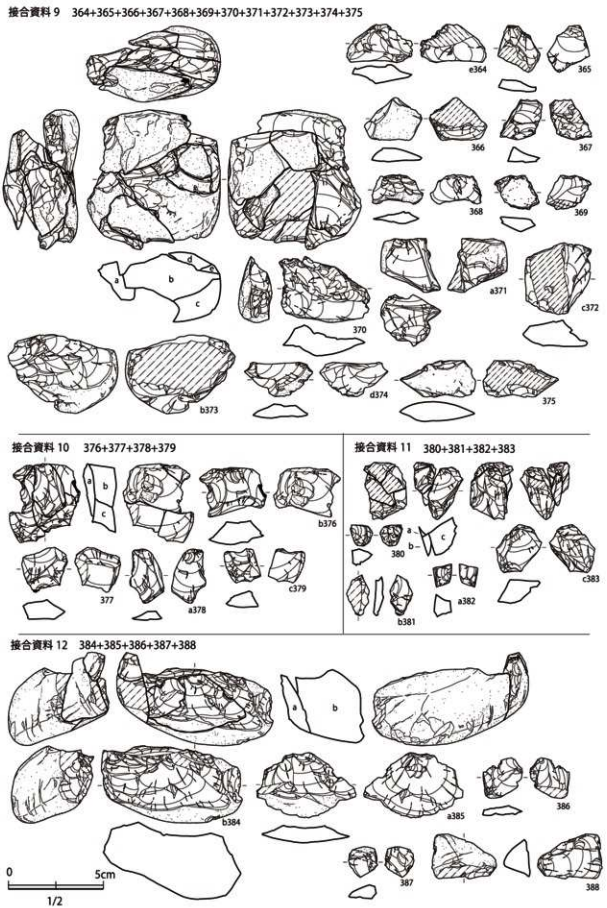
第 43 図　接合状況分布図



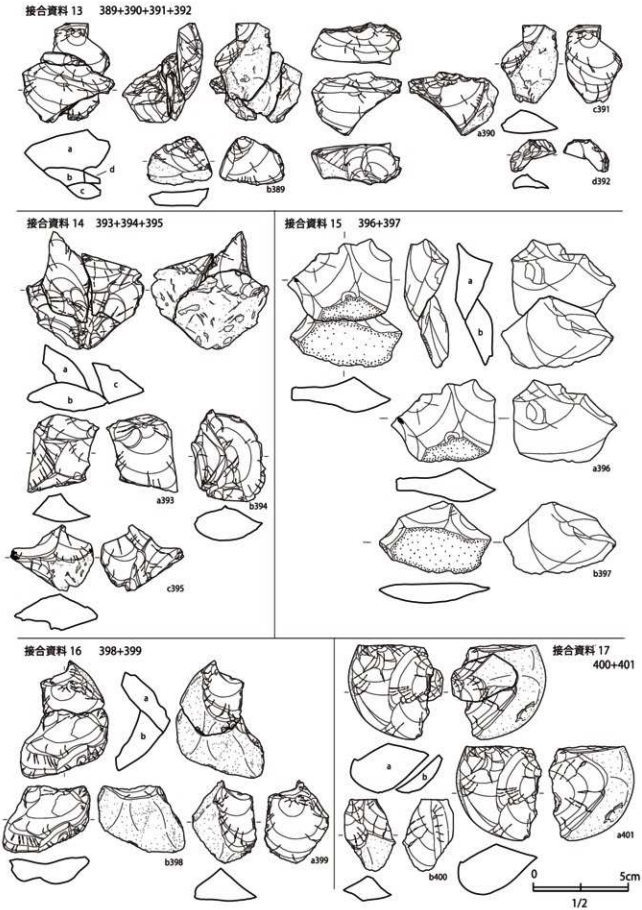
第 44 図　接合資料石器実測図（1）



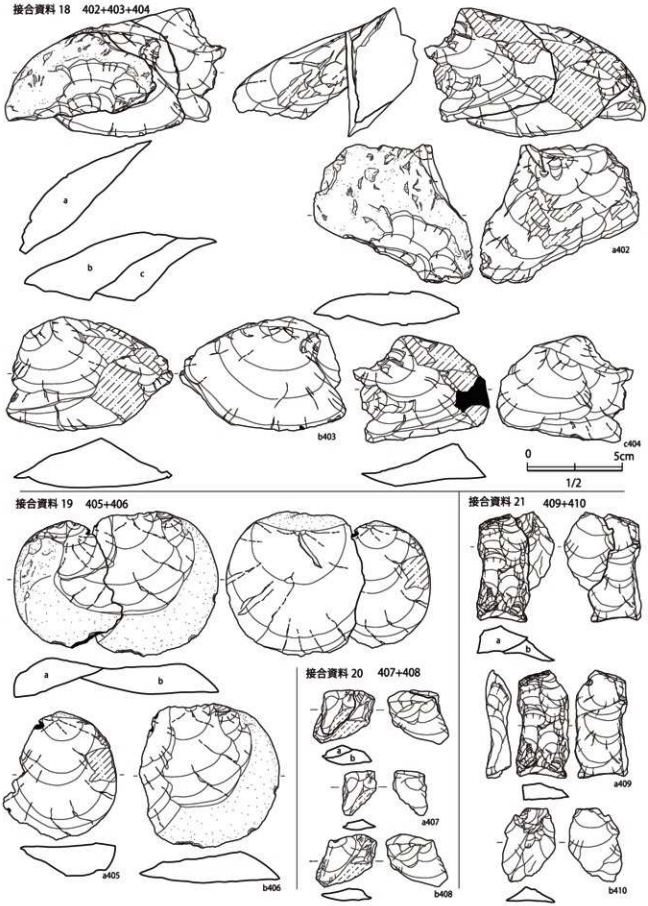
第 45 図　接合資料石器実測図（2）



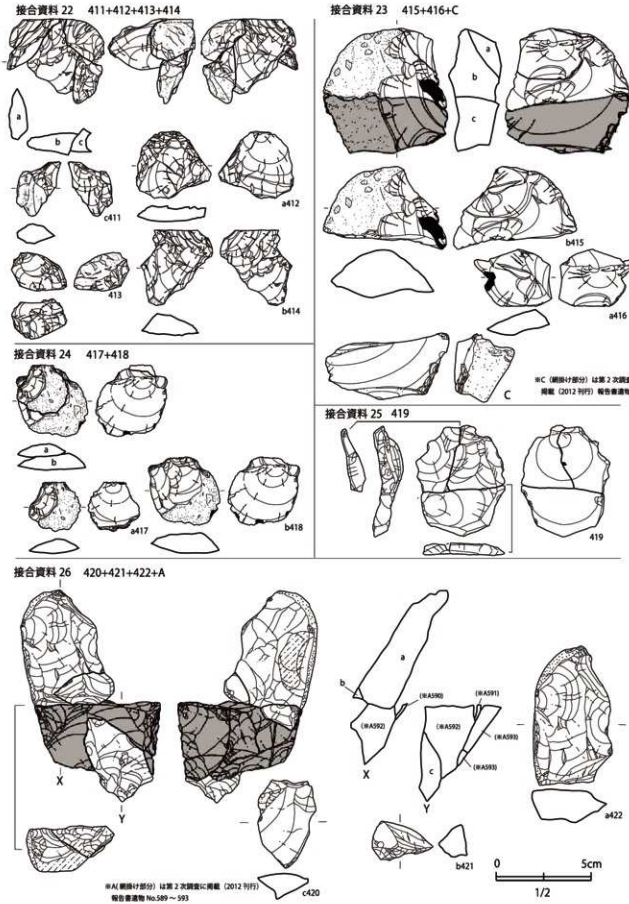
第 46 図　接合資料石器実測図（3）



第 47 図　接合資料石器実測図（4）



第 48 図　接合資料石器実測図（5）



第 49 図　接合資料石器実測図（6）

第11表　接合資料観察表（1）

※出土位置の東西は5区、S・N十数字は小グリッドを示す。また水は、6－1区内の水道管埋設下の包含層、またはその付近を示す。水道管は調査区中央を東西に延びる。

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
	接合資料1	－	－	Ho	6.65	4.10	3.00	113.60	－	－	－	
341	Ⅶ	S6	Rf	Ho	6.65	3.94	3.02	104.10	-77339.739	52201.14	91.28	下端・左側縁に調整痕。
342	Ⅶ	S6	F	Ho	2.28	2.08	0.52	2.90	－	－	－	背面はほぼ自然面。調整剥片。
343	Ⅶ	S6	F	Ho	2.25	3.47	0.85	6.60	-77340.02	52201.112	91.34	背面はほぼ自然面。調整剥片。
	接合資料2	－	－	ChⅡ	5.70	4.75	1.40	27.90	－	－	－	不定形剥片。折れ接合。
344	Ⅶ上	S9	F	ChⅡ	4.18	4.69	1.35	19.10	-77337.973	52189.99	91.38	頭部調整痕。
345	Ⅴ	S9	F	ChⅡ	1.78	3.08	1.03	3.60	-77337.179	52187.469	92.08	
346	Ⅶ	S7	F	ChⅡ	2.11	3.83	0.92	5.20	－	－	－	
	接合資料3	－	－	ChⅡ	4.82	3.11	1.90	14.60	－	－	－	不定形剥片。折れ接合。
347	Ⅴ～Ⅶ	S7	F	ChⅡ	2.03	2.47	0.66	3.70	－	－	－	
348	1T	S8	F	ChⅡ	3.17	3.03	1.30	10.90	-77340.199	52193.419	91.75	裏面はほぼ節理面。
	接合資料4	－	－	ChⅡ	3.25	5.50	6.60	90.80	－	－	－	
349	Ⅴ	S6	F	ChⅡ	3.84	3.78	1.85	12.90	－	－	－	不定形剥片。
350		2-1	F	ChⅡ	2.26	2.35	0.92	5.80	-77369.132	52206.264	89.70	不定形剥片。第2次調査分。
351	Ⅴ	S6	Co	ChⅡ	3.04	4.27	2.48	36.60	－	－	－	裏面はほぼ自然面。
352	Ⅳ下Ⅴ上	S6	F	ChⅡ	3.23	4.28	2.08	27.30	-77340.106	52200.578	91.58	不定形剥片。
353	Ⅴ下	S6	F	ChⅡ	3.72	2.53	1.12	8.20	-77340.239	52200.936	91.59	不定形剥片。
	接合資料5	－	－	Ho	5.90	3.15	1.20	16.90	－	－	－	目的剥片は連続した縦長剥片か。
354	Ⅴ	S7	F	Ho	4.00	1.03	0.37	1.50	－	－	－	下端に微細剥離痕あり。
355	Ⅴ下	S7	F	Ho	5.90	2.70	0.96	15.40	-77341.842	52199.458	91.53	背面左側は自然面。
	接合資料6	－	－	Ho	6.20	9.10	3.70	209.20	－	－	－	単一打面により剥片剥離。
356	Ⅴ～Ⅵ	S3	Co	Ho	6.20	8.62	3.70	203.50	-77342.391	52217.963	91.33	尾前山溶結凝灰岩と流紋岩の礫がわかる石材。長野遺跡にも同石材の石核が出土。
357	Ⅴ下	S5	F	Ho	3.60	28.50	0.60	5.70	-77340.029	52209.009	91.25	不定形剥片。
	接合資料7	－	－	RyⅠ	5.65	5.30	4.85	76.20	－	－	－	359と360は折れ接合。
358	Ⅴ下	S4	Co	RyⅠ	4.34	2.91	1.90	16.40	-77339.306	52211.523	91.23	両面不定方向からの剥離。358が剥離された石核の打面作出。
359	Ⅴ	S6	F	RyⅠ	0.83	2.28	0.55	1.00	－	－	－	
360	Ⅴ	S6	F	RyⅠ	5.62	5.29	2.05	58.80	－	－	－	平坦打面の不定形剥片。裏面は自然面。358剥離前の分割機。
	接合資料8	－	－	ShⅠ	4.85	3.35	2.30	23.90	－	－	－	目的剥片は縦長剥片か。
361	Ⅴ	S7	F	ShⅠ	4.89	1.83	0.68	5.60	－	－	－	縦長剥片。頭部調整痕あり。
362	Ⅴ下	S6	F	ShⅠ	4.06	2.50	1.30	15.40	-77341.927	52202.354	91.43	不定形剥片。頭部調整痕あり。
363	Ⅳ下Ⅴ上	S7	F	ShⅠ	3.83	1.65	0.35	2.90	-77340.233	52199.264	91.61	縦長剥片。頭部調整痕あり。
	接合資料9	－	－	ShⅡ	7.40	7.10	4.00	164.10	－	－	－	目的剥片は不定形剥片か。
364	Ⅳ下	S6	F	ShⅡ	2.00	3.47	1.12	6.50	-77339.409	52202.769	91.68	節理面を打面とする。
365	-	1	F	ShⅡ	2.44	2.22	1.05	3.70	-77308.492	52207.438	88.53	第2次調査分。
366	Ⅴ	S6	F	ShⅡ	2.25	3.03	0.82	4.70	－	－	－	節理面を打面とする。
367	-	1-3	F	ShⅡ	2.12	2.22	0.98	3.60	-77311.671	52209.976	88.93	第2次調査分。
368	Ⅴ	S6	F	ShⅡ	1.53	2.68	0.71	2.40	－	－	－	頭部調整痕？あり。
369	Ⅴ	S6	F	ShⅡ	1.79	2.35	0.76	2.90	－	－	－	
370	Ⅳ下Ⅴ上	S6	F	ShⅡ	3.48	4.78	1.77	26.20	-77340.492	52201.468	91.56	
371	Ⅳ上	S6	F	ShⅡ	2.87	3.14	2.74	21.30	-77342.179	52202.339	91.80	
372	Ⅳ下	S6	F	ShⅡ	3.78	3.52	1.45	20.90	-77339.709	52202.749	91.64	
373	Ⅴ上	S6	Co	ShⅡ	4.14	5.80	2.46	57.40	-77342.334	52201.28	91.58	
374	Ⅴ	S6	F	ShⅡ	1.79	3.58	0.91	5.10	－	－	－	
375	Ⅳ下Ⅴ上	S6	F	ShⅡ	1.91	3.96	1.06	9.40	-77338.529	52200.4	91.46	

第11表　接合資料観察表（2）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
接合資料10		—	—	ShⅡ	4.20	3.70	1.75	22.90	—	—	—	377と379は折れ接合。
376	Ⅳ上a	S3	F	ShⅡ	2.61	3.50	1.43	12.20	-77342.369	52217.609	91.71	側部調整痕あり。
377	Ⅳ下	S4	F	ShⅡ	2.36	2.40	1.30	5.30	-77341.279	52212.809	91.59	表面左側縁に微細剥離痕。
378	Ⅴ	S4	F	ShⅡ	2.88	1.81	0.52	2.20	—	—	—	
379	Ⅳ	2-1	F	ShⅡ	1.79	1.92	0.91	3.20	-77350.607	52213.584	92.37	
接合資料11		—	—	ChⅡ	3.00	2.60	2.25	12.10	—	—	—	
380	Ⅳ下	S4	Co	ChⅡ	1.10	1.18	1.28	1.50	-77340.659	52212.739	91.50	
381	Ⅴ	S3	F	ChⅡ	2.12	1.20	5.30	1.20	—	—	—	表左側は節理面。
382	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Co	ChⅡ	1.20	0.98	1.25	1.60	-77341.489	52213.609	91.48	
383	Ⅴ	S4	Co	ChⅡ	2.52	2.39	1.50	7.80	—	—	—	
接合資料12		—	—	ChⅡ	4.90	8.30	5.35	188.40	—	—	—	
384	Ⅳ下Ⅴ上	S4	Co	ChⅡ	4.09	7.44	4.34	158.70	-77342.349	52213.769	91.44	下部に自然面を残す。
385	Ⅳ下	S4	F	ChⅡ	3.44	5.24	1.08	15.00	-77340.529	52213.529	91.47	
386	Ⅲ下Ⅳ上	S4	F	ChⅡ	2.13	2.09	0.86	2.60	-77342.529	52210.239	91.68	
387	Ⅳ上	S4	F	ChⅡ	1.60	1.52	0.82	1.90	—	—	—	
388	Ⅳ	2-1	F	ChⅡ	2.36	3.37	1.52	10.20	-77344.387	52207.239	92.88	
接合資料13		—	—	Ho	5.25	4.85	4.20	53.30	—	—	—	打面再生が行われた可能性あり。
389	Ⅲ下Ⅳ上	S4	F	Ho	2.58	3.42	1.00	9.10	-77342.959	52214.879	91.71	
390	Ⅳ下Ⅴ上	S3	Co	Ho	3.38	4.73	2.21	26.40	-77341.903	52218.031	91.43	
391	—	1	F	Ho	4.11	2.98	1.31	15.60	-77311.689	52214.019	88.83	第2次調査分。
392	Ⅳ	N3	F	Ho	1.70	2.40	0.82	2.20	—	—	—	
接合資料14		—	—	RyⅠ	6.20	6.20	3.80	75.20	—	—	—	394→393、395。不定形剥片。393以外は自然面残存。
393	Ⅳ下Ⅴ上	S3	F	RyⅠ	4.11	3.78	1.56	18.80	-77341.188	52216.596	91.44	
394	Ⅳ下	S4	Co	RyⅠ	4.87	3.90	2.08	37.10	-77339.379	52211.479	91.42	裏面は自然面。
395	—	1-3	F	RyⅠ	3.48	4.38	1.98	19.3	-77323.567	52212.456	90.38	第2次調査分。
接合資料15		—	—	RyⅠ	6.90	6.10	2.30	62.40	—	—	—	397→396。
396	Ⅳ	S4	F	RyⅠ	3.90	5.90	1.10	25.30	—	—	—	
397	Ⅴ上	S6	F	RyⅠ	4.40	5.60	1.80	37.10	-77336.79	52200.872	91.39	
接合資料16		—	—	RyⅠ	6.20	4.55	2.80	43.60	—	—	—	399→398。自然面あり。
398	Ⅲ下Ⅳ上	S4	F	RyⅠ	3.50	4.58	1.70	23.80	-77339.009	52213.363	91.62	
399	Ⅳ下	S4	F	RyⅠ	4.32	3.30	2.70	19.80	-77342.349	52211.929	91.58	右側縁に微細剥離痕。
接合資料17		—	—	RyⅡ	4.95	5.00	2.70	77.30	—	—	—	400→401。
400	Ⅳ	2-1	F	ShⅡ	3.76	2.64	1.20	10.20	-77352.239	52212.678	92.11	
401	Ⅴ上	S6	Co	ShⅡ	4.95	4.42	2.65	67.10	-77342.519	52203.513	91.51	横方向からの剥離後、打点をつかい逆方向に剥離。
接合資料18		—	—	ShⅡ	6.80	11.65	9.70	316.10	—	—	—	
402	—	1-3	F	ShⅡ	7.37	8.40	2.05	109.40	-77309.256	52202.263	88.28	第2次調査分。
403	Ⅴ上	S4	F	ShⅡ	6.04	8.80	3.00	129.10	-77339.659	52210.505	91.34	
404	Ⅳ下Ⅴ上	S4	F	ShⅡ	5.67	7.19	2.65	77.60	-77341.819	52213.329	91.47	
接合資料19		—	—	Ho	7.62	10.75	1.90	172.00	—	—	—	自然面打面。石核から405が剥離された後406が剥離された。
405	Ⅳ下Ⅴ上	S7	F	Ho	6.76	5.94	1.70	61.50	-77336.905	52200.004	91.53	
406	—	1-1	F	Ho	7.62	7.26	1.80	110.50	-77325.483	52214.454	90.62	第2次調査分。
接合資料20		—	—	Ho	2.80	3.30	1.10	8.30	—	—	—	407→408
407	Ⅳ下	S4	F	Ho	2.40	1.80	0.60	2.20	-77341.099	52211.579	91.49	
408	Ⅴ		F	Ho	2.80	3.30	0.70	6.10	—	—	—	不定形剥片「ノ」の字状の剥片。

第11表　接合資料観察表（3）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	Y	Z	観察所見
接合資料 21				ShⅡ	5.85	4.10	1.90	29.50	—	—	—	409→410
409	Ⅴ	2-1	F	ShⅡ	5.55	2.70	1.30	22.50	-77346.940	52219.685	92.52	頭部調整痕あり。両接打面。
410	Ⅵ下Ⅶ上		F	ShⅡ	3.90	2.90	0.70	7.00	-77339.296	52211.102	91.13	
接合資料 22				ChⅡ	4.58	5.10	4.60	46.80	—	—	—	
411	—	S8	F	ChⅡ	2.88	2.33	1.30	6.00	-77340.009	52192.569	91.84	
412	—	S8	F	ChⅡ	3.54	3.95	1.02	11.50	-77339.759	52193.809	91.74	頭部調整痕あり。
413	—	S8	F	ChⅡ	2.03	2.90	2.12	12.00	-77339.779	52192.749	91.75	
414	—	S8	F	ChⅡ	3.98	3.78	1.32	17.30	-77340.089	52193.109	91.52	
接合資料 23				RyⅠ	6.60	6.55	2.80	123.80	—	—	—	
415	Ⅴ	水5	F	RyⅠ	2.95	4.02	1.10	12.00	—	—	—	
416	—	1-1	F	RyⅠ	4.35	6.45	2.77	61.80	-77323.718	52177.260	93.21	第2次調査分。
C	Ⅴ	1-2	Rf	RyⅠ	6.50	3.60	2.60	49.90	-77331.505	52195.972	92.40	第2次調査分。遺物登録番号09220144
接合資料 24				Ho	3.75	3.80	1.40	22.00	—	—	—	417→418
417	Ⅳ	2-1	Rf	Ho	2.60	2.20	0.78	5.70	-77348.711	52211.266	92.57	下端に二次加工痕あり。
418	Ⅴ	N2	F	Ho	3.60	3.75	1.05	16.30	—	—	—	不定形方向。頭部調整痕あり。
接合資料 25				ShⅢ	—	—	—	—	—	—	—	
419	—	—	Rf	ShⅢ	5.90	4.80	1.50	31.60	—	—	—	折れ接合。
接合資料 26		—	—	ChⅠ	11.30	7.50	5.10	215.20	—	—	—	
420	Ⅴ上	S3	F	ChⅠ	4.10	3.10	1.50	17.40	-77341.809	52219.369	91.72	
421	Ⅳ	2-1	F	ChⅠ	2.20	3.30	1.50	8.30	-77349.431	52211.274	92.51	
422	Ⅴ	S4	Co	ChⅠ	2.50	4.20	1.80	87.60	—	—	—	
A	—	—	—	ChⅠ	4.20	7.60	—	101.70	—	—	—	第2次調査分。遺物登録番号09220589～09220593

第12表　石材別石器組成表（1）

※報告書掲載分については石材分類を細分したが、未掲載遺物については細分をおこなっていないため、大分類での組成表である。また、出土位置の東西は5区、S・N以6～1区の小グリッドを示す。

AT下位	Ss h		Ry		Ch		Ho		Ob		Aso-Tu		Tu		Sa		Os		Qu		計/g
Gr区名	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	
N1					1	0.5	1	2.1													2.7
N2	2	22.1	1	5			3	23.2									1	182			232.3
N3							2	10.3													10.3
N7	1	8.9					1	15.6													24.5
N8			2	60.9	1	3.6	1	13													77.5
S1	3	19.4																			19.4
S2	5	50.1			5	2.6	4	15.4			1	1.8									69.9
S3	3	27.3	1	12.2	6	269.2	5	95.5							2	96	3	774.4			1274.5
S4	16	89	4	13.1	5	4.5	6	42.5	1	0.7							1	2375	1	2.5	2527.3
S5	13	197.4	2	13.9	1	7.0	2	29							1	438.3					685.6
S6	1	6.1	1	0.1	2	0.02	6	136.2	1	1.1											143.6
S7	3	9.5					11	93.5													103.1
S8	3	14			2	24.1	5	37.6	1	3.8											79.5
S9	1	1.9	2	56.2	1	5.8	1	11.7	1	1											76.6
5-東	18	110.6			31	35.6	9	87.1	7	12.3			1	0.5	2	352.2					598.2
5-西	1	20.5																			20.5
6-3	3	89.4					1	7													96.4
計	73	666.2	13	161.4	55	352.8	58	619.8	11	18.9	1	1.8	1	0.5	5	886.5	5	3331.4	1	2.5	

第12表　石材別石器組成表（2）

AT上位	Ssh		Ry		Ch		Ho		An		Ob		Aso-Tu		Tu		Sa		Os		Qu		
Gr区名	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	計/g
N1	2	10			2	2.6																	12.6
N2	12	36.4	4	3.9	4	1.6	3	29.9			1	0.7											72.5
N3	21	135.4	7	9.8	5	19.6	7	23			1	0.4											188.2
N4	14	87.8	10	21.2	5	1.9	9	66.5															177.5
N5	9	83.7	3	4	2	2.2	4	34.5			3	1.6					1	62.6					188.5
N5/N6							1	312															312.0
N6	10	51.6	4	16.8	3	35.5	6	31															134.9
N7	2	23.3	2	59.2			4	162.3			1	0.9											245.8
N8	4	53.1	3	15.3	2	0.8																	69.2
N9	3	10.8	1	18.1																			28.9
S1	10	49.2					4	5.3															54.5
S2	34	284	14	84.9	5	8.9	13	275.3									2	275.9	1	508.9			1437.9
S3	69	640.4	34	297.3	30	181.4	30	674.8			1	0.3					2	19.2	4	87.3			1900.8
S3/S4	2	35.7																					35.7
S4	259	1862.6	96	448.5	93	218.2	74	1162	1	0.05	6	5.6	1	4.7			8	823.5	6	4502.6	1	0.3	9028.1
N4/S4			1	3.3																			3.3
S4/S5							1	215.7									1	120.9					336.6
S5	118	848.3	71	486	73	3408.4	32	538.6	2	9.8	5	15.7			1	0.4	3	451.2	1	204.4			5962.7
S6	74	374.8	55	373.6	15	7.4	40	417.9			2	4.7			1	0.3	3	209.1			1	0.8	1388.6
S6/S7	2	1.1															1	88.4					89.5
S6/S9	1	31.5																					31.5
S7	48	374.4	30	199.2	4	38.3	29	344.6			1	0.4					4	226.1	1	437.5			1620.4
S8	9	77.9	9	26.8	13	66.6	12	172.3			3	4.2			2	7.9	1	627.2	1	24.4			1007.2
S9	6	51.8	9	89.5	4	2.7	4	89.5			1	0.2											233.7
S10	1	12					1	10.8															22.8
6－2	2	86.4	1	6.5	2	2.5	1	9.5			1	1.2					1	5.3					111.5
6－3	3	33.3			1	4.6											1	165					202.9
5-東	1	12			1	19																	31.0
5-西	1	35.4	8	2.6	9	15.2	3	92.3			3	1.1			1	2.9							149.5
計	717	5303.1	362	2166.4	273	4037.4	278	4667.7	3	9.9	29	37.1	1	4.7	5	11.5	28	3074.4	14.0	5765.1	2	1.0	

縄文早期	Ssh		Ry		Ch		Ho		An		Ob		Aso-Tu		Tu		Sa		Os		
Gr区名	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	計/g
N1															1	2					2.0
N2					25	25.2					4	7.4									32.6
N3					37	50					1	0.04									50.1
N4					59	17.7					10	3									20.7
N5					22	35.3			1	1.5	1	0.2									37.0
N6					14	14.3															14.3
N7					3	10.6					1	0.9									11.5
N8					1	0.07					1	1									1.1
S1					2	0.9					1	9.3									10.2
S2	1	0.7			81	22.7	1	0.6			5	2.7					1	119	1	340.7	486.4
S3	1	0.9	2	2.6	161	89.2			1	0.01	9	1.2	1	0.4					2	2039.9	2134.2
S4					609	321.3	2	509.3	5	2.4	18	5.3	1	0.5	1	1.6	2	454.1	7	6978.0	8272.5
S4/S5					1	0.6															0.6
S5	2	2.8	1	12	346	169.9	1	0.1			41	29.8	2	1.3					2	2588.5	2804.4
N5/S5											1	0.7									0.7
S6			1	6360	72	70.6	1	369.2	1	1.1	6	1.4							2	509.1	7311.3
S7					53	28			1	0.06	1	1.1							2	7311.1	7340.2
S8					4	7.6					1	1.3									9.0
S9					1	0.4	1	75.7													76.1
6－2					19	160					2	3.6									163.6
6－3					12	19.3					6	7.6									26.9
計	4	4.4	4	6374.6	1522	1043.7	6	954.9	9	5.0	109	76.5	4	2.2	2	3.6	3	573.1	16	19767.3	

一括	Ssh		Ry		Ch		Ho		Ob		Sa		Os		
	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	計/g
水道管下（AT下）					1	1.0									1.0
水道管下（AT上）			1	5.4											5.4
AT上層	12	134.6	12	140.9	13	586.3	11	348	2	0.5	2	271.1	4	1421.5	2902.9
縄文早期	3	346.8			3	2.2					1	121.3			470.3
風倒木	6	3	3	1.9	26	11.2	8	44.1	1	0.5			2	4.1	64.8
計	21	484.38	16	148.2	43	600.74	19	392.1	3	1	3	392.36	6	1425.6	

区名	Ssh		Ch		Ob		Qu	
	個	g	個	g	個	g	個	g
7	2	9.8	6	6.6	1	0.06	1	2.2

第９節　自然科学分析の結果

自然科学分析では、舟川第２遺跡におけるテフラ分析、炭化材の放射性炭素年代測定（AMS法）・樹種同定を実施した。

テフラ分析

１　試料

試料は、舟川第２遺跡５区東側南壁の土層断面より採取されたT1～T5（T1はⅠ層、T2はⅦa層、T3はⅦa層とⅦb層との層界、T4はⅦb層、T5はⅦb層とⅧ層との層界）の５点である。土層断面は、第Ⅲ章第４節参照。

２　分析の結果

各試料の重鉱物組成及び火山ガラス比を第13表、第50図、第52図に、火山ガラスの屈折率測定結果を第13表、第51図に示す。

３　考察

Ⅰ層から検出された火山ガラスは、バブル型も軽石型も同様の屈折率を示すことから、同一のテフラに由来すると考えられる。バブル型と軽石型が混在する形態の特徴とn1.499-1.500に集中する屈折率の特徴とから、火山ガラスの由来するテフラは、鹿児島湾北部を構成する姶良カルデラを給源とする姶良Tn火山灰（AT:町田・新井,1976）であると考えられる。ATは、給源から遠隔地では、バブル型火山ガラスが非常に多いという特徴を示すが、Ⅰ層から検出された火山ガラスでは軽石型も同量程度かやや多い程度に混在する。T1の試料中に軽石も認められたことと本遺跡の姶良カルデラからの地理的位置を考慮すれば、軽石型火山ガラスの中には、ATの由来する入戸火砕流の噴出の前に噴出した大隅降下軽石（A-Os:町田・新井,2003）に由来する軽石型火山ガラスも含まれている可能性が高い。ATの噴出年代は、80年代後半から90年代にかけて行われた放射性炭素年代測定や2000年代に行われた測定から、およそ2.5万年前頃にまとまる傾向にある。一方、最近の海底コアにおけるATの発見から、その酸素同位体ステージ上における層準は、酸素同位体ステージ２と３との境界付近またはその直前にあるとされ、その年代観は2.5～3.2万年前におよぶとされている（町田・新井,2003）。町田・新井（2003）は、ATの放射性炭素年代を暦年に換算することがまだ困難であると述べているが、上述の海底コアの年代観も考慮すれば、暦年ではおそらく2.6～2.9万年前頃になるであろうとしている。T2からT5までの試料から微量または少量検出された火山ガラスも、その形態と屈折率の特徴から、ATに由来すると考えられる。また、T1からT5までの重鉱物組成に大きな違いは認められないことから、Ⅶ層からⅠ層までの火山灰土は、不整合や再堆積などを挟まずに累積性の土壌として形成されたと考えられる。したがって、T2からT5までの試料から検出されたATの火山ガラスは、上位のⅠ層からの落ち込みにより、拡散したものである。このような火山ガラスの産状から、Ⅰ層は、ATの降灰層準に対比される可能性が高い。Ⅶa層以下の色調も考慮して、宮崎県埋蔵文化財センター（2003）による東九州自動車道（都農～西都間）基本層序に対比させるならば、Ⅰ層はAT層であり、Ⅶa層はMB2層、Ⅶb層及びⅧ層はMB3層にそれぞれ対比されると考えられる。

なお、舟川第２遺跡の「2-1区に隣接する壁面」で確認されたⅥ層とされた暗褐色土層の重鉱物組成は、今回のT1からT5までの重鉱物組成と非常によく類似する（宮崎県埋蔵文化財センター,2012）。同Ⅵ層は、霧島アワオコシテフラ（Kr-Aw）に対比される可能性のある軽石層とその上位の褐色土層（おそらくML3層に対比される）の上位にあり、層位的及び層相的にMB3またはMB2層に対比される。このことは、今回の５区東側南壁の対比結果とよく整合すると言うことができる。

炭化材の放射性炭素年代測定・樹種同定

１　試料

試料は、6SI23などから出土した炭化材２点（分析番号24,25）である。分析番号24には、炭１～５の５点があり、いずれも小片の炭化材が認められることから、一通り観察して、種類構成を確認する。放射性炭素年代測定は、分析番号24の炭３と分析番号25（５区東側炭化材集中箇所　56ｐ参照）の２点について実施する。

2　分析結果

(1) 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定及び暦年較正結果を第14表に示す。

(2) 樹種同定

樹種同定結果を第15表に示す。分析番号24の炭1～5及び分析番号25（第53図）は、全て落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節に同定された。

解剖学的特徴

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

3　考察

炭化材の年代はAT下位のSI23が28,660±110年BP、炭化物集中域が28,140±100年BPであり、ほぼ同時期のコナラ節と考えられる。コナラ節は、二次林や山地の落葉広葉樹林に生育する落葉高木である。この結果から、約3万年前頃の遺跡周辺にコナラ節が生育しており、その木材を利用したことが推定される。

宮崎県内では、3万年前頃の古植生や木材利用に関する資料はほとんど無いことから、今回の結果は当該期の古植生や木材利用を考える上で重要である。

引用文献

町田　洋・新井房夫　1976　「広域に分布する火山灰－給良Tn火山灰の発見とその意義－」『科学』46　339p-347p

町田　洋・新井房夫　2003　『新編　火山灰アトラス』東京大学出版会336p

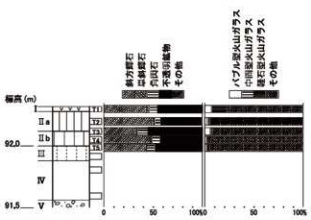
宮崎県埋蔵文化財センター　2003　宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第76集『平成14年度　東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書』Ⅲ　87p

宮崎県埋蔵文化財センター　2012　宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第214集　『都農町所在　舟川第2遺跡』東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6　166p.

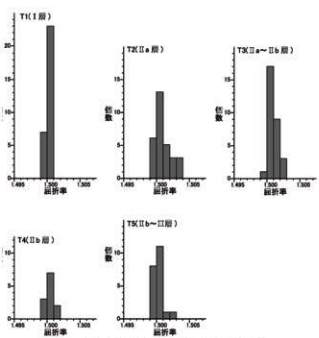
第13表　舟川第2遺跡の重鉱物・火山ガラス比分析及び屈折率測定結果

分析番号	層位	重鉱物組成 カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	火山ガラス比 バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計	火山ガラスの屈折率 形態	平均値	最小値	最大値	測定粒数
T1	Ⅰ層	0	108	6	22	113	1	250	17	0	40	193	250	pm>bw	1.500	1.499	1.500	30
T2	Ⅱa層	0	120	4	17	102	3	250	6	4	5	235	250	bw,pm>md	1.500	1.499	1.503	30
T3	Ⅱa～Ⅱb層	0	80	4	28	137	1	250	14	2	7	227	250	bw>pm	1.501	1.499	1.502	30
T4	Ⅱb層	1	117	4	22	106	0	250	5	1	2	242	250	bw,pm	1.500	1.499	1.501	12
T5	Ⅱb～Ⅲ層	0	107	1	23	118	1	250	5	3	4	238	250	bw,pm>md	1.500	1.499	1.502	21

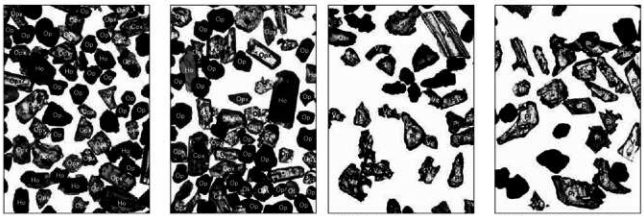
bw:バブル型　md:中間型　pm:軽石型



第50図　舟川第2遺跡5区東側南壁の重鉱物組成及び火山ガラス比



第51図　舟川第2遺跡5区東側南壁試料の火山ガラスの屈折率



1,重鉱物(舟川第2遺跡3-5区富樫層Ⅰ期T1)　2,重鉱物(舟川第2遺跡3-5区富樫層Ⅱb期T4)　3,軽鉱物(舟川第2遺跡3-5区富樫層Ⅰ期T1)　4,軽鉱物(舟川第2遺跡3-5区富樫層Ⅱb期T4

Ol:カンラン石、Opc:斜方輝石、Cpx:単斜輝石、Hb:角閃石、Opc:不透明鉱物、
Vg:火山ガラス、Qtz:石英、Pl:斜長石。

第 52 図　舟川第2遺跡の重鉱物・火山ガラス

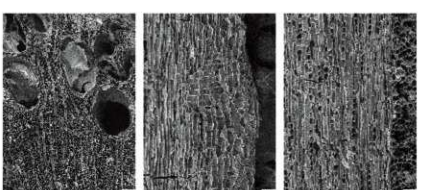
第14表　舟川第２遺跡の放射性炭素年代測定結果

試料名	種類	δ13C (‰)	補正年代 (層年較正用) BP	層年較正結果					Code No.
				誤差	cal BC	cal BP	相対比		
分析番号24 SI23	炭化材 (コナラ節)	-26.95±0.24	28,660±110 (28,656±111)	σ	cal BC 31,354－cal BC 30,974	cal BP 33,303－32,923	1.000		PAL-1138
				2σ	cal BC 31,558－cal BC 30,662	cal BP 33,507－32,611	1.000		
分析番号25	炭化材 (コナラ節)	-27.03±0.14	28,140±100 (28,138±104)	σ	cal BC 30,733－cal BC 30,107	cal BP 32,682－32,056	1.000		PAL-1139
				2σ	cal BC 30,960－cal BC 29,837	cal BP 32,909－31,786	1.000		

1）試料は、酸処理－アルカリ処理－酸処理(AAA 処理)を実施している。
2）年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
3）BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
4）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
5）層年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を使用した。
6）層年の計算には、補正年代に()で層年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
7）年代値は、1 桁目を丸めるのが慣例だが、層年較正曲線や層年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、層年較正用年代値は 1 桁目を丸めていない。
8）統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2σは 95%である
9）相対比は、σ、2σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第15表　舟川第２遺跡の樹種同定結果

分析番号	遺構	枝番	形状	種類	備考
24	SI23	炭 1	破片	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
		炭 2	破片	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
		炭 3	破片	コナラ属コナラ亜属コナラ節	年代測定試料と同一個体
		炭 4	破片	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
25		－	破片	コナラ属コナラ亜属コナラ節	年代測定試料と同一個体



1,コナラ属コナラ亜属コナラ節(分析番号25)
a:木口,b:柾目,c:板目

第 53 図　舟川第2遺跡の炭化材

第10節 第３次調査のまとめ

舟川第２遺跡第３次調査区は後期旧石器時代と縄文時代早期の遺構と遺物が多く出土した。しかし、遺物の出土地点は、地形や自然作用などの影響で遺物の動きが激しく、既知の層序と遺物の認定時期では想定した通りに遺物を取り上げることが困難であった。そのため本節では、第３次調査区の遺物について整理し検討していく。

(1) 後期旧石器時代石器群の整理

出土石器群の編年的整理

AT上位層として報告した遺物については、単純層からの出土ではないため、本調査区で出土した全ての石器を旧石器時代の石器編年と照らし合わせることは困難である。そこで、型式がわかるものについて整理をしていく。

編年的整理を行うにあたり、『宮崎県下の旧石器時代遺跡概観』（宮崎県旧石器文化談話会　2005）を援用する（以下、『宮崎旧石器編年』と呼ぶ）。

本遺跡で出土したAT下位の石器群は少数であるが、１と３のナイフ形石器は６区から出土している。２と４のナイフ形石器は５区の東側から出土した。これらのナイフ形石器は、小型の縦長剥片を素材する。２と４を含めた５区東側から出土した石器群のほとんどは緑色系チャート製で構成されており、ほぼ同一母岩あるいは、同一時期の可能性が高い。５区の東側はテフラ分析の結果、５区Ⅰ層はAT、Ⅶa層は東九州道都農町域基本層序のMB２、Ⅶb層はMB３に対応している（岸田2006）。このことも踏まえ、５区東側と６区のAT下位から出土した石器群は宮崎旧石器編年の第３段階石器群に位置づけられる。また、16と21の石刃については５区東側の炭化材集中箇所から並んで出土した（図版11）。自然科学分析結果から炭素年代測定は28,140±100年BPとされ、小型のナイフ形石器の出土からも５区東側のⅦa層～Ⅶb層の間は、AT直下の宮崎旧石器編年第３段階であると考えられる。

次にAT上位層から出土した石器群である。ナイフ形石器、切出形石器、台形石器などを宮崎旧石器編年に照らし合わせたときに大きく４つに細分できる。

まず宮崎旧石器編年第５段階として32の狸谷型ナイフ形石器、206の剥片、239の瀬戸内技法に類似する石核があげられる。66～70の剥片尖頭器、71～73の角錐状石器もこの段階に含まれる。

次に宮崎旧石器編年第６段階として34～36の縦長剥片を素材とするナイフ形石器、37と38の横長剥片を素材とするナイフ形石器があげられる。そのほかに52～54、56～57の切出形石器や58～64といった台形石器もこの段階に含まれると想定される。58～59、61については白色系の流紋岩を石材とする。これらは、横剥ぎや斜め剥ぎの剥片を素材に用い、幅の狭い基部を作る圭頭形の今峠、北牛牧系のナイフ形石器に系統をもつ台形石器と考えられる。

ナイフ形石器の終末期段階として、39と40の基部加工ナイフ形石器があげられる。65の台形石器もこの段階に位置づけられる。これらは宮崎旧石器編年の第７段階に相当する可能性が考えられる。

次に本遺跡調査区で出土した細石刃核は、船野型Ⅰ類、Ⅱ類、野岳・休場型、西海技法の特徴に類似するものが出土した。編年では、103～105・109の船野型Ⅰ類、106～108の船野型Ⅱ類は宮崎旧石器編年第９段階に相当し、112～119の西海技法をもつ細石刃核は宮崎旧石器編年第10段階に相当すると考えられる。

以上、後期旧石器時代の編年的整理を簡略であるが行った。本調査区の後期旧石器時代は宮崎旧石器編年の第３段階、第５段階～第10段階の石器群で遺跡が形成されていることがわかった。

出土石器群の分布と土層堆積状況

AT下位層にあたる本調査区の基本層序Ⅶ層は、どの調査区も25㎝程の厚さで良好に残存していた（第４図）。旧地形も５区の中央部は黄褐色の地山層が露出しており、６－２区側が東から西に下る斜面であったことからも５区の東から６－１区にかけて緩やかな谷を形成していたと考えられる。AT下位層の出土石器群の分布状況をみると、特に５区の東側と６区の中央部Gr.S３～７に石器が集中している（第８図）。また、AT下位の石材別にみると珪質頁岩、ホルンフェルス、チャートの石材の利用が多い傾向にある（第12表）。

AT上位層は、本調査区で最も多い石器製品とともに石器製品を作るための剥片や石核といった工程器種が多く出土した。Ⅴ層を中心に遺物が出土していたが、土層堆積が不安定な層であったためⅣ層に

も一部後期旧石器時代の石器が出土している。器種別の分布図をみると、Gr.S4～5に石器が最も多く出土する（第24図）。剥片も密に出土しているが、他のグリッドに比べ敲石の出土量が多いのが特徴である。原石も出土しており、石器を製作する場としての可能性も考えられる。また、細石刃核や細石刃も同グリッドから多く出土している。S5区から出土した細石刃核は1点の西海技法の細石刃核を除き全てが船野型Ⅱ類の細石刃核である。S4区についても全て西海技法の細石刃核であることが分布図でわかる。石材別分布図をみると珪質頁岩、ホルンフェルス、流紋岩製の石材を多く利用している傾向にある（第31図）。

遺構について

遺構についてはAT下位で3基、AT上位で14基の礫群を確認した。AT下位層で検出した5SI5の礫群は使用した可能性は低いが、周りに礫がなかったため礫群とした。6SI23の礫群については、使用した可能性が高い礫群である。

AT上位層検出の礫群のうち、5区で確認した礫群は使用した可能性は低いがそのほとんどが周囲に礫がなかったため礫群とした。6区で確認した礫群の中でほぼ赤化礫で構成されていたものについては、比較的小型の礫を用いた直径が50cm内に収まる礫群が多い傾向にあった。6SI14～16の礫群についてはレベル的にも同時期の礫群の可能性が高いと考えられる。

小結　第3次調査区の後期旧石器時代

6区の遺物集中区は、谷の底の平坦面であるため流れ込みの可能性もあるが、遺物の状況からは長い期間の中で同じ場所を利用していた可能性も考えられる。また、AT下位の6SI23、5区の炭化材集中区域からの炭化材を樹種同定したところ落葉樹のコナラ節であった。このようなことから3.3～3.2万年前頃の後期旧石器時代の舟川第2遺跡を含めた周辺は、日当たりの良い落葉林が植生する環境であったことが伺える。

⑵　縄文時代早期遺物群の整理

出土石器の分布について

縄文時代早期の遺物では、石鏃や石鏃未製品が出土した。それに伴うと考えられる多くの砕片も密集して出土している。遺物分布図ではGr.S区側は点座標で砕片を取り上げたが、調査の都合上N区側についてはGr.一括取り上げをおこなった。そのため分布図ではg表示の網掛けで表現したが、Gr.S4～S5にかけて多くの砕片が出土している（第42図）。これらの遺物は主にⅢ層とⅣ層との境目、Ⅳ層上部で出土している。砕片の集中密度や石鏃未製品、石鏃が多く出土していることから縄文時代早期の一時期には石鏃製作の場としての機能が考えられる。

縄文時代早期の出土遺物について

第3次調査区は、無文土器、貝殻条痕文土器、貝殻刺突文土器、楕円押型文土器などの縄文土器が出土した。しかし、石器に比べ土器の出土量は少なく、そのほとんどが小片であったため、型式の特定が困難なものもあった。縄文土器の分布図と石鏃の分布図を照らし合わせると、石器と土器は互いに違う空間に分布するが、土器の出土状況は特にまとまりは見られない（第37･42図）。

遺構について

遺構については、集石遺構17基と配石遺構1基を確認した。層位別でみると、Ⅳ層下部～Ⅴ層上部、Ⅴ層上～中部に大別できる。検出した集石遺構の礫のほとんどが赤化しており、火熱を受けて使用された可能性が高い。

赤化礫が一定の空間に集中している分類Ⅰbの集石遺構はほとんどGr.S側の早期の石器が多く集中するGr.S4～S5で検出している。

小結　第3次調査区の縄文時代早期

狭い調整区ではあったが、縄文時代早期には、縄文土器と石器、そして遺構の分布域をみると、集石遺構がほぼ全域に分布しているのに対し、土器は東西に分かれ、石鏃や砕片の集中区はその間にあることがわかる。

＜参考・引用文献＞

宮崎県旧石器談話会　2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」『旧石器考古学』66　旧石器文化談話会

岸田裕一　2006『東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅵ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第131集　p8

第11節 総括

舟川第２遺跡は、征矢原川と心見川支流の前田川に挟まれた丘陵からやつで状に延びる尾根付近に立地している。第１次調査から第３次調査まで後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺物と遺構を確認した。ここでは総括として本遺跡の調査成果について時代順にまとめていきたい。

後期旧石器時代

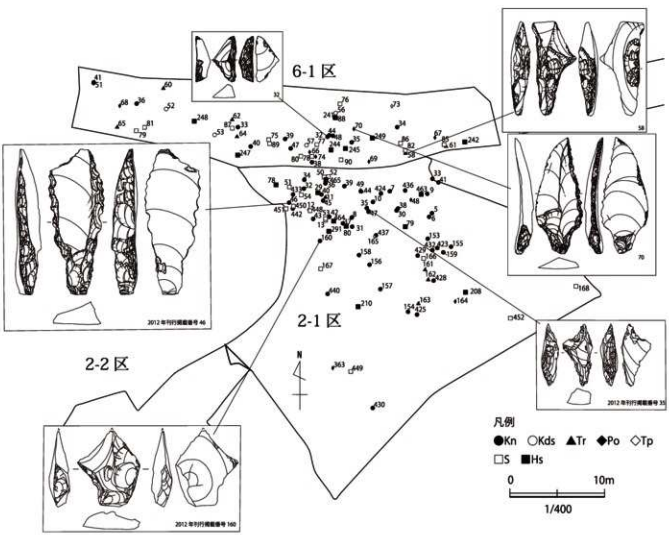
第１次調査から第３次調査にかけて後期旧石器時代の多様な遺物が豊富に出土した。舟川第２遺跡の中心となる２－１区及び６－１区の遺物について時期別では、宮崎旧石器編年を援用するとAT下位層の第３段階から後期旧石器時代の最終段階となる第10段階までの石器群が出土している。特に注目したい遺物として、現段階で日本最長となる剥片尖頭器、宮崎県内初の姫島産安山岩製の細石刃核が出土している（石貫　2012、本報告補遺参照）。

石材の利用

６区のみ（第３次調査のみ）石材別の組成表からみると、おもに後期旧石器時代6－1区Ⅶ層では珪質頁岩・チャート・ホルンフェルスが石器石材として使用されていたが、Ⅴ層になってくると新たに流紋岩が石器石材に使用される頻度が高くなっている傾向にある（第12表）。

舟川第２遺跡の石器組成について

本遺跡の２－１区と６－１区S区側では、石器製品とともに多くの剥片などの工程器種が出土した。昨年度の調査報告では、2－1区のⅥ層上部を第Ⅰ期、Ⅴb層を第Ⅱ期、Ⅴa層を第Ⅲ期と３期に時期区分をおこなっている（石貫2012）。そして今回その時期区分をもとに５区東側と６区を加えて決定器種についてみていく（第16表）。また第２次調査と第３次調査との土層対応として第Ⅰ期をⅦ層、第Ⅱ期をⅤ・Ⅵ層、第Ⅲ期を６区ではⅤ層とする（第１表）。



第 54 図　後期旧石器時代第Ⅱ期決定器種分布図

第Ⅰ期では宮崎旧石器編年の第3段階に相当する。ここでは、桑ノ木津留産黒曜石製やチャート製の縦長剥片素材の小型のナイフ形石器が出土している。5区東ではナイフ形石器と同一母岩の可能性があるチャート製のスクレイパーや剥片が出土する。

次に第Ⅱ期は宮崎旧石器編年の第4・5・6・7段階の石器が出土している。ここでは、狸谷型ナイフ形石器、瀬戸内技法をもつ石核、今峠型ナイフ形石器、北牛牧型ナイフ形石器、片島型ナイフ形石器、剥片尖頭器・台形石器などの多様な石器が出土している。

また、第Ⅱ期では、白色系流紋岩製の決定器種が目立つ傾向にある。特に2－1区から出土した今峠・北牛牧型ナイフ形石器や6区から出土した不定形剥片、「ノ」の字状剥片を素材とし、バルブ除去が施されている台形石器の一群などがあげられる。

第Ⅲ期は、宮崎旧石器編年の第8・9・10段階に相当する。ここでは、大きく野岳・休場型細石刃核、船野型細石刃核、西海技法の細石刃核などの型式の細石刃核が出土している。6－1区の平面ではGr. S4～S5にまとまる傾向があるが、レベルの違いは見出せなかった。

敲石について

本遺跡では、後期旧石器時代の包含層で多くの敲石が出土した。これらの敲石は、尾鈴山凝結溶灰岩または砂岩の礫を使用し、上下面に敲打痕が認められる。これらの敲石は、特に2区と6区を中心に多く出土する傾向にある。敲石のなかには、石器か何かを打撃した衝撃で敲石自体が剥離しているものや打撃の中心から亀裂がはいっているものも出土している。2区と6区の一部では多くの石器製品素材となる剥片・石核が出土していることから後期旧石器時代の長い期間の中で幾度も石器製作も行った生活の場としてこの場所が利用されていた可能性が伺える。

縄文時代早期の石器について

2－1区北側Ⅳ層、6区南側Ⅳ層の直径20m区域では、縄文時代早期の砕片が大量に出土した。砕片のほとんどは、チャート製のものが大半であったが、なかには姫島産黒曜石製やホルンフェルス製、阿蘇象ヶ鼻産溶結凝灰岩製といった砕片も出土した。このほかに付近には、石鏃や石鏃未製品といった石器製品も出土しており、第3次調査の報告で前述したとおり石鏃製作の場の可能性が考えられる。

縄文時代早期の土器について

出土した縄文土器は石器に比べ少量であるが、第2次調査では「基本層序のⅣ層（石貫　2012）」、第3次調査では基本層序のⅣ層～Ⅴ層上部で出土している。この層域で出土する土器には、無文土器が大半を占め、一部の貝殻条痕文土器、貝殻刺突文、押型文が出土している。また、縄文土器の分布状況は、石器が集中する分布域とは異なっており、出土状況からおおまかであるが、型式・時期の違いや出土地点の違いが確認できた。

無文土器について

本遺跡で出土した縄文土器の中で、文様がない土器胴部の破片も含めると大半以上が無文土器であった。また、出土状況は、2区・6区それぞれでまとまって出土している。これらの無文土器を第3次調査ではⅠ類に大分類した。口縁の形態は胴部から直口するもの、若干口縁端部が外反しているもの、やや内湾しているものなどが挙げられる。しかし、いずれもわずかな差異である。また、6区から出土した無文土器の一部には、内面に貝殻条痕で調整してあるもの、ナデ調整のみのものがある。また、少量であるが、無文土器の器壁が厚手のものが含まれている。胎土は赤褐色系の胎土をもつもの、灰色のような黄褐色系の胎土を持つものに分かれる。傾向としては、赤褐色系の胎土には繊維が含まれているものがあり、これらの赤褐色系の土器は出土量が多い。本遺跡の無文土器の底部については尖底と平底が出土している。これらの底部は、かならずしも接合したわけではないため、無文土器のものであるかは明確ではないが、おそらく2－1区から出土した尖底は無文土器のものである可能性が高く、また、他の平底については無文土器の底部ではなく、円筒系貝殻文土器の平底である可能性が強い。

押型文土器について

本遺跡で出土した押型文土器は主に2－2区で出土している。押型文施文の大半は山形押型文で占められる。一部に菱形押型文や楕円押型文が出土している。

これらの押型文のほとんどは胴部のみの出土である。出土した山形押型文は、内面はナデ調整が施され外面に横位の施文が施されている。東九州編年の

稲荷山式～早水台式の可能性が考えられる（坂本1998）。

まとめ

舟川第２遺跡では、遺物総数約１万４千点のうち、狩猟具が１割未満、その他はこれらを作るときの素材となる石器、加工具などが出土した。本遺跡は礫群・集石遺構があることからも石器製作の「場」だけではなく一定の装備を保有した地点であり、この場所が後期旧石器時代から縄文時代早期の長い時間の中で利用されていた可能性が考えられる。

＜引用・参考文献＞

論文

宮崎県旧石器談話会　2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」『旧石器考古学』66　旧石器文化談話会

坂本嘉弘　1998「東九州の押型文土器研究の現状と課題」『九州の押型文土器 - 論攷編』九州縄文研究会

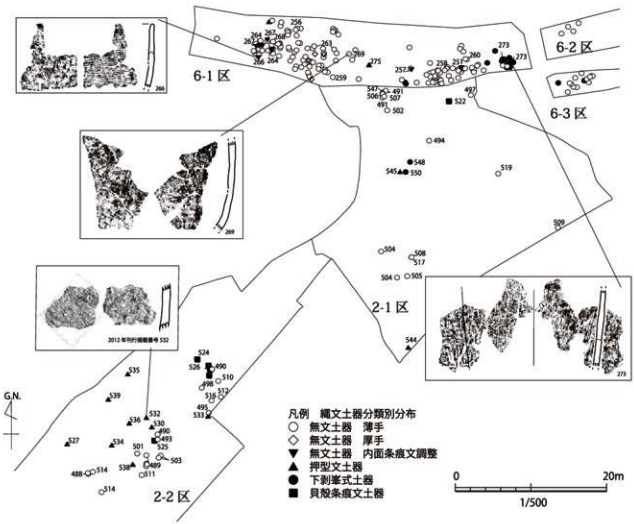
報告書

石貫弘幸　2012『舟川第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第214集

尾園賢二　重留康宏　松本茂　2007『野首第２遺跡　第一分冊』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第158集

岸田裕一　2008『尾立第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第169集

甲斐貴充　松本茂　2003『阿蘇原上遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第71集



第 55 図　縄文土器分類別分布図

第16表　舟川第2遺跡　決定器種組成表

2－1区	Kn	Tr	Po	S	Tp	Mb	Mc	Ah	Ps	Rf	Mf	Hs	Gs	Ax
Ⅵ	3													
Ⅴb	6	1	1	1		2						1		
Ⅴa	18		2	5		14	14			11		3		
Ⅳ				1		2				4				
Ⅴ相当	9	3	1	3	1	9	5			7	1	3		
Ⅳ相当	12	1	3	4	2	15	6		2	12	1		1	
2－1区流	13	2	1	1	3	10				5	2			
早期				1				28		2				1
2－2区旧										1				
原不	1													
原不・攪乱			1											
攪乱				1						1				

5区東・6区	Kn	Kds	Tr	Po	Ss	Es	Tp	Mb	Mc	Ah	Pe	Rf	Mf	Hs	Gs	Gs-Hs	Ax	As
Ⅶ	1				1	1			1				1	1		1		
Ⅶb					1								1					
Ⅶa	1					1							1	1		1		
Ⅶ下	1													1				
Ⅶ上	1											1	1	1				
Ⅵ下Ⅶ上						1												
Ⅵ								1	1				2					
Ⅴ～Ⅵ												2	1			1		
Ⅴ	6				2			1	1	8		5					1	
Ⅴ下	3	1	2			1	1	1	1	1			1	2				
Ⅴ中				1									1	1				
Ⅴ上	1	3	2	2	1	2		1	2	2		5	5	6	1	1		2
Ⅳ下Ⅴ上	6		1	1	5	3	1	3	4	8	1	3	1	9	2	2	2	2
Ⅳ								3	3	5		1						
Ⅳ下	1	1		1				3	2	17		4					1	
Ⅳ上	2							3	2	22		4			1			2
Ⅲ下Ⅳ上	2							2	1	13		2						
Ⅱ下Ⅲ上										1								
一括			3	1	3					7		1	1			1		

補遺　舟川第２遺跡（第２次調査）出土遺物

ここでは、舟川第２遺跡の第２次調査で出土した遺物で平成23年度に報告できなかった資料（石器43点）について報告する。

ナイフ形石器（第56図423～444）

今回報告するナイフ形石器は22点である。

小型の二側縁加工ナイフ形石器（423～427）

423　素材剥片は、背面の剥離を観察すると縦長剥片素材の可能性は少ないが、主要剥離面側をみると縦長剥片を指向した剥片とも考えられる。側面の調整は右側縁が対向調整で、左側縁は主要剥離面側からの調整剥離である。

424　素材剥片については、縦長剥片と考えられる。ただ、主要剥離面のリングが調整剥離は両側縁とも対向剥離による調整である。

425　素材剥片は縦長剥片である。調整剥離は背面左側縁が対向調整で、右側縁は主要剥離面側からの調整剥離である。

426　素材剥片は縦長剥片もしくは縦長剥片を指向した剥片と考えられる。調整剥離は背面左側縁が対向調整で、右側縁は主要剥離面側からの調整である。

427　素材剥片は縦長剥片もしくは縦長剥片を指向した剥片である。側縁の調整剥離は両側縁とも対向調整である。

狸谷型ナイフ形石器（428～430）

428　不定形剥片を素材とする。調整剥離は両側縁とも対向調整である。背面側に自然面が残存する。

429　素材剥片は不定形剥片である。調整剥離は両側縁とも主要剥離面側からの調整である。

430　素材剥片は不定形剥片である。調整剥離は両側縁とも主要剥離面側からの調整である。背面左側縁側を打面として背面側に調整剥離が施されているが、厚みを減らすための剥離の可能性も考えられる。

横長剥片を素材としたナイフ形石器（431）

431　素材剥片は横長剥片で、両側縁からの調整剥離が認められる。刃部には微細剥離痕がある。

今峠型ナイフ形石器の一群（432、433）

432　素材剥片は不定形剥片である。調整剥離は両側縁とも主要剥離面側から施されている。主要剥離面側から観察すると、リングが「ノ」の字状になる。432は今峠型ナイフ形石器の一群の中でも「北牛牧型ナイフ形石器」と呼ばれるものである。背面左側縁側と刃部左側を観察すると、微細な調整剥離が施されており、錐として転用された可能性がある。

433　素材剥片は不定形剥片である。調整剥離は主要剥離面側から施されている。また、主要剥離面側には、素材剥片の打点付近に二次加工が施されており、厚みを減らすための加工と考えられる。

その他のナイフ形石器（434～442）

434　やや大きめの二側縁加工のナイフ形石器で、素材剥片は不定形剥片である。調整剥離は背面左側縁が対向剥離による調整で、右側縁は主要剥離面側からの調整剥離である。

435　中型の二側縁加工ナイフ形石器で、素材剥片は不定形剥片である。調整剥離は主要剥離面側から施されている。

436　小型のナイフ形石器で、背面左側縁と背面右側の基部付近に調整剥離が施されている。

437　中型のナイフ形石器の欠損品である。素材剥片は不定形剥片で、調整剥離は主要剥離面側から施されている。

438　中型の二側縁加工ナイフ形石器である。素材剥片は不定形剥片で、調整剥離は背面左側縁が主要剥離面側から、背面右側縁が対向剥離による調整が施されている。

439　中型のナイフ形石器で、背面右側縁の調整剥離は微細剥離痕のようにもみえるため、一側縁加工ナイフ形石器の可能性も考えられる。素材剥片は不定形剥片である。調整剥離は両側縁とも主要剥離面側から施されている。

440　中型のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とする。調整剥離は背面左側縁と基部に施されており、剥離の方向は主要剥離面側からである。

441　小型の一側縁加工ナイフ形石器の欠損品である。素材剥片は縦長剥片である。調整剥離は対向調整が背面左側に施されている。

442　小型のナイフ形石器で、素材剥片は縦長剥片と考えられる。調整剥離は背面左側上部と背面右側下部に主要剥離面側から施されている。

基部加工ナイフ形石器（443、444）

443　素材剥片は不定形剥片もしくは縦長剥片を指向した剥片と考えられる。基部の調整剥離は背面左側が主要剥離面側から施されているが、背面右側は

初めに主要剥離面側から施されたあと、背面側からもう一度調整剥離が施されている。

444　大型の基部加工ナイフ形石器で、素材剥片は縦長剥片である。調整剥離は主要剥離面側から施されている。

台形石器（第56図445、第57図446）

445　白色の流紋岩製で素材は不定形剥片である。側縁の調整は背面左側が主要剥離面側からの調整、背面右側は対向剥離による調整が施されている。背面右側に主要剥離面の打面があったと考えられ、その部分には厚みを減らすための剥離が施されている。

446　白色の流紋岩製で素材は不定形剥片である。側縁の調整剥離は主要剥離面側から施されている。445にみられた厚みを減らすための主要剥離面側の加工はみられない。

剥片尖頭器（第57図447）

447　素材剥片は縦長剥片である。基部の調整剥離は主要剥離面側から施されている。素材剥片の打面が残存する。

スクレイパー（第57図448～452）

サイドスクレイパー（448）

448　素材剥片は不定形剥片で、調整剥離は主要剥離面側から施されている。

エンドスクレイパー（449～452）

449　素材剥片は不定形剥片で、調整剥離は主要剥離面側から施されている。

450　素材剥片は不定形剥片で、調整剥離は主要剥離面側から施されている。底部が欠損しているため不正確ではあるが、形状からエンドスクレイパーとした。

451　素材剥片は不定形剥片で、調整剥離は主要剥離面側から施されている。

452　素材剥片は不定形剥片で、背面は自然面である。こぶし大の円礫を用いたと考えられる。底部の剥離は背面側から施されている。

石斧（第58図453、454）

453　素材剥片は不定形剥片で、背面は自然面である。こぶし大の円礫を用いたと考えられる。

454　素材剥片は不定形剥片で、こぶし大よりやや大きい円礫を用いたと考えられる。

石核（第58図455）

455　打面転移を少なくとも3回以上は繰り返している。剥離面を観察すると、剥ぎ取られた剥片は縦長指向の剥片と推定される。

剥片（第58図456～459）

剥片は4点を掲載した。456は今峠型ナイフ形石器などの素材となりうる剥片で、457～459は基部加工ナイフ形石器の素材となりそうな剥片である。

456　白色の流紋岩を素材とした不定形剥片で、その石材と形状から432、433、445、446などの素材剥片の可能性が考えられる。

457　石材は白色の流紋岩で、不定形剥片である。背面側に頭部調整がみられる。

458　石材は桑ノ木津留産の黒曜石で、縦長剥片を指向した剥片である。背面側に頭部調整がみられる。

459　石材は白色の流紋岩で、縦長剥片を指向した剥片である。背面側に頭部調整がみられる。

細石刃核（第58図460～462）

460　チャート製で、西海技法の細石刃核である。

461　赤色のチャート製で、型式分類に当てはまらない細石刃核である。

462　白色の流紋岩製で、船野型細石刃核のブランクと考えられる。

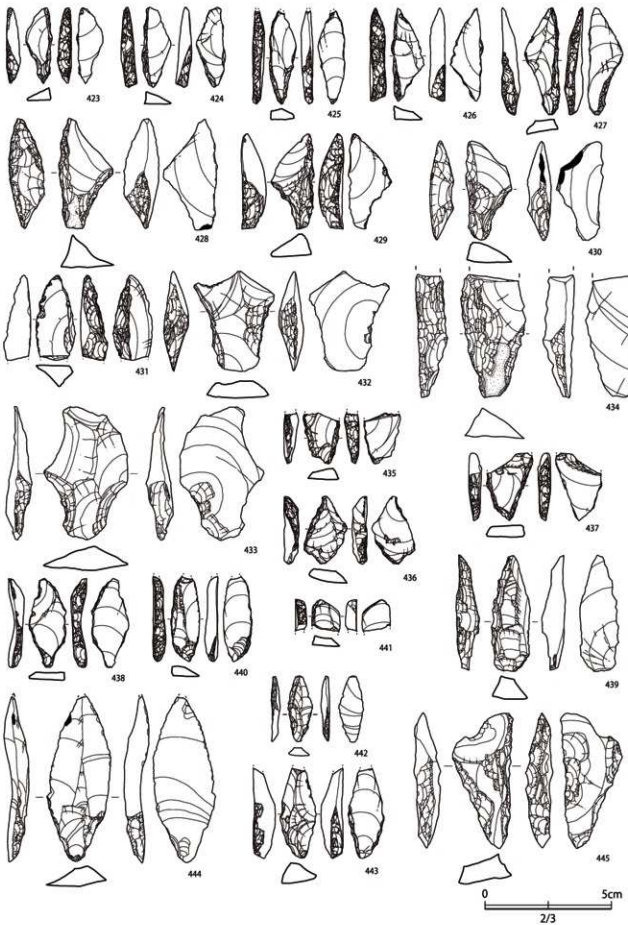
敲石・磨石（第58図463～466）

463　珪質頁岩製で、上部が欠損している。

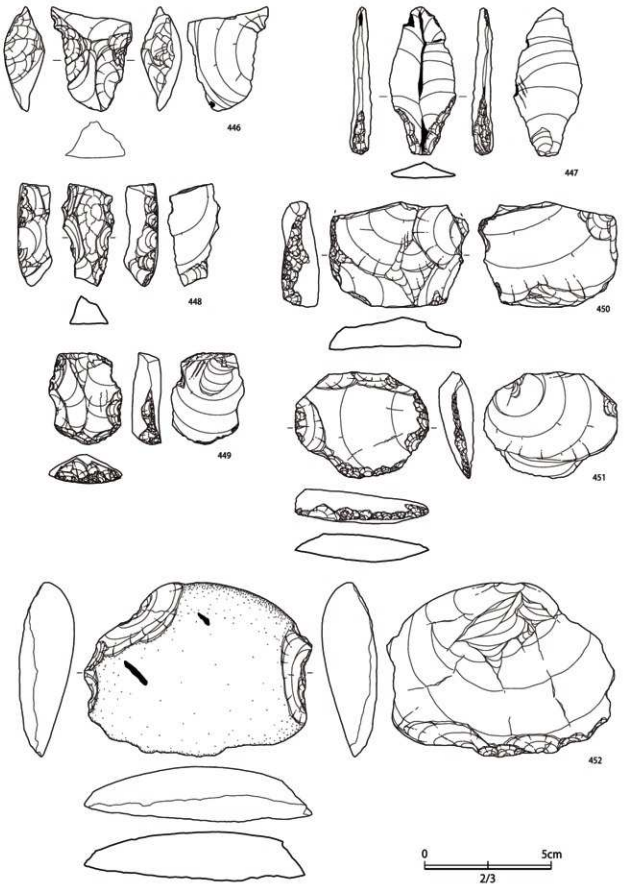
464、465　砂岩製で、上部が欠損している。

466　砂岩製の磨石で左側に一部欠損がみられる。

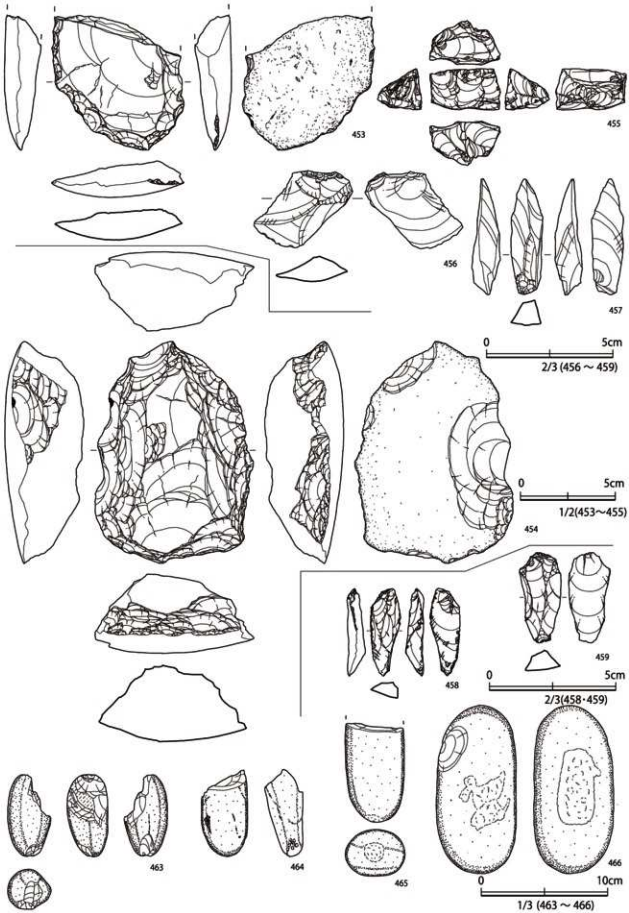
なお、第214集（石貫2012前掲）の255（P.56、P.58）はチャート製で報告したが、姫島産安山岩製であることが分かった。宮崎県内で姫島産安山岩製の製品（船野型細石刃核）が出土したのは初の事例である。



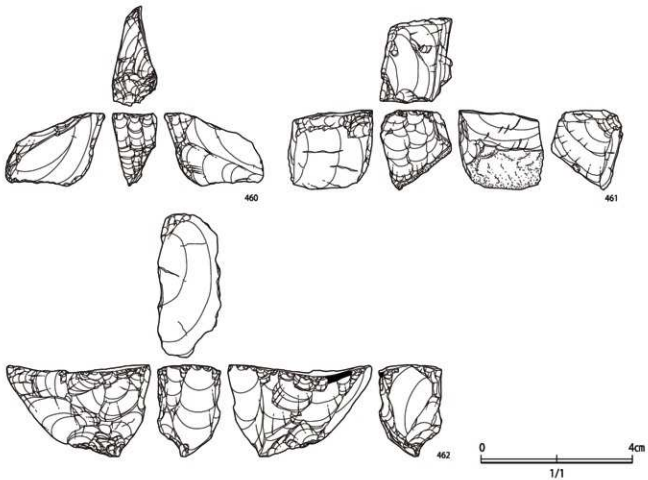
第 56 図　第2次調査出土石器実測図（1）



第 57 図　第2次調査出土石器実測図（2）



第 58 図　第2次調査出土石器実測図（3）



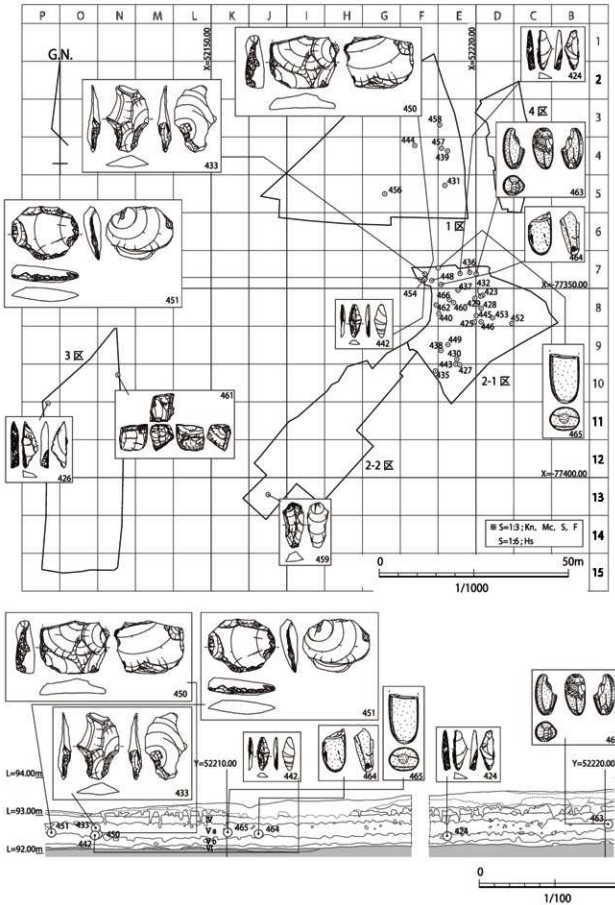
第 59 図　第2次調査出土石器実測図 (4)

第17表　第２次調査出土石器観察表（１）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
423	V	2−1	Kn	RyⅠ	2.93	1.04	0.57	1.40	-77351.847	52221.793	91.978	不定形剥片。二側縁加工。右側縁は対向調整。先端は裁ち切り状の欠損。
424	V	2−1	Kn	RyⅡ	3.09	1.04	0.51	1.70	-77346.088	52215.832	92.276	二側縁加工。対向調整。
425	V	2−1	Kn	RyⅠ	3.60	1.02	0.45	1.80	-77358.892	52219.646	91.177	縦長剥片。二側縁加工。左側縁は対向調整。
426	Ⅳ	3	Kn	RyⅠ	3.66	1.20	0.62	2.30	-77380.406	52106.887	88.861	不定形剥片。二側縁加工。左側縁は対向調整。
427	−	2−1	Kn	SshⅠ	4.22	1.29	0.70	3.00	-77370.239	52215.739	90.387	不定形剥片。二側縁加工。対向調整。
428	Ⅳ	2−1	Kn	SshⅠ	4.40	2.20	1.45	8.60	-77355.296	52221.401	92.044	不定形剥片。彫谷型ナイフ形石器。左側縁は対向調整。
429	Ⅳ	2−1	Kn	SshⅠ	3.62	1.59	0.92	4.80	-77352.649	52219.718	92.165	不定形剥片。彫谷型ナイフ形石器。二側縁加工。
430	Ⅳ	2−1	Kn	RyⅠ	3.90	1.85	1.00	5.10	-77368.758	52214.966	89.963	不定形剥片。
431	−	1−3	Kn	SshⅢ	3.35	1.56	1.04	4.10	-77322.788	52211.793	89.984	横長剥片。一側縁加工。腹面左側縁に微細剥離痕。国府型ナ。
432	V	2−1	Kn	RyⅠ	3.90	3.20	0.70	8.30	-77352.075	52221.274	−	不定形剥片。北牛岳型ナイフ形石器。刃部左側に再加工の痕跡有り。
433	V	2−1	Kn	RyⅠ	5.30	3.40	1.10	12.70	-77346.189	52206.532	92.487	不定形剥片。今峅型ナイフ形石器。
434	−	2−1	Kn	RyⅠ	4.90	2.40	1.20	13.60	−	−	−	不定形剥片。左側縁は対向調整。

第17表　第２次調査出土石器観察表（２）

掲載番号	出土層位	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	座標(m) X	座標(m) Y	座標(m) Z	観察所見
435	—	2−1	Kn	RyⅡ	1.84	1.39	0.55	1.60	-77371.822	52209.297	89.846	不定形剥片。二側縁加工。
436	Ⅳ	2−1	Kn	ObⅡ	2.64	1.51	0.58	2.00	-77345.767	52218.395	92.824	不定形剥片。二側縁加工。対向調整。右側縁上部に微細剥離痕。
437	Ⅳ	2−1	Kn	SshⅢ	2.34	1.61	0.49	2.50	-77350.514	52215.304	92.304	不定形剥片。二側縁加工。
438	—	2−1	Kn	RyⅡ	3.45	1.42	0.55	2.30	-77366.438	52210.771	90.216	不定形剥片。二側縁加工。右側縁は対向調整。
439	—	1	Kn	RyⅠ	4.70	1.55	1.05	5.30	-77313.697	52212.491	88.968	不定形剥片。左側縁は対向調整。
440	Ⅳ	2−1	Kn	SshⅠ	3.24	1.13	0.50	2.10	-77356.704	52210.191	91.522	縦長剥片。一側縁加工。対向調整。
441	—	2−1	Kn	SshⅠ	1.13	1.11	0.43	0.70	—	—	—	縦長剥片。一側縁加工。対向調整。
442	Ⅴ	2−1	Kn	SshⅢ	2.60	1.00	0.35	0.80	-77347.683	52206.512	92.292	縦長剥片。二側縁加工。
443	—	2−1	Kn	RyⅠ	3.46	1.38	0.86	4.10	-77370.055	52214.708	90.365	不定形剥片。二側縁加工。左側縁は主要剥離面側、右側縁は背面側からの調整剥離。
444	—	1−3	Kn	SshⅢ	6.60	2.50	1.00	11.00	-77312.255	52203.842	88.513	不定形剥片だが厚い。刃部には微細剥離痕あり。
445	Ⅳ	2−1	Tr	RyⅠ	5.40	2.40	2.40	10.70	-77357.210	52220.105	91.669	不定形剥片
446	Ⅳ	2−1	Tr	RyⅠ	3.06	3.71	1.51	13.90	-77358.853	52221.399	91.365	両側縁に主要剥離面側から調整剥離。
447	—	—	Po	RyⅡ	5.85	2.70	0.85	10.30	—	—	—	先端部付近右側面に微細剥離痕あり。
448	Ⅳ	2−1	Ss	RyⅡ	3.80	1.96	1.29	8.30	-77347.903	52208.338	92.526	角錐状石器か。
449	—	2−1	Es	RyⅠ	3.62	2.84	1.08	13.00	-77364.914	52212.638	90.116	
450	Ⅴ	2−1	Es	SshⅢ	4.17	5.47	1.47	35.30	-77347.421	52206.585	92.324	底部欠損。
451	Ⅴ	2−1	Es	Sa	4.21	5.29	1.32	29.00	-77347.702	52205.361	92.365	素材剥片の打面が残存。
452	Ⅴ	2−1	Es	Sa	6.90	8.73	2.09	149.30	-77359.268	52229.527	91.829	裏側に自然面を残す。
453	Ⅳ	2−1	Ax	Ho	6.39	6.71	1.86	94.30	-77357.819	52224.443	91.603	頁岩系のHo
454	Ⅳ	2−1	Ax	Ho	11.57	8.05	4.14	448.30	-77348.002	52206.074	92.594	背面に自然面あり。
455	—	2−1	Co	chⅠ	2.14	3.62	2.29	18.00	—	—	—	
456		1−1	F	RyⅠ	3.10	2.90	3.90	7.80	-77325.023	52195.897	92.060	今峠型ナイフ形石器の素材剥片か。
457	—	1	F	RyⅠ	4.60	1.30	1.05	4.60	-77312.986	52210.924	88.902	頭部調整。
458	—	2−1	F	ObⅡ	3.35	1.18	0.65	2.00	-77306.812	52210.422	88.203	不定形剥片。基部加工。両側縁に微細剥離痕。
459		2−2	F	RyⅠ	3.57	1.61	0.80	4.30	-77404.510	52165.038	87.110	頭部調整
460	Ⅳ	2−1	Mc	chⅡ	1.88	1.17	2.19	4.40	-77353.774	52214.114	91.986	
461	Ⅳ	3	Mc	ChⅠ	2.08	1.80	2.18	11.50	-77372.883	52125.330	88.740	松本茂氏のいう無型式。
462	Ⅳ	2−1	Mc	RyⅠ	2.41	1.65	3.78	16.20	-77354.389	52209.465	91.893	船野型細石刃核のブランク。
463	Ⅴ	2−1	Hs	SshⅢ	6.45	3.45	3.20	80.80	-77346.172	52220.097	92.592	
464	Ⅴ	2−1	Hs	Sa	6.85	3.65	3.00	87.20	-77348.996	52210.838	92.332	
465	Ⅴ	2−1	Hs	Sa	7.85	4.70	3.70	219.10	-77344.631	52210.022	92.374	
466	Ⅳ	2−1	Gs	Sa	13.00	6.35	3.20	431.10	-77353.003	52212.960	92.049	



第 60 図　第2次調査出土石器分布図

写真図版

図版１　長野遺跡　調査区と後期旧石器時代の遺構

調査区全景（調査区直上より）

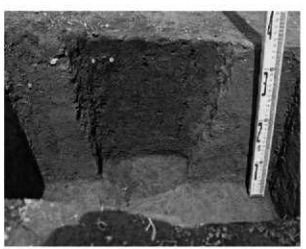
SI１（東から）

図版２　長野遺跡　弥生時代の遺構（SA1）

１号竪穴建物跡検出状況（南西から）

１号竪穴建物跡完掘状況（南西から）

SA1-SC1（南から）



SA1-P1完掘状況（南から）

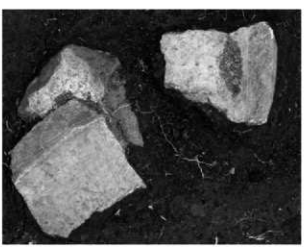
SA1 遺物出土状況

SA1 遺物出土状況

図版３　長野遺跡　弥生時代の遺構（SA2）

2号竪穴建物跡検出状況（南東から）

2号竪穴建物跡完掘状況（南東から）



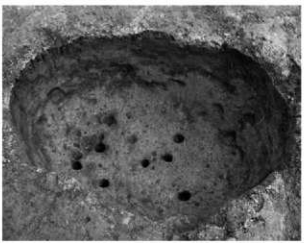
SA2 遺物出土状況

SA2-P2 完掘状況（南から）

SA2 遺物出土状況

SA2 遺物出土状況

図版４　長野遺跡　その他の遺構・土層堆積状況



SC3 完掘状況（西から）

SC5 完掘状況（西から）

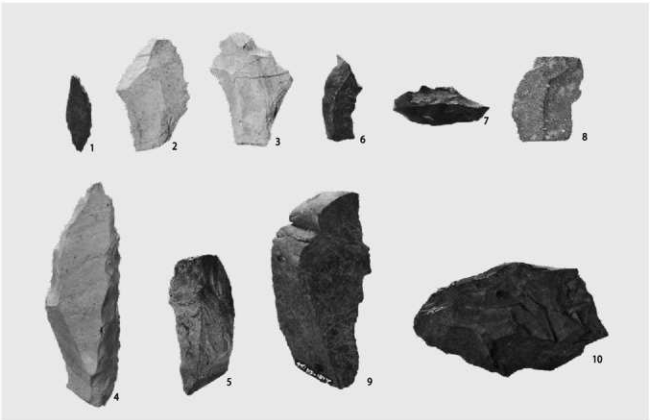
SC2 半截状況（西から）

SC4 半截状況（西から）

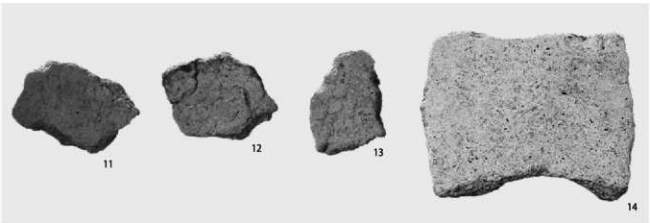
土層断面（T7）（北西から）

土層断面（D10cグリッド）（南から）

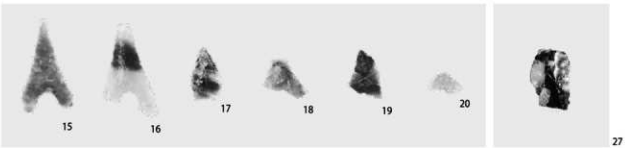
図版５　長野遺跡　後期旧石器時代・縄文時代早期の遺物



後期旧石器時代遺物（ナイフ形石器・尖頭器・剥片・石核）

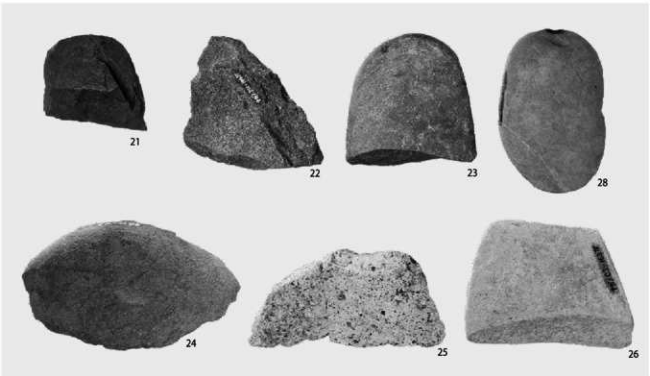


縄文時代早期土器（楕円押型文・山形押型文）

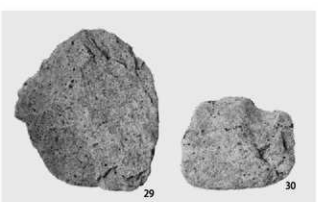


縄文時代早期遺物（石鏃・剥片）

図版６　長野遺跡　縄文時代早期の遺物

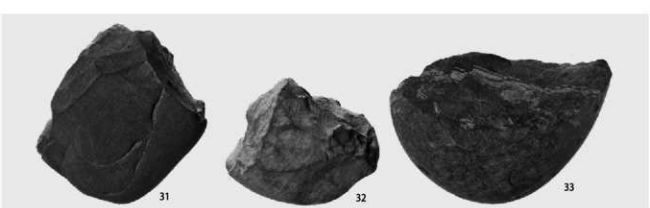


縄文時代早期遺物（石斧・剥片）



縄文時代早期遺物（礫器）

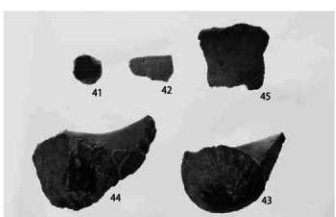
縄文時代早期遺物（接合資料）



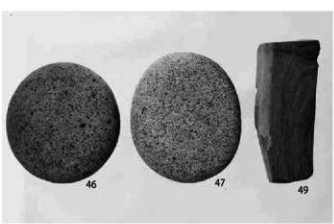
縄文時代早期遺物（石核）

図版７　長野遺跡　弥生時代の遺物（1）

１号竪穴建物跡出土土器



１号竪穴建物跡出土土器



１号竪穴建物跡出土石器

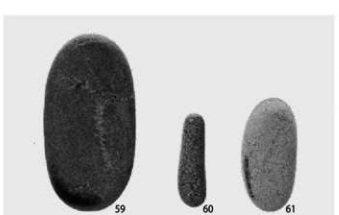
１号竪穴建物跡出土石器

図版８　長野遺跡　弥生時代の遺物（2）

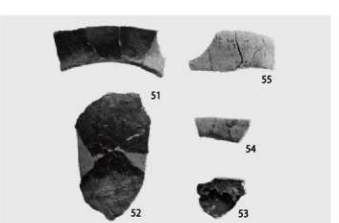
2号竪穴建物跡出土土器

2号竪穴建物跡出土土器

2号竪穴建物跡出土土器

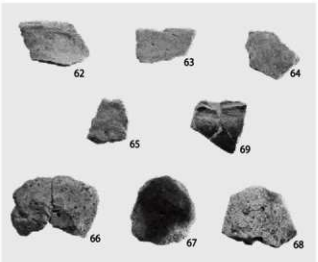


2号竪穴建物跡出土石器



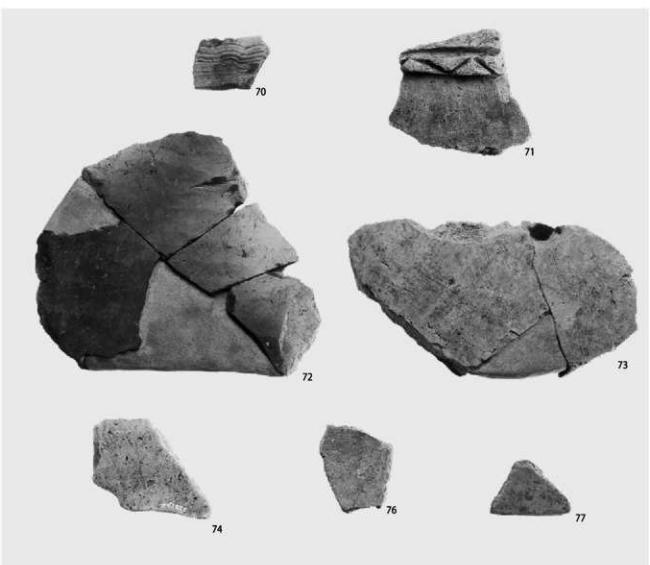
2号竪穴建物跡出土土器

図版９　長野遺跡　弥生時代の遺物（3）



遺構外出土土器

遺構外出土石器



遺構外出土土器

図版10　舟川第２遺跡第３次調査（1）

6SI23

6SI18～20

6SI26

6SI14～16

6SI8

SXI

6SI4

6SI10

図版11　舟川第２遺跡第３次調査（2）

6SI6

スクレイパー（81）出土状況

５区調査区全景（西から）

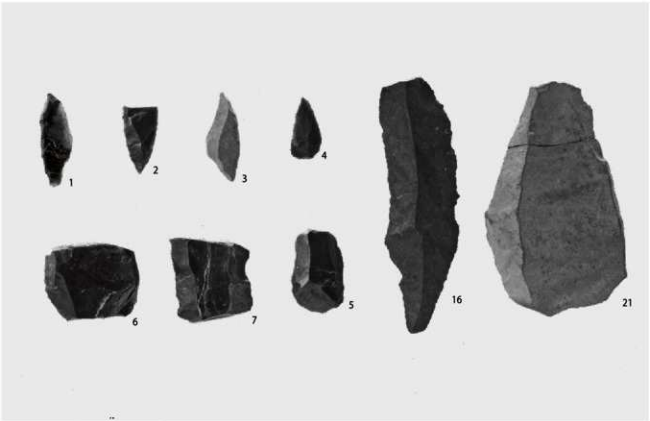
6SI5

５区炭化材集中、石刃出土状況

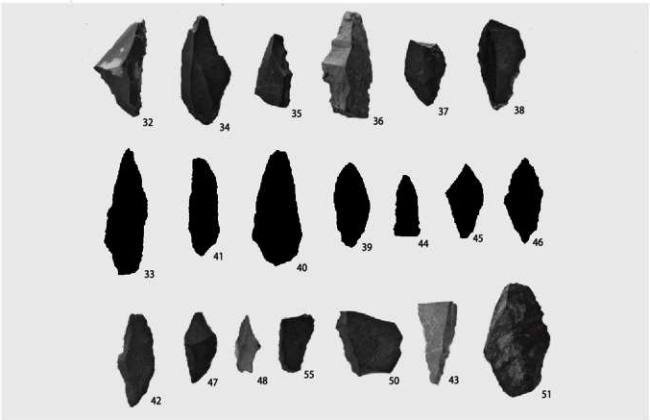
集石遺構群検出状況

敲石と原石出土状況

図版12　舟川第２遺跡第３次調査出土遺物（1）

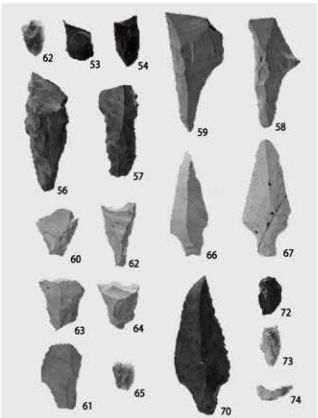


AT下層の石器

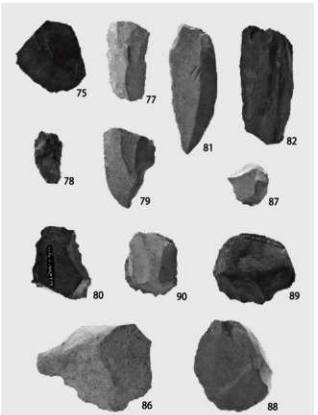


ナイフ形石器

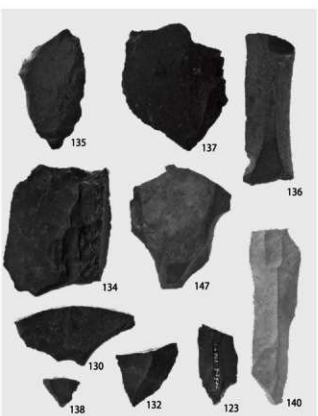
図版13　舟川第２遺跡第３次調査出土遺物（2）



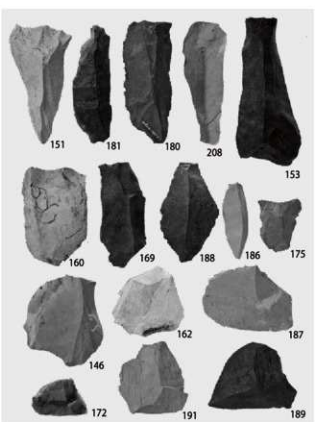
切出形石器・台形石器・剥片尖頭器・角錐状石器



スクレイパー

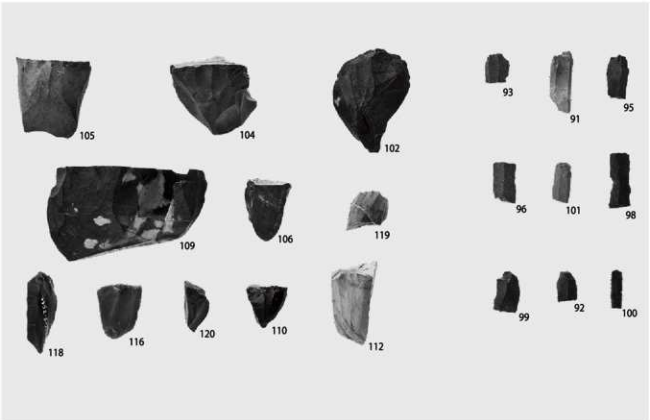


二次加工剥片・微細剥離剥片

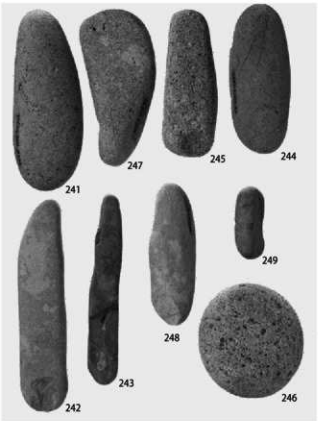


剥片

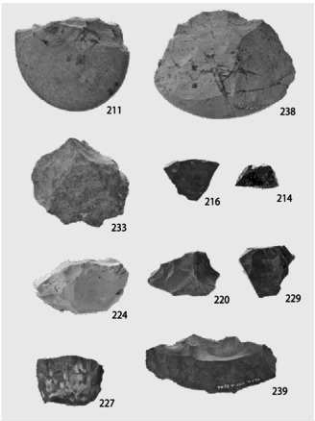
図版14　舟川第２遺跡第３次調査出土遺物（3）



細石刃核・細石刃

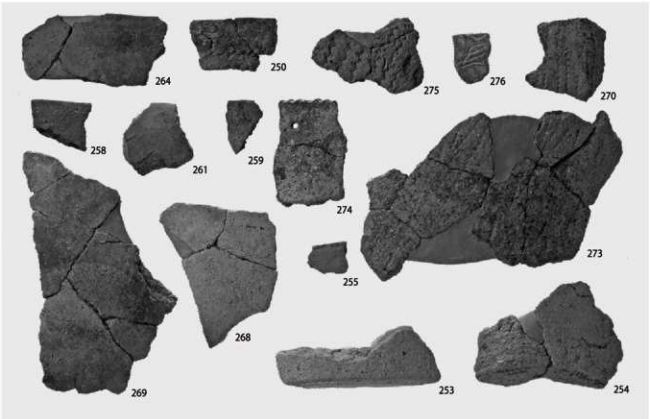


敲石

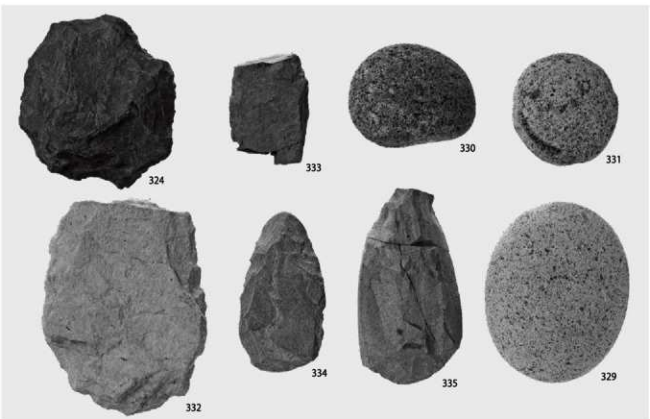


石核

図版15　舟川第２遺跡第３次調査出土遺物（4）

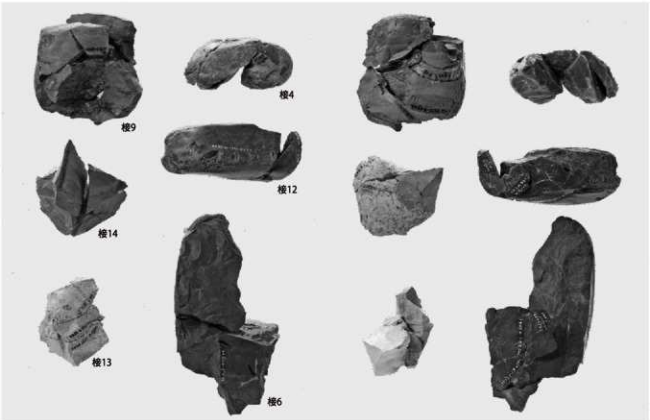


縄文土器

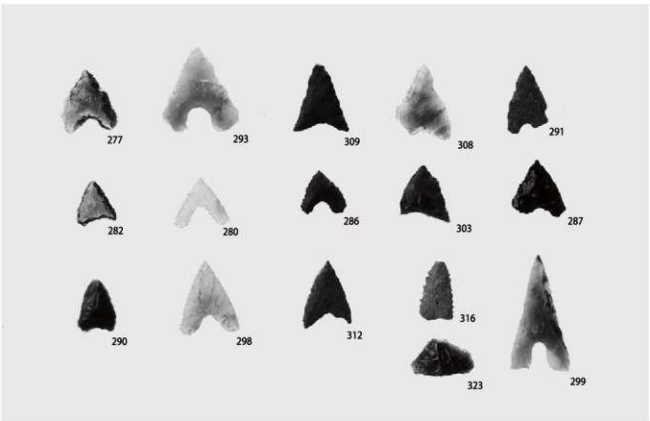


縄文時代の石器

図版16　舟川第２遺跡第３次調査出土遺物（5）

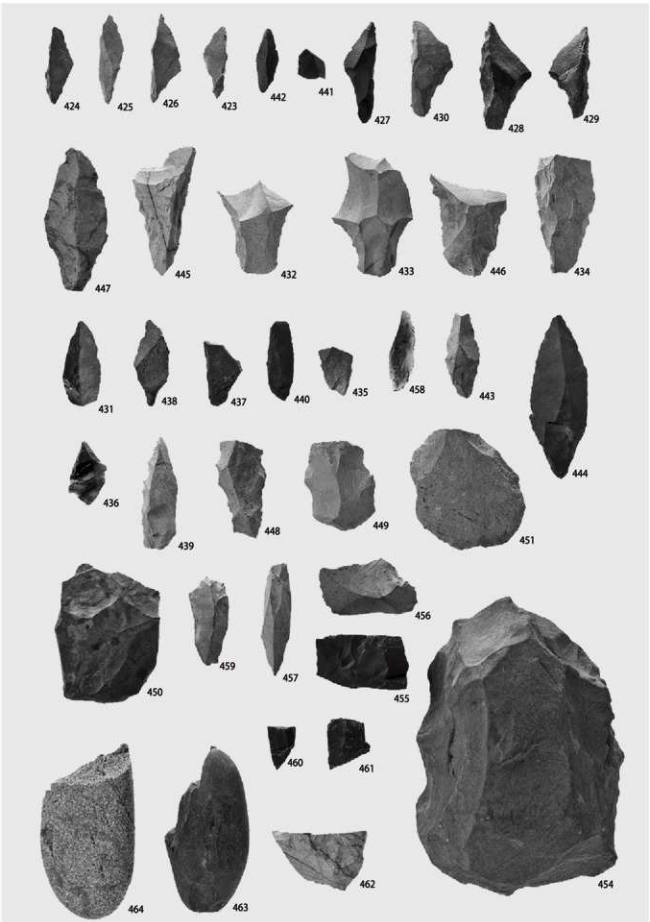


接合資料



石鏃・楔形石器

図版17　舟川第２遺跡第１次・２次調査出土遺物



第２次調査の遺物（補遺）

報 告 書 抄 録

ふりがな	ながのいせき　ふなごだいにいせき（だいさんじちょうさ）
書　　名	長野遺跡、舟川第２遺跡（第３次調査）
副 書 名	東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第２２６集
編 著 者 名	明石　宏一・川俣　唱子・石貫　弘泰
発 行 機 関	宮崎県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒880-0212　宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地
発行年月日	2013年３月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
長野遺跡 （ながのいせき）	宮崎県児湯郡 都農町大字川北 字境谷 （みやざきけんこゆぐん つのちょうおおあざかわきた あざさかいだに）	45406		32度 30分 28秒 付近	131度 55分 67秒 付近	2011.05.09～ 2011.11.21	4,500㎡	記録保存調査
舟川第２遺跡 （ふなごだいにいせき）	宮崎県児湯郡 都農町大字川北 字舟川、字境谷 （みやざきけんこゆぐん つのちょうおおあざかわきた あざふなご　あざさかいだに）			31度 54分 36秒 付近	131度 25分 41秒 付近	2011.09.09～ 2011.10.24 2012.01.23～ 2012.03.09	750㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
長野遺跡	集落跡	後期旧石器時代	礫群	1基	ナイフ形石器、尖頭器、剥片、石核、磨石、砕片	弥生時代後期の集落跡
		縄文時代早期	焼土面 焼土を有する土坑	7面 1基	縄文土器（深鉢）、石器（石鏃、石斧、剥片、二次加工剥片、礫器、石核、砕片）	
		弥生時代後期	竪穴建物跡	2軒	弥生土器（甕・壺・高坏・鉢）、石器（磨石、凹石、砥石、台石、敲石、石庖丁）	
		時期不明	陥し穴状遺構 土坑	2基 2基		
舟川第２遺跡	集落跡	後期旧石器時代	礫群	17基	ナイフ形石器、台形石器・剥片尖頭器、細石刃、細石刃核、石核、剥片、砕片、敲石、礫器	後期旧石器時代の石器製作、縄文時代早期の石鏃製作の場
		縄文時代早期	集石遺構 配石遺構	17基 1基	縄文土器（貝殻文・無文等）石鏃、剥片、砕片、敲石、磨石、台石	

要　約

長野遺跡では、後期旧石器時代から弥生時代後期後半にかけての遺構・遺物が確認され、弥生時代後期後半を主体とした集落跡である。当該期の竪穴建物跡が２軒検出され、建物の床面から石器や土器が出土し、当時の生活の痕跡が確認された。

舟川第２遺跡では、後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺構・遺物が確認され、特に、後期旧石器時代の礫群や縄文時代早期の集石遺構が何層にもわたって検出されている。後期旧石器時代の石器が多数出土した。

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第226集
都農町所在
長野遺跡
舟川第２遺跡（第３次調査）
東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書10
2013年３月

発行　宮崎県埋蔵文化財センター
〒880－0212　宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地
TEL　0985(36)1171　　FAX　0985(72)0660
印刷　株式会社　印刷センタークロダ
〒880－0022　宮崎市大橋２丁目175
TEL　0985(24)4351　　FAX　0985(27)9337